

岩手県埋文センター文化財調査報告書第87集

曲田 I 遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

(第2分冊)

（財）岩手県埋蔵文化財センター
日本道路公団

曲田 I 遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

(第 2 分冊)

本文目次

(第2分冊)

第3章 調査の成果

第2節 発見された遺構と遺物	1
(II) 遺構外の遺物	1
i 土器	1
ii 石器	7
iii 土製品	13
iv 須恵器と陶器	14
v その他	15

第4章 まとめ

第1節 遺構について	123
(1) 縄文時代の住居跡	123
(2) ビット	127
(3) 焼土遺構	129
(4) 集石遺構	129
(5) 捨て場跡	129
(6) 竪穴住居跡状遺構と掘立柱建物跡	130
(7) 道路跡	130
第2節 遺物について	131
(1) 土器	131
(2) 石器・石製品	145
i 形態・用途について	145
ii 石材の材質と産地について	149
iii 組成と交易	153
(3) 土製品	154
(4) 須恵器・陶器	156
(5) 鉄製品	156
(6) 漆	156
第3節 遺構と遺物	157
(1) 縄文時代の遺構と遺物	157

i	前期前葉	157
ii	後期前葉	157
iii	中期後葉・後期後葉・晩期中葉	158
iv	晩期前葉	158
v	晩期住居跡出土の土器	158
(2)	弥生時代の遺構と遺物	159
(3)	中・近世の建物遺構	160

出土遺物観察表

付編

1.	放射性炭素の年代測定	205
2.	リン分析	206
3.	炭化材の樹種鑑定	207
4.	樹脂の定性分析	208

写真図版

付図

挿 図 目 次

第1～3図	EⅢ区粗掘出土遺物	16～18	第49～60図	HⅣ区粗掘出土遺物	62～74
第4図	FⅡ区粗掘出土遺物	18	第61・62図	HⅤ区粗掘出土遺物	75・76
第5図	FⅢ区試掘出土遺物	19	第63図	HⅥ区粗掘出土遺物	77
第6～18図	FⅢ区粗掘出土遺物	20～33	第64図	HⅦ区粗掘出土遺物	77
第19図	GⅡ区粗掘出土遺物	33	第65・67図	IⅢ区粗掘出土遺物	78～80
第20・21図	GⅢ区試掘出土遺物	34・35	第68図	IⅣ区粗掘出土遺物	81
第22～34図	GⅢ区粗掘出土遺物	36～48	第69～75図	IⅣ区出土遺物	82～88
第35～37図	GⅣ区粗掘出土遺物	48～50	第76図	IⅤ区粗掘出土遺物	89・90
第38～48図	HⅢ区粗掘出土遺物	51～61	第77・78図	IⅤ区出土遺物	91・92

第79図	I VI区粗掘出土遺物	93
第80図	J IV区粗掘出土遺物	93
第81～87図	J V区粗掘出土遺物	94～101
第88～94図	J VI区粗掘出土遺物	102～108
第95図	K V区出土遺物	109
第96図	K VI区粗掘出土遺物	110
第97～100図	K VI区出土遺物	111～114
第101図	L V区粗掘出土遺物	114
第102図	L VI区粗掘出土遺物	115
第103図	M IV区粗掘出土遺物	116
第104図	M V区粗掘出土遺物	116
第105図	M VI区粗掘出土遺物	116
第106図	G III区表採遺物	117
第107図	J IV～J V区表採遺物	117
第108～112図	表採遺物	118～122
第113～120図	出土土器時期別集成図	127～144

第121図	石器・石片の材質別組成	151
第122図	時代別遺構分布図	161
第123図	遺跡別消長概念図	163

【付図】

付図1	曲田I遺跡第1・2次調査区	
	遺構配置図	
2	I III・J V・J VI・K VI区	土層断面図
3	G III-016住居跡平・断面図	
4	G III-016住居跡埋土中の	礎散布状況平面図
5	J IV-012・013掘立柱	建物跡平・断面図
6	J IV-014・015・016掘立柱	建物跡平・断面図
7	E III-071道路跡平・断面図	

表 目 次

縄文時代の住居跡・建物跡一覧表	125
遺構別出土遺物一覧表	164
出土遺物観察表	
第1表 土 器	169
第2表 土製品	185

第3表 石 器	187
第4表 須志器・陶器	201
第5表 金属製品	201
第6表 竈道具	201
第7表 自然遺物	201

写真図版目次

1	遺跡付近景観	215
2～4	調査風景	216
5	遺構群全景	219

6	F IV区土層断面	220
7・8	J V区土層断面	221
9・10	J VI区土層断面	223

11	H・I・M区土層断面……………	225	45	GN-011・014・016住居跡……………	259
12	EⅢ・FⅢ・GⅢ・GN区 完掘状況……………	226	46	GN-016・HN-013住居跡……………	260
13	GⅢ・N区完掘状況……………	227	47	HⅢ-011住居跡……………	261
14	EⅡ-011・014住居跡……………	228	48	HN-011住居跡遺物出土状況……………	262
15	EⅡ-012・015住居跡……………	229	49	HⅢ-011・HN-011住居跡……………	263
16	EⅢ-011住居跡遺物 出土状況……………	230	50	HN-012住居跡……………	264
17	EⅢ-011住居跡完掘状況……………	231	51	JⅤ-011住居跡……………	265
18・19	EⅢ-011住居跡遺物 出土状況……………	232	52	JⅤ-012住居跡……………	266
20	FⅢ-011・012住居跡……………	234	53	JⅥ-011住居跡……………	267
21	FⅢ-015・016・0112住居跡……………	235	54	JⅥ-011住居跡遺物 出土状況……………	268
22	FⅢ-014住居跡……………	236	55	JⅥ-012・KⅥ-012住居跡……………	269
23・24	FⅢ-018住居跡……………	237	56	KⅥ-012住居跡……………	270
25~27	FⅢ-019住居跡……………	239	57~59	フラスコビット……………	271
28	FⅢ-0113住居跡……………	242	60	フラスコ・摺鉢状ビット……………	274
29	FⅢ-014・0113~0117 住居跡……………	243	61・62	大型円形ビット……………	275
30	FⅢ-0114住居跡……………	244	63	小型円形ビット……………	277
31	FⅣ-011住居跡……………	245	64	小型円形・楕円形ビット……………	278
32	FⅣ-011B住居跡……………	246	65~70	楕円形ビット……………	279
33・34	FⅣ-012住居跡……………	247	71・72	不定形ビット……………	285
35	FⅢ-016・GⅡ-011住居跡……………	249	73	柱穴状ビット……………	287
36	GⅡ-011・012住居跡……………	250	74	焼土遺構……………	288
37	GⅢ-012住居跡……………	251	75	集石遺構……………	289
38	GⅢ-014住居跡……………	252	76	捨て場跡遺物包含層……………	290
39	GⅢ-015住居跡……………	253	77・78	雨裂跡……………	291
40	GⅢ-016住居跡……………	254	79・80	FⅣ-081炭焼場跡……………	293
41	GN-011住居跡……………	255	81	EⅡ-011~014住居跡 出土遺物……………	295
42	GN-013住居跡……………	256	82	EⅡ-014住居跡出土遺物……………	296
43・44	GN-014住居跡……………	257	83	EⅡ-014・015住居跡 出土遺物……………	297
			84~107	EⅢ-011住居跡出土遺物……………	298

108	E III-012・F III-012・013 住居跡出土遺物… 322	146~148	J VI-011住居跡出土遺物 …… 360
109	F III-013住居跡出土遺物 …… 323	149	K VI-011住居跡出土遺物 …… 363
110	F III-013・014住居跡 出土遺物…………… 324	150	K VI-012住居跡・L V-011 掘立柱建物跡出土遺物… 364
111	F III-014・015住居跡 出土遺物…………… 325	151	E III-028・G III-021・H III-021 ピット出土遺物… 365
112	F III-016・017住居跡 出土遺物…………… 326	152	H III-09・022~H V-022 ピット出土遺物… 366
113・114	F III-017住居跡出土遺物 …… 327	153	H V-022~I V-021 ピット出土遺物… 367
115	F III-018・019住居跡 出土遺物…………… 329	154	J V-022~J VI-024 ピット出土遺物… 368
116~118	F III-019住居跡出土遺物 …… 330	155	J IV-028~M IV-025 ピット出土遺物… 369
119	F III-0112住居跡出土遺物… 333	156	F III-041集石・G II-061捨て場跡 出土遺物…………… 370
120・121	F III-0113住居跡出土遺物… 334	157~168	G II-061捨て場跡 出土遺物…………… 371
122	F III-0114住居跡出土遺物… 336	169	G II-061・I III-061捨て場跡 出土遺物…………… 383
123	F III-0115住居跡出土遺物… 337	170	M IV-061捨て場跡 出土遺物…………… 384
124~128	F III-0116住居跡出土遺物… 338	171・172	F IV-081炭焼場跡出土遺物… 385
129	F IV-011・012住居跡 出土遺物…………… 343	173	F IV-081炭焼場跡・ E III-071道路跡出土遺物… 387
130	G II-012住居跡出土遺物 …… 344	174	G IV-051雨裂跡出土遺物… 388
131	G III-012~016住居跡 出土遺物…………… 345	175・176	E III区粗掘出土遺物…………… 389
132・133	G III-016住居跡出土遺物 …… 346	177	E III・F II・III区粗掘出土遺物… 391
134	G IV-011・012・014住居跡 出土遺物…………… 348	178~188	F III区粗掘出土遺物…………… 392
135	G IV-014住居跡出土遺物 …… 349	189	F III・G II区粗掘出土遺物… 403
136	G IV-014~016・H III-011・015 H IV-011住居跡出土遺物… 350	190	G III区試掘出土遺物…………… 404
137~144	H IV-012住居跡出土遺物 …… 351	191~200	G III区粗掘出土遺物…………… 405
145	J V-011・012住居跡 出土遺物…………… 359		

201	G III · IV区粗掘出土遗物·····	415	231	I V区出土遗物·····	445
202	G IV区粗掘出土遗物·····	416	232	I V · VI · J IV区出土遗物·····	446
203	G IV · H III区粗掘出土遗物·····	417	233~237	J V区粗掘出土遗物·····	447
204~210	H III区粗掘出土遗物·····	418	238~243	J VI区粗掘出土遗物·····	452
211~220	H IV区粗掘出土遗物·····	425	244	K V区出土遗物·····	458
221	H V区粗掘出土遗物·····	435	245~247	K VI区出土遗物·····	459
222	H V · VI区粗掘出土遗物·····	436	248	K VI · L VI区粗掘出土遗物·····	462
223	I III区粗掘出土遗物·····	437	249	L IV · V · M IV ~ VI · N VI区粗掘出土遗物···	463
224	I III · IV区粗掘出土遗物·····	438	250	G III区表探遗物 · 出土地区不明遗物·····	464
225 · 226	I IV区粗掘出土遗物·····	439	251~253	出土地区不明遗物·····	465
227~229	I IV区出土遗物·····	441			
230	I V区粗掘出土遗物·····	444			

第3章 調査の成果

第2節 発見された遺構と遺物

(II) 遺構外の遺物 (第1～112図 表1～3 写真図版177～253)

表土除去や遺構検出の作業に伴い、遺構外の土層中から多数の遺物が出土している。時期的には縄文時代晩期前葉の遺物が主である。その中の代表的な遺物を図示した。

遺構外の遺物は遺構との関連を示す詳細な情報に欠けているため、多くの場合各遺構の年代や性格を決める直接的な手掛りとならないが、これらの中には遺構の存在の確認されていない時期の遺物も含まれていることがあり、補助資料としての十分な価値がある。特に曲田I遺跡の場合、調査区の主要部が著しく破壊されており、遺跡全体としてみた場合の資料的損失は極めて大きい。遺構外の遺物として示した資料は、それを補うものとして大きな意味を持っているものといえる。

整理の都合により遺物は地区毎に分け、さらに種類別に並べた。時期的に区別し得るものについては、できる限り新旧の順に並べるようにした。個々の遺物についての説明は、別に表示した。各遺物の出土状況は、以下に示すとおりであり、文中の地区名に続くカッコ内には図版番号及び遺物番号を記した。また、一を挟んで左側が図版番号、右側が遺物番号である。文中では特記すべきものや代表的なもの以外の説明を省略している。

i 土器 (第1～109図 第1表 写真図版175～252)

●縄文時代前期初頭～前葉の土器

E III区 (1-1342-1353, 1355-1358) F III区 (8-1442-1445) H V区 (61-2116, 2117, 2119) I IV区 (68-2171・69-2176-2185) I V区 (76-2252, 2253, 2255, 2257-2272) I VI区 (79-2291-2298) J V区 (83-2313, 2331, 2332) J VI区 (89-2387-2389) K V区 (95-2492, 2494-2496) K VI区 (96-2502) 出土地不明 (108-2623)

この時期の土器はほとんど細片であるが、大きく分けて調査区西辺区域、I III-051溝の北西に近接する緩斜面、K VI-012住居跡周辺の3か所で多く出土している。

胎土にはほとんど植物繊維を含むが、文様的には以下のように分けられる ①細い薄板状工具を押し引きした一種の条線文が器壁外面の全体に施されるもの ②単節ないし無節の斜縄文のみが外面に施されるもの ③前者とほぼ同様の文様を有するが、口縁部に小さなループ状、または不整な捲糸圧痕の施されるもの ④0段多条の原体が回転施文された斜縄文に横行する

綾絡文の伴うもの ⑤網目状熱糸文を有するものなどである。

以上のうち、①は北海道函館市春日町遺跡の第二群A類の土器と同じであり、②の一部と③の小さなループ文様を伴うものと④は同じく第二群C類の土器に似ている。春日町遺跡の第二群A、C類の土器は、北海道南部を中心として同じ第二群B類などとともにしばしば東北地方北部でも発見されている。岩手県内でも二戸市上里遺跡からB類の土器が出土しており、底部はほとんど尖底である。所属時期は現在のところ、縄文時代前期前葉の早い段階に置くのが一般的である。その詳細な位置については、東北地方南部の大木1式の古い段階に対応するのではないかという説もある。②の一部と③の不整熱糸文を持つ土器及び⑤の土器は、文様上の特徴から大木1式の新しい段階ないし2式に比定されよう。

●縄文時代中期前葉～中葉の土器

この時期の土器はほとんどみられないが、結節を伴う羽状の斜縄文を有する1点(269-2609)がこの時期にあたるものかもしれない。

●縄文時代中期後葉の土器

E III区(1-1354, 1359, 1361-1366, 2-1367) F III区(8-1446, 1447) H III区(38-1833, 1834) H IV区(49-1971-1975, 1978, 55-2063, 2064) K V区(90-2480, 2493) K VI区(96-2503) 出土地不明(108-2624, 2625, 2627-2629)

以上のうち、1446は大木9式に比定される。1362, 1364, 1365のように熱糸文風の文様の上に沈線でT字状、C字状、大波状文などの描かれる土器は、青森県地方に多くみられ、大木10式とは同時期に入れられよう。その他はいわゆる大木10式のうち、新期の段階に含められる土器である。ほとんど破片であるが、調査区西辺部とK VI-012住居跡の周辺部から多く出土している。

●縄文時代後期初頭～前葉の土器

E III区(1-1360, 1366, 2-1368-1370, 1378) F III区(8-1448, 1450, 1451) G III区(24-1651, 1652) G IV区(36-1809, 1810, 1820) H III区(38-1835-1838) H IV区(49-1976, 1979, 1980) I III区(66-2150, 2152) I IV区(68-2170) I V区(76-2254, 2256, 2273, 2274) J V区(82-2303-2307, 2309-2312, 2314-2326) J VI区(88-2378, 2379, 2384-2386 89-2390-2403 90-2404-2410, 2413, 2414) K VI区(97-2511-2516) 出土地不明(108-2617, 2619)

1360は斜縄文の地文に縄文の施された鎖状隆線の付けられた破片であるが、中期末ないし後期初頭に位置付けられよう。1365, 1370, 1378, 1651などは後期初頭の土器であろう。1448, 1451のような網目状熱糸文の施される土器は中期後葉である可能性もあるが、この時期に入れた。1976, 1979, 2325などの類例は、北上市八天、大槌町崎山弁天、盛岡市川目など県内の遺

跡でみられ、先の1365等よりや、遅れる時期の土器らしい。2303、2305、2307、2314～2324、2326、2378、2379、2390～2406、2410などには一部に弥生時代のものを含む可能性があるものの、従来十腰内I式と考えられてきた土器と近い内容を持っている。文様的にはさらに細分が可能である。2254は文様の類例が乏しく、あるいは次の時期のものかもしれない。

そのほか、この時期の土器の底部と思われる資料の中に、1820、1835など5～6点の敷物圧痕を有するものが出土している。圧痕の種類としては、網代、木の葉、笹の葉などがみられる。底部に敷物圧痕を有する土器は縄文時代各期にみられるが、特に著しいのは中期末～後期中葉の時期である。これ以外にも弥生時代中期に一時盛行することがあるらしく、曲田I遺跡にも例がみられる。

全体にこの時期の土器は、J V、J VI区の後期中葉の集落跡周辺部を中心に各地区に散布している。このうち後期初頭に入れられる土器は概して調査区の西辺部に多く、K VI区にもみられる。後期の集落跡付近では、いわゆる十腰内I式に近い時期の土器が多い。

●縄文時代後期中葉の土器

I IV区 (68—2173) I V区 (77—2274) J VI区 (90—2411、2412) 出土地不明 (108—2607、2611)

この時期の土器は非常に少なく、遺構も発見されていない。文様からみるとかなりの幅が考えられる。1449、1454、2607は関東地方の加曾利B₁式土器と同様の文様を持つ例があり、大体は同時期としてよいであろう。1837、2274は波状口縁の突端部を中心に沈線で重圏文が描かれ、これにや、似た例は秋田県大湯遺跡などの出土品にあり、あるいは前の時期に入れるべきかもしれない。2411、2412は沈線によって菱形状の文様が施文される土器である。これに似た多重の菱形文は、県内の花泉町貝島貝塚にや、似た例がみられる。1449などと同様に後期中葉の土器のひとつと思われるが、弥生時代に似た文様をもつ例があるとする説もあり、なお検討を要する。出土傾向は点数が少ないので明らかでない。

●縄文時代後期後葉の土器

E III区 (2—1371～1375) F III区 (5—1407 169—1452、1453、1455) G III区 (24—1653～1655) G IV区 (36—1808) H III区 (38—1839) I III区 (66—2160) K IV区 (97—2518) 出土地不明 (108—2621)

1371～1375、1452、1453、1455などで代表される土器は平頂ないしは筒形波頂の波状口縁を持ち、口辺～胴上部には刻目の文様帯が施される。宮城県鳴瀬町里浜貝塚、盛岡市川目など、東北各地の遺跡に類例が知られる。時期的には関東地方の安行2式などと併行しよう。1653、1808、2518のようにレンズ状の縄文帯に瘤を伴う土器は、先の里浜貝塚の調査例でみると刻目文付きの土器より古くなっている。1809もほぼ同じくらいの位置付けになろう。2160は異方向

斜縄文の施された粗製土器であり、1653、1407などと伴うものかもしれない。この種の土器は後期末～晩期初頭に多いとされており、あるいは晩期に入る可能性もあろう。1839も異方向の斜縄文が施されているが、おそらく後期中葉以後に入るであろう。

この時期の遺構としては住居跡2棟、掘立柱建物跡1棟が発見されているが、以上の土器の多くはその周辺から出土している。

●縄文時代晩期初頭～前葉前半の土器

F III区 (7 - 1415, 1419 6 - 1437, 1440 8 - 1456~1463 9 - 1464~1470)
G III区 (20 - 1602~1606, 1608, 1614 22 - 1634, 1636, 1639 23 - 1640, 1642, 1643, 24 - 1656~1670 25 - 1671~1684 26 - 1685~1688) G IV区 (40 - 1811) H III区 (38 - 1832, 1841 39 - 1842~1845) I IV区 (69 - 2186~2188) 出土地不明 (108 - 2615, 2616)

先に述べた刻線文帯帯を有する土器を主体とする土器と三叉文を主体とする土器の中間に位置し、従来大洞B式直前型式や大洞B₁式と称されているものと同じである。特徴的な文様は、階段状に入り組んだ帯縄文などでしばしば横行する断裂沈線や円ないし点を抱えたような三叉文が加わる。深鉢などの器形では、口縁が緩やかな三角波形や頂上が平らな山形をなす。山形口縁では頂部に2～3の刻裂を伴うことが多い。

出土点数は非常に多く、次に述べる土器とともに調査で得られた土器の主体をなしている。晩期前葉住居跡の密集する調査区西部にはほぼ限られて出土し、住居跡の床面や埋土、捨て場跡からも出土している。

●縄文時代晩期前葉中～後半の土器

E III区 (2-1376~1382) F II区 (5-1395~1400, 1402, 1403 7-1414, 1416, ~1418, 1420~1425 6-1426, 1441 9-1479~1482 10-1483~1502 11-1503~1515, 1517, 1520)
G II区 (19-1600, 1601) G III区 (20-1610~1613, 1615~1617 22-1629, 1632, 1633, 1635, 1644 23-1644, 1649, 1650 26-1689~1705 27-1706~1722 28-1725, 1730~1734, 1736~1738) G IV区 (36-1805~1813 37-1814) H III区 (38-1829, 1831 39-1846~1865 40-1868) H IV区 (50-1948~1964 49-1965~1969 51-1994~2002 52-2003~2021 53-2022~2036 54-2040~2043, 2045~2047) I III区 (65-2141~2145, 2147, 2149 66-2151, 2153~2159, 2161, 2162) I IV区 (68-2172, 2174 69-2189~2194, 2197)
I V区 (77-2276) J VI区 (87-2383) 出土地不明 (108-2618, 2620, 2622, 2626, 2630 109-2631)

この中には主として深鉢型土器などの口辺部に三叉状沈線文の多く施される土器と羊歯状文や歯列状文、X字状文の施される土器が含まれている。従来前者は大洞B式（あるいはB₂式）、

後者は大洞B—C式と呼び慣らされ、多くの研究者によって前者が古く、後者が新しいと考えられている。しかし、その編年観については異説がないわけではないが、ここでは層的に分離する事実が確認されていないことを考慮して両者を一括した。

土器の文様としては、先にあげたもの以外に横C字状文やK字状文などが存在する。さらに壺型土器や小型の浅鉢、深鉢型土器の中には、胴部に沈線と磨き潰しによって三叉状文や楕円文、菱形状文、半円文などの組み合わせ文様の施される例も少数みられる。その他小型浅鉢などでは、垂線で区画された胴部に四ツ葉型の縄文帯の施される例もみられる。

これらの土器は、先に述べた縄文時代晩期前葉の集落跡のある調査区西辺部から集中的に出土している。

●縄文時代晩期中葉の土器

F III区 (11—1521, 1522) G III区 (20—1607, 1618, 1619 23—1645—1648 28—1723, 1724, 1726—1729, 1735) H III区 (40—1866, 1867) H IV区 (53—2022, 2024—2026, 2029, 2033 54—2037—2039, 2044, 2048—2050 55—2057) H V区 (61—2115) I IV区 (69—2195, 2196, 2198—2201) I V区 (77—2275, 2280) J V区 (82—2308) J IV区 (88—2385, 2386) J VI区 (90—2417, 2418) K VI区 (97—2517, 2518) L IV区 (102—2579—2588) M IV区 (103—2595, 2597—2600) H VII区 (64—2140)

この中には従来大洞C₁式、C₂式とされるものに相当する土器が含まれる。大洞C₁式は前述した縄文時代晩期中葉の大洞B—C式の系譜をひくが、文様はより直線的で細くなる。口縁の波打つものは、小刻みの鋸歯状となるようである。資料が少なく詳細は不明であるが、B—C式との過渡的な段階にあってはB—C式と判別し難い土器も混在しており、両者の変化が漸移的に行なわれた様子が伺える。

大洞C₂式相当のうち、大型深鉢では胴上端部がくびれ、鋸歯状口縁を伴う口辺部をもつものがみられる。口辺部は無文、または1条から数条の沈線を伴う。台付土器や鉢型土器では口辺部が鋸歯状であり、その周囲に横線が何条か走り、さらにその間に刻目列を有するものが含まれる。体部文様をもつ資料は多くないが、雲形文を伴うものがある。

大洞C₁式に相当する土器は、縄文時代晩期の住居跡が集中する調査区西部に多く出土している。大洞C₂式にあたる土器は、M V—061 捨て場跡に近いL IV区、M IV区から集中的に見られている。

●弥生時代中期～後期の土器

I V区 (77—2283—2284) J IV区 (80—2299) J V区 (83—2333—2356) J IV区 (90—2416—2424 91—2425—2449 92—2452) K V区 (95—2485—2487 97—2520, 2523—2535)

これらの土器は、いずれも縄文時代後期の遺物を含む層のや、上から出土している。文様の
特徴から6グループ以上に細分される。

①は2425、2426、2520などで代表されるグループである。比較的太い線で区画された縄文帯
と無文帯が三角形状や凹形などに入り組み、口縁に2～3条の横走沈線の回る例が多くみられ
る。縄文帯の辺には2487、2528などのように、横長ないし縦長の刺突点列の巡ることもある。
2283にみられる細い原体を編んだ網代の圧痕も、その多くはこの土器に伴うらしい。県内の類
例には北上市堀ノ内遺跡などがあるが、弥生時代中期前葉の谷起島式～樹形罫式の時期に併行
するらしい。しかし、曲田I遺跡では工字状文風の文様をもつ土器は伴っていない。

②のグループは、2333、2335、2338、2345などに代表される。壺・鉢型土器の口辺部、また
は胴上部には、横方向に下向きないし上向きの半円形や弓形の縄文帯をもつ。現在のところ、
県内で対比できる資料の出土例が報告されていない。秋田・青森県の土器と関連しそうである
が、能代市貝沢遺跡出土の例が知られるのみで、詳しいことはよく解らない。

③のグループは、2341～2347、2547、2554、2299などで代表される。これらの土器は、従来
田舎館式と呼ばれて来た土器のうちの新しい段階に相当しよう。

④は2420～2424のように無文の地に横行沈線に挟まれた沈線による三角形状のジグザグ模様
が描かれるグループである。このグループは、地が無地であることを除くと③のグループに近
い要素をもっており、時期的には近いかもしれない。秋田県琴浜村志藤沢遺跡の鉢型土器にや
や近い例がある。

⑤のグループは、2382のように横行し多重する扁平な菱形文が沈線によって胴上部に施され
るものである。この種の文様をもつ土器は、県内の一戸町上野B遺跡で確認されているほか、
秋田県宇津ノ台や新潟県山草荷遺跡などでも出土している。

⑥のグループは、2074、2075のように縦方向の細い燃糸文がまばらに施される。2075はさら
に沈線で四角形状の文様が描かれている。これにや、似た燃糸文を多用する土器は赤穴式と呼
ばれ、県内の岩泉町赤穴、盛岡市オミ坂、岩手町新道平など各地でみられる。

以上のほか、深鉢型土器では胴部に横～斜方向の密な燃糸文の施される例や縦方向の条痕の
施される例があり、壺型土器には口辺部に2～3条の平行沈線の巡る例があつてさらに追加さ
れそうである。

これらの土器の大部分は、弥生時代の墓塚と思われるピット群の周辺部から発見されている。
層位的には①～⑥グループの間に明瞭な隔りは認められなかった。平面的な位置の相違は明瞭
でなく、むしろ混在に近い状態で発見されている。しかし、これまでの研究成果によれば①の
グループは谷起島式などに近い弥生時代中期前葉、②～⑤のグループは田舎館式と同時期か、

やや遅れる中期後葉～後期初頭、⑥のグループを後期後葉の時期にそれぞれ想定できよう。

●主として縄文時代中期～弥生時代に属する土器

E III区 (2 — 1383~1387) F III区 (5 — 1401, 1404~1407 7 — 1411~1413 172
—1523 12 — 1524~1541 13 — 1542~1550 20 — 1620~1622 21 — 1623~1627 22—
1631, 1637) G III区 (28 — 1739~1742 29 — 1743~1762) G IV区 (36 — 1803, 1804
37 — 1815~1819, 1821) H III区 (38 — 1830 40 — 1868, 1871~1879) H IV区 (54—
2049, 2051~2055 55 — 2058~2070 56 — 2071~2073) H V区 (61 — 2113, 2114)
I III区 (65 — 2146, 2148 66 — 2163, 2164) I IV区 (68 — 2175 70 — 2202~2206)
I V区 (76 — 2253) J V区 (81 — 2327~2329) J VI区 (88 — 2380, 2381 89—2387
~2389) J VII区 (92 — 2450~2453) K V区 (95 — 2488~2491) K VI区 (96 — 2505,
2507) M VI区 (105~2602) H VII区 (64 — 2137~2132) 出土地不明 (108~2608 109
—2634~2638)

これらの土器は、先にあげた各時期の土器に伴出すると思われる時期不詳の土器であり、大部分が粗製土器である。文様形態上の変化に乏しい上、同定資料が少なく時期の特定が難しいものを一括した。

文様は胴部に単節の斜縄文の施される例が多く、細い条痕文をもつものや無文のものが少し含まれる。縄文の種類には、右上がりの単節斜縄文のものが多く、左上がりの例が若干である。そのほか、無節縄文の例がある。縄文本体の回転方向は、口辺部周辺では横～や、斜方向が多いようである。

口辺部破片の場合、口辺の形態は平縁のものが多い上、鋸歯状口縁のものや横行沈線で区画された無文の緩い波状口縁をもつものも含まれる。後者はほぼ縄文時代晩期の大洞B式～B—C式の時期に出現するらしいが、時期を特定するにはなお検討を要する。

条痕文や無文の土器は、各時期にみられ必ずしも時期特定の根拠にならないが、過去の調査例によって横方向の条痕文は縄文時代後期後半に多く、無文土器は後期末～晩期前葉に比較的多くみられるようである。

その他2131、2132は、類例が発見されていないが、中期末～後期最初頭と推定される。しかし、所属時期の特定のためには検討が必要である。

ii 石器 (第2～112図 第3表 写真図版177～253)

●石鏃

G III区 (30—1766, 1768) G IV区 (37—1822, 1823) H III区 (41—1883, 1884, 1886)
H IV区 (57—2079, 2082) J V区 (84—2357, 2358, 2360) J VI区 (92—2456) K IV区

(99—2570) 表面採集及び出土地不明 (107—2604 109—2645)

細葉形をなす1768、1823、2570のうち、1823、2570は薄手であり、1768は厚手の作りである。2558、2456、2604は丸尻無茎鏃である。2358、2360は作りが粗末で未製品かもしれない。他は細身の有茎鏃である。1766、2082の基部にはアスファルト状の黒色樹脂が付着している。また、2570は鏃として転用されたらしく、先端部が磨滅している。材質はすべて硬質の泥岩系石材で占められている。

●切創器

F III区 (5—1409 13—1558—1560 14—1561、1563、1565—1568、1570 15—1571—1573、1575—1578、1580、1581) G II区 (19—1599) G III区 (30—1767、1769 192—1778—1783) G IV区 (37—1824、1825) H III区 (41—1887—1890、1892—1896 42—1897—1898、1900—1902、1904、1905) H IV区 (57—2083—2086、2089—2091、2093) H V区 (62—2129、2130) I III区 (67—2168) I IV区 (70—2213—2216 232—2220—2224) I V区 (77—2285、2286) J V区 (84—2359、2361、2364、2365) J VI区 (92—2457—2460、2462、2463、2465) K V区 (95—2498) K VI区 (99—2572、2573、2575) L V区 (101—2594) M V区 (104—2601) 表面採集及び出土地不明 (107—2605 109—2646、2647、2648 110—2649—2650)

この分類に入れた石器は、いわゆるナイフ、スクレーパーの仲間である。形態や大きさは多様であるが、いずれも剥片を利用してその縁辺に刃をつけたものであり、最大長5cm程度のものが多い。

形態的には大別して①つまみのあるもの ②つまみのないものの二者に分類される。①はいわゆる石匙の仲間であつたつまみに対する刃部の位置関係により、さらに(i)1559のような縦型のもの(i)1558のような横型のものに細分される。後者は刃部形態の特徴から、a)1409などのように主要な刃部が長辺に形成される。いわゆるサイドスクレーパー型のもの ⑤2460のように主要な刃部が短辺に形成される、いわゆるエンドスクレーパー型のもの ③2573のように主要な刃部がまるく調整された辺に形成される、いわゆるエンドスクレーパー型のもの ④1563のように辺の一部が括り込まれ、その部分に刃部の形成されるもの ⑥としてa)～d)の混合型 ①のその他に分けられる。これらはさらに刃の数や両刃か片刃かの相違、大きさ等によって細分できる。

付着物はあまりみられないが、1778には両面に樹脂が付着している。付着状況からみて後世に野焼き等の火をうけて付着したらしい。1892、2772には石鏃と同様、一部にアスファルト様の黒色樹脂が付着している。

石質は石鏃と同様に硬質の泥岩系石材が主体をなしている。出土点数は剥片石器の中で最も

多く、縄文時代後期前葉、晩期前葉の各集落跡を中心に各所で出土している。

●ヘラ状石器

F III区 (14—1562) I IV区 (70—2214) I V区 (77—2287) L IV区 (102—2589)

いわゆる石笥の仲間である。この種の石器は、東北地方の縄文時代早期～前期前葉の遺跡にごく普通にみられる。県内でも帯石町桜松、紫波町西田、矢巾町大渡野、盛岡市大新町など多くの遺跡に出土している。この形の石器はなお後続することが確実であり、数は少ないが縄文時代晩期中葉の北上市九年橋遺跡でも発見されている。曲田 I 遺跡の場合、土器との共存関係が不明であり、時期の特定は難しい。

●石鏃

E III区 (2—1390) H III区 (41—1885) H IV区 (57—2080) H V区 (62—2128) I IV区 (70—2210) I V区 (80—2300) J V区 (84—2362)

穿孔用具として用いられた打製石器である。形態上から①1885のように太身に丸尻ないし、や、尖り尻のつまみのない型②2300のように尻に大きなつまみをもつ型の二者に分けられる。材質は、石鏃や切削器と同じく硬質の泥岩系石材である。

●石槍

G III区 (21—1628) K IV区 (99—2571)

石槍といえるような石器は極めて少なく、2点しか出土していない。1628は着柄部の破片と思われる。2571は厚手で粗製の小型品であり、ほぼ完形である。石質は共に硬質の泥岩系石材である。

●細部修整痕や使用痕のある剥片及び未製品

E III区 (2—1389) F III区 (14—1564, 1569 15—1574, 1579, 1582) G III区 (30—1776) H III区 (41—1891 42—1899, 1903) H IV区 (57—2081, 2087, 2088, 2092) I IV区 (71—2219, 2225, 2226) J V区 (84—2363) J VI区 (92—2461, 2464) K VI区 (99—2574, 2575) L IV区 (102—2590) 出土地不明 (110—2651, 2654)

形状が一定せず特定の器種に含めることが困難な石器である。石材は他の器種と同様、硬質の泥岩系石材を主な素材としている。縄文時代後期前葉や晩期前葉の集落跡近辺から集中して出土しているが、時期は特定できない。

以上のうち、1891, 2219, 2226, 2461, 2464, 2574, 2576, 2590は見方によっては彫器とされている資料である。

●原石核ないし粗刃礫石器

I IV区 (75—2249) I V区 (87—2377)

硬質の泥岩系石材か安山岩の扁平な礫を素材とし、その縁辺の一部を打ち欠いて粗い刃を形

成したものである。石器であるか加工途中の半製品であるかの断定はできないが、調査例には刃部に刃潰れの痕跡がある例もみられ、ものを叩き切る道具かもしれない。10cm×10cm程度の大きさである。

各地で出土しているようであるが、県内では縄文時代中期後葉の北上市鬼柳西裏、盛岡市広瀬Ⅱ、晩期の衣川村東裏遺跡などで報告されている。

●横刃型扁平打製石器

HⅢ区(45—1925、1926)

安山岩ないし凝灰質砂岩の扁平礫を横長の半円～隅丸逆台形状に調整し、粗い刃の付けられた石器であり、横刃型打製石器とも呼ばれている。しかし、打製石斧とすべきか機能的には問題がある。東北地方では縄文時代前期後半～中期前半の遺跡に類例が多くみられる。

●打製器具

GⅢ区(32—1794) IⅣ区(71—2227 72—2230、2233) IⅤ区(78—2289)

長さ10—20cm、巾10cm内外の薄い板状粘板岩の中央からや、上部に軽い抉りのあるものや上半部が柄状にや、細くなるように調整された打製石器である。祖掘出土品の中には完形品がないが、KⅥ—011住居跡から完形品が出土している。

この種の石器は縄文時代晩期前～中葉にかけてかなり一般的にみられ、県内の衣川村東裏、北上市九年橋遺跡などに報告例がある。時期的に幅がありそうであるが、資料が乏しく明確ではない。曲田Ⅰ遺跡の場合、弥生時代や縄文時代後期の可能性もあり、検討を要する。

●円盤状石製品

EⅢ区(4—1393) FⅢ区(5—1408 17—1591—1594) GⅢ区(34—1798—1802)

GⅣ区(37—1826) HⅢ区(46—1927—1935 208—1936—1940) HⅣ区(58—2094—2101 59—2102—2106) HⅤ区(62—2124—2126 64—2133—2135) IⅢ区(67—2167) IⅣ区(74—2241—2248) IⅤ区(80—2302) JⅤ区(84—2369 85—2372、2373) JⅥ区(93—2469、2470) KⅥ区(100—2578) 表面採集及び出土地不明(107—2606 111—2662—2666)

大部分が扁平な小型の礫の辺を円形に打ち欠いたものであるが、1826は磨製である。1798、1893、1934、2097、2167などは、形が整わず未製品かもしれない。2133、2134も同様と思われる。材質は安山岩、石英安山岩、凝灰岩、珪質泥岩などである。

出土数量は縄文時代晩期の集落跡近辺に最も多く、同時期のものが多いと思われる。県内では縄文時代中期中葉以降晩期中葉までの各遺跡で発見されており、他の時期のものが含まれている可能性も考えられる。

●擦り石

G III区 (32-1791 194-1795) H III区 (44-1918 206-1923, 1924) H IV区 (60-2111) H V区 (62-2127) I IV区 (72-2232 73-2234, 2237, 2238, 74-2240) I V区 (78-2290) J VI区 (93-2471-2475) L IV区 (102-2591, 2592) 出土地不明 (111-2667, 2668)

主として、扁平な円球や楕円球状の礫を利用した礫である。そのほか2238のように三角柱状の製品もある。大きさは直径12-13cmのものから5cm程度のもまで各種である。多くは擦痕を伴うが、擦痕がほとんどみられず擦り石とすべきか疑問のものも含まれる。

材質は大部分が安山岩類であるが、泥岩、珪岩も若干含まれている。

●凹み石

G III区 (32-1789) H III区 (43-1916, 1917 44-1919, 1921) H IV区 (59-2107, 2108) I IV区 (75-2251) J V区 (85-2370, 2371 86-2374) J V区 (87-2376) J VI区 (94-2477, 2478)

自然礫に凹みの付けられた礫器であるが、形状は円球状、楕円球状、角柱状、扁平な隅丸長方形などである。擦り石、叩き石に準じた用法が推定される。2370は叩き痕をもち、明らかに叩き石としての用途が認められる。材質は安山岩、石英安山岩が多い。

●叩き石

F III区 (17-1596) H III区 (44-1920, 1922) H III区 (47-1939) H IV区 (63-2136) I IV区 (73-2239) J V区 (84-2368) K VI区 (100-2577)

ハンマーとしての用途が推定される礫器である。叩き痕を伴うことが多いが、1922、2577などは叩き痕が明瞭でない。2239では叩き痕のほかに擦痕がみられる。1920は先端部が打撃によって剥離している。

●石皿及び台石

F III区 (17-1595, 1597 179-1598) H III区 (48-1945, 1946) H IV区 (59-2109) I III区 (67-2165-2) J VI区 (94-2479) 表面採集及び出土地不明 (106-2603 112-2669)

1597が台石であるほかはすべて石皿である。石皿の形状には2、3種類があるが、2603はやや特異である。2603は板状石片の両面中央部を擦り凹めたものであり、特に片面は薬研状に深く凹んでいる。

1946の内面には酸化第二鉄と思われる赤色顔料の粉末が付着しているほか、2429の内面には煤の付着が認められる。材質は大部分が多孔質安山岩質の溶岩礫で占められるが、2603のように流紋岩と思われるものが認められる。

●砥石及び調整具と思われる平石

E III区 (3-1391) G III区 (32-1793 33-1796) H III区 (47-1941, 1942 48-1943, 1944) I III区 (67-2166) I IV区 (73-2235, 2236) J V区 (86-2375) J VI区 (93-2476)

砥石と考えられる石器の大部分は縄文時代のもと思われるが、2235は形状によって歴史時代の比較的新しい時期のものかもしれない。材質は多孔質の安山岩溶岩や砂質凝灰岩などであり、2235は淡緑色の細粒凝灰岩である。大きさや形は様々であるが、多くは扁平に近い礫を素材としている。2476は石皿を転用した例である。

平石類は板状の薄い自然礫である。擦痕その他の調整痕はみられないが、調査区内にはこの礫を含む層がないので、他から持ち込まれたものと考えられる。道具とするには問題があるが台湾などには土器成型の際の当て工具として自然礫を用いた例がある。材質は石英安山岩質の細粒凝灰岩などである。

●磨製石斧

F III区 (5-1410 16-1583, 1586) G III区 (31-1785-1787 32-1788, 1790) H III区 (42-1906-1910) H V区 (78-2288) J V区 (84-2366) J VI区 (93-2466, 2468) L IV区 (102-2593) 出土地不明 (110-2655, 2656 111-2659-2661)

2110, 2231, 2593のように完形の磨製石斧もあるが、大部分は破損品である。大きさは長さ18cmの2110を最大とし、1785, 2112, 2366などのように長さ5cmに満たない小型品もみられる。そのほか、1790, 1910, 2288のように破損したものを叩き石として転用した例が認められる。

縄文時代後期前葉及び晩期前葉の集落跡近辺からの出土が多く、材質は輝緑凝灰岩や蛇紋岩、玢岩などである。

●石ノミ及び半製品

F III区 (16-1584, 1587) I IV区 (72-2229, 2233)

石ノミと思われる磨製石器は極めて少なく、いずれも破片である。1584, 2229, 2233では十分な研磨調整は行なわれておらず、未製品かもしれない。材質はいずれも輝緑凝灰岩である。

●石棒

E III区 (3-1392) F II区 (4-1394) F III区 (16-1585, 1587-1590) G III区 (33-1797) G IV区 (35-1828) H III区 (43-1911-1915) H IV区 (56-2077) H V区 (62-2122, 2123)

石棒とした石器は形態、材質上の特徴から大きく2種に分けられる。①は大型で石英安山岩を柱状塊を加工したもので1589の破損品1点である。②は概して小型で身が細く、黒灰色の粘板岩が主体を占める。完型品はないが、個体数が比較的多い。

①は概して縄文時代中～後期に多く、②は晩期に一般的である。

●軽石製品

J V区 (84-2367)

つまみが付き半円形をなした板状の軽石1点であるが、用途は不明である。軽石の利用例は縄文時代各期にみられ、県内では大船渡市下船渡貝塚、江釣子村鳩岡崎、九戸村炭Iなどの遺跡で出土している。

●有孔石製品

F III区 (15-1557) G III区 (32-1792) G IV区 (35-1827)

装飾品及びその未製品と思われる有孔石製品である。1557は淡黄褐色の細粒凝灰岩を丸いボタン状に加工し、中央に2孔を穿った製品である。1827はピーナツ状の石質凝灰岩に縦に2孔を穿っているが、1孔は貫通していない。1792は扇形に研磨調整した淡緑色細粒凝灰岩の中央部に穿孔したものである。

●有孔自然礫

I IV区 (75-2250)

この種の礫は縄文時代の遺跡からしばしば出土している。用途は不明である。

●剥片及び石核

石器製作に伴う多数の石片が調査区内の各所から発見されている。土器と同様に縄文時代の遺構集中区域に多く出土しているが、特定の個所に密集する状況はみられない。

iii 土製品 (第2-99図 第2表 写真図版178-248)

●円盤状土製品

F III区 (13-1551-1554) G III区 (30-1764) I IV区 (70-2208)

いずれも土器片を円形に打ち欠いたものである。1554は網目状捺糸文が施されており、縄文時代中期末～後期前葉のものと思われる。2208は三叉文があり、晩期前葉のものとみられる。他にもこの両者の時期内に入るであろう。

●土偶

E III区 (15-1555) H III区 (40-1881) H IV区 (56-2076) I III区 (67-2165-1)

形態・文様上の特徴からいずれも縄文時代晩期前葉に入るであろう。1555は小型土偶の脚部、2165-1は小型中空土偶の頭頂部、2076は大型の中空土偶の脚部である。1881は断面が隅丸長方形をなし、外面に線文が施されているが、土偶でないかもしれない。

●土笛及び甕形土製品

G III区 (30-1763) H III区 (40-1875)

2点とも破片である。1763は沈線でS字状渦巻文が施されており、縄文時代晩期前葉のものと思われる。1875には雲形に磨り消された縄文帯があり、縄文時代晩期中葉頃のものと思われる。

●皿型土製品

G III区 (30-1765)

内外底面に同心円状の沈線文、外側面に縦の刻目が廻っている。超小型の皿形土器かもしれない。縄文時代晩期前葉頃のものと思われる。

●釣鐘状土製品

J VI区 (92-2455) K VI区 (99-2568)

いずれも中空の土製品である。2455はつまみがなく、2568には穿孔されたつまみをもつ。2455の体部には帯状の刻線文によってスペード状の文様が構成されている。2568は無文である。両者に類似する土製品は、東北地方北部の縄文時代後期前葉の遺跡に普遍的にみられ、県内の玉山村日戸、大迫町立石、軽米町胸板、盛岡市川目などの遺跡にも報告例がある。

●耳瓮

F III区 (13-1556)

魚の椎骨状の形をなす直径2cm未満の小型品である。多少欠損しており、無文である。

●円筒形土製品

H III区 (40-1882)

丸味のある鈴玉形をなす。単独で出土した1点であり、用途は不明である。

●その他の土製品

E III区 (2-1388) H III区 (40-1880) H V区 (61-2120) K VI区 (99-2569)

1388、1880は平らな帯状をなしているが、全体の形状は不明である。2120は全体が罌器などの形に似ている。器面全体に指紋があり、煤が広く付着している。用途は不明である。2569は不定形の指先大の粘土塊の焼けたものであり、偶然の所産かもしれない。

iv 須恵器と陶器 (第41-95図 第4・5表 写真図版218-244)

●須恵器

H IV区 (41-2078)

壺または甕の胴部破片と思われる。ロクロ成形時の手擦痕が内面にみられる。

●陶器

I V区 (70—2209) K V区 (95—2497)

2点とも摺鉢の胴部破片と思われる。赤焼きで外面に透明な釉がかけられている。内面の条痕は細かく、近世後期以降のものであろう。

●面子型土製品

J VI区 (92—2454)

志比寿の顔を型取りしたや、硬質の赤焼きである。この種の土製品は各地に類例があり、全身像を表した例がある。多くは神像であり、宗教的儀礼に用いられたものと推定される。

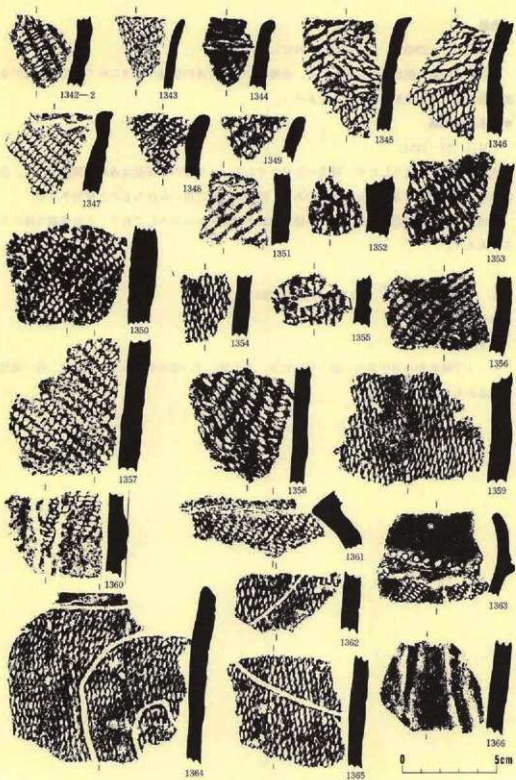
県内では江刺市鴻之巣館、平泉町白幡神社などの遺跡から出土しており、近世後期以降に入るであろう。

v その他 (第61図 第7表 写真図版221)

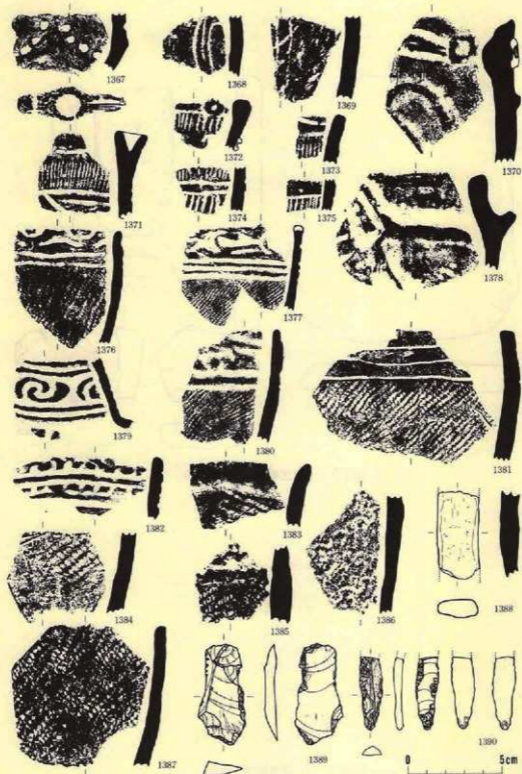
●骨片

H V区 (61—2121)

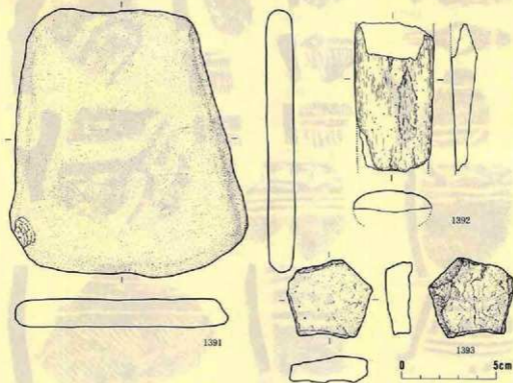
や、大型哺乳類の肩甲骨の一部と思われる。表土層に近い部分から出土しており、近～現代に入るかもしれない。



第 I 图 E III 区粗编出土遗物 (I)



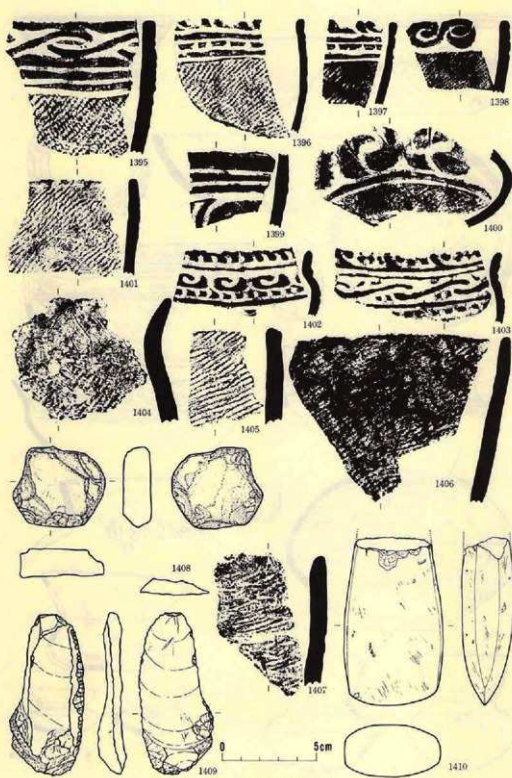
第2图 E III区粗掘出土遗物(2)



第3图 E III区粗掘出土遗物(3)



第4图 F II区粗掘出土遗物



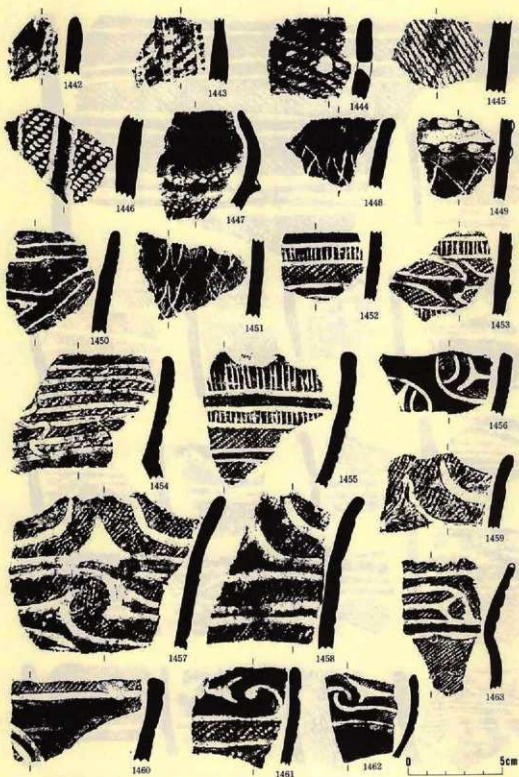
第 5 图 F III 区试掘出土遗物



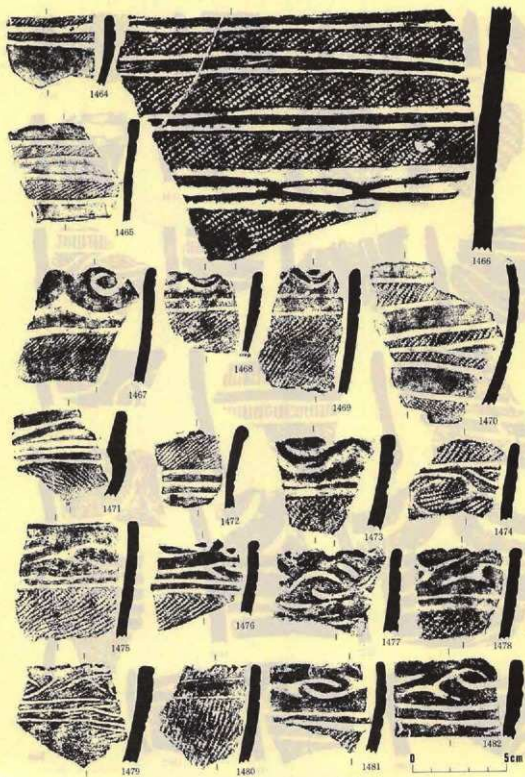
第6图 F III区粗掘出土文物(1)



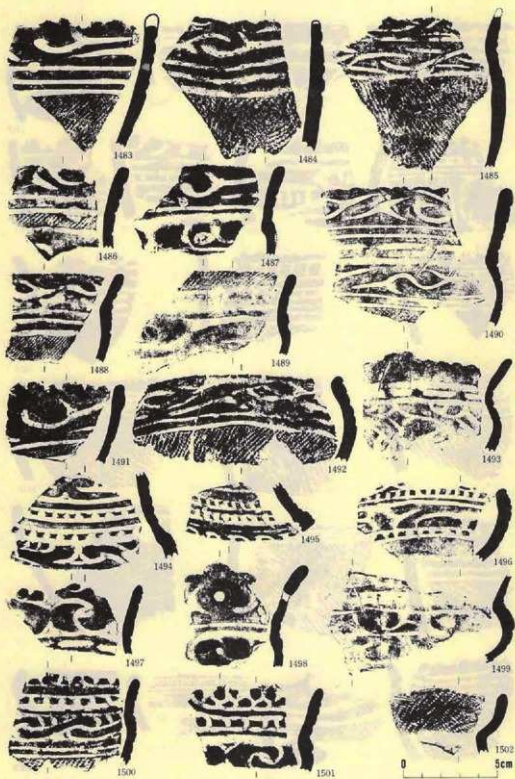
第7图 FⅢ区粗绳出土遗物(2)



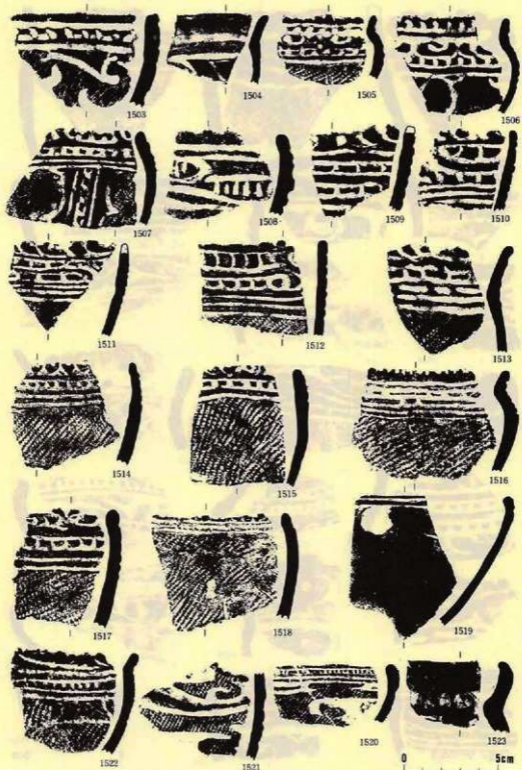
第8图 F III区粗掘出土遗物(3)



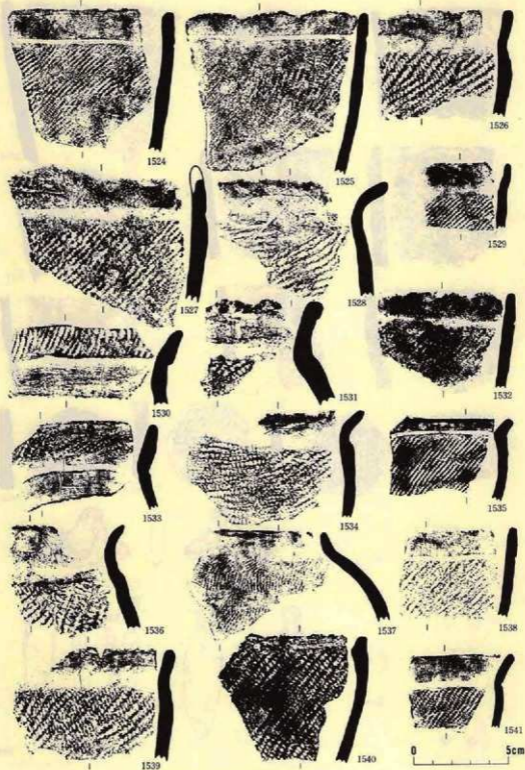
第9图 F III区粗绳出土遗物(4)



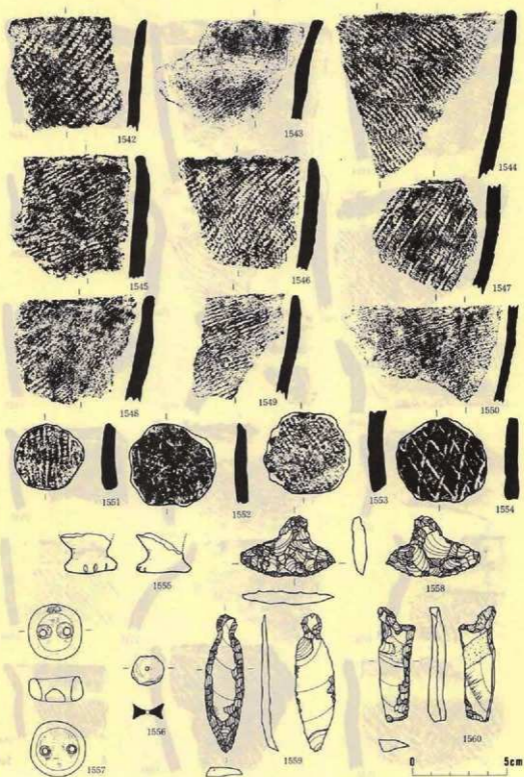
第10图 F III区粗掘出土遗物(5)



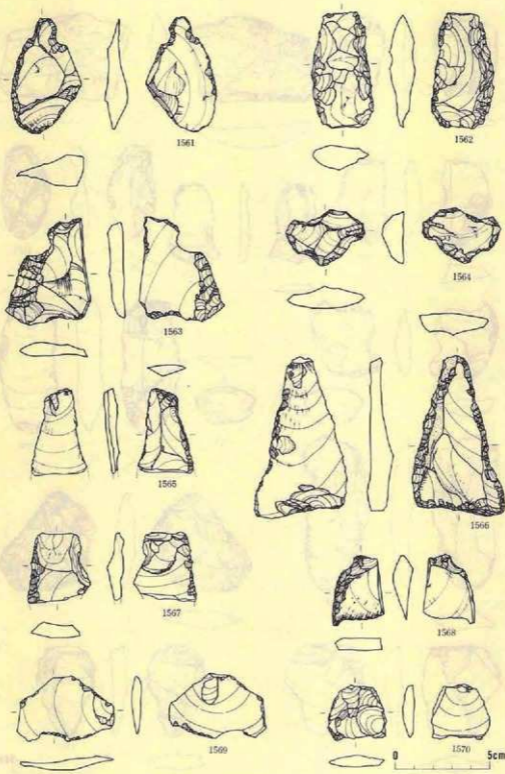
第11图 F III区粗掘出土遗物(6)



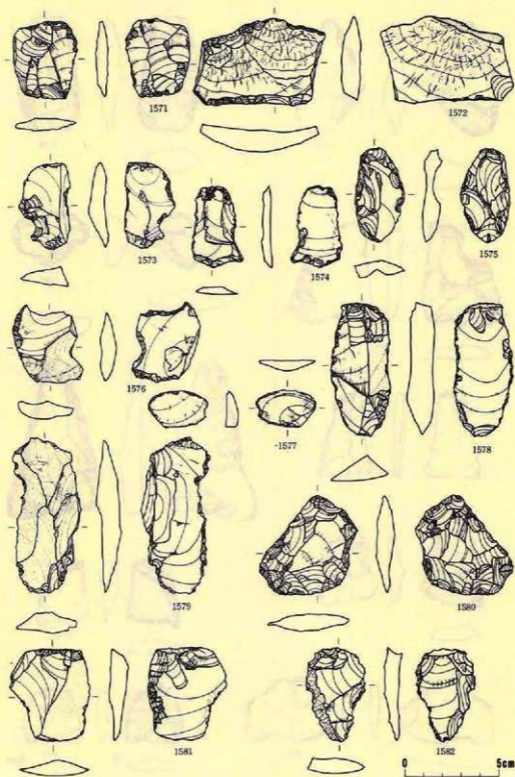
第12图 F III区粗陶出土遗物(7)



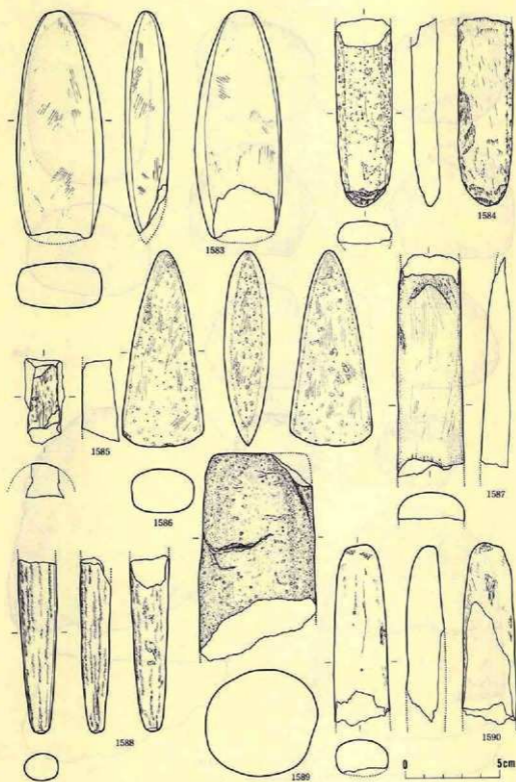
第13图 F III区粗掘出土遗物(8)



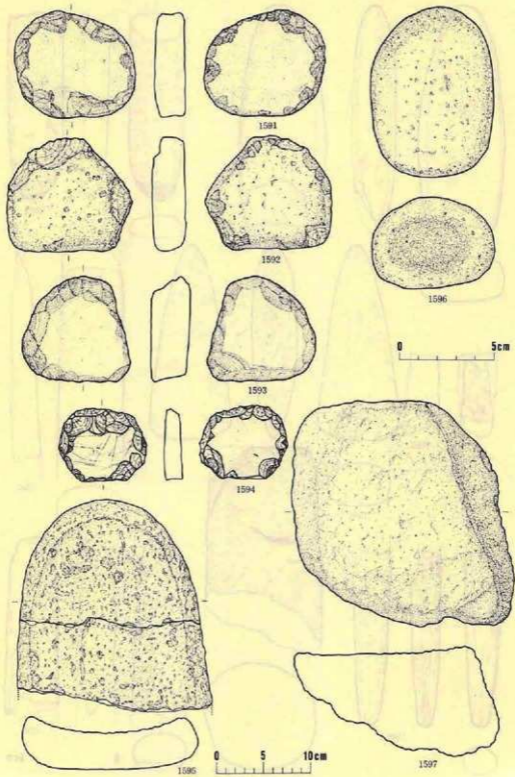
第14图 F III区粗掘出土遗物(9)



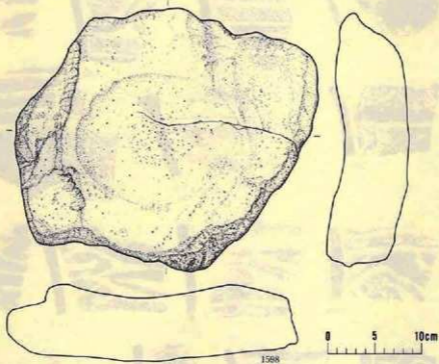
第15图 F III区粗掘出土遗物 (10)



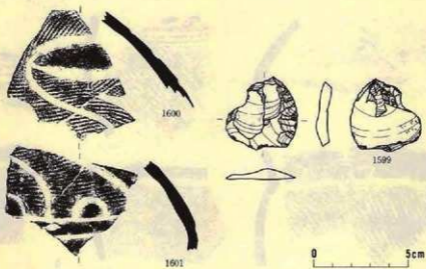
第16图 F III区粗掘出土遗物(II)



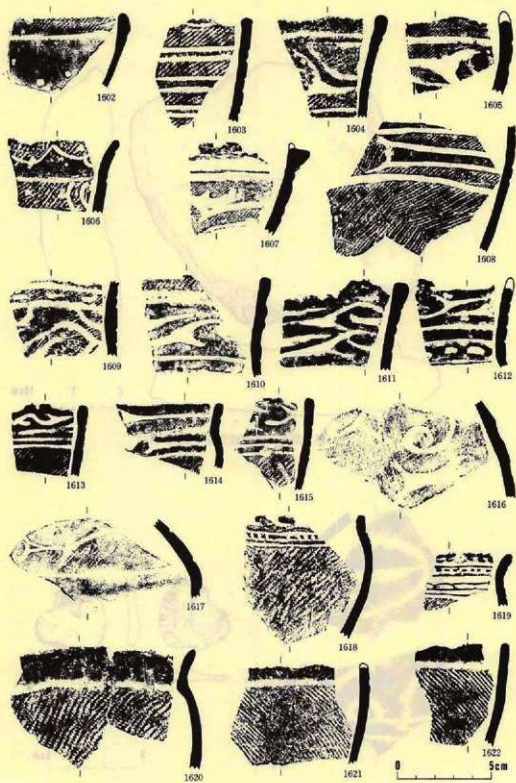
第17图 F III区粗掘出土遗物(12)



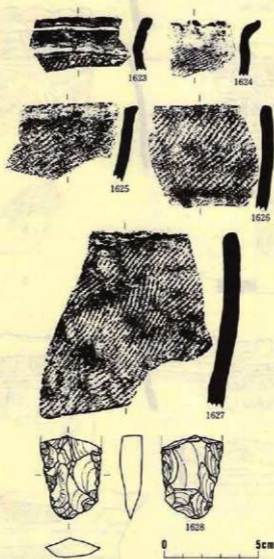
第18图 F III区粗掘出土遗物 (13)



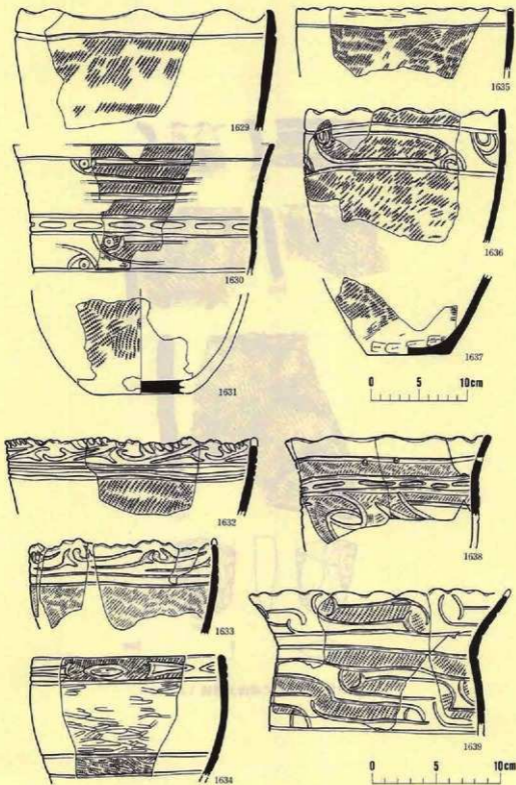
第19图 G II区粗掘出土遗物



第20图 G III区试掘出土遗物(1)



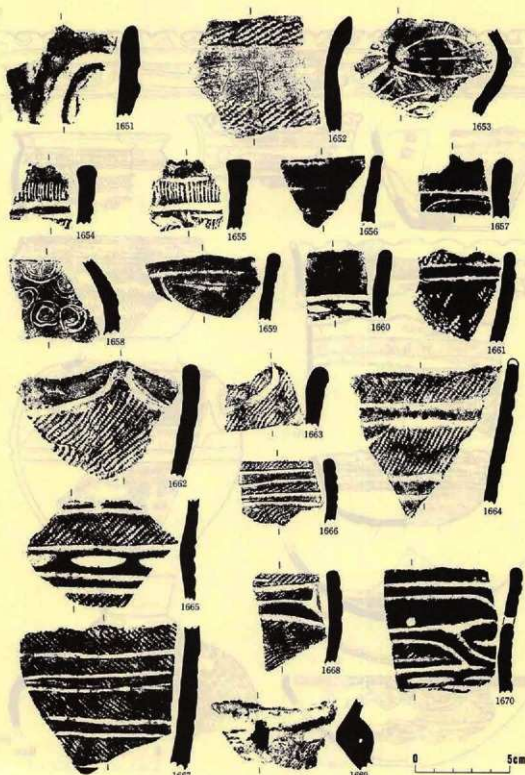
第21图 G III区试掘出土遗物(2)



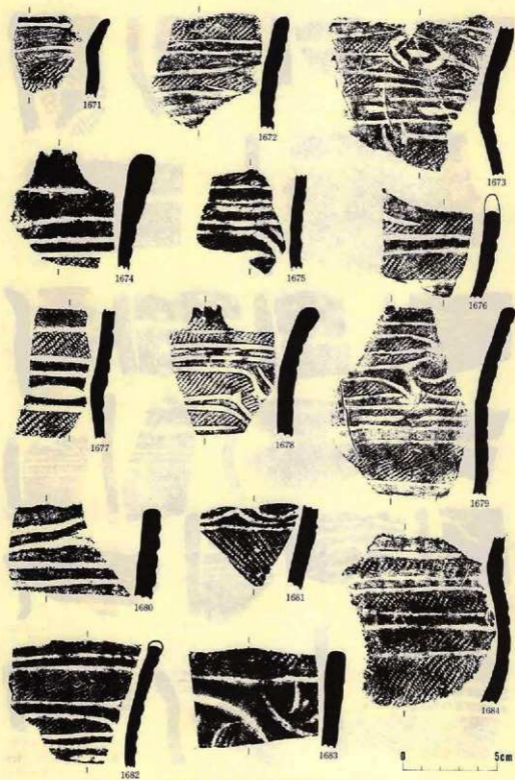
第22图 G III区粗摸出土遗物 (I)



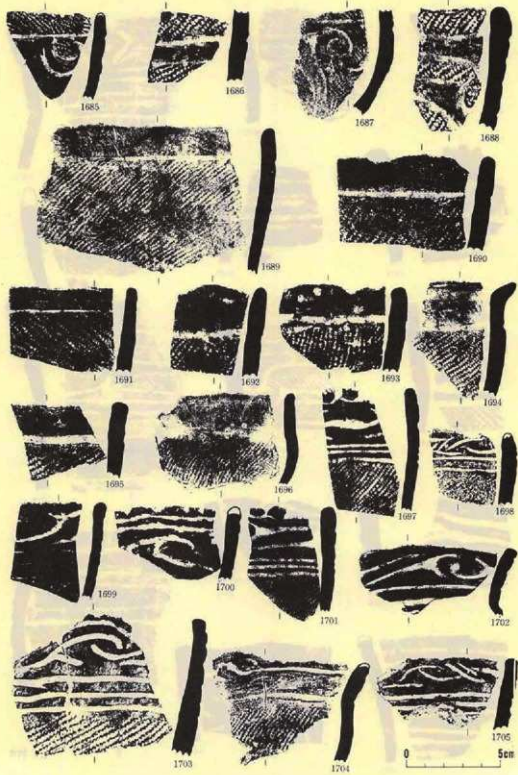
第23图 G III区粗拙出土遗物(2)



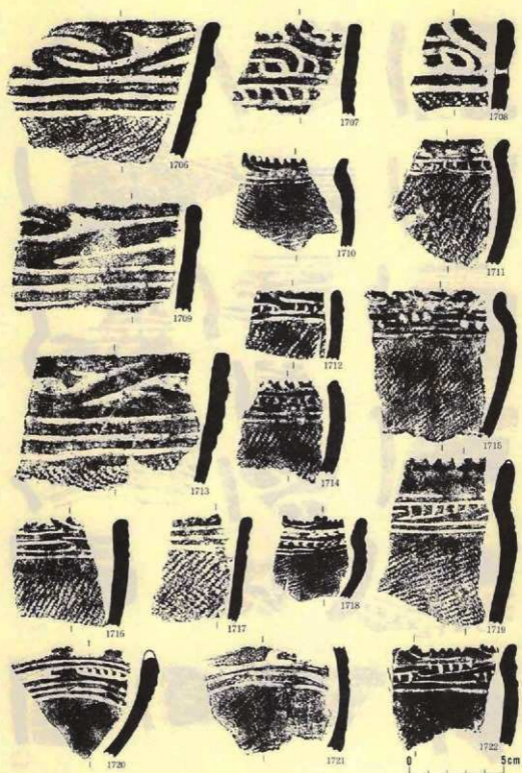
第24图 G III区粗掘出土遗物(3)



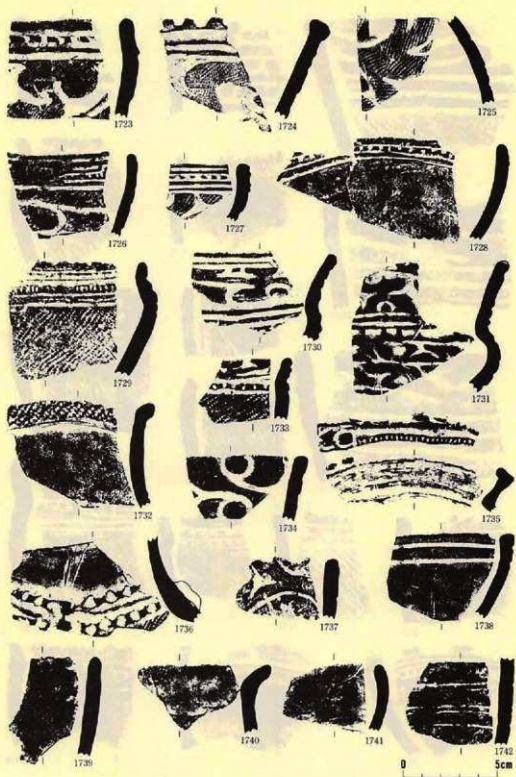
第25图 G III区粗掘出土遗物(4)



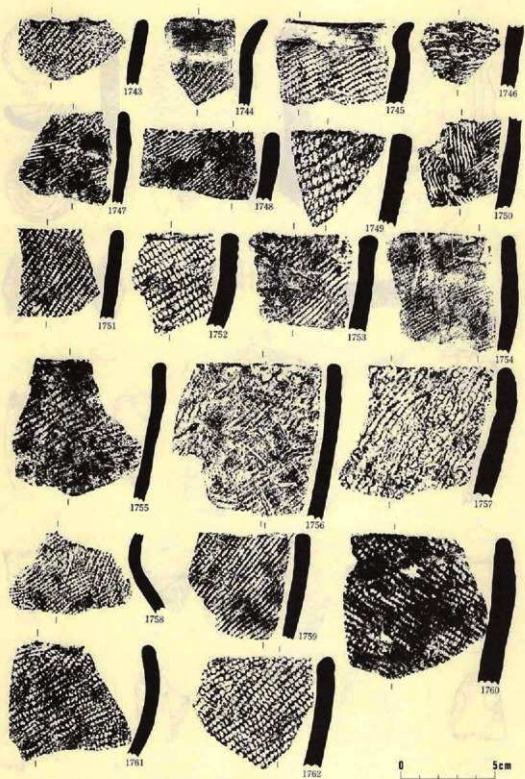
第26图 G III区粗掘出土遗物(5)



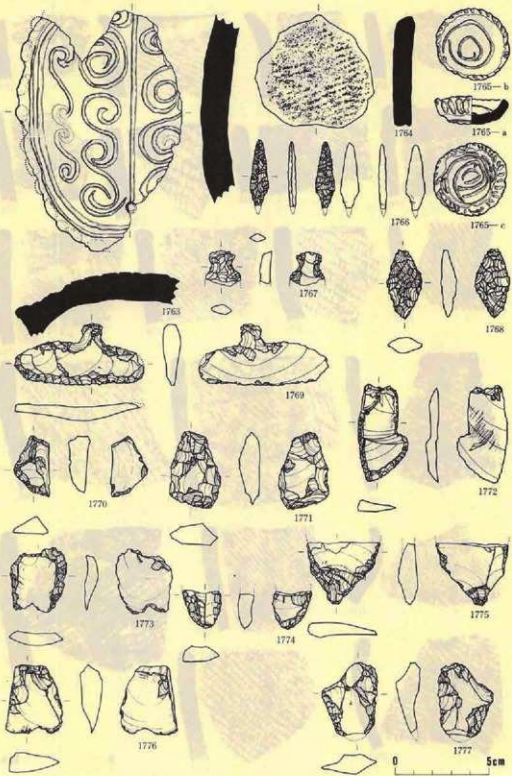
第27图 G III区粗描出土遗物(6)



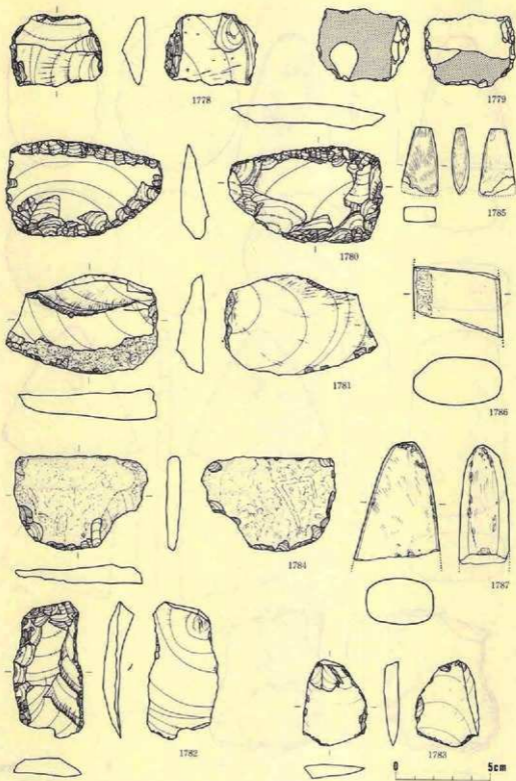
第28图 G III区粗掘出土遗物(7)



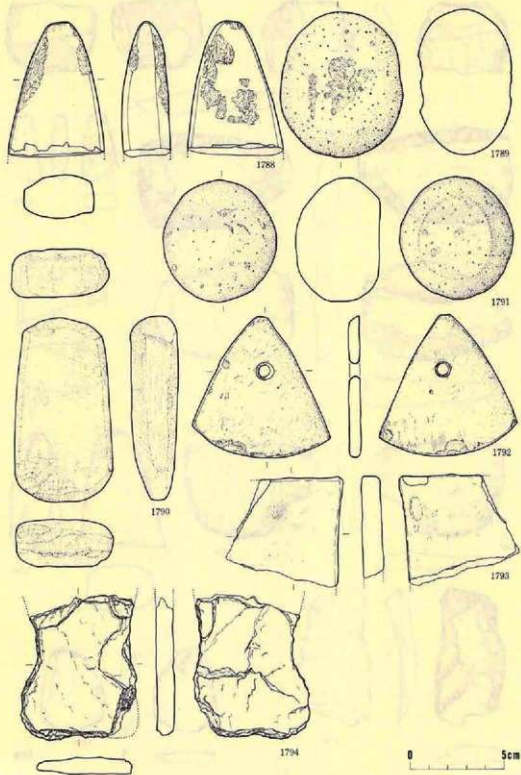
第29图 G III区粗掘出土遗物 (8)



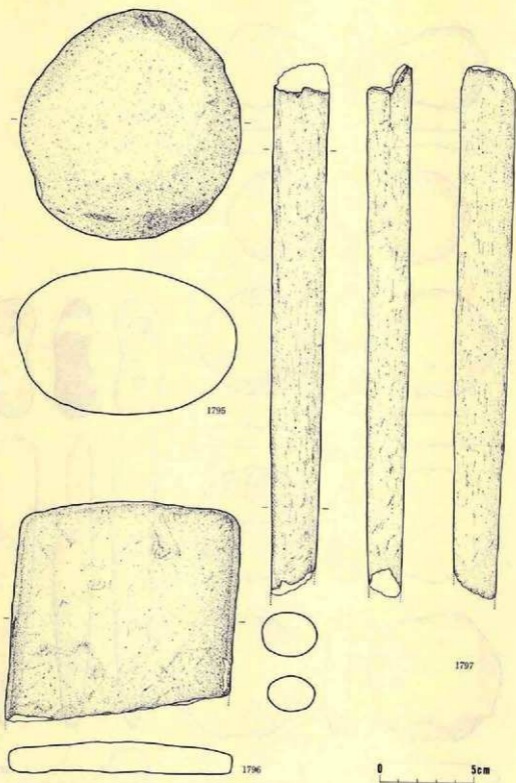
第30图 G III区粗掘出土遗物(9)



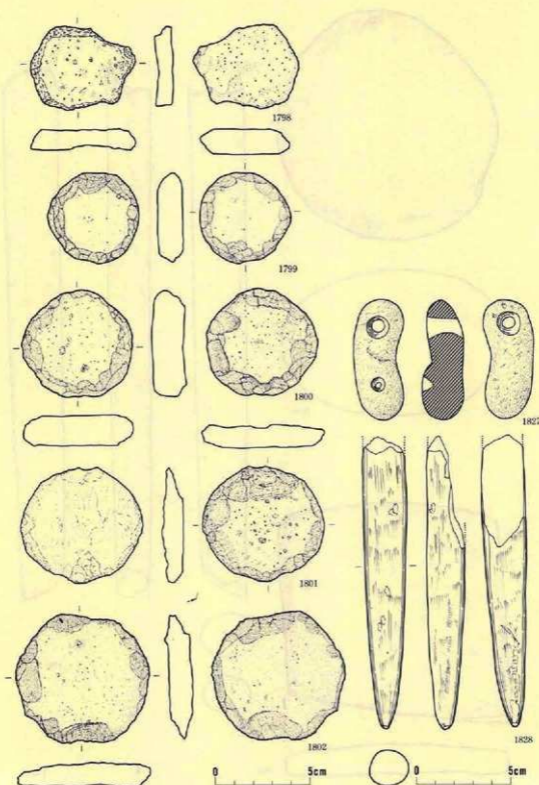
第31图 G III区粗掘出土遗物(10)



第32图 G III区粗掘出土遗物 (11)

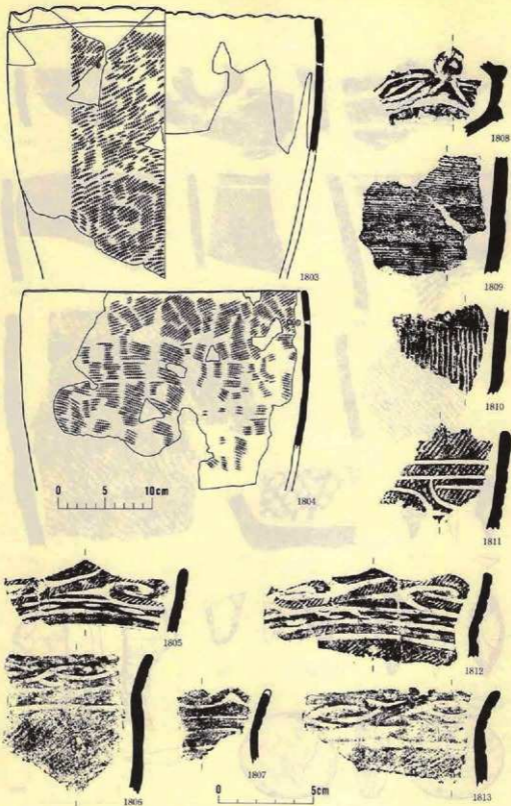


第33图 G III区组掘出土遗物 (12)

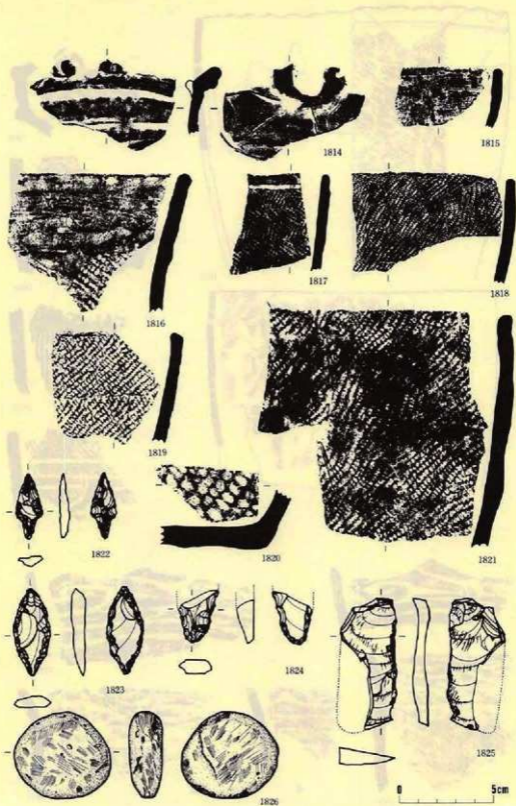


第34图 G III区粗掘出土遗物 (13)

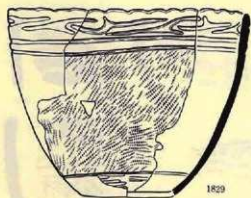
第35图 G IV区粗掘出土遗物 (1)



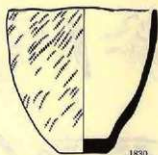
第36图 G IV区粗掘出土遗物(2)



第37图 G IV区粗掘出土遗物(3)



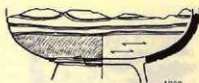
1829



1830



1831



1832



1833



1834



1835



1836



1837



1838



1839



1840



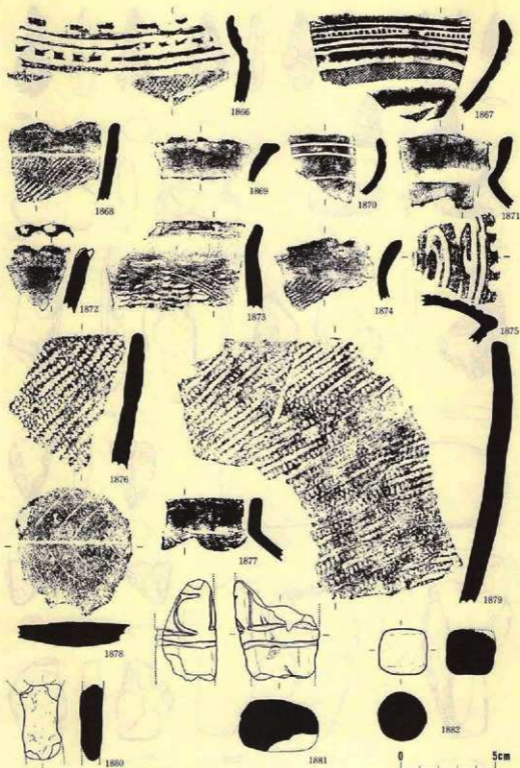
1841



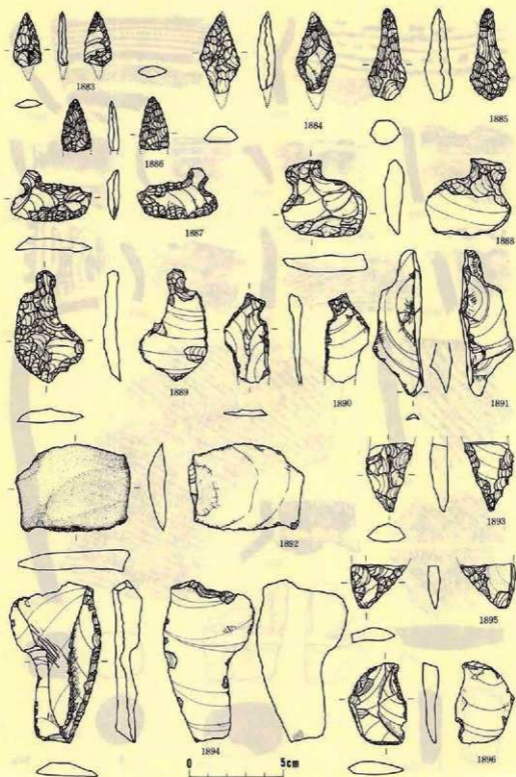
第38图 H III区粗编出土遗物 (I)



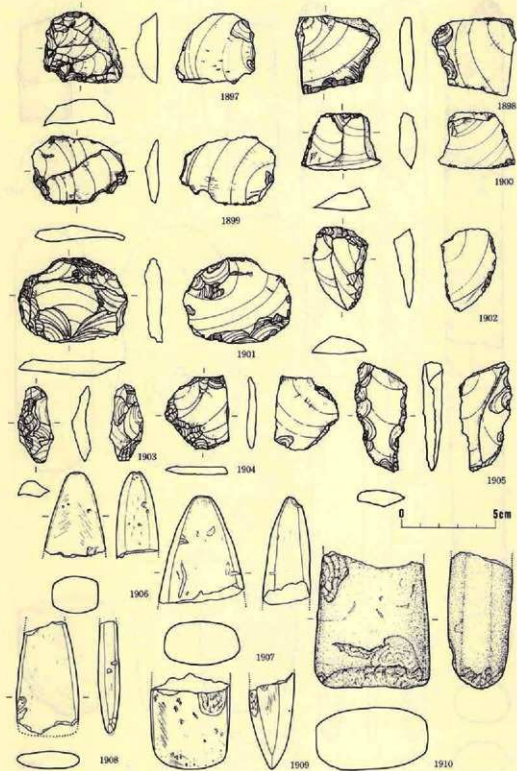
第39图 H III区粗掘出土遗物(2)



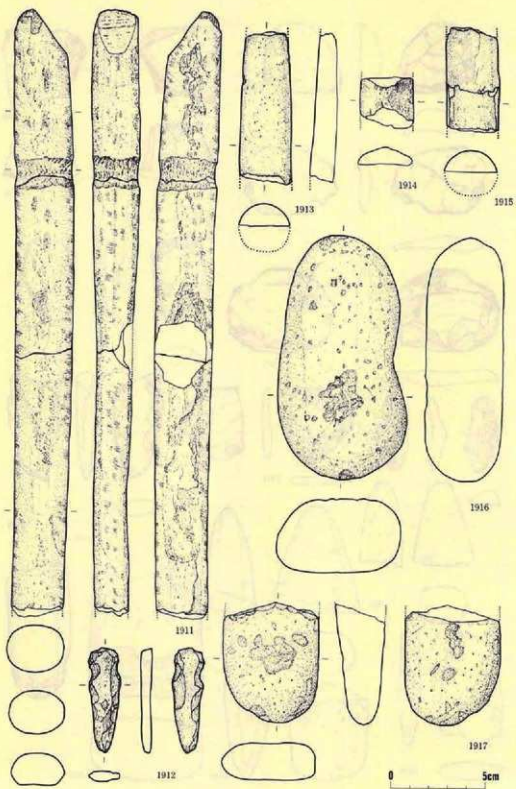
第40图 H III区组出土遗物(3)



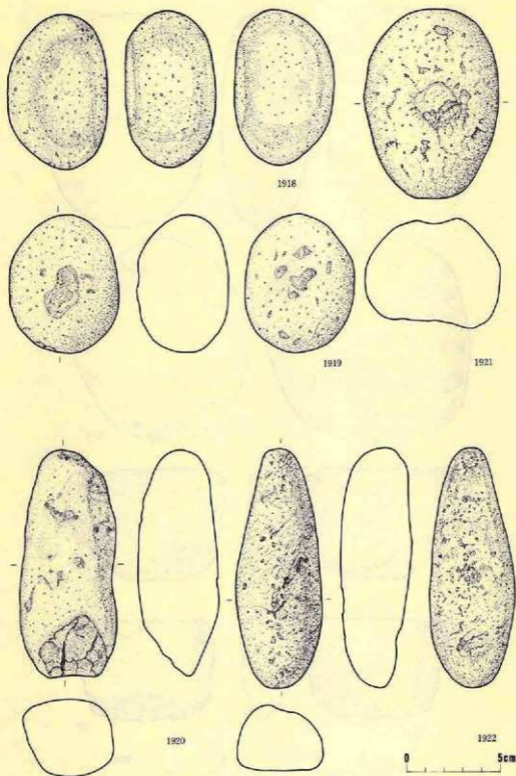
第41图 H III区粗排出土遗物(4)



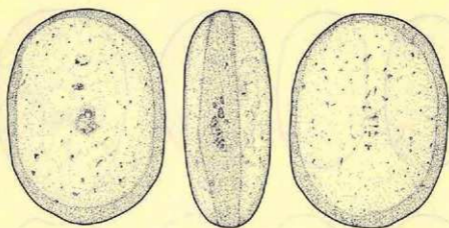
第42图 H III区粗猫出土遗物(5)



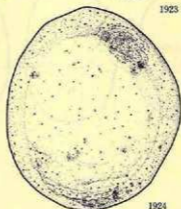
第43图 H III区粗掘出土遗物(6)



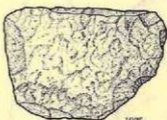
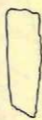
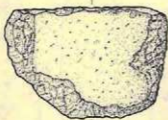
第44图 H III区粗掘出土遗物(7)



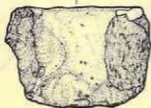
1923



1924



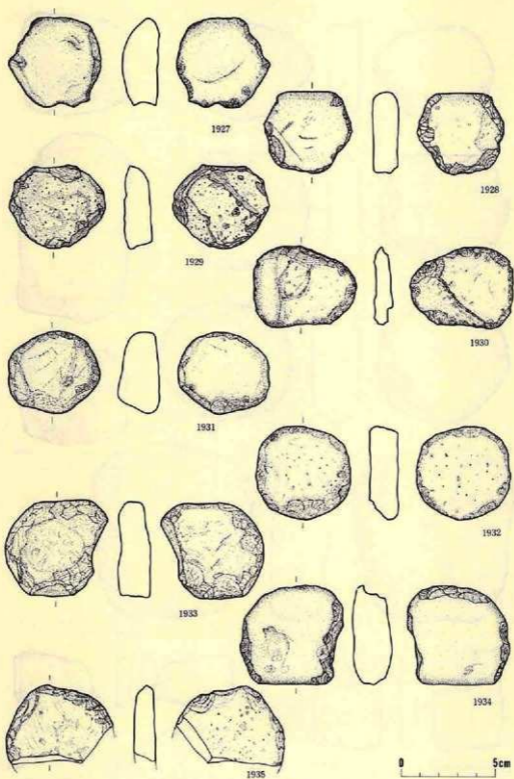
1925



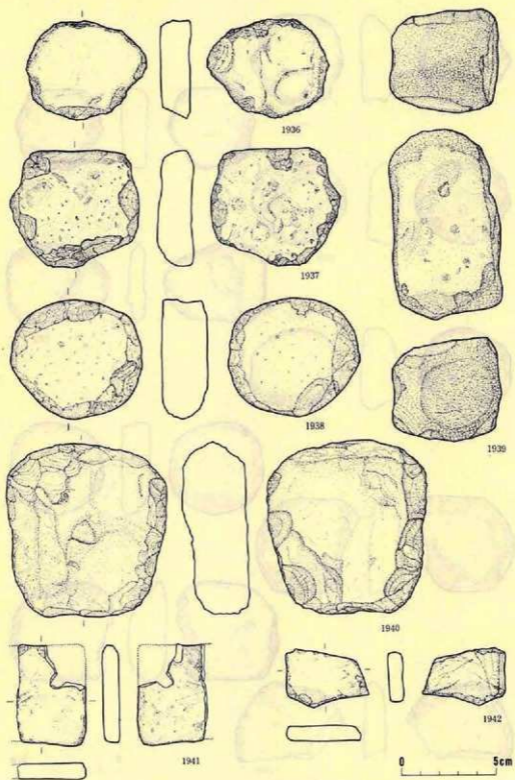
1926



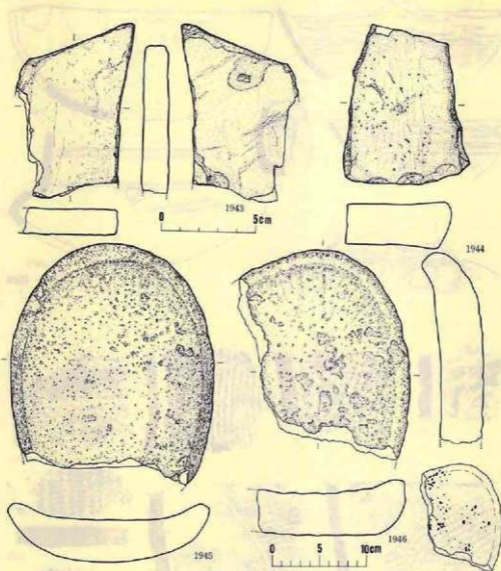
第45图 H III区粗犷出土遗物(8)



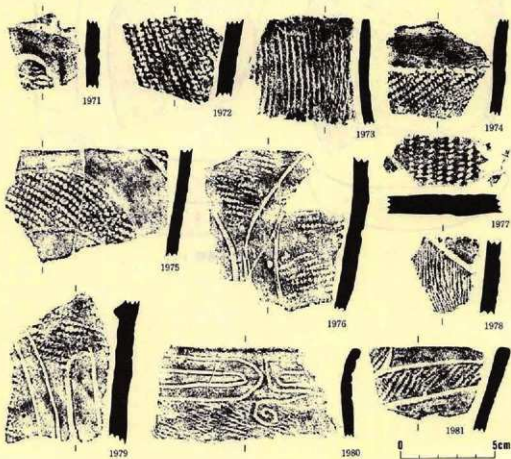
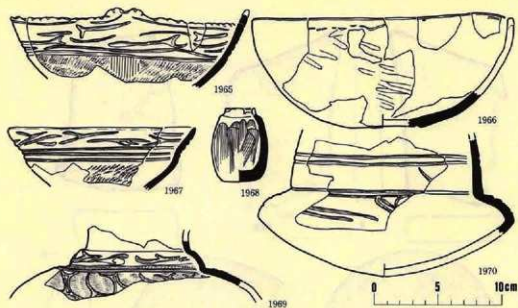
第46图 H III区粗掘出土遗物(9)



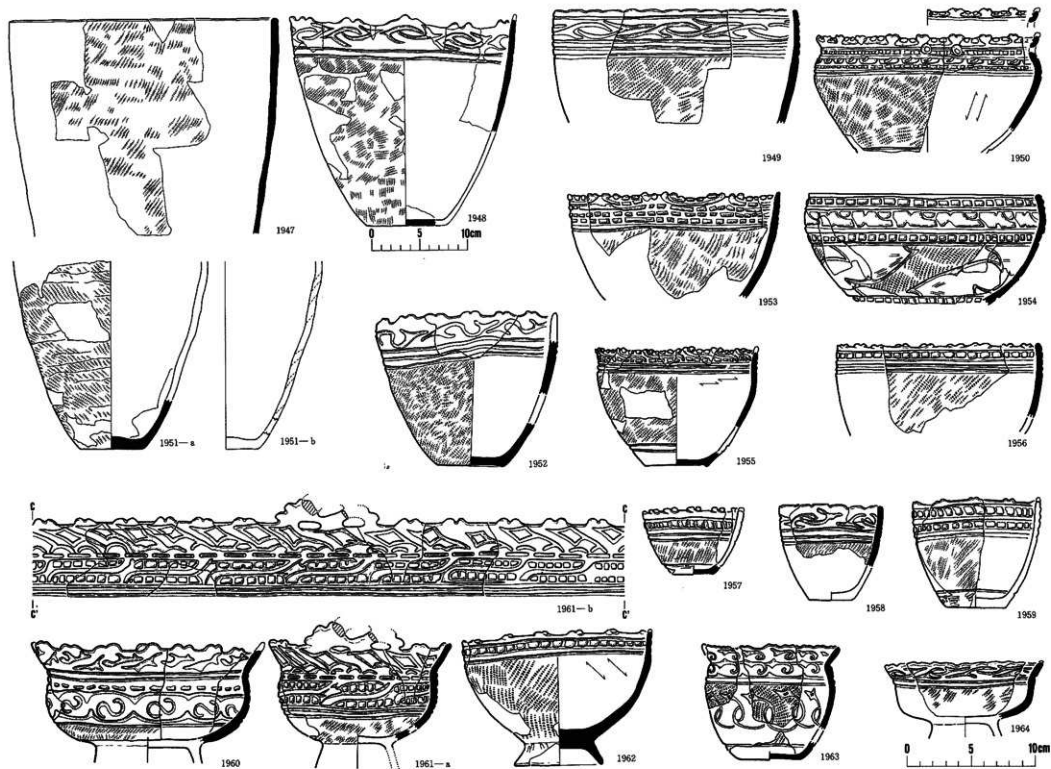
第47图 H III区粗掘出土遗物 (10)



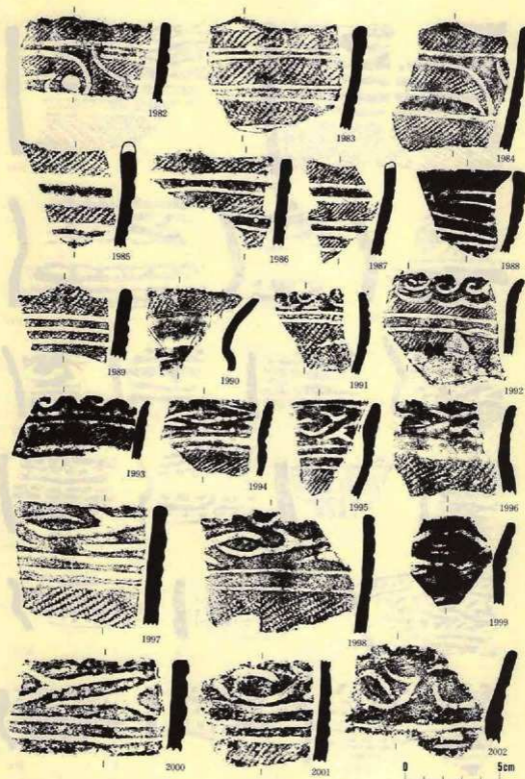
第48图 H III区粗排出土遗物 (II)



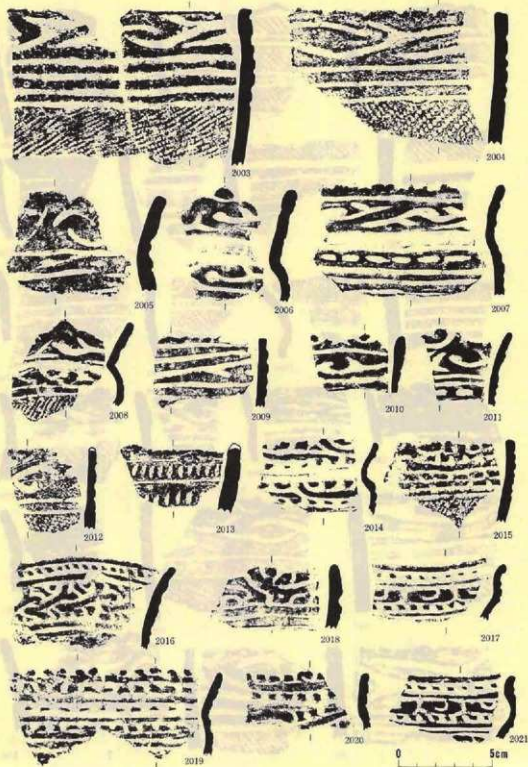
第49图 H IV区粗掘出土遗物(1)



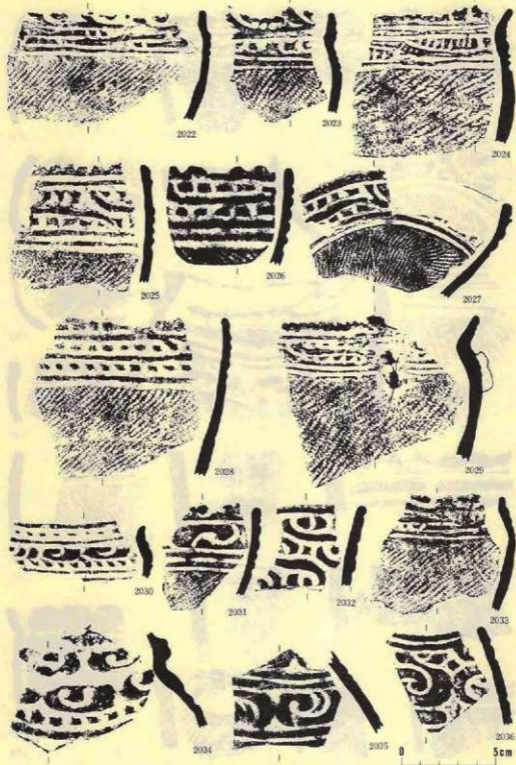
第50图 H IV区粗绳出土遗物(2)



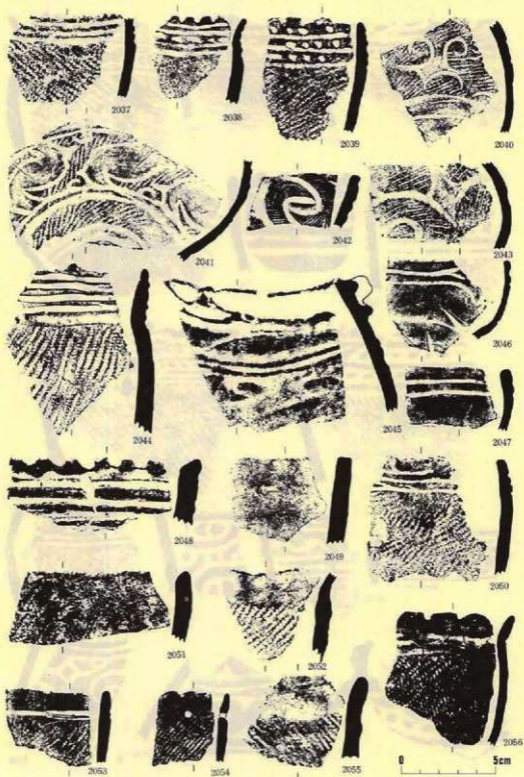
第51图 H IV区粗掘出土遗物(3)



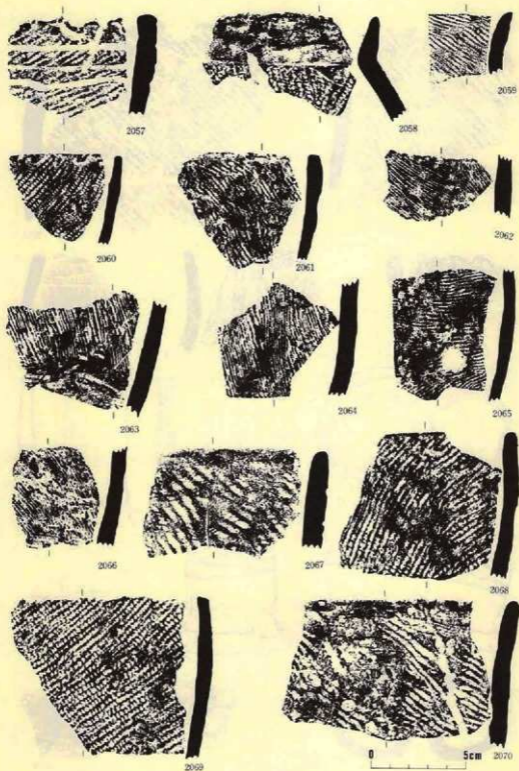
第52图 H IV区粗操出土遗物(4)



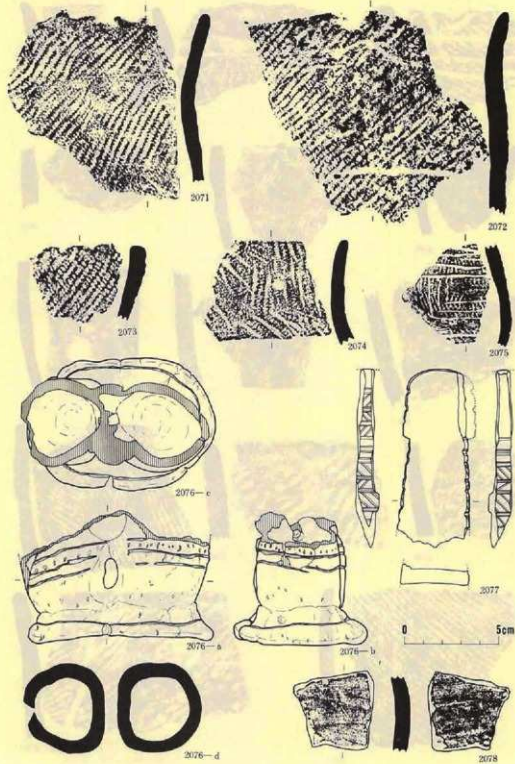
第53图 H IV区粗拙出土遗物(5)



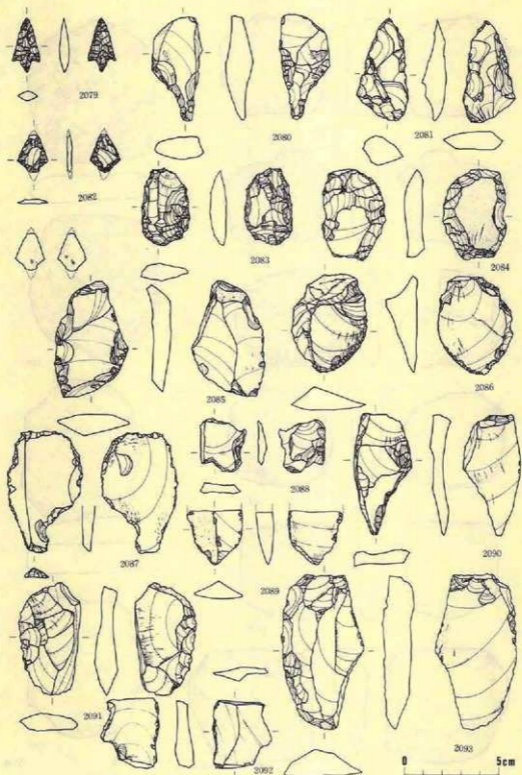
第54图 H IV区粗燥出土遗物(6)



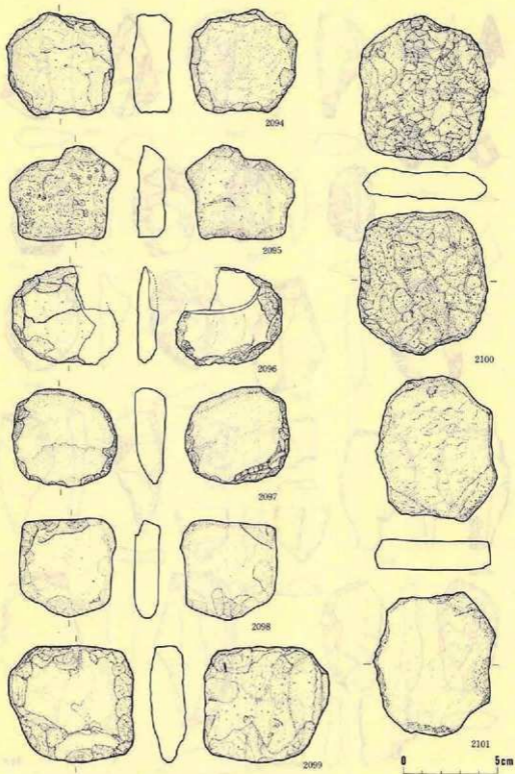
第55图 H IV区组出土文物(7)



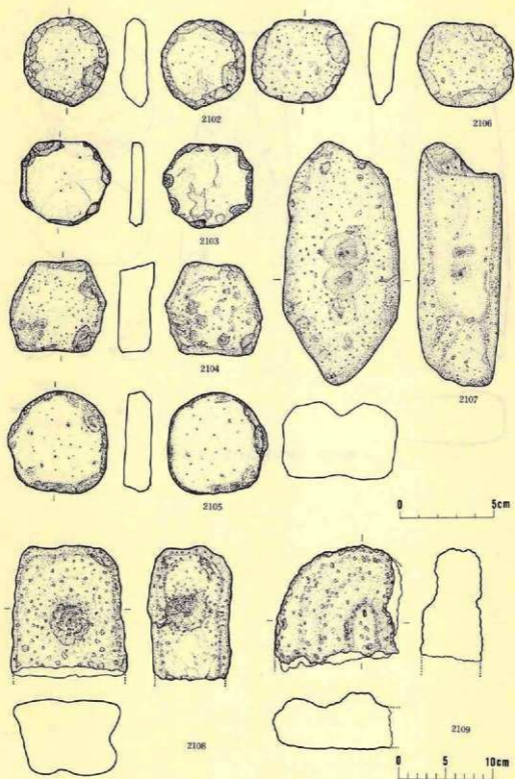
第56图 H IV区粗掘出土遗物(8)



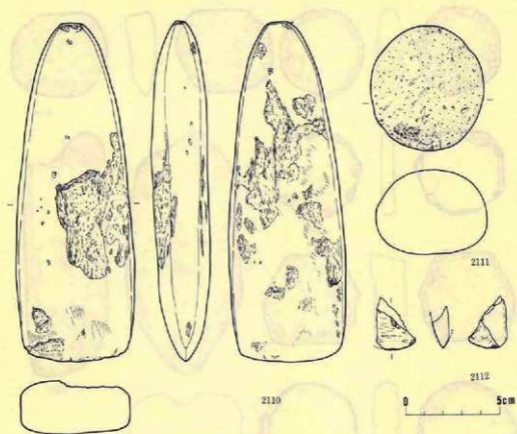
第57图 H IV区粗掘出土遗物(9)



第58图 H IV区粗掘出土遗物(10)



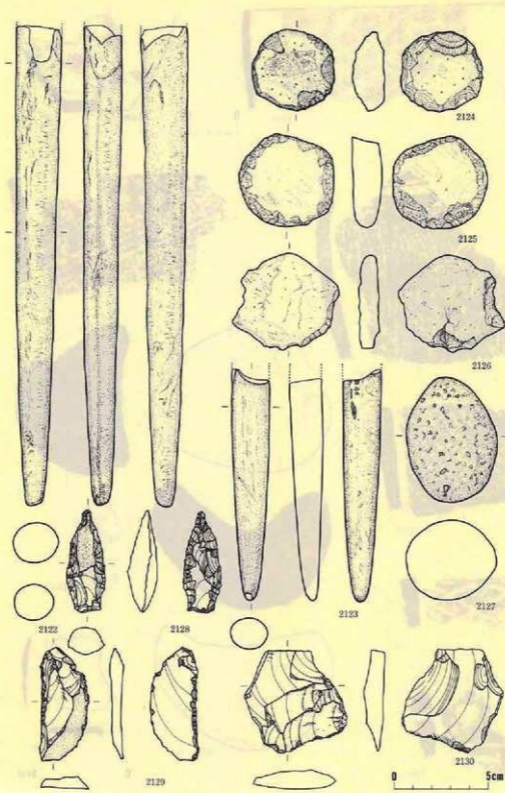
第59图 H IV区粗掘出土遗物(11)



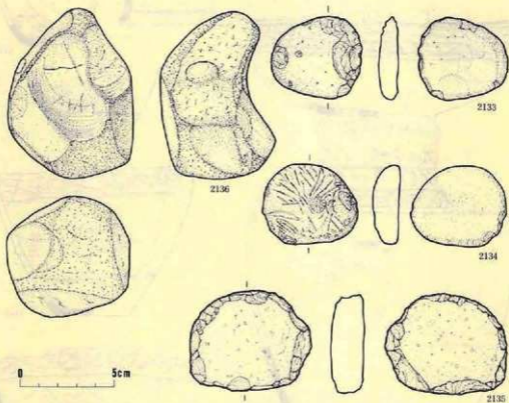
第60图 H IV区粗掘出土遗物 (12)



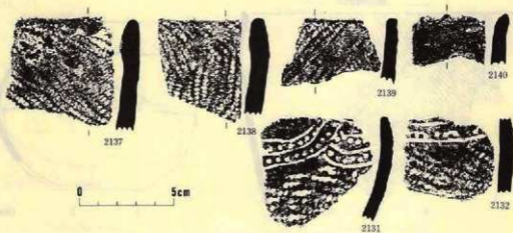
第61图 HV区粗掘出土遗物(1)



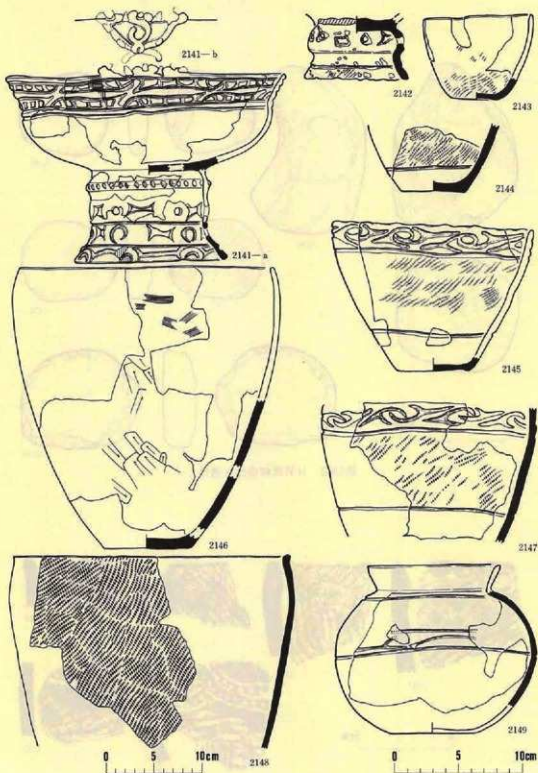
第62图 HV区粗掘出土遗物(2)



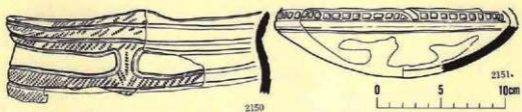
第63图 H VI区粗掘出土遗物



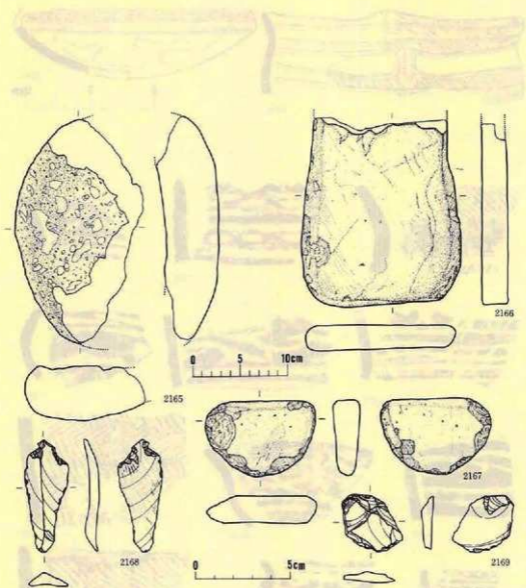
第64图 H VII区粗掘出土遗物



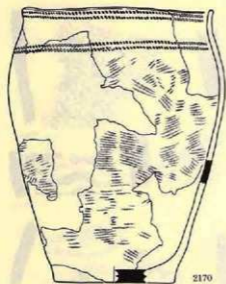
第65图 I III区粗掘出土遗物 (I)



第66图 I III区粗犷出土遗物(2)



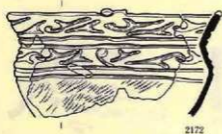
第67图 I III区粗掘出土遗物(3)



2170



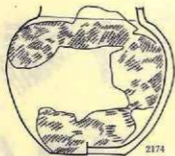
2171



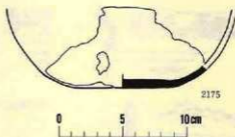
2172



2173



2174



2175



2176



2177

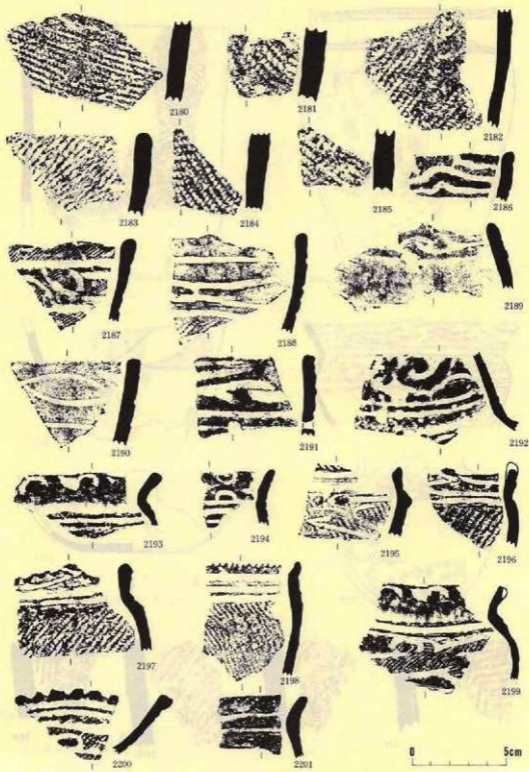


2178

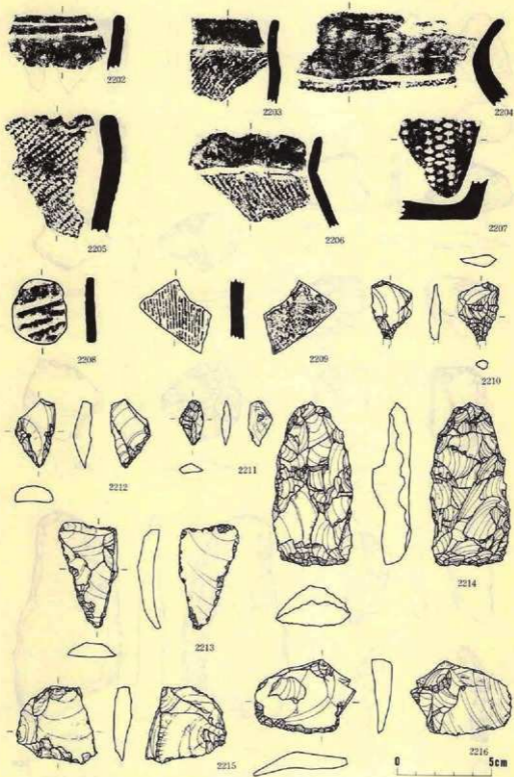


2179

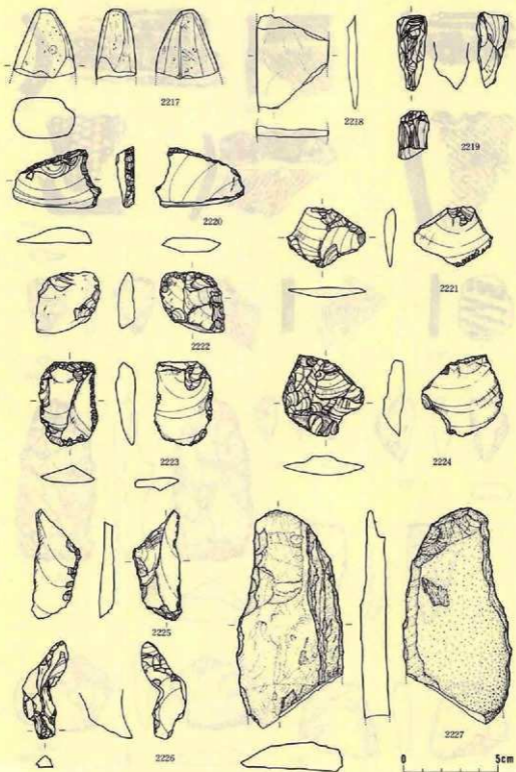
第68图 | IV区粗陶出土遗物



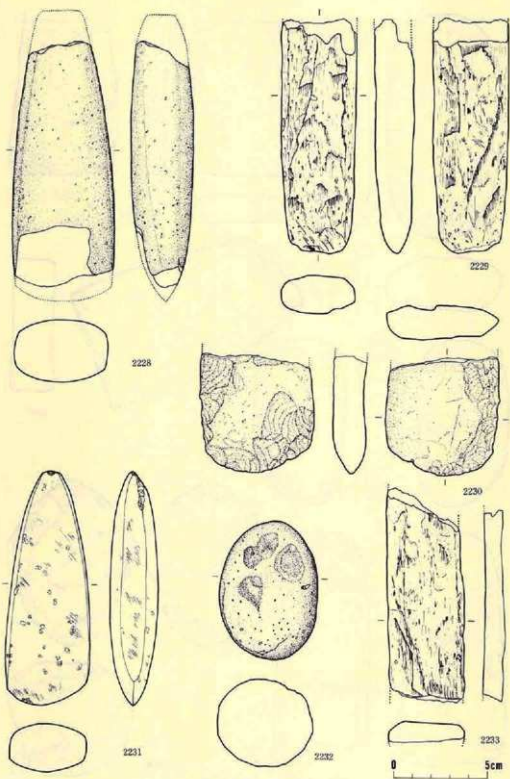
第69图 IV区出土遗物(1)



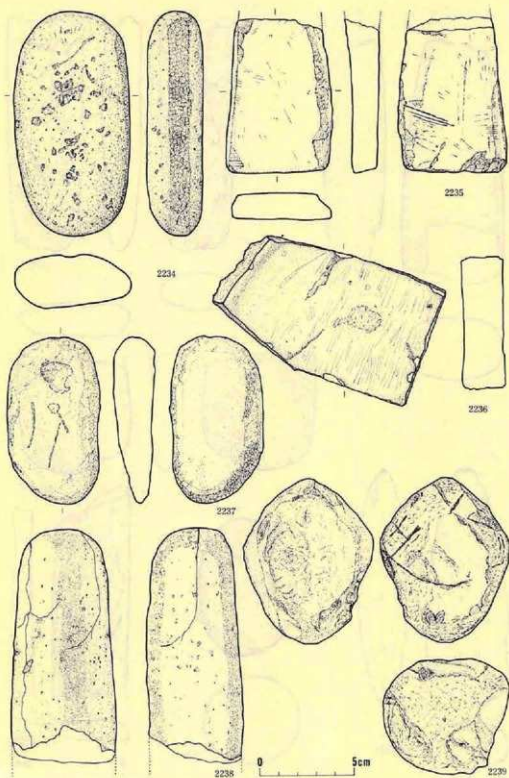
第70图 I IV区出土遗物(2)



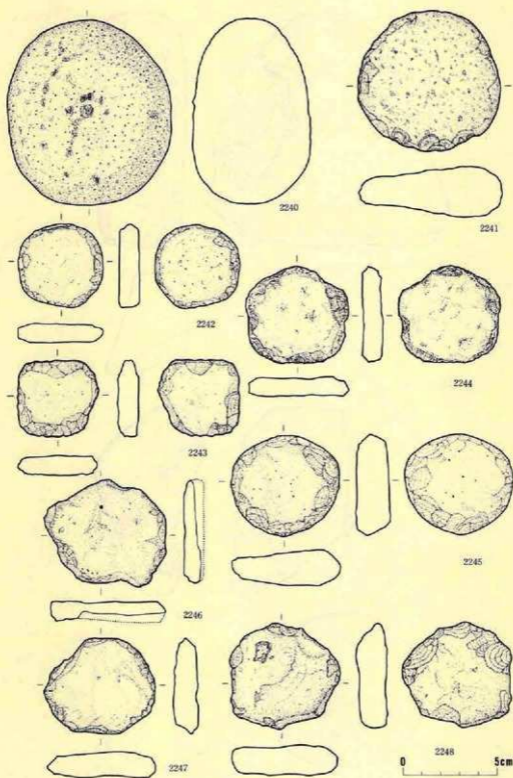
第71图 I IV区出土遗物(3)



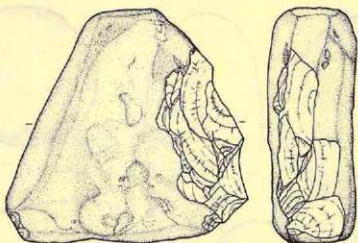
第72图 I IV区出土遗物(4)



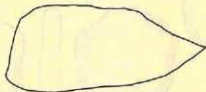
第73图 I IV区出土遗物(5)



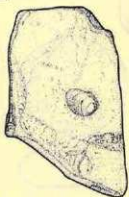
第74图 I IV区出土遗物(6)



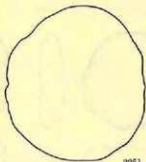
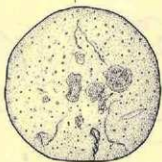
2249



0 5cm

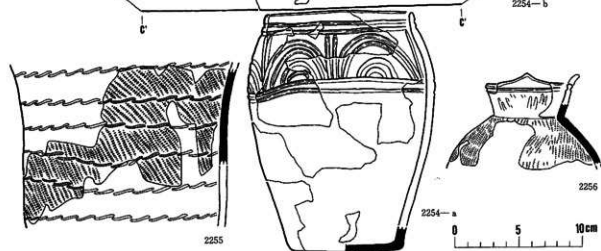
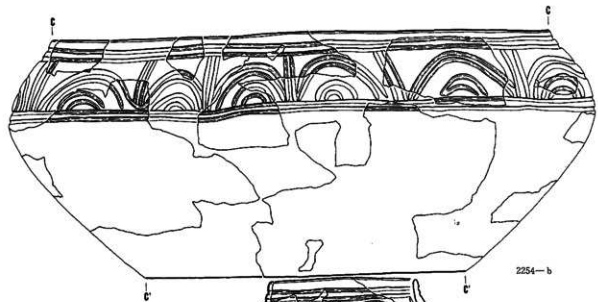
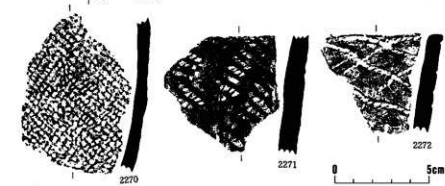
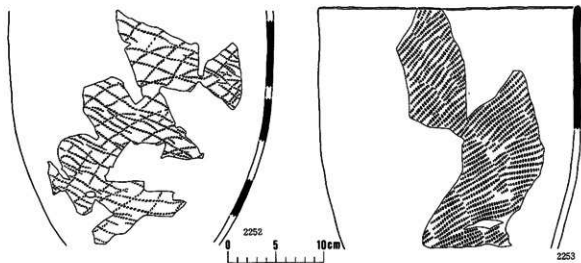


2250

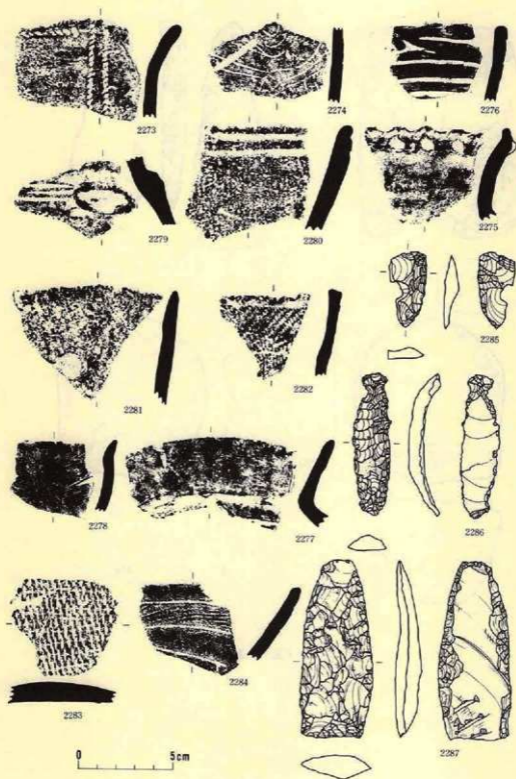


2251

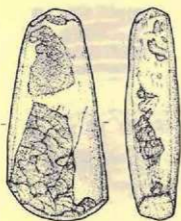
第75图 I IV区出土遗物(7)



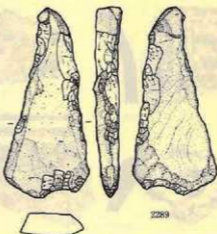
第76图 I V区粗绳出土遗物



第77图 IV区出土遗物(1)



2288



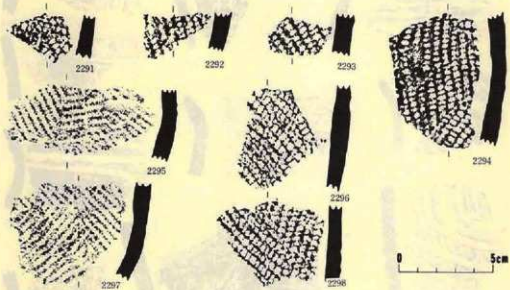
2289



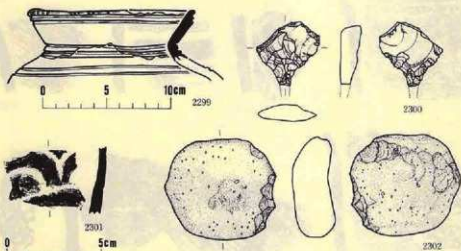
2290



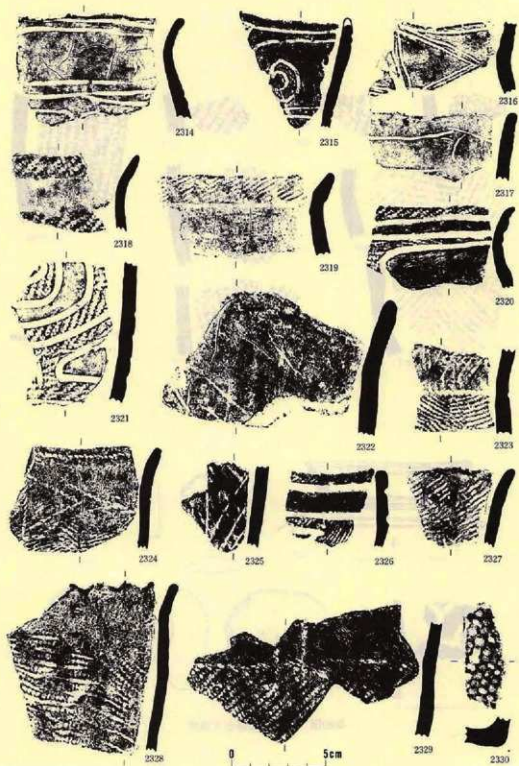
第78图 I V区出土遗物(2)



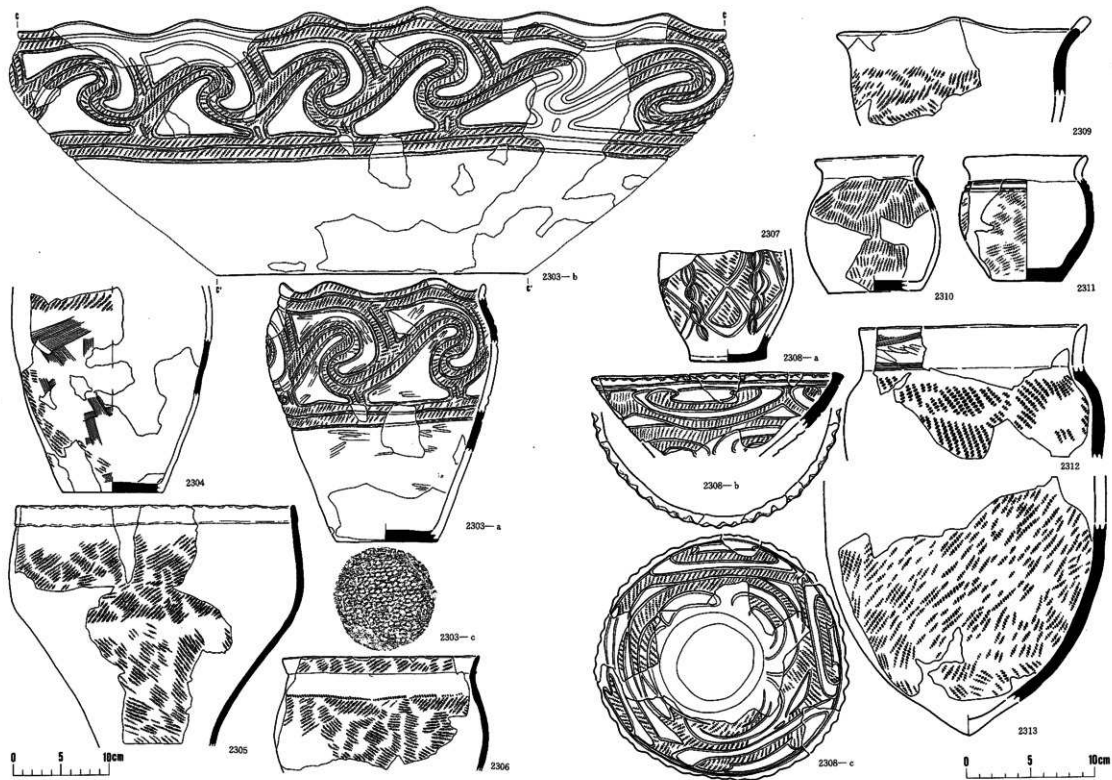
第79图 I VI区粗掘出土遗物



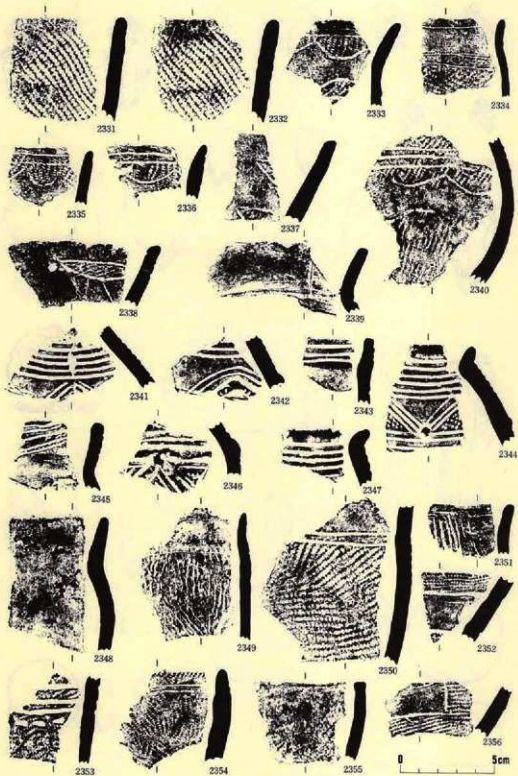
第80图 J IV区粗掘出土遗物



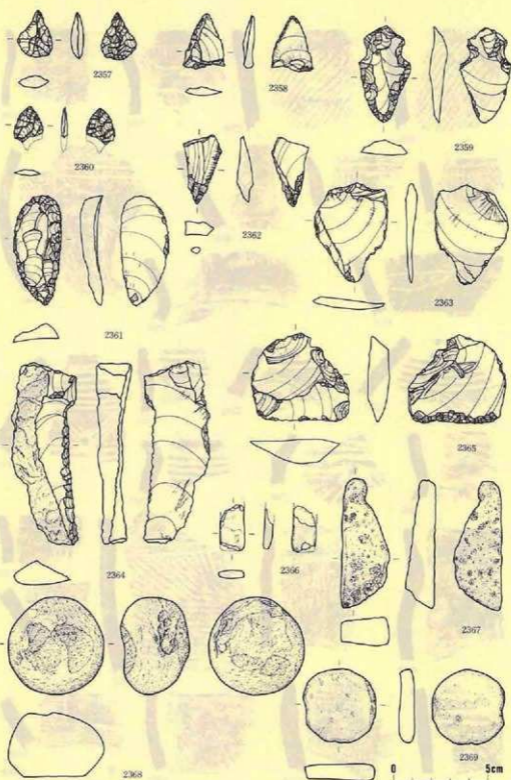
第81图 J V区粗拙出土遗物(1)



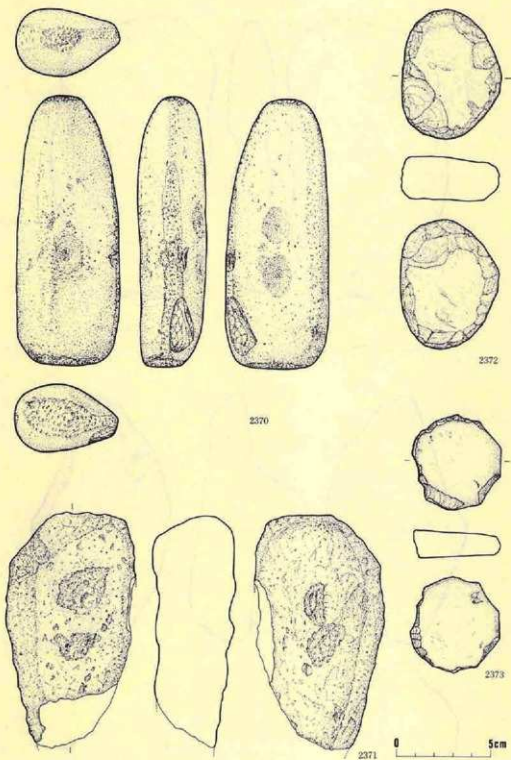
第82图 J V区粗陶出土遗物(2)



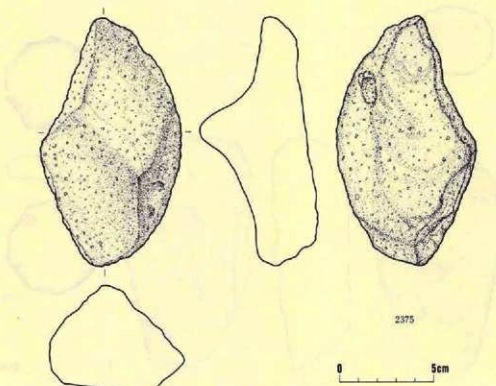
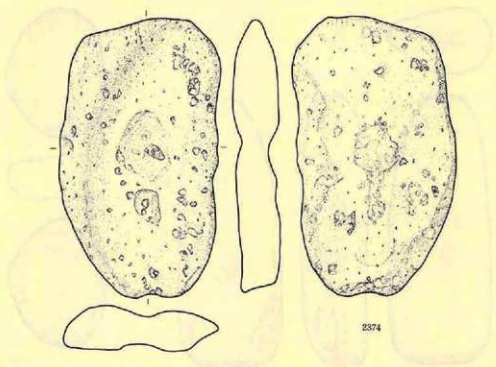
第83图 J V区粗绳出土遗物(3)



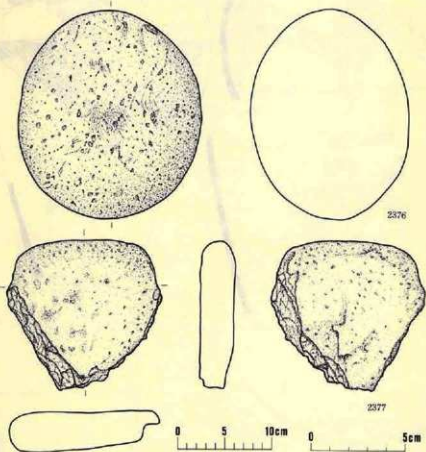
第84图 J V区粗掘出土遗物(4)



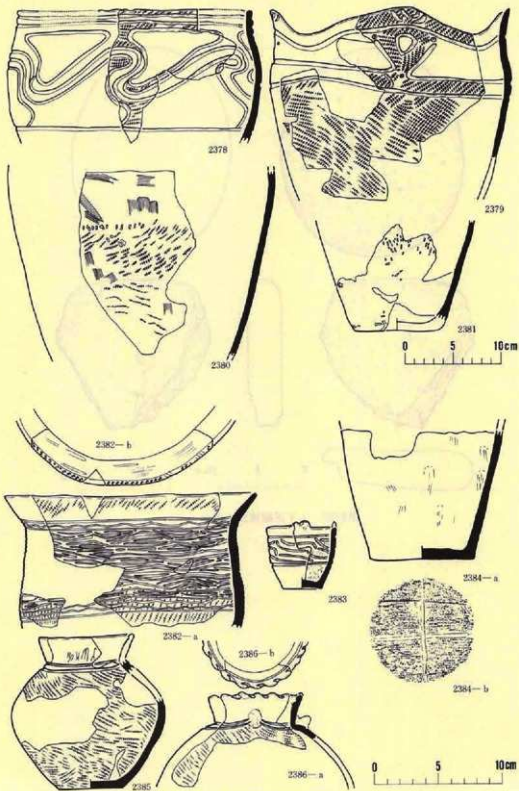
第85图 J V区粗掘出土遗物(5)



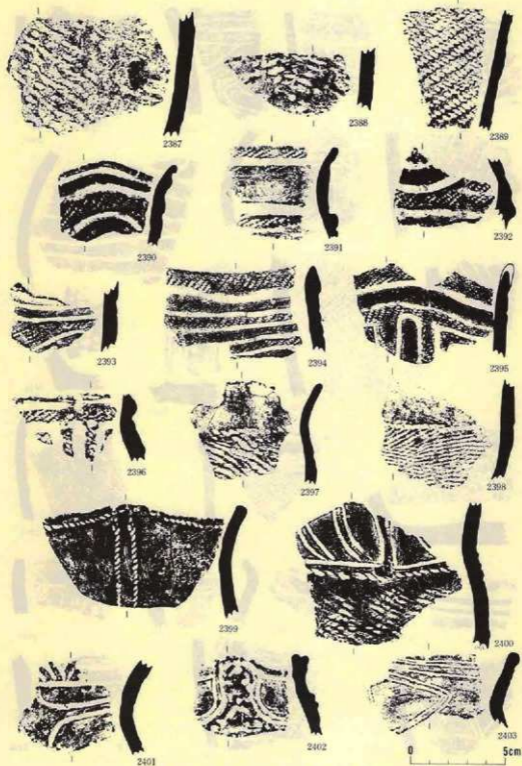
第86图 J V区粗模出土遗物(6)



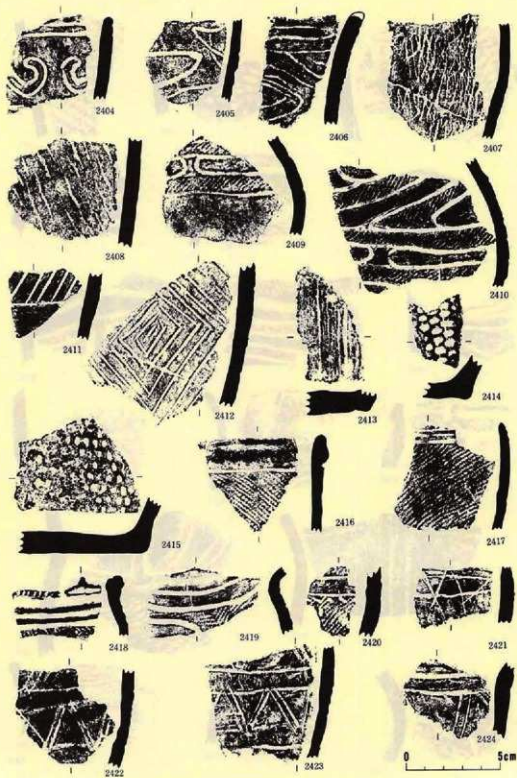
第87图 J V区粗掘出土遗物(7)



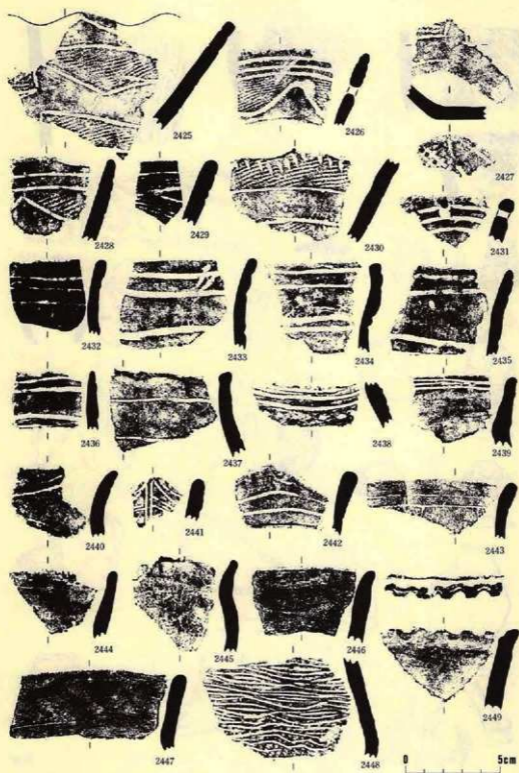
第88图 J VI区粗掘出土遗物(1)



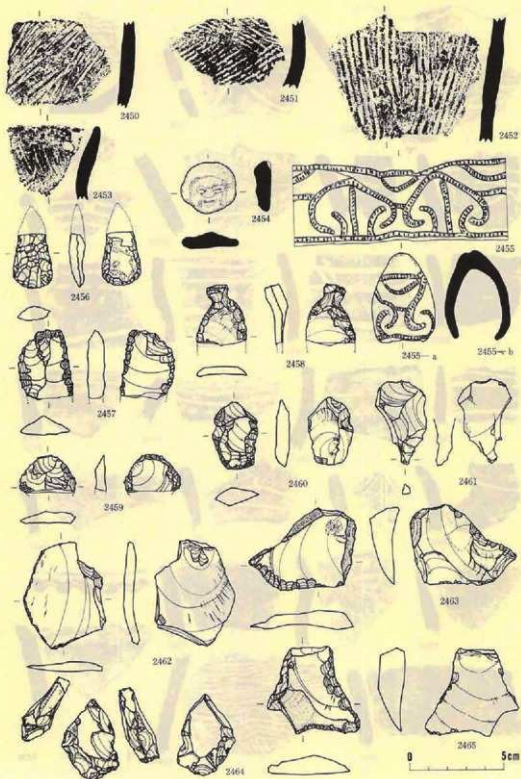
第89图 J VI区粗拙出土遗物(2)



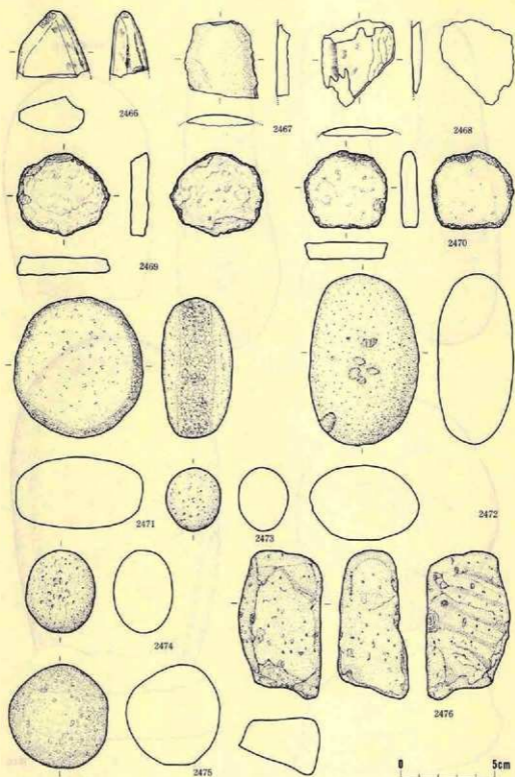
第90图 J VI区粗掘出土遗物(3)



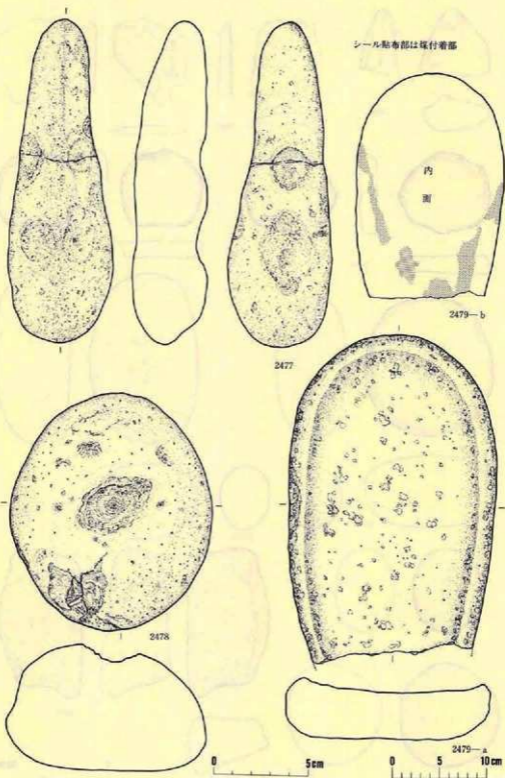
第91图 JVI区粗掘出土遗物(4)



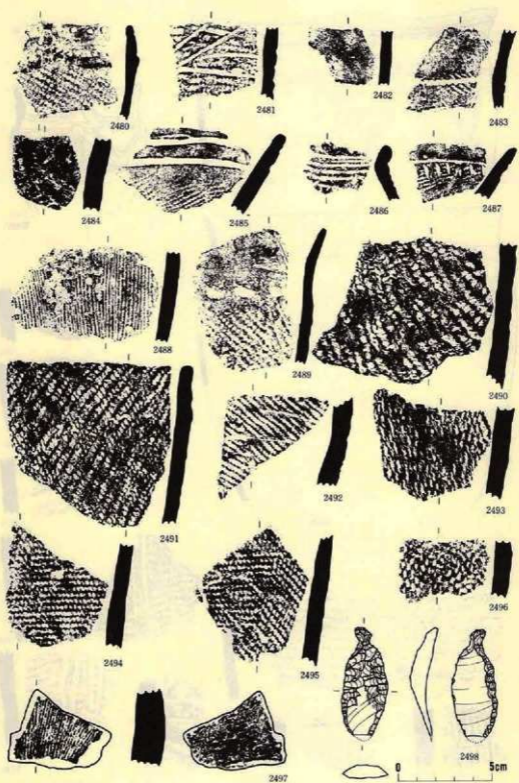
第92图 J VI区粗编出土遗物(5)



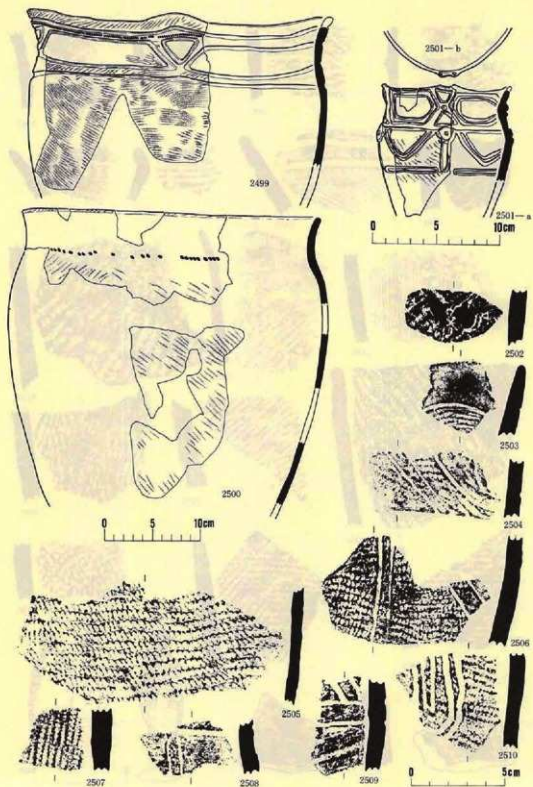
第93图 J VI区粗掘出土遗物(6)



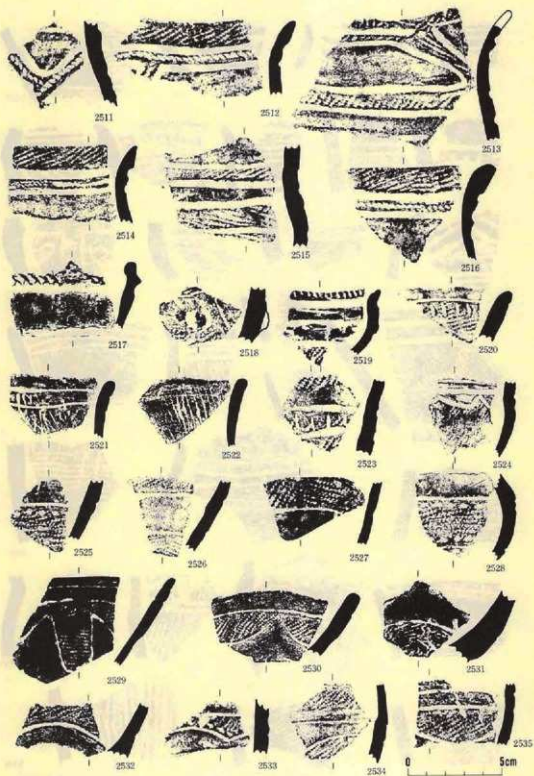
第94図 J VI区粗掘出土遺物(7)



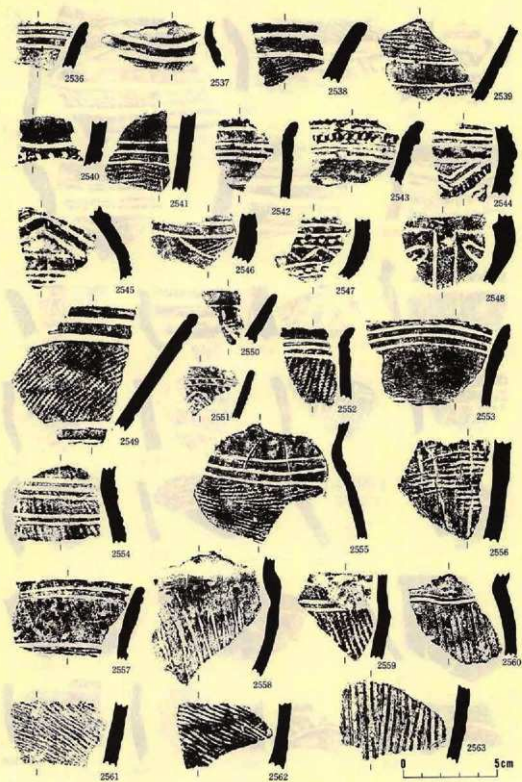
第95图 K V 区出土遗物



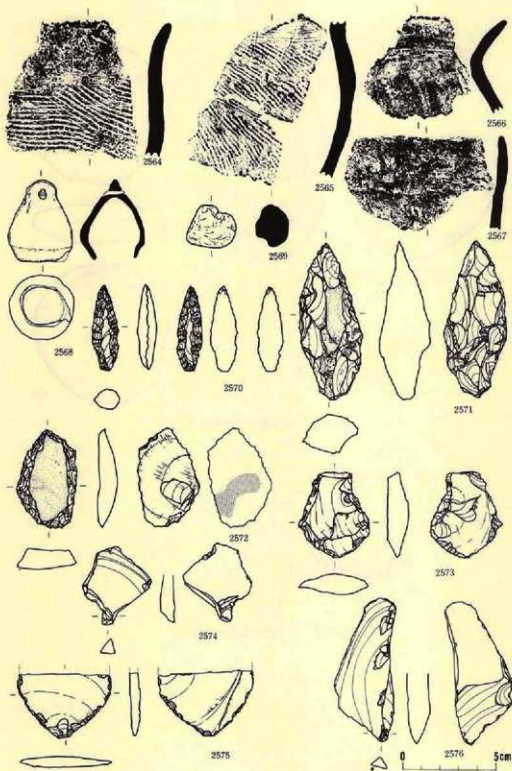
第96图 K VI区粗编出土遗物



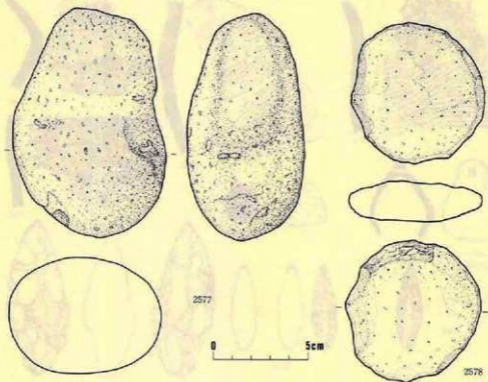
第97图 K VI区出土遗物(1)



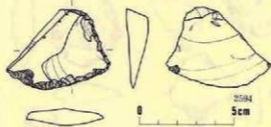
第98图 K VI区出土遗物(2)



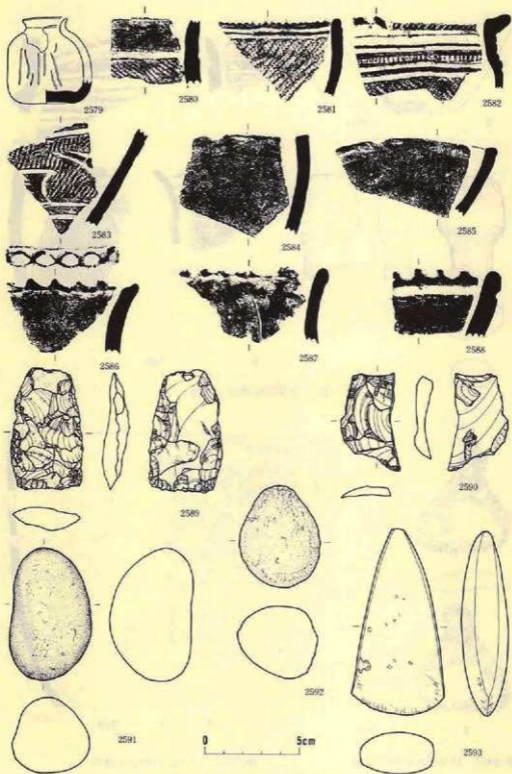
第99图 K VI区出土遗物(3)



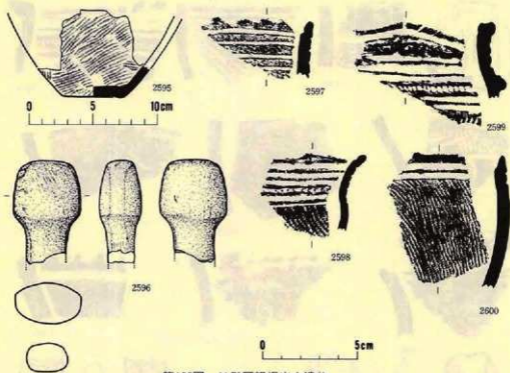
第100图 K VI区出土遗物(4)



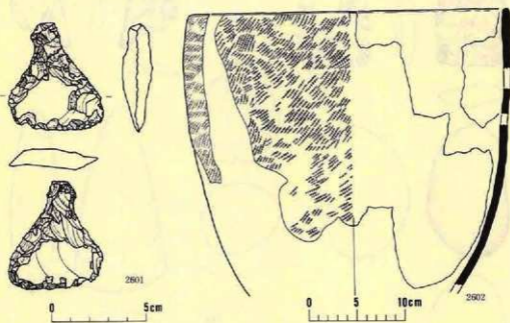
第101图 L V区粗掘出土遗物



第102图 L IV区粗掘出土遗物

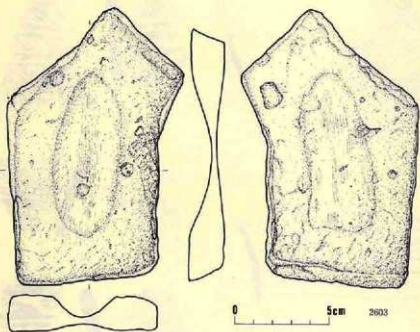


第103图 M IV区粗掘出土遗物

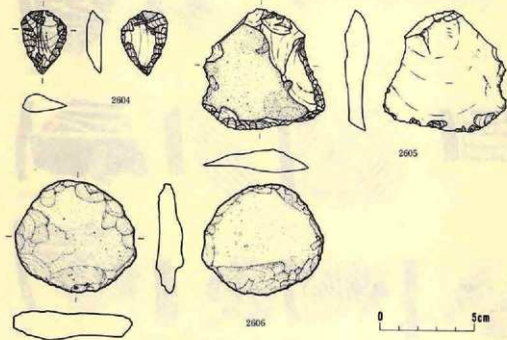


第104图 M V区粗掘出土遗物

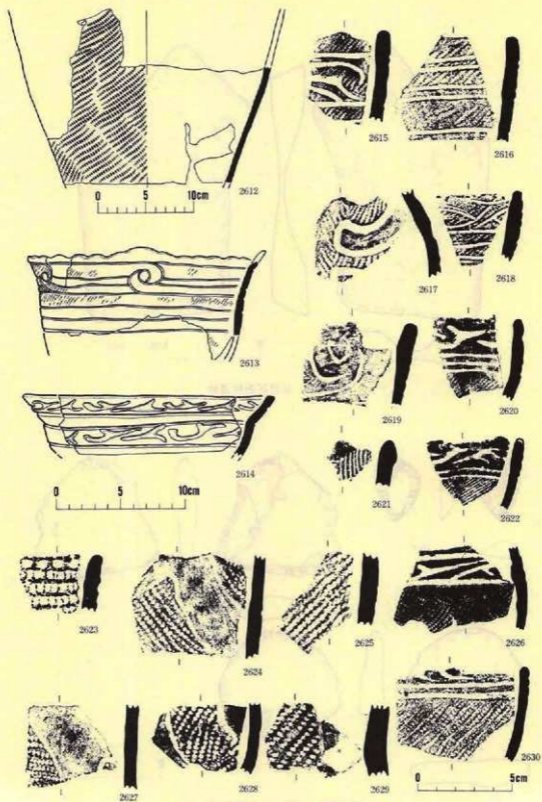
第105图 M VI区粗掘出土遗物



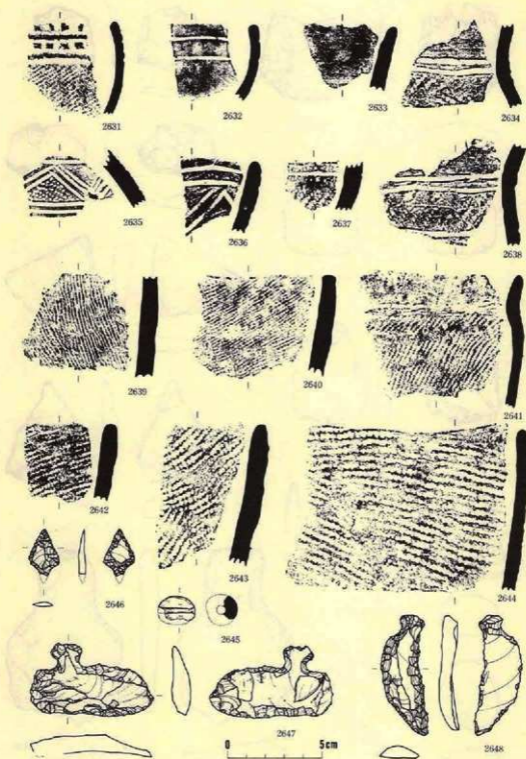
第106图 G III区表探遗物



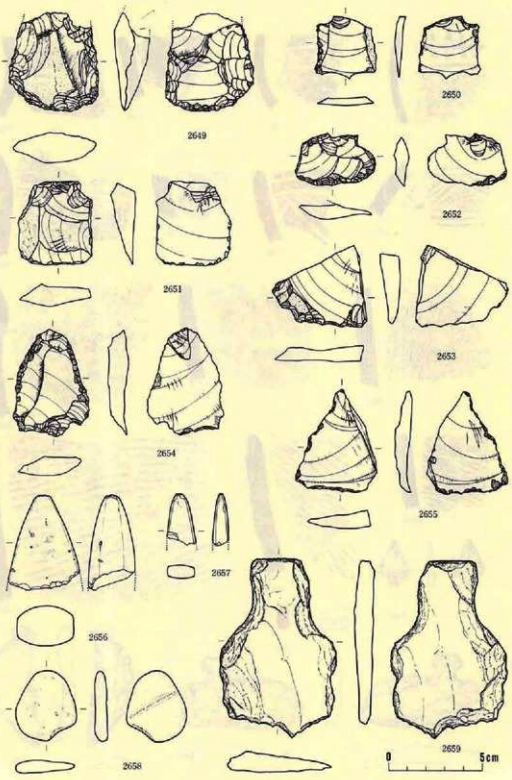
第107图 J IV~J V区表探遗物



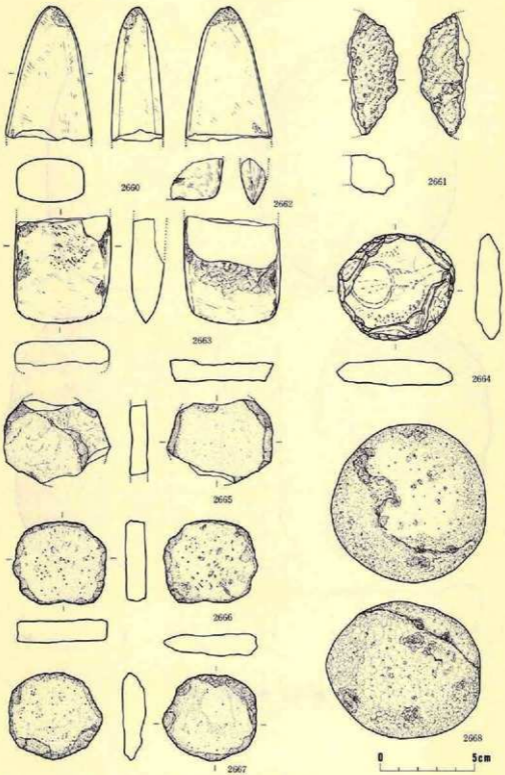
第108圖 表採遺物 (1)



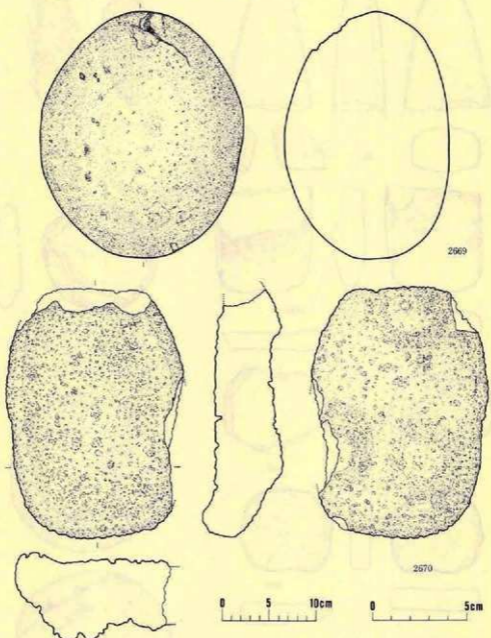
第109图 表採遺物(2)



第110图 表探遺物(3)



第III圖 表採遺物(4)



第112圖 表採遺物(5)

第4章 ま と め

第1節 遺構について

(1) 縄文時代の住居跡

発見された縄文時代の住居跡と建物跡は、中期後葉、後期前葉、後期後葉、晩期前葉の各期のものがあり、住居跡はいずれも竪穴住居跡と思われる。これらのうち、晩期前葉期のものが圧倒的に多く、次いで後期前葉のものが多い。これらは調査区西辺や中央北辺部に集中し、集落跡としてのまとまりをもっているが、他は1～2棟であり集落とみなしうるか疑問である。

○形態

中期のものは円形である。後期前葉のうち、形状の比較的良好に残存するものでは隅丸方形～長方形をなしている。後期後葉では円形、晩期前葉では円形がほとんどであるが、楕円形の例が2～3みられる。

○炉跡

中期後葉では四角形の石囲い炉、後期前葉では板状の立石が一邊についた地床炉、後期後葉では円形の石囲い炉、晩期前葉では円形の地床炉と地床炉が一般的である。若干の例外はあるが、各期を通じて床の中央部に設けられるのが普通である。

○柱穴

上部構造に関連する支柱穴数は不明なものが多い。中期後葉の住居跡にはみとめられない。後期前葉の住居跡では壁際に8基並ぶ例があるほか、床中央部に炉を囲んで方形状に4基配される例もみられる。後期後葉の住居跡も炉を囲んで床の中央部に四角形に配置される例があり、掘立柱建物跡としたLⅣ-011建物跡を住居跡とみると六角形状の配置になる。

晩期前葉では柱穴配置の不明なものが多く、柱穴の不明な住居跡も含まれる。柱穴配置の明らかな例では中央部の炉を囲んで4～6基の柱穴があり、GⅢ-014住居跡のように縁辺部に支柱穴と思われる柱穴をもつ例もみられる。

○溝

壁際に溝の確認されたのは後期前葉のJⅤ-011住居跡やJⅥ-011住居跡、晩期前葉のFⅣ-012住居跡である。また、溝のかわりに壁際に小さな柱穴列のまわる例としてFⅢ-019・GⅡ-016・GⅣ-014住居跡がある。

○立石

FⅢ-019 住居跡の初期のプランに伴う立石がある。炉からや、離れた位置に炉に面して直立している。このような施設は他では知られていないようであり、性格は明確ではない。

○入口

入口施設の確認された例はない。

○住居跡の規模

各時期の住居跡の床面積は、中期後葉で 3.9㎡、後期前葉が 9.2㎡、後期後葉が 11.8㎡といずれも中・小規模に入れられる。晩期の住居跡は 3.2～106.7㎡まで平均 16.1㎡となるが、大中・小の 3 つのタイプに分けられ、中タイプが多い。規模の大小はその機能の相異を反映しているものと思われる。

○重複

住居跡の切り合いや重複は集落の占地上的な制約によるためか、後期前葉、晩期前葉の住居跡にかなり一般的にみられる。多少位置を変えて複数の住居跡が切り合う場合とほぼ同一の場所に床面や規模をかえて営まれた例がみられる。前者では晩期前葉の GⅢ-011 住居跡が代表的で 4～5 期の重複が認められる。後者では後期前葉の JⅥ-011 住居跡の 3 期、晩期前葉の FⅢ-019 住居跡、GⅢ-016 住居跡で 5 期前後の重複がある。

○埋土と遺物

住居跡内の埋土は主旨自然堆積と思われる。遺物は住居跡の床面から出土するものが少なく大部分が埋土の上～中層から出土している。

埋土中の遺物は住居跡によって一定していないが、廃絶後捨て場として利用された晩期前葉の EⅢ-011、FⅢ-0113～0116、GⅣ-0116、HⅣ-01 住居跡などでは非常に多く、その大部分が破片となった土器である。

捨て場として利用された住居跡の主要な遺物包含層はほとんど単一の層からなっており、含まれている土器の文様からみるとかなりの時期幅をもっていることがしられる。しかし、遺物相互の位置関係が複雑であり、個々の新旧関係は確認できなかった。

○住居跡の形態と機能

後期前葉の住居跡では平面形が隅丸の方～長方形をなし、床の中央部に板状の石をもつ地床炉がある。この種の形態は東北地方北部では一般的でなく、ほとんどみられないが、曲田Ⅰ遺跡では少数ではあるが普遍的である。このような例は特殊例なのか、あるいは安比川上流域やさらに広汎な地域に及ぶ形態か今後類例の分布や所属時期についてさらに検討される課題である。

晩期前葉の住居跡はその規模によって 3 グループに分けられる。このような規模の相違は、

縄文時代の住居跡一覧表

番号	住居跡名	平面形	規 模	床面積	柱穴	炉	時 期
1	EⅡ-011 住居跡	円 形	■ 3.1×2.9	5.7 ^{m²}		地 床 炉	縄文時代晩期前葉
2	EⅡ-012 "	"	■ 2.0×2.9	5.5		"	"
3	EⅡ-013 "	"	■ 4.8×4.3	19.5		"	"
4	EⅡ-014 "	"	■ 4.1×4.3	12.0		"	"
5	EⅡ-015 "	"	■ 4.0×4.2	11.3		石 圓 炉(破壊)	縄文時代後期後葉
6	EⅢ-011 "	"	■ 6.0×5.9	26.5		地 床 炉	縄文時代晩期前葉
7	EⅢ-012 "	"*	■ 3.0×3.4	7.2		"	"
8	FⅢ-012 "	"	■ 2.4×3.0	5.4		"	"
9	FⅢ-013 "	"	■ 2.3×2.8	4.3		"	"
10	FⅢ-014 "	"	■ 4.0×4.1	14.0		"	"
11	FⅢ-015 "	"	■ 2.5×3.1	5.5		"	"
12	FⅢ-016 "	"	■ 2.8×3.0	6.0		"	"
13	FⅢ-017 "	隅丸長方形	■ 3.5×3.0	6.8			縄文時代晩期 ?
14	FⅢ-018A "	円 形	■ 2.5+ø×4.2	16.3		石圓埋蓋炉(破壊)	縄文時代晩期前葉
15	FⅢ-018B "	"	■ 4.8×4.2	15.7		石 圓 炉(破壊)	"
16	FⅢ-019A "	"	■ 6.0×6.0	25.5		地 床 炉	"
17	FⅢ-019B "	"	■ 5.4×5.3	22.4		"	"
18	FⅢ-019C "	"	■ 4.1×4.0	13.3		"	"
19	FⅢ-019D "	"	■ 3.1×3.4	8.7		"	"
20	FⅢ-019E "	"	■ 2.7×2.8	6.4		"	"
21	FⅢ-0110 "	"	■ 5.6×5.1	27.0		"	"
22	FⅢ-0111 "	"	■ 2.5×2.5	3.9		"	"
23	FⅢ-0112 "	"	■ 2.2×2.5	3.2		"	"
24	FⅢ-0113 "	"	■ 4.7×5.4	23.7		"	"
25	FⅢ-0114 "	"	■ 5.0×5.3	20.0		石 圓 炉	"
26	FⅢ-0115 "	"	■ 3.2×3.0	5.8		"	"
27	FⅢ-0116 "	"	■ 5.9×5.6	25.5		石 圓 炉(破壊)	"
28	FⅢ-0117 "	"	■ 1.9×1.9			地 床 炉	"
29	FⅣ-011A "	円 形	■ 1.9×2.0	5.0		重 覆(破壊)	縄文時代晩期前葉
30	FⅣ-011B "	"	■ 2.3×2.6	2.8		重 覆	"
31	FⅣ-012 "	"	■ 2.6×2.5	6.3		石 圓 炉	"
32	GⅡ-011 "	"	■ 3.0×2.9	8.0	不明	"	"
33	GⅡ-012 "	"	■ 4.0×4.3	12.0		"	"
34	GⅢ-012A "	"	■ 3.5×3.4	9.6		破 壊	"
35	GⅢ-012B "	"	■ 3.3×3.5	9.0		"	"
36	GⅢ-012C "	楕円形	■ 3.3×2.8	7.8		壊 滅	"
37	GⅢ-012D "	円 形	■ 2.2×2.6	4.0		破 壊	"
38	GⅢ-012E "	不 明	不 明	不明	不明	破 壊 ?	"
39	GⅢ-013 "	円 形	■ 2.6×2.8	5.8		地 床 炉	"

番号	住居跡名	平面形	規模	床面積	柱穴	炉	時期
40	GⅢ-014 住居跡	円形	径 4.1×4.0 ^m	14.6 ^m		石・土器片囲炉	縄文時代晩期前葉
41	GⅢ-015 "	"	径 4.0×4.3	12.5		地床 炉	"
42	GⅢ-016B "	"	11.8×11.3	106.7		"	"
43	GⅢ-016(C ₁) "	"	径 10.2×9.5	74.5		"	"
44	GⅢ-016(C ₂) "	"	径 10.0×8.9	71.9		"	"
45	GⅢ-016D "	"	径 8.6×8.3	58.6		"	"
46	GⅢ-016E "	"	径 7.4×7.1	42.5		"	"
47	GⅣ-011 "	"	2.9×3.3	6.5		地床 炉	"
48	GⅣ-012 "	"	径 4.2×4.3	9.0		石 囲 炉	"
49	GⅣ-013 "	楕円形	径 2.8×4.1	22.3			"
50	GⅣ-014 "	円形	径 6.0×5.9	11.5		地床 炉	"
51	GⅣ-015 "	"	径 3.8×3.6	9.6		地床 炉	"
52	GⅣ-016 "	楕円形	2.3×2.6	3.9		石 囲 炉	縄文時代中期末
53	HⅣ-012 "	"	径 2.5×2.6	4.5		埋 裏 炉	縄文時代晩期前葉
54	HⅣ-013 "	"	径 2.3×2.4	5.8			"
55	HⅢ-011 "	"	3.0×3.3	6.9		地床 炉	"
56	HⅢ-012 "	"	16内外×60内外	不明			"
57	HⅢ-013 "	"	10内外×40内外	"			"
58	HⅢ-014 "	"	10内外×41内外	"			"
59	HⅢ-015 "	"	径 4.6×4.5	16.0		石 囲 炉(破壊)	縄文時代後期後葉
60	HⅣ-011 "	"	2.4×2.4	4.0		石 囲 炉	縄文時代晩期前葉
61	JⅣ-011 "	隅丸長方形	2.8×2.2	4.0		地床 炉	縄文時代後期前葉
62	JⅣ-012A "	不明	径 3.2×3.4	8.0			"
63	JⅣ-012B "	"	径 3.6×3.5	9.5			"
64	JⅣ-013 "	隅丸方形	径 3.7×3.1	10.7		地床 炉	"
65	JⅣ-011 "	"	(表面なし)3.5×4.1 (表面あり)6.0	11.4		"	"
66	JⅣ-012 建物跡		1.4×3.2	3.5			縄文時代
67	KⅣ-011 住居跡	不明	不明			地床 炉	縄文時代後期 ?
68	KⅣ-012 "	円形	径 2.6×2.9	5.0		石 囲 炉	"
69	LⅣ-011 建物跡	(六角形)	3.9×2.4	7.5			縄文時代後期後葉

中・近世建物遺構一覧表

番号	遺構名	平面形	規模	床面積	柱穴	炉	時期
1	JⅣ-011 壁穴遺構	掘出し付長方形	径 2.2× $\frac{3.4(掘出し付)}{2.9(表面なし)}$	6.6 ^m		なし	中・近世
2	JⅣ-012 建物跡	長方形	12.2×6.5 ^m			"	"
3	JⅣ-013 "	"	10.6×5.0 ^m			"	"
4	JⅣ-014 "	長方形 ?	2.1+ α ×4.1			"	"
5	JⅣ-015 "	"	1.7+ α ×8.1			"	"
6	JⅣ-016 "	"	0.9+ α ×5.6			"	"

機能の違いを反映していると思われる。例えばもっとも多い中型住居跡では夫婦と子供を単位家族として想定でき、大型住居跡を集落の居住者全体に関わる会合や儀式を行なう共同の施設とみなすことも可能である。特に大型住居跡は規模が大きく、占地場所が集落のほぼ中央に位置している。また、床面の凹凸が著しく、床面の南北端の比高が1 mほどあって傾斜が著しい。さらに床の中央部に配置された柱穴は方位にほぼ一致し、南北中軸線の延長上に馬場山からせり出した尾根の断崖が屹立しているなど他の住居跡と異った点があげられる。

類似した建物遺構には後期前葉の北上市八天遺跡、晩期の弘前市勝山遺跡にみられるが、集落の規模や大型住居跡の集落内における位置など未確認であり、さらに類例をまっけて検討する課題である。

(2) ビット

ビット類の総数は、大小合せて2,500ほどに達する。その中にはフラスコ形ビットや大～中型の円形鉢形ビットや円筒形ビット、皿形ビット、平面楕円形の舟底形ビット及び各種の不定形ビット・柱穴状ビットなど、種々の形態のものが含まれる。このうち、圧倒的に多いのは、約2,300の柱穴状ビットである。次いで、円形の鉢形、皿形、楕円形の舟底形のビット類であり、総数は100前後で極めて少ない。不整形ビットは40未満で多くはない。このほか、埋ガメを伴う単独のビットが2例あり、1例は柱穴状ビットを転用したものである。

i 時期

大部分のビットに遺物が伴わないために、所属時期の不明なものが多いが、柱穴状ビットの場合、一部が歴史時代に下るほかはほとんど縄文時代に属すると思われる。特に縄文時代晩期前葉の住居跡が密集する区域及びその周囲の柱穴状ビットは、住居跡とほぼ同時期に入る可能性が大きい。縄文時代後期前葉の住居跡の集中区域周辺にあるビットは、住居跡と同時期に入る可能性のほか、付近から弥生時代中期の遺物も出土しており、この時期のものが多数含まれていることも考えられる。LⅣ～LⅤ区の直線状に並ぶ柱穴状ビットは、埋土が非常に柔らかく、新しい様相をおびており、近・現代に入るものと思われる。

フラスコ形ビットと大多数の皿形ビットや円筒形ビット、鉢型ビットは、位置関係や埋土、遺物の出土状況などから縄文～弥生時代に入れられる。フラスコ形ビットのうち、縄文時代後期前葉の住居跡周辺にあるものは、住居跡とほぼ同時期と推定される。他の場所に分布するものについては縄文時代晩期前葉に入るものもみられ、詳細時期の不明なものも縄文時代後～晩期に収まることは確実と思われる。鉢形ビットのうち、大部分は縄文時代晩期に入るであろう。

しかし、J V-021ピットのように縄文時代前期前葉に入るもの、J VI-24ピットのように弥生時代中期に入る可能性があるものも含まれている。また、K VI-022・023・025~027のように埋土の状況などから明らかに歴史時代に下ると思われるものがある。

楕円形の舟底形ピットのうち、J V-022、J VI-025・026・028・029・0211・0223の各ピットは形態的に類似し、時期的にもまとまりのあるピット群と見なすことができる。そのうち、J VI-028には弥生時代中期の土器が出土しており、この時期に位置付けられる。他はほとんど時期不明であるが、K VI-025ピットのように縄文時代後～晩期に入るものやK IV-024ピットのように歴史時代に入るもの、F III-022ピットのように縄文時代後～晩期に位置付けられるもの、K IV-021~024ピットのように縄文～弥生時代に入れられるものなどがある。

不定形のピットについても既述のピットと同様に縄文時代～歴史時代にいたる各時期のものが含まれているとみられる。

ii 用途・機能

各ピットの用途や機能についてはよく解らないが、類例や位置関係などから推定できるものは柱穴状ピット、フラスコ形ピット、楕円形の舟底形ピットなどである。

柱穴状ピットの場合、その大部分が住居跡や建物跡に関連した支柱穴や柱穴の跡と思われる。断面や埋土の状況からは柱の部分と埋土の部分が明瞭なものと不明瞭なものがある。前者の形が圧倒的に多い。縄文時代後期前葉及び晩期前葉の住居跡周辺には多数の柱穴状ピットが散在しているが、資料が不十分で個々のピットの帰属関係や相互の配置形については明らかでない。そのほか、歴史時代のものの中には櫛の柱穴列と思われるものも含まれる。

フラスコ形ピットは、多くの遺跡で指摘されているように貯蔵穴の一種と思われる。しかしその大きさについては縄文時代中期頃の一般的な形態のものに比較してはるかに小型である。

楕円形の舟底形ピットのうち、弥生時代に入るものの中にはJ IV-026ピットのように埋土中に赤色顔料の粉末が混じっていたり、J IV-028ピットのように完形の壺が入れられているものがある。土壌中に壺などを伴う例は県内では弥生時代の水沢市常盤立町遺跡にもみられ、赤色顔料の散布される例では時代が不明であるが、青森県八戸市是川遺跡などで発見されている。いずれも墓塚と思われる例であり、曲田 I 遺跡の場合も同様の施設とみられる。その場合、一部のピットに付随してみられる柱穴状のピット、あるいは赤色顔料の散布域と死者の頭位との関係など明らかでない点があるが、今後の比較検討が必要である。そのほか、同様の形態をもつ縄文時代後～晩期頃のピットが10基ほど点在しているが、その一部は墓塚かもしれない。歴史時代に入るJ V-0212ピットについては、必ずしも同一機能を有するとはみられず、な

お検討を要する。

やや大型の円筒形ピットであるⅠⅤ-021ピットは、縄文時代の陥し穴とされるピットの種類に類似しており、これと同様の機能をもつものかもしれない。

そのほか、各所に点在する不定形ピットについてはほとんど不明なものが多く、無作為的に形成されたものが含まれていることも考えられる。

(3) 焼土遺構

他の遺構に伴わないと思われる焼土遺構は10ヵ所である。いずれも伴出遺物がなく、時期は明らかでない。埋土の関係からみると、ⅠⅢ区の焼土遺構以外は縄文時代の遺物を含む層の下に発見されており、縄文時代に属する遺構と考えられる。

性格については、焼土遺構の周辺に柱穴群が存在するものでは住居跡に伴う炉跡の可能性も十分考えられるが、伴わないものはやはり簡易的な野外炉と考えることが自然と思われる。

(4) 集石遺構

集石遺構と認められるのは調査区西辺に位置するFⅢ-0113~0115住居跡の北側に1例あるほか、北東のⅠⅣ区溝跡に1例がある。前者は縄文時代後期初頭の遺物が出土するFⅢ-020ピットを被っているが、伴出遺物がないため時期を特定することができない。

性格についても明らかでないが、位置関係からはFⅢ-0113~0116住居跡が作られる際に掘り出された石が積みあげられた跡かもしれない。また、FⅢ-02・ピットを墓塚とみるとこれに関連した墓域施設跡の可能性もあげられる。

後者の集石遺構は位置と形状から、溝が埋設する以前に水を堰止めるために作られた施設跡と考えられる。伴出遺物がないので特定できないが、溝中から石皿や石弁などとともに縄文時代の土器片が出土しており、縄文時代の遺構と考えられる。

(5) 捨て場跡

縄文時代の集落跡に伴う生活廃棄物の捨て場跡は、集落縁辺部の空地や斜面に単一遺構として存在する場合と住居跡の凹地を利用する場合である。

後者の例は、晩期のEⅢ-011住居跡やFⅢ-0113~0116住居跡、GⅡ-012、GⅣ-017住居跡、HⅣ-011住居跡などに認められる。これらの住居跡はEⅢ-011住居跡のように廃絶後間

もなく利用された例もあるが、いずれもある程度埋没した段階で利用されているようで埋土上層部に遺物の集中がみられる。この中には従来の編年上の様式区分で大洞B式と大洞B-C式とされる土器がほぼ同一層に混在しているものが多い。

このほか、晩期の遺物を主体とする捨て場が3ヵ所、時期の特定できない捨て場跡1ヵ所がある。前二者は晩期前葉期の遺物を主体とし、他の1ヵ所は晩期中葉のC₁式相当期の遺物によって構成されている。時期不明の1ヵ所は遺物包含層が大部分削平をうけて失われており、粗製の土器片で占められているものである。

これらの捨て場跡は、当然のことながら同時期の集落跡に伴うものと考えられるが、晩期前葉と時期不明の捨て場跡については関連する遺構が存在していると想定され区域がすでに削平されており、帰属関係は明らかでない。

(6) 竪穴住居跡状遺構と掘立柱建物跡

竪穴住居跡状遺構及び掘立柱建物跡とその周辺にある柱穴状ピット群については、伴出遺物がなく、その所属時期は明らかでない。柱穴の埋土が縄文時代の住居跡に伴う柱穴のそれより柔らかく新しい様相を示していることや各地の調査例からみると形態的に中世～近世前期の建物跡に似ている。

これらの遺構の位置関係からはすべて同時期に存在したことは考えられない。しかし、各遺構の上部を被う黒ボクシルト質土からは新旧が判明せず、ほとんど耕作によって攪乱をうけており、遺構相互の重複関係は明らかでない。重複の可能性とその位置からは竪穴柱居跡状遺構と掘立柱建物跡はそれぞれ独立して営まれた可能性もあるが、いくつか共存していたことも考えられる。

(7) 道路跡

道路状遺構には土層断面の観察などから少なくとも3期以上の重複のあることが認められる。時期を決定する伴出資料が出土していないため、時期を特定することは困難であり、現状では縄文時代より近代までに求められる。

安比川流域と鹿角市方面を結ぶ交通路が古来から開けていたことは、「三代実録」等の史書からも十分伺われるところである。しかし、その経路を具体的に知り得るのは近世以降であり、主要な交通路は近代初期まで曲田の集落を経て新田川の谷を登り、梨木峠、田山を經由して花輪方面に向かって延びている。現在、遺跡を貫いて西北西から南東方向に走る町迄はその名残りであり、存続期間中に改修や付け替えが行われたことが推定される。

第2節 遺物について

(1) 土器

遺構の内外から出土した土器は、破片を含め、約10万点に達する。これらの中には縄文時代前期初頭、中期後葉、後期前～後葉、晩期前～中葉、弥生時代中期中葉の各時期に属する土器が含まれている。中でも縄文時代晩期前葉期の土器が多く、出土した土器の過半を占めている。次いで後期前葉、晩期中葉、弥生時代中期の土器であるが、その数ははるかに少ない。以下は縄文時代前期前葉、中期後葉、後期後葉・中葉の順である。

○縄文時代前期初頭

縄文時代前期初頭の土器は胎土中に植物繊維を含み、文様の特徵から大きく2群に分けられる。1群は竹管様原体の木口部分を縦・横等に押し引きした一種の沈線が外面全体に施される尖底土器群である。類例には函館市春日町・梁川町などの道南部を中心に、東北地方北部にかけてみられ、県内では二戸市上里遺跡などから同時期かやや遅れる時期の土器が出土している。いずれも早期最終末～前期初頭頃の位置付けが考えられる。

他の1群は外面に斜縄文を主とした地文が施される土器群であり、口辺部に横行する不整態糸文やループ状態糸文が加わったり、胴部に横行する綾格文の加わるものが含まれる。さらに斜縄文のほかに少数ながら網目状態糸文の地文が施される例がある。斜縄文の種類はR L、L Rのほか0段多状と無節のものがみられる。器形は大部分平底、または尖底の深鉢と思われるが、全体の形がしれる資料がないので詳細は明らかでない。文様の構成上からはさらにいくつかのグループに分けられる可能性もあるが、広く縄文時代前期初頭に位置付けても誤りはないと思われる。

○縄文時代中期中～後葉

縄文時代中期中～後葉とした土器群は胎土中に砂を含み、大きく2群に分けられる。1群は1例であるが、斜縄文と横行する綾格文を胴部文様とする土器である。類例は円筒上層E式などにあり、中期中葉頃と推定される。周辺の遺跡では湯の沢・荒屋II遺跡に中期中葉の大木8、8a式に相当する土器があるが、曲田I遺跡では確認されていない。

他の1群はやや太い沈線で区画された磨消縄文帯を主体とする土器群であり、さらに湾曲する降線や点列文を伴うこともある。器形としては深鉢型土器が主体となるようであるが、全体の知られる資料が乏しく詳細は不明である。これらの土器群はさらに次のように細分される。

(1) やや幅広の沈線で縦方向に長く区画される大木9式に相当する破片1点である。類例は有

矢野遺跡にみられる。

- (2) (1)より細い沈線で胴中～上部にかけてJ字状・C字状・やや不定な雲形状等に区画され、ヒレ状の隆線や列点文などを伴うこともある。そして、この種の丁寧な作りの土器には、網目状か篋状の捺糸文が施される簡素な土器が共伴している。文様構成上からは多少の幅があるようであるが、従来大木10式の新段階の土器群とされているものに相当する。ほとんど破片しか出土していないが、周辺の越戸Ⅱ・上の山館・上の山Ⅶ・上の山Ⅹ・荒屋Ⅰなどの遺跡にはかなりまとまって出土している。
- (3) 磨消しを伴わず、斜縄文の地文に直接沈線に雲形の区画文様の描かれる土器群である。時期的には(2)と同じかやや遅れる時期のものと考えられ、東北地方の南部はもちろん県南地方ではほとんどみられず、主として青森県などにみられる土器群である。文様的には大木10式土器の地域的な変形と考えられる。

○縄文時代後期前葉

大きく2群に分けられる。1群は口辺部に細い隆線を伴う鎖線文やボタン状突起が付され、関東地方の掘の内Ⅰ式、東北地方南部の綱取Ⅰ式等に併行、またはやや遅れる時期のものと考えられる。また、畢雨の門前式とされる資料などに併行かやや遅れる時期のものと考えられる。構成器種は細片が多く不明であるが、県内の陸前高田市門前貝塚、北上市樺山・八天などの遺跡ではかなり豊富にみられる。

他の1群は縦・横・斜め、あるいは蛇行する沈線によってS字状連続文や核果状文など各種の幾何学的文様の描かれる土器群と磨消し縄文の手法や隆線区画を併用する土器群、さらに斜縄文や網目状捺糸文のみが施される土器群から構成される。この土器群では斜縄文の場合、頸部のくびれた器形が多く、口頭部が無地になりこれに縦・横方向の捺糸側面圧痕文がめぐらされる例や口唇部に縄文帯のめぐらされる例がある。笹の葉や木葉痕、網代痕なども東北地方では中期末から盛行するようであるが、この土器群にかなり普遍的にみられる。

このような構成の土器群は文様上多少の時期幅があるが、従来縄文時代後期前葉に位置付けられ、十腰内Ⅰ式とされた土器群に非常に近い内容をもっているといえる。器種には大小の深鉢型土器、小型の壺型土器、小型浅鉢型があり、他の遺跡では朱塗りの破片も若干みられる。

類例には青森・秋田・岩手の各県で多数発見されており、近年の調査では軽米町長倉・駒坂一戸町小井田Ⅳ、盛岡市萩内などの遺跡に出土している。

○縄文時代後期中葉

出土点数が極めて少ないが、大きく2群に分かれるようである。1群は縄文の地文上に平行する横行沈線が施され、これに直交する蛇行沈線をもつものであり、文様は関東地方の後期中葉の加曾列B₁式などに典型的にみられるものであり、併行関係にあると思われる。

他は細い沈線で波状口縁の突起部に同心円状の文様の施されるものであり、鹿角市大湯、北上市八天などの遺跡に類例がみられる。前記の十畿内Ⅰ式相当の土器よりやや時間の降る縄文時代後期中葉の前半、早くても前葉の後半ほどの時期になる土器群と思われる。

○縄文時代後期後葉

文様の構成上から大きく2群に分かれるようである。1群はコブ付土器を含む一群であり、精製土器では無文のもの以外に沈線区画された帯状の磨消縄文帯が多用される。帯状縄文帯は横行したり、彎曲して眼鏡状に配され、また、向きの異なる円弧を交差や連続させる入組文を構成している。さらに精製土器、粗製土器をとわず、異方向の斜縄文が多用される特徴がある。この種の土器はやはり後期中葉の土器群と同様、関東地方に類例がみられ、縄文時代後期中葉～後葉の中間に入る加曾利B₃、曾谷、安行Ⅰ式などの土器に相当するものと思われる。東北地方では相馬市新地小川貝塚、名取市宝ヶ峰、塩釜市西ノ浜貝塚・宮戸貝塚、県内では盛岡市萩内、大槌町崎山弁天、西根町崩石など多くの遺跡に出土している。

2群は平頂や2つの山形突起をめぐる口縁をもち、口縁～胴中部に縦の刻線列を沈線区画した帯が横にめぐるか彎曲しながら入り組んで連続した文様をもつ一群である。コブの付くこともあるようであるが、全体に点数が少ない。

類例には関東地方の安行Ⅱ式などにあり、東北地方では塩釜市台團貝塚・西ノ浜貝塚、盛岡市萩内遺跡など各地にみられ、縄文時代晩期最終末に位置付けられる。

○縄文時代晩期前葉

もっとも出土点数が多く、大小の深鉢型土器、小型の浅鉢型土器、大中小の台付鉢型土器、注口土器、皿型土器、椀型土器、大中小の壺型土器、各器形的小型品などが含まれる。各器形は形態上種々の変化がみられるが、概して大型は胎土、器面調整、文様などの粗末なものが多く、小型の土器に精巧なものが多くなる傾向が認められる。

文様は大型深鉢型土器などで外面全体に縄文の付されるものが主体を占めるが、口辺部にならずに文様帯をもつものも多い。ほかに全体無文のものもみられる。中小型の深鉢ではさらに口辺部文様を有するものが多い。

浅鉢型土器、台付土器、皿型土器等では口辺部文様をもつものが主体をしめ、無文や縄文のみが施される例はほとんどない。

壺型土器では、①胴部全体に縄文のみが施されるもの。②胴下半部に縄文、胴上半部に磨消し縄文の施されるもの。③外面全体がヘラミガキされ、口辺部あるいは胴上半部に沈線文状の文様が施されるもの。④外面全体がヘラミガキされ、無地のものなどの種類がみられる。器形からみると①は中小型のものが多く、②は大中小型に多く、大型でも作りが精巧である。③、④は小型品に多く丁寧な作りのものが多い。

各器形の中には祭礼具などの特殊な機能の想定される朱塗り土器が少数含まれ、中型の台付浅鉢型土器、浅鉢型土器、壺型土器に認められる。特に皿型土器、小型の壺型土器に若干多くなるようである。しかし、注口土器に朱塗りの例はみられない。また、漆塗りの例も極めて少ない。そのほか、器壁の内外面に煤・炭化物の付着する日常の煮沸用具には、大中小の深鉢型土器、大部分の小型浅鉢型土器と台付鉢型土器がある。

これらの土器は、文様上から無文や斜縄文のみの施される粗製土器を除いて以下の4群に分けられる。

1群は深鉢型土器などの口辺～胴上部や口～胴中部に沈線区画された磨消し縄文によって横または階段状の帯状文が施される土器群である。後期後葉に速なる階段状の文様や山形突起からなる波状口縁が一般的であるが、瘤はまれにしかみられない。口辺には平縁のものが若干含まれる。さらに文様の中間部に列点文が配されたり、横行する帯状磨消し文様帯をいくつかに分轄し、その境界部に円や点を囲むような沈線文、いわゆる玉抱三叉文状の文様をもつもの、あるいは口辺の突起部に三叉状の沈線が付される例もみられる。胴下半部では上部の磨消し縄文と同じ原体を回転させる単節の斜縄文が施される。そのほか、やや粗製の深鉢のなかには緩い波状口縁を有し、口辺のまわりに沈線区画されて無文帯をもつものがある。また、注口土器にはほとんど無文で丸胴になり、口辺部の大きいものがあるほか、深鉢型土器に似た文様の施されたものがあるようである。

類例にはいわき市寺崎貝塚、鳴瀬町里浜貝塚、弘前市大曲・十腰内、八戸市是川、木造町亀ヶ岡、盛岡市萩内遺跡など東北地方各地にみられ、縄文時代晩期最初頭に位置付けられている。その扱いは一定していないが、大洞B式の古式、あるいは大洞B式に先行する時期の土器群と考えられている。宮城県里浜貝塚の台地地区の出土例によってみると、1・2群に共伴する粗製土器の中には羽状縄文の出現する頻度が高いようであるが、曲田I遺跡ではそれほど多く出土していない。

2群は主として口～胴上部に横行する沈線などで無地の文様帯が区画され、その中に向いあう三叉状沈線文が連続して描かれる一群である。瘤や玉抱き三叉文も省略形としてわずかにあるが、ほとんどみられない。文様帯にはしばしば横方向の点線文が伴う。三叉文は一段のほか2・3段に描かれる場合もみられる。胴部には多くの場合単節の斜縄文が施される。口辺部は深鉢型、浅鉢型、台付鉢型土器などでは小波状縁や、やや目の粗い鋸歯状縁が多く、平縁も若干含まれる。また、2・3頂の突起列からなる口縁もみられる。さらに、浅鉢や深皿型と思われる土器の中には口辺の一部に複雑な形の装飾突起の付く例もみられ、小型深鉢型土器では胴部に尾の付いた菱形の連続文の施される例がある。

注口土器は1群のそれより全体に低く、受け口部分も低く内増して前方部にせり上がる。文

様は受け口部分の口唇部と胴上半及び注口の付けね部分に施され、横行する平行沈線文、列点文、三叉状文を主とし、それらの変形文で占められる。台付土器では脚部に三叉文や玉抱き文状の透しの入る例がみられる。

類例には東北地方を中心に東日本各地にみられ、大洞B式としてしられる縄文時代晩期前葉の代表的な土器とされている。

そのほか、この種の文様の鉢型土器には、三叉文の尻の部分に2・3のヒレ状沈線が付加される例、口唇部上端に三叉文の一部が延びる例、突起部を囲むように切り込みが入る例があり、さらに歯列状文や羊歯状文の先駆形というべき文様もみられる。また、三叉文の施される文様帯はほとんど無地であるが、まれに帯状縄文帯が併用されたり、斜縄文の地文に直接三叉状文の描かれる例がみられる。

壺型土器では胴部に縄文のみ施される例もあるが、精製の壺型土器では無文のほか、胴下半部に縄文、上半部に縄文の地文に沈線と磨消しによる楕円文、菱形文の入組み文が施され、頸部に三叉文の入った帯が一条めぐる例もみられる。

3群は台付土器、深鉢、浅鉢型土器のロー胴上部に三叉状文のかわりに沈線によって数段の歯列や羊歯状の文様の描かれる一群である。胴下部の文様は三叉文の施される場合と同様である。列点文はかなり少なくなる。口唇部にまわる突起は2・3の小突起の列からなるのが普通であり、口唇そのものが羊歯状文を構成する要素として重視されている。そのため、沈線によって細工が突起部とその周辺の口唇全体に施されている。

このようにして施された歯列や羊歯状文の列は、概して目が粗い。羊歯状文の場合、葉軸となる部分が端部以外は平らなものが多い。これは一戸町葺前台遺跡などに多くみられる目の細かい葉軸部分の斜めに走るものとかかなり印象を異にしている。これは層位的に未確認であるが文様上からは前者が古い要素をもち、地域的な差というより時期差によるように見受けられる。

形態的な特徴としては、小型の台付土器の場合は口辺部にミミズク形の複雑な装飾突起の付くもの、脚部に透しを持つもの、小型深鉢・浅鉢型土器などの中に胴部に尾の付いた菱形の連結文の施される例や四葉形区画文の描かれる例などがある。壺型土器の体部文様はやや大ぶりな磨消し縄文や沈線による雲形文やK字状文、X字状文等が多くみられる。

小型の壺型土器はすべて平縁であり、無文、または胴部に縄文をもつ以外はロー胴上部に目の粗い歯列文や羊歯状文の施される例が一般的である。また、朱塗りも比較的多くみられる。

4群は、①精製土器の口辺は細かな鋸歯状口縁、平縁が主流を占め、2・3の突起列からなる口縁はほとんどみられない。大小の台付鉢型土器の口辺にコブ状装飾突起の付く例がみられる。②口辺部のまわりに羊歯状文、歯列文から発展したと思われる細かな歯列文や斜めに区切

られる直線的な羊歯状文の施される一群である。

この種の土器は、台付土器や小型深鉢などでは主として胴中～上部にやや細い線の雲形文が描かれる。さらに浅鉢や皿型土器の中に口唇～口辺部内面に連続菱形や三角形の隆線文が施される例がみられる。また、隆線の上に縄文の付されるものもある。注口土器では完形品がないが、鉢や皿型土器などにみられるようなやや直線的な雲形文が胴部に施されるようである。

○弥生時代中期中葉

弥生時代中期中葉頃の土器群である。主として浅鉢型土器や台付鉢型土器などでは平行沈線や円弧状の沈線、丸みのある三角形の沈線などで区画された縄文帯を有する。縄文はほとんど粒子が細かく単節である。縄文帯はしばしばまるい列点文、縦長の刺突文を伴う。深鉢型土器等では細かな押し潰しを伴う鋸歯状口縁もあるが、平縁の例も含まれる。胴部の地文は横や斜め方向の斜線、摺糸文状の文様が施される例があるほか、縦方向の条痕文をもつものがある。

胴上部や口辺部周辺には沈線によって鋸歯状文が施されるもの、沈線によって鋸歯状文が施されるもの、三角波状沈線を組み合わせて上下左右に連続する重菱形文状の文様が描かれるもの、平行線の中に鋸歯波状沈線が施され、三角形のジグザグ模様を描かれるものなどがみられる。また、壺型土器の胴中部や上部には沈線と刻線の施される隆線によって三角形の区画の連続文が描かれる例がある。

類例には大曲市宇津ノ台、琴浜村志森沢、小坂町小坂鉾山、平鹿町牛首、田舎館村垂柳、県内の松尾村金沢屋敷、一戸町滝野遺跡などがあり、その一部の土器に類似している。各遺跡の土器は樹形図式土器などと同時期に位置付けられており、これらとほぼ同時期と考えられる。

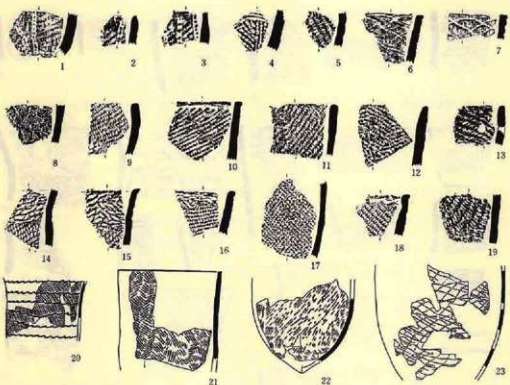
○朱塗り土器

朱塗り土器は破片を含めて200点であり、漆塗りの黒色土器も少数みられる。時的にはほとんど晩期である。

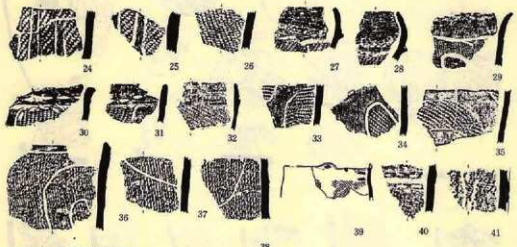
土器に塗られた赤色顔料は詳細な分析がなされていないが、色調などからみて酸化第二鉄を主体とした顔料と思われる。朱塗りの方法は、焼成前に水などに溶いて塗る場合と焼成後に漆に混ぜて塗る方法があるようであり、数的には前者が圧倒的に多い。朱の施される土器には、大・小の壺型土器、台付土器、皿型土器、碗型土器、注口土器などの一部があり、深鉢型土器ではほとんど見当たらない。

○その他

時期の特定できない縄文時代の土器があるが、縄文時代晩期を主とする土器と思われる。いずれも破片でその器形や全体の形状が不明なものである。



1~23 鬲文時代前期初頭



24~41 鬲文時代中期後半



42~46 鬲文時代中期後半

第113圖 出土土器時期別集成圖一



24~52 繩文時代後期前葉 I

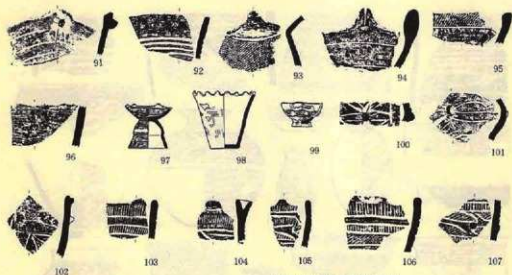


53~72 繩文時代後期前葉 II

79~107 繩文時代後期中葉



第114圖 出土土器時期別集成圖—2

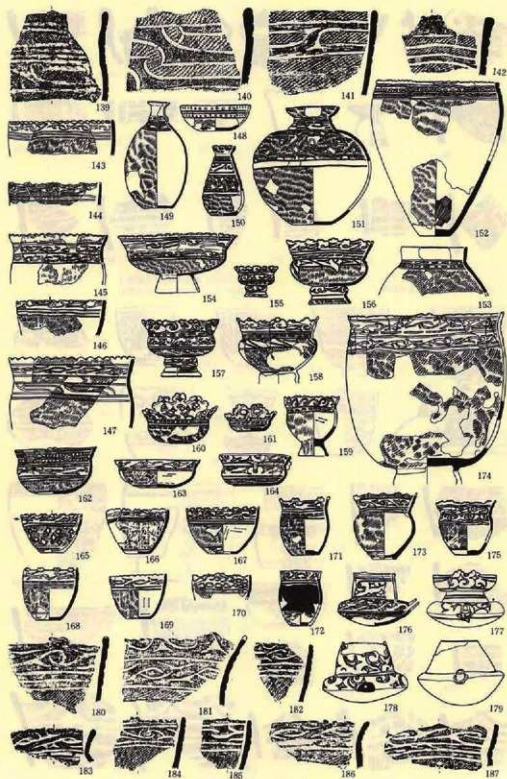


108—142 鬲文時代後期後葉

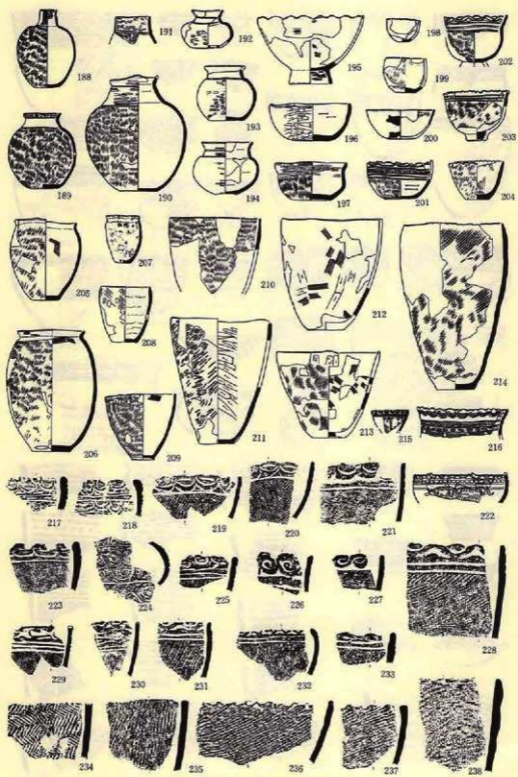
143~214 鬲文時代前期前葉 I
215~238 鬲文時代前期前葉 II



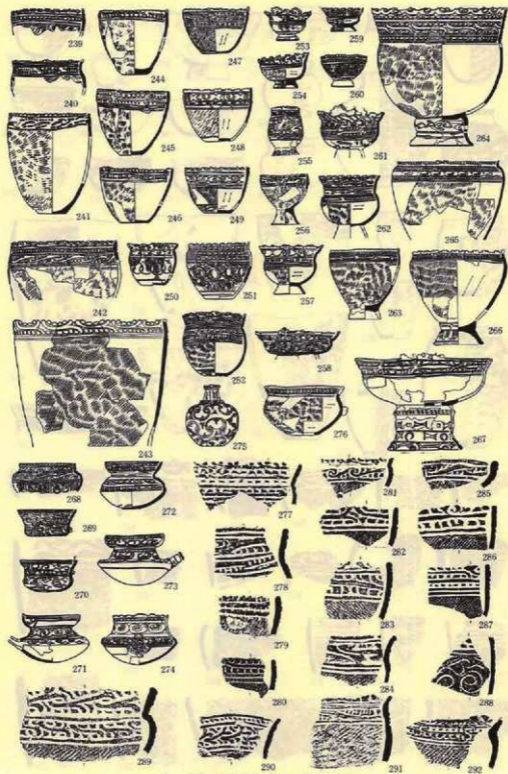
第115圖 出土土器時期別集成圖一3



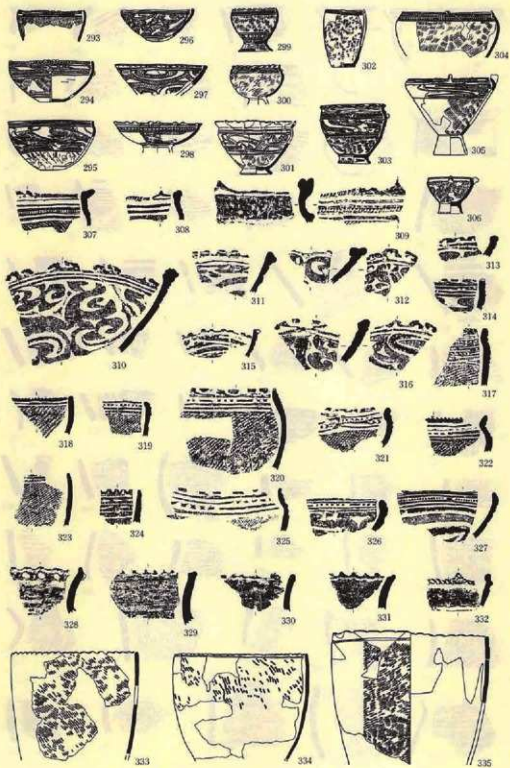
第116图 出土土器时期别集成图—4



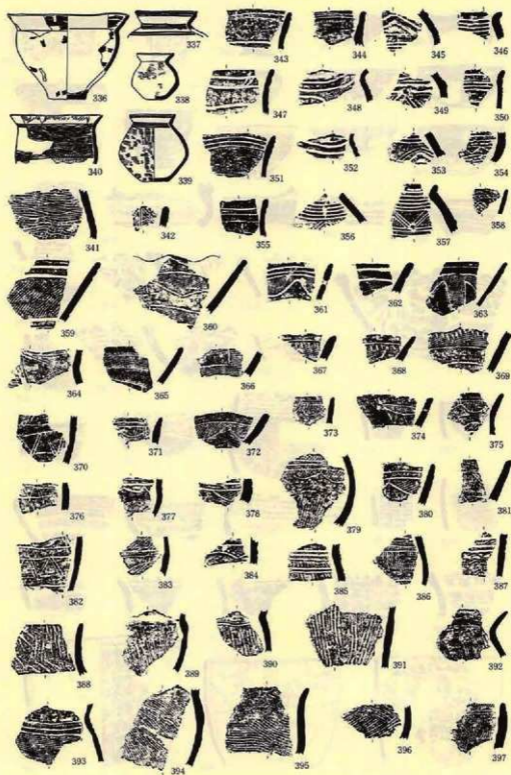
第117图 出土土器时期别集成图—5



第118图 出土土器时期别集成图—6



第119图 出土土器时期别集成图—7



第120图 出土石器时期别集成图—8

(2) 石器・石製品

遺構の内外から合せて2,075点出土している。そのうち、明らかに近・現代以降の遺物と考えられる砥石や炭腐跡出土品を除いた大部分は、縄文時代前期前葉～弥生時代中期中葉のものと思われる。さらにそのほとんどは明確な特徴がないものの土器の出土量が多い縄文時代晩期前葉のものと推定される。

i 形態・用途について

出土した石器・石製品は縄文時代中～晩期の遺跡で一般的にみられるものがほとんどである。例えば剥片石器として石鏃、スクレーパー類、ヘラ状石器、石槍、石錐、調整痕或使用痕のある剥片類、種別の不明な未製品類があり、原石を素割りしただけの粗刃礫器様のものもみられる。礫器としては磨石、凹み石、叩き石、それらと同じ用途の小さな丸い石類、台石、平石等である。また、バナナ状その他の不定形な礫もみられる。さらに敲打ちや研磨によって加工された石器には、石皿、砥石、磨製石斧、石棒などがあり、有孔装飾品、岩版等が含まれる。その他の打製石器では、打製の掘具、横刃型円板状石製品がある。

もっとも点数の多い石器は、いわゆる石匙を含めたスクレーパー類で130点以上にのぼる。次いで円盤状石製品80点、調整痕或使用痕のある剥片類が40点である。以下に磨石、石鏃、石棒、磨製石斧、叩き石、石錐、石皿である。石槍、砥石、打製掘具、岩版は3・4点以下である。

○石鏃

細葉形の無茎鏃、丸尻の無茎鏃、有茎鏃などの形態がみられる。細葉形の石鏃には厚手、幅広く未製品と思われるものがある。三角形無茎鏃はみられず、有茎鏃が主流を占める。縄文時代後期～弥生時代の鏃に多くみられる一般的な特徴を示している。これらの中には、アスファルト様の黒色樹脂の付着の認められるものが5点含まれている。樹脂は石鏃を柄に固定するために用いられたと推定されるが、石器や骨角器、土器、土偶などに付着する例は東北地方を主とする東日本の縄文時代中～晩期の遺跡で多くみつかっており、すでに100所を超えるものと思われる。アスファルトの産地は極めて少なく、縄文時代の広域的交易活動をする手掛りとして重要視されており、黒色樹脂がアスファルトであるとするは奥羽山地と日本海側の交易活動を裏付ける資料として重要視される。

○スクレーパー

切削加工に用いられたと思われるナイフ、スクレーパーの類は、もっとも点数の多い石器である。時期を特定できないが、土器と同様に縄文時代晩期前葉期を主体とすると思われる。

形態はつまみをもつ縦型と横型がみられる。両者はほぼ同数で大きな差は認められない。つまみのない丸刃（エンドスクレーパー）型、側刃（サイドスクレーパー）型、端刃（エンドス

クレーパー)型、それらの混合型など多岐にわたり、スクレーパー類の中にもっとも多い。このような形態の変化は、それぞれの機能や用途上何らかの差異を反映していると思われるが、現在のところ詳細を確めるに至っていない。

他の出土石器に比してスクレーパー類の占める割合が円盤状石製品とともに圧倒的に高いことは、これらが日常用品であることを加味しても石器の器種構成上の一つの特徴となっている。その背景には他の遺跡とは異なった条件下に多用せざるを得なかった生業のあり方が存在した可能性もあげられる。

○石べら

石筥と称される用途不明のべら状石器は3点である。いずれも平面が長台形に近く、断面が平らな蒲鉾型やレンズ形をなしている。細部調整は主として側面と台形の底にあたる部分に加えられ、特に後者は調整がなされた刃部と考えられる。

東北地方の縄文時代早期～前期に一般的にみられるが、県内では雫石町桜松、紫波町西田など多くの遺跡で発見されている。縄文時代中～晩期にも形態的に似たものがみられ、衣川村東裏などで出土しているが早～前期ほど一般的ではなく、弥生時代にはなくなるようである。

曲田1遺跡の場合は土器との伴出関係が明らかでないが、形態的には縄文時代早～前期のものに近いように思われる。3点のうち、5156は刃部周辺が極度に磨滅し、剝離面の境界が不鮮明で光沢をおびており、特殊な使われ方が伺われる。

○石鏃

10点以上発見されている。形態からはEII-014住居跡から出土した両端と片側の尖った身の厚い石鏃様のもの、FIII-016住居跡出土の一端が肥大してつまみになったもの2種がある。形態上の違いは細かな用途の違いによるかもしれないが明らかでない。両者とも先端部の磨滅がみられる。

○石槍

石槍とするものは極めて少ない。KIV区出土の厚手で小振りな1点が相当すると思われるが他はいずれも破片である。旧石器時代末～縄文時代早期にみられる薄手で大振りな尖頭器と比較して粗略にみえ、いずれも時期的にはかなり降るようである。

○細部調整痕・使用痕のある剥片

器種不明の石器片を含む使用痕のある剥片、細部調整痕のある剥片は比較的多い。この中には各種石器の断片や二次的に転用された石屑、加工途中で放棄された未製品や失敗品などが含まれ、明らかに器種の同定可能な資料は含まれていない。数的にはスクレーパー類をはじめとする剥片石器の出土点数が多く、それに付随して多くなる傾向がみられる。形状は一定しないが、1573・1576のように抉り入り石器ノッチを思わせるような形態ものや1577のようにマイクロ

スクレーパーと思われるものも含まれる。

1891、2219、2226など3点は、彫器と考えられる剥片類の一部である。他の剥片類と同様に形状は一定していないが、共通して剥片全体に厚味があり、その一端を打ちかき、または剥離調整によって尖ったり、細身の刃がつけられている様に見えることである。これによれば技術的に旧石器時代の彫器とかなり似たものになると思われ、縄文時代の石器製作技術の承襲や石器組成の問題を考える上で重要になるものと考えられるが、必ずしも見解の統一は得られていない。

○粗刃石器

剥片石器と同質のやや扁平な礫の側面を粗く打ち欠いて刃部を形成した粗刃礫器というべき1点が出土している。IⅣ区出土の2249である。類例には県内の北上市鬼柳西裏、幸石町広瀬Ⅱなど縄文時代中期末の大木10式の土器を出土する遺跡にみられるが、晩期の衣川村東裏遺跡にも多数発見されている。

その認定をめぐっては彫器と同様に見解の分かれる資料であるが、刃部の先に使用によって生じたと思われる刃こぼれ跡の例がいくつかあり、石器とする方が妥当と思われる。

そのほか、扁平礫を素割して刃部を形成した石器に2377があるが、石質は2249と異なる安山岩である。横刃型打製石斧の類に近いように思われるが、東裏遺跡では前者と同種の扱いにしている。

○横刃型石斧

用途不明な半円状扁平打製石器がHⅢ区から2点出土している。詳細な調整が幾分異なるがいずれも扁平か板状にそいだ礫を片面、または両面から粗く打ち欠いて調整したものである。形態は大鰐町大平、碓ヶ関村大面、八竜町堂刈沢の遺跡や県内の江釣子村嶋岡崎、紫波町西田遺跡など、縄文時代前～中期の遺跡でみられる半円状扁平横刃型打製石器とよばれる打製石器に似ている。これらは半円の弦にあたる部分の側面が擦られているのが普通であるが、曲田Ⅰ遺跡ではそのような痕跡が認められず未製品であるかもしれない。

○掘具

打製の掘具とみられる石器は4点である。いずれも板状剥離する石材を素割りし、簡単なぎり部や柄をつけたものと思われる。時期は縄文時代晩期～弥生時代に入るものと推定され、類例は県内の衣川村東裏、北上市九年橋などの遺跡で出土している。東裏遺跡では細部の形態によってさらにいくつかの種類に分かれるようである。

○凹み石・叩き石・磨石

礫面に凹み加工痕、擦り痕、叩き痕などを残す礫石器は遺構の内外から多く出土している。形態的にはやや扁平な球か多少不整な球形を主体とするが、凹み石や叩き石では不整形のもの

も含まれる。そのほか、磨石には三角形の例があり、凹み石では片面に1孔だけの例のほか両面に凹みのつくものがある。この種の石器は形態の変化に乏しく製作時期にも幅があり、時期を特定することが難しいが、伴出関係から大部分は縄文時代晩期のものと考えられる。

○石皿・台石

凹み石や磨石とセットになって発見される石皿や台石の類がある。時期は一部を除いて特定できないが、縄文時代中期～晩期のものと思われる。扁平な川原石や板状礫を素材としたもので、台石は素材の原形を生かしており、石皿では原形を残す例もあるが楕円形の石皿状に加工するものが多い。形態的には板状礫の両面を使用面とするもの、台形や楕円形の皿状のもの、さらに楕円形の皿の中央部に高まりをもつものや脚をもつ例などがある。そのうち、1点は皿の内面に赤鉄鉱などを砕いて顔料を製造した際に生じたと思われる酸化第二鉄の粉末が付着している。

そのほか、砥石や何らかの調整具として用いたと思われる平石がある。いずれも形状は一定していないが、概して隅丸四角形の板状礫が多くみられ、擦痕や調整痕はほとんどみられない。砥石には石皿の破片を転用したものや長方形の板状に整形した小型のものも含まれる。

平石については石器とみるが疑問のあるところであるが、調査区の土層中にある自然礫は石英安山岩の重円～重角礫が主であり、平石としたものはほとんどみられない。ほとんど土器などの集中する区域から出土していることから、石器に含めるものである。

○円盤状石製品

扁平小型の礫を円形に打ち欠いた円盤状石製品は数点である。他に磨製の円盤状石製品が1点出土している。打製の石製品のうち、1393、1798など4点は打ち欠きも粗く、整形が不十分で未製品と思われる。

類例には東北地方北半の縄文時代中期後葉～晩期中葉の多くの遺跡にみられ、県内では中期後葉の北上市鬼柳西裏、都南村湯沢、晩期前葉の滝沢村卯塚遺、後・晩期の大迫町立石、晩期前・中葉の衣川村東裏などの遺跡に出土している。曲田I遺跡の場合は晩期前葉期に集中するものと思われる。用途については石錘などいくつか考えられるが明確でない。

○磨製石斧

概して破損品が多く、全体の形状がしられるものは少ない。大小各種があるが、中型品が多い。

形状のしられるものでみると、細長い台形をなし、横断面が隅丸長方形であり、比較的うすく両刃のものが大部分である。大～中型品の場合は木材加工用と考えられるが、小型品は宝器などその他の用途が考えられるかもしれない。しかし、曲田I遺跡では美麗な石材を用いていないので価値は期待できないように思われる。

破損品の中には、1990など叩き石に転用された例がみられる。転用の例は各地で行なわれているようであり、県内では縄文時代中期の紫波町西田、北上市鬼柳西裏などの遺跡にみられる。

○石ノミ

磨製石斧より細身で長い磨製石器が4点出土している。いずれも破片で全体が不明であるが石斧より大型の製品であるらしい。時期は石斧とほぼ同時期と思われる。

○石棒

石棒と考えられる棒状の石製品は、すべて破片で全体の形状は明らかでない。精巧な文様の刻まれた大型品もみられるが、大部分は文様のほとんどない小型品である。ほとんど縄文時代晩期前葉の土器と共伴して出土しており、この時期の遺物と考えられる。

この種の遺物は何らかの社会的地位の象徴や呪具として考えられているが、他の遺物と異なる特殊な埋設状況や出土状況は曲田Ⅰ遺跡では確認されていない。

○装飾品

装飾品やその未製品と思われる有孔の石製品3点が出土している。形態がそれぞれ異なり、時期は特定できないが縄文時代晩期前葉のものと思われる。類例は各地の同時期の遺跡にみられる。

そのほか、有孔の自然礫1点がある。縄文時代の遺跡にしばしば発見されており、北上市鬼柳西裏跡に2例確認されているが、その用途は明らかでない。

○その他

半円形つまみのついた形の板状軽石製品や小さい円形の扁平礫に擦痕のある石器などが少数出土している。

石器のほかには多くの石材が出土している。その中には剥片をとるための調整石核や石器を作るための調整剥片が含まれていると思われるが、ほとんどは剥片石器を作る際の石屑とみられる。これらは集中して出土することなく、土器に共伴したり、単独に遺構内外で発見されている。多くの剥片が出土することからみると、遺跡内に石器製作跡があったことを伺わせるが接合資料は含まれていない。

ii 石材の材質と産地について

石鏃、スクレーパー、石錐、石ペラ、調整痕や使用痕のある剥片などの剥片石器とこれに関連した石片類の石質は、大部分が灰、黒、灰白、黄、黄灰褐、黒褐色などの珪質泥岩、珪質細粒凝灰岩、硬質泥岩など緻密質で打撃加工の容易な泥岩類で占められている。そのほか少数ながら玉髓、流紋岩、鉄石英、黒曜石などが加わっている。

これらの石材のうち、泥岩系石材は奥羽山地を構成する新生代第三紀中新世の堆積層中に含まれている。曲田Ⅰ遺跡の周辺には、秋田県北部の鹿角市西城の山地や安代町田山地区の瀬ノ

沢川上流域に保滝層（瀬ノ沢層）、大葛層などとして分布しており、その分布域一帯が原産地と思われる。

流紋岩は田山地区の瀬ノ沢川上流域や荒沢地区の安比川上流域一帯等に広く分布している。黒曜石はフレーク1点出土しているが、色はわずかに褐～緑色をおびた黒色でガラス状の光沢をもち、透明度は極めて低い。県内では零石町小赤沢、水沢市松木沢等をはじめ、何か所か知られているが、それらとは肉眼的に異なるようであり他産地のものと思われる。

安代町内には黒曜石産地が知られていないが、安比川上流域の流紋岩分布域の中に一部真珠岩を含んでおり、この付近に黒曜石の原石露頭があるかもしれない。しかしながら、安代町内の調査遺跡には黒曜石の利用がほとんどみられず、この点からはそれほど期待できないかもしれない。

鉄石英、玉髄などは各種岩石の空間をみだす形で各地に分布しているが、遺跡周辺の奥羽山地にも当然分布していることが予想される。

以上のうち、資料的にもっとも多い泥岩系石材は石層などから観察するかぎり、原石は岩石露頭の石ではなく、川原石となったものである。おそらく分布域を通過する諸河川に流れ込んだものを拾って使っていることが考えられる。

叩き石、凹み石、磨石、石皿、砥石、大型石棒の素材となる石材は、一部を除いて大部分が安山岩、石英安山岩、石英安山岩質凝灰岩等で占められている。これらの石材は遺跡の周辺をとりまく八幡平、安比岳、七時雨山、稲庭岳、馬場山、上の山などの山地を構成する主要な岩種として、荒沢地区一帯では極めて普遍的にみることができる。

半円状扁平打製石器の素材は緑色の砂質凝灰岩やプロピライトと思われるが、これらの産地は泥岩等の産地と重なるものと思われる。有孔装飾品の礫は淡褐色や淡緑色の細粒凝灰岩であるが、ほぼ同時期の層中に産するものとみられる。

磨製石斧の大部分は珉岩、閃緑岩、輝緑凝灰岩などからなるが、蛇紋岩が1点含まれる。これらの岩石はいずれも遺跡付近にみられず、北上山地に広く分布している。石層もほとんどみられず、北上山地周辺の地域から交易等を通じて持たされたものと考えられる。

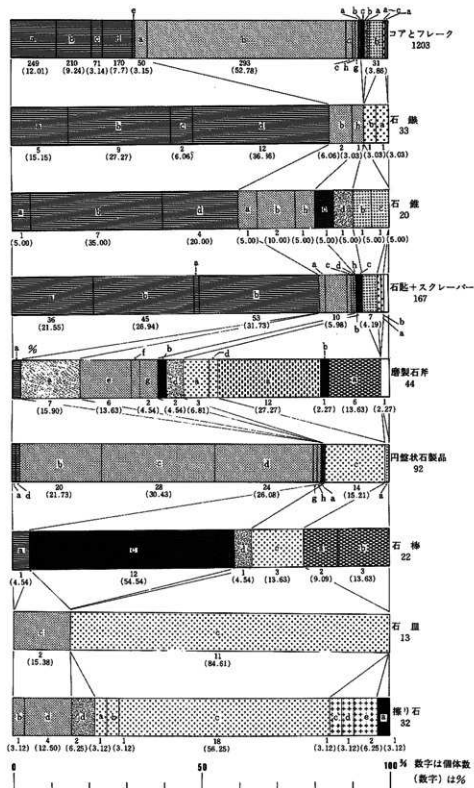
石棒は粘板岩、千枚岩からなるが、磨製石斧の場合と同様、北上山地に広く分布しており、同様の経路によって持たされたと思われる。

石ノミ、打製掘具の素材は粘板岩や輝緑凝灰岩であるが、周辺の地域では北上山地にもっとも一般的にみられるものである。

そのほか、軽石製品の素材となった軽石は十和田火山等の噴出物と思われる。十和田火山の噴出物は秋田県北の米代川上流域～青森県南～岩手県北に及ぶ地域を広く厚く被っており、その中には軽石層も含まれている。その分布域のいずれからか持たされたと思われる。

区分	記号	材質名	種別	時期	主な産産地	備考
■	a	硬質泥岩	泥岩	新生代 第三紀	奥羽脊梁山地 (田山・奥丹波) (西田)	大高層 源ノ沢川 層(復巻)
	b	珪質泥岩				
	c	硬質凝灰質泥岩				
	d	珪質凝灰質泥岩				
	e	石質泥岩				
■	a	凝灰質砂岩	砂岩			
	b	硬質泥質凝灰岩				
	c	珪質細粒凝灰岩				
	d	珪質凝灰岩				
	e	凝灰岩				
	f	緑色凝灰岩				
	g	洗緑色凝灰岩				
	h	凝灰岩質凝結凝灰岩				
■	a	輝石凝灰岩	各種雑 質岩	古生代 二-三疊紀	主として北上山地	搬入品
	b	粘板岩				
	c	チャート				
	d	硬砂岩				
■	a	安山岩	安山岩 質岩石	新生代 第三紀以降	主として奥羽脊梁山地	
	b	輝石安山岩				
	c	両輝石安山岩				
	d	アロピライト				
■	a	流紋岩	流紋岩 質岩石			
	b	玻璃質流紋岩				
	c	黒輝石				
■	a	輝石砂岩	深成岩	先第三紀	主として北上山地	搬入品
	b	蛇紋岩				
	c	石英閃緑石				
	d	半花崗岩				
	e	花崗閃緑石				
■	a	凝灰質千枚岩	変成岩			
	b	粘板岩ホルンフェルス				
■	a	鉄石英	石英	新生代 第三紀	奥羽脊梁山地?	
	b	玉すい				
	c	石英				
■	a	磁鉄鉱	金属鉱物	—	?	現状 搬入品か
□	—	材質不明	—	—	—	紛失

第121図 出土石器・石片の材質別組成



iii 組成と交易

石器・石製品の所属時期は大部分縄文時代晩期のものであり、曲田 I 遺跡の石器は各器種によって構成されているといえる。種別構成自体は縄文時代後・晩期の主要な器種をほぼそろえており、技法的にも後述するものを除いて際立った特徴はあまりみられない。しかし、組成比率の上から注目されることは、各種のスクレーパー類や円盤状石製品の全体に占める比率が著しく高いことである。このことは土器・土製品の組成の問題をもあわせて生活環境と生業、あるいは遺跡の性格の面から検討されなければならない。

これに関連することでは粗刃機器や彫器と考えられている剥片類、調整具とした平石がある。これらを石器として認めるか、その認定の根拠によって議論の分かれるところである。このことは従来の縄文時代の石器観に対して、製作技法や器種組成のあり方の面から大きな影響を及ぼすばかりでなく縄文時代の生業に対する考え方にも変化がもたらされる問題でもある。特に彫器と考えられている剥片類については見解の一致をみない現状である。

石器組成とともに石器の材質と産地についても大きな課題である。曲田 I 遺跡で用いられる石器の素材は、産地別に大きく 2 分される。1 つは硬質泥岩、その他の第三紀中新世の泥岩系石材、玉髓、鉄石英、黒曜石、流紋岩、プロピライト、淡緑色細粒凝灰岩、安山岩、石英安山岩、石英安山岩質凝灰岩、軽石などである。玉髓、鉄石英、黒曜石以外は奥羽山地の各地で一般的にみられ、半径 20km 以内の奥羽山地にも多くみられる。そのうち、前 5 種は原石や粗割した石核や剥片が遺跡に持ち込まれているといえる。

他は珩岩、蛇紋岩、輝緑凝灰岩、粘板岩、粘板岩質ホルンフェルスなどであり、50km 以上離れた北上山地の古代層や各期の貫入岩体中にみられるものである。これらは交易などを通じて曲田 I 遺跡にもたらされたものと考えられるが、ほぼ完成した製品として持ち込まれたらしく県北の奥羽山地寄りの遺跡ではほとんど石屑をみない。

このように曲田 I 遺跡の石材は、付近で調達されたものと他から入手したものの二者に分かれる。既して生産活動の主要な道具となるスクレーパー類、その他の石器の原料となる石器は付近のもので占められている。しかし、一方では同じ生産活動を支える用具の磨製石斧などが外来の石材で占める比率の高い例もあり、交易に頼る面の大きかったことが伺われる。

従来から縄文時代の社会生活が自給自足を経済基盤としながらも、各地の社会集団間ではかなり広域の交易活動が営まれていたといわれているが、以上のように交易活動の重要性が決して無視できない規模のものであることが知られる。

石鏃、スクレーパー類のほか、いくつかの土器には少数ながらアスファルト様樹脂の付着する例もみられる。アスファルトは原油の中に含まれる炭素・水素を主成分とした化合物であり常温で固結しているが、加熱によって容易に液化し粘性をおびる。この性質を利用して縄文

時代には各地で接着剤として利用されている。

石油鉱床は太平洋側では静岡県相良付近に若干発達しているがほとんどないに等しく、北海道から新潟県や長野県の一部にかけての日本海側地域に発達している。天然アスファルトの産地もこれらの地域の中に限られるが、アスファルト出土遺跡の分布は極めて広く北海道から奈良県に及び、縄文時代の交易活動を考える資料として注目されているものである。

県内では縄文時代中～晩期の遺跡にしばしばみられ、塊となったアスファルトは軽米町君成田Ⅳ、盛岡市萩内、下猿田、雫石町塩ヶ森、滝沢村湯舟沢、安代町赤坂田Ⅰなどの遺跡で出土している。特に赤坂田Ⅰ遺跡出土アスファルト塊は300gを超えている。このような県内に出土するアスファルトは、いずれも秋田県方面からもたらされた可能性が大きい。赤坂田Ⅰ遺跡や曲田Ⅰ遺跡など安比川流域の資料は、奥羽山地を挟んだ東西の交易経路の存在を示す手掛りとして重要な意味をもつものと思われる。

そのほか、赤鉄鉱の礫が1点発見されている。遺構に伴うものでないが、縄文時代のものと思われる。土器などに塗付する赤色顔料の原料と考えられるが、産地は明らかでない。

(3) 土製品

遺構の内外から合せて27点の土製品が出土している。円盤状土製品6点、土偶及び類似する土製品8点、土笛2点、皿型土製品1点、釣鐘状土製品2点、耳栓1点、円筒形土製品1点、帯状土製品2点、臓器状土製品1点、その他3点である。

○円盤状土製品

いずれも土器片を丸く打ち欠いたものである。ほとんど縄文の施されている土器片であるが1554のように網目状捻糸文のある例や2208のように三叉状沈線文の描かれている例もみられる。県内における網目状捻糸文土器の初現は、すでに縄文時代早期に求められるが、前期前～中葉の大木式土器、中期末～後期前葉の大木式土器及びその後続形式の土器に多くみられる。1554の場合、器壁が薄く胎土も比較的緻密で繊維を含まないこと、網目の捻糸が細めで張り強いことなどから前期よりは中期末～後期前葉の特徴が伺える。また、2208の三叉状文は晩期の大洞B式土器の特徴とされるものである。他は文様に際だった特色がなく、時期の特定は困難であるが、ほぼ縄文時代後期前葉～晩期前葉と考えてまちがいないものと思われる。

円盤状土製品の出土例は、県内では衣川村東裏、北上市鬼柳西裏・九年橋・江釣子村鳩岡崎、紫波町西田、盛岡市萩内、岩手町上斗内など縄文時代中期後葉～晩期中葉の遺跡に多い。遺跡当りの出土点数は概して多い方であるが、曲田Ⅰ遺跡の場合は少ないといえる。無孔のもの以外に中央部に穿孔された例があるが、FⅢ-014住居跡出土の406以外はすべて無孔である。401

は片面に穿たれているが、貫通していないものである。

用途については、青森県木造町亀ヶ岡遺跡に晩期の土器をアスファルトで接着して補修する例があるが、現段階では定説がなく今後の検討が必要である。

○土偶

土偶とこれに類似する8点のうち、2点を除いて中空である。大部分が縄文時代晩期前葉に属すると思われ、類例も多い。しかし、1250は器表全体に沈線による横縞があるが、晩期に類例がなくなお検討を要する。

縄文時代後・晩期の遺跡では、県内の北上市九年橋、大迫町立石・小田遺跡のように100個体以上の土偶が出土する例もあるが、これに比して極めて少ないといえる。その要因については、「送り場」や墓地などの祭葬地と一般の集落というような遺跡の性格によることや地域性の違いによるものなどが考えられるが、現段階では比較的資料が乏しく明らかでない。

○釣鐘状土製品

鐎状土製品とするのが一般的かもしれない。東北地方各地の遺跡に出土しており、形態的にはいくつかの種類がみられるようである。時期はほぼ縄文時代後期後葉に限られるようであるが、用途は不明である。

県内の出土例には、大迫町立石、盛岡市川目、玉山村日戸、軽米町駒板、吠屋敷Iなどにみられる。

○耳栓

いずれも小型のものである。1267はやや大きく片側の凹んだ鼓形であり、片側に同心円状の沈線と刺突列がまわる。椎骨形をなす1556は無文である。この種の耳栓は陸前高田市中沢浜貝塚、九戸村嶽II遺跡などの出土品に似ており、縄文時代後期後葉～晩期中葉のものと考えられる。

○土笛

亀型土製品と呼ばれる中空の土製品である。文様からいずれも縄文時代晩期のものと思われる。1点は器面に沈線でS字状渦巻文の列が描かれている。同種の文様は岩版にもみられ、晩期前葉のものと考えられる。他の1点は晩期中葉の土器と同じ文様が施されており、ほぼ同時期のものと推定される。

東北地方の縄文時代晩期前～中葉の遺跡に出土例があり、県内では岩手町どじの沢、豊岡、衣川村東裏、北上市九年橋遺跡などがあるが、遺跡当りの出土点数は少ない。

○その他

2110の甕器形土製品がある。粘土塊の表面に多くの指紋を残しており、何らかの意図によって作られたものと思われるが、その用途については類例もなく明らかでない。

以上のように土製品はJVI区出土の2454を除いてほとんど縄文時代晩期前葉を中心とする縄文時代後期～晩期のものである。出土点数は発掘調査面積からみると決して多いとはいえない。特に円盤状土製品、土偶等の出土点数については、近接した時期の立石・小田遺跡など100点以上出土した例があり、これらに比して著しく少ない。一般集落遺跡と特殊な機能をもつ遺跡の性格的な違いがあるのかもしれない。さらに資料の増加をまって検討する必要がある。

(4) 須恵器・陶器

遺構からは発見されていないが、平安時代の須恵器の甕と思われる炭物の破片が1点出土している。調査区外のいずれかに奈良・平安時代の居住遺構があり、何らかの関連があって持ち込まれたものかもしれない。曲田I遺跡の周辺では、上の山VII、上の山館、上の山X、保土沢遺跡など多くの平安時代の集落跡があり、道路跡の一部とともにこれらの集落跡との関連も考えられる。

陶器は近世以降のものと思われる。摺鉢片3点である。遺構との関連はいずれも明確でないが、近世以降には曲田をはじめとする集落も成立しており、また、掘立柱建物跡や炭焼場跡等の遺構との関連も考えられる。

(5) 鉄製品

FN-081炭窯跡の埋土中から出土した1334～1338の天井釣金具部品5点とKV-021ピットから出土した器種不明の板状鉄器片1075の1点である。

天井釣金具は直径3mm前後の針金と厚さ2mmの鉄板からなり、全体に錆化が著しい。使用時は針金の一方を鉄板の孔に通して固定し、この部分を炭窯天井部の粘土中に埋め込み、さらに針金の一端を炭窯の覆屋天井の梁に結びつけ、天井部の補強、支持したものである。

(6) 漆

漆の入った小型の壺型土器539が縄文時代後期初頭のJVI-011住居跡床面から出土している。漆は褐色のスポンジ状の固体をしており、壺の外側全体にも褐色の泥状付着物としてみられる。この住居跡では540の土器の器面にも一部漆の付着がみられる。

そのほか、漆の利用は縄文時代後・晩期の朱塗り土器の一部にもあり、晩期の土器の中には朱以外の黒色の漆を塗った土器もみられる。

第3節 遺構と遺物

2次にわたる調査の結果、曲田Ⅰ遺跡は縄文時代後期前葉と晩期前葉の2時期の集落跡を主体とする複合遺跡であることが明らかになった。その時期は縄文時代前期前葉から中・近世に及んでいる。

発見された遺構には縄文時代の住居跡、ピット、同時代の掘立柱建物跡、捨て場跡、集石遺構、焼土遺構のほか、弥生時代中期の墓塚や歴史時代の竪穴住居跡遺構、掘立柱建物跡、道路遺構、炭焼き場跡等である。そのほか、自然地形の跡として雨裂跡や埋没谷も発見されている。

遺構と同様、出土遺物も縄文時代のものが多い。縄文時代晩期前葉の遺物を中心に、縄文時代前期前葉、中期後葉、後期前～後葉、晩期中葉、弥生時代中～後期、歴史時代の各期に及び、種類も多様である。

(1) 縄文時代の遺構と遺物

i 縄文時代前期前葉

縄文時代前期前葉の遺構と思われるものはわずかしか発見されていないが、土器片はかなりの数量に及んでいる。現在までに県内では松尾村長者屋敷や二戸市中曾根Ⅱ遺跡に集落跡や住居跡が発見されているが、県域全体から見ると未調査の空白部が大きく不明な点も多い。曲田Ⅰ遺跡出土の土器はその空白を埋める資料になるものである。

これまで安比川流域では縄文時代前期前葉の資料が乏しく、その様相も明確でなかったが、今回の資料によって少なくとも前期前葉の一時期、北方系の春日町式土器や大木1～2式土器の存在することが確認された。

ii 縄文時代後期前葉

縄文時代後期前葉の集落跡は、調査区の西寄り部分を蛇行して下る埋没谷の北東寄りに立地している。地形からみて集落の規模は、未調査区域を含めても晩期の集落跡ほど大きくならないものと推定される。遺構は住居跡にプラスチック状ピットや焼土遺構、掘立柱建物跡などが伴うようである。

遺物は土器が主体である。時期に多少の幅があるが、従来十腰内Ⅰ式といわれてきた土器の一部や大湯遺跡の土器の一部に類似する文様帯をもつ例があり、これらと同時期かやや前後する時期に入るものと思われる。

発見された後期前葉の住居跡はいずれも竪穴住居跡と思われるが、形状の判明するのは2例だけである。平面形は隅丸長方形と隅丸方形をなし、後者は内外に排水溝を伴っている。坪は

いずれも地床がや石囲い炉ではなく、地床炉状の炉の一辺に石英安山岩の板状重角礫を焼土に面するように立てた独特の構造である。全形の不明な住居跡の一部には、これと同様の特徴の伺えるものがみられる。

東北地方の北部で従来調査された後期住居跡の平面形はほとんど円形であり、曲田Ⅰ遺跡にみられるような隅丸方一長方形は何をみないといつてよい。また、排水溝を伴う例も稀であり炉の形態もほとんど類例がみあたらない。現段階ではこの種の住居跡が曲田Ⅰ遺跡以外に確認されていないが、その分布範囲はさらに広がるものと予想される。

iii 縄文時代中期後葉・後期後葉・晩期中葉

縄文時代中期後葉では住居跡1棟、後期後葉では新しい時期の住居跡2棟、やや古い時期の掘立柱建物跡1棟、晩期中葉では捨て場跡1ヵ所がそれぞれ確認されている。

このうち、中期後葉、後期後葉の住居跡、建物跡はいずれも散在している。遺跡全体を調査していないのでその実数は不明であるが、1～2棟にとどまるとすると、一般的な集落跡とはいえず、野営施設跡や一時的な宿泊施設跡としての性格付けが考えられそうである。また、晩期中葉の捨て場跡と同時期の住居跡などの遺構は確認されていないが、近接して発見された柱穴群がこれに関係するかもしれない。

iv 縄文時代晩期前葉

縄文時代晩期前葉の資料はもっとも豊富であり、住居跡などの遺構も多く、土器、石器などの遺物も大部分この時期のものと思われる。

晩期前葉の集落跡は、調査西辺の山麓緩斜面から新田川に面した崖縁部にかけて形成されている。その主要部は開田工事や道路の開削工事によってすでに大きく破壊されているが、未調査区域を含めると、ここまで営まれた住居跡の総数はさらにこれを上まわることが予想される。

v 縄文時代晩期住居跡出土の土器

住居跡出土の土器は多くの場合、従来大洞B₁式(B式のうち、古式とされる土器群であり、いわゆる玉抱三叉状文や縄文帯と無文帯が階段状ないしS字状に交互に入組む文様帯が盛行する段階の土器群である)大洞B₂式(B式の新式ないしはかつてB式とされていた土器群でありいわゆる三叉状文の盛行する段階の土器群である)大洞B-C式(羊歯状文の盛行する段階の土器群である)の三者によって構成されている。

これらの土器群相互の埋土中における層位関係は十分な観察資料がないため確定できないが比較的資料の整ったEⅢ-011住居跡の例で見るとほぼ同一層中に混在していたと考えられる。勿論、個々の遺物には廃棄された時間差があり、堆積の結果として層全体ではかなりの時間幅が予想される。したがって、そこには時々々の流行を反映し、土器の文様や形態の変遷過程が示

されることになる。

しかし、先にあげた3者の土器群はほぼ同色、同質の層中に間層を挟まずに堆積しており、上下の位置関係はかなり錯相しているため、3群相互の層間的な関係はほとんど確認されていない。B₁式土器群については、ほぼ同類の土器がGN-014住居跡の床面からいくつかまとまって出土しており、独立の一時期をなすことはほぼ確定的であるといえる。他の2群については両者が単独で出土する例がないため、明確な時間差を伺うことはできない。

このことから両者については、従来多くの文献に記されているような大洞B₂式→大洞B-C式という時間的な変遷関係は必ずしもよみとれることはできず、両者の関係を同時期に共伴する異文様の土器群とする見解も成り立つ。この点について、二戸市雨滝遺跡を調査した芥沢長介氏は大洞B式、大洞B-C式とされてきた土器が層的に分離できないことをあげ、両者は時間的な前後関係があるのではなく共存すると指摘している。

これらの土器についてみると、施される文様や文様帯の構成のうえで明らかに両者の間の過渡的な様相を示すものが少なからず存在する。大洞B-C式に属する土器には、羊歯状文の葉の小さい葉部分の粒が粗く、葉脈部分が幅広く水平に延びてから両端で強く曲がる形態のものが多く、一戸町葎前台区や大迫町小田遺跡などで多くみられる大洞B-C式の優品と比較すると前者は重厚でいかにも粗形的な印象をうけるものである。勿論、曲田I遺跡においても同様の繊細な羊歯状文を有する土器があるが、羊歯状文をもつ土器全体の中で占める割合はいたって少ない。

このようにみると、曲田I遺跡の場合では大洞B式土器群と大洞B-C式土器群の時期差はそう大きいものではなく、かなり近接する時期に集中し、変遷も漸移的に行なわれているのではないかと考えられる。

曲田I遺跡の晩期前葉の土器群からは、大洞B₁式、B₂式、B-C式とした三者の間にそれぞれ文様の形態や構成上過渡的な様相がみられ、三者が間断なく漸移的に変化していく過程ととらえられる。文様の変遷過程が直ちに時間的過程に置きかえられるか即断できないが、大まかにはある程度の時間的な流れがみられる点で、晩期前葉のある期間中間断なく居住していたことも想定される。

(2) 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は墓塚と思われるピット群であり、なかには副葬品とみられる土器が発見されているピットや埋土下層から死者にふりかけたと思われる粉末状の酸化第二鉄の出土するピットが含まれている。

これらに伴う住居跡等の遺構は調査区に発見されていないが、ほぼ同時期か近接する時期の

集落跡とみられる遺跡が300-400mほど離れた上の山Ⅲ遺跡にあったものと思われる。ここは現在畑地になっており、類似する土器片が散布している。おそらく弥生時代中期末葉頃に上の山Ⅲ遺跡の居住者が墓地を設けていたことが伺われる。

遺物はほとんど土器であるが、かなりまとまって出土している。その中には、県南部の谷起高式（中期前葉）、青森県の田舎館式の新段階（中期後葉）に類似する土器が含まれているほか、一戸町上野B、秋田県宇津ノ台、新潟県山草荷遺跡出土の多重連続の扁平菱形文付土器や、秋田県貝沢遺跡にみられる下垂する連続半円状の磨消縄文帯を伴う土器（中期ないし後期前葉）に類似する土器もみられる。

このようにこれまで安比川上流域で知られている資料ではもっともまとまりがあり、特に墓墳状ピットの発見によって遺構との関連から、この地域における弥生時代の文化の様相がより具体的に追求できる見通しができたといえる。また、土器を主とする遺物もこの地域の弥生文化の編年や系譜をたどるうえで貴重な資料である。

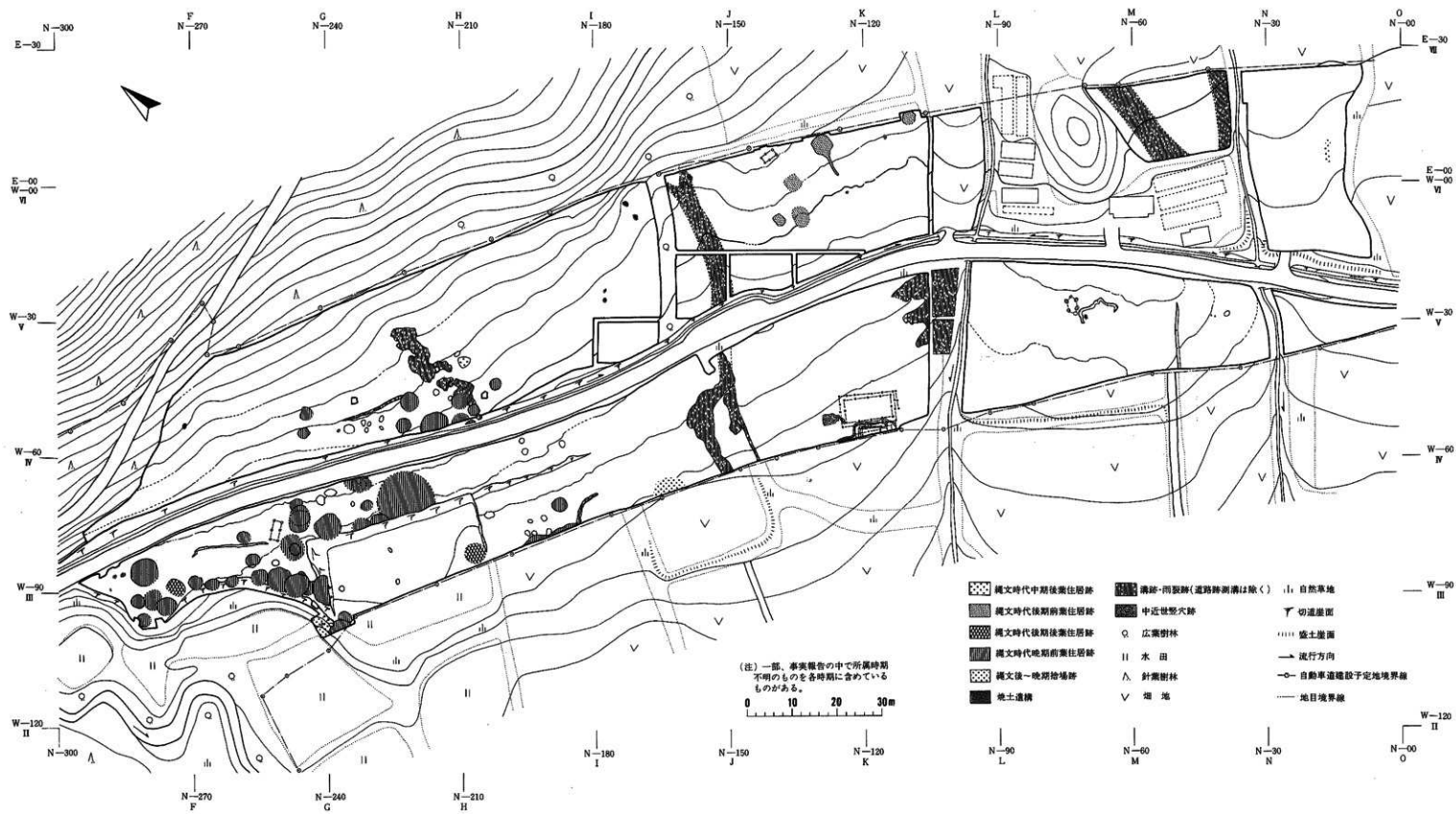
(3) 中・近世の建物遺構

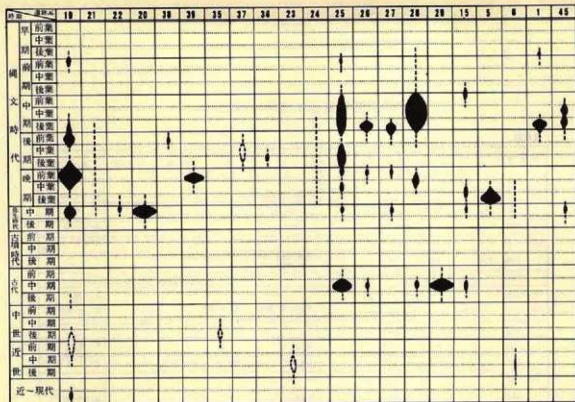
調査区南東寄りの中央部で発見された竪穴状遺構及び掘立柱建物跡の所属時期は明確ではない。形態的な類似例が中世の遺構にみられることから、ほぼその時期の遺構と想定される。

各遺構の重複関係については、全体的な配置関係によってみると多少の前後関係があるものの、JⅣ-011掘立柱建物とJⅣ-012掘立柱建物の2棟はJⅣ-013・014掘立柱建物といくつかの共存関係が成りたちそうである。また、JⅣ-011・012掘立柱建物とJⅣ-011竪穴住居跡状遺構及び東南のピット群とは共存しない可能性が大きい。いずれも相互の共存関係は不明であるが、これらの遺構は土層が類似しており、ある一定期間内に関連をもって営まれた一群の遺構とみなすことができる。

掘立柱建物の性格についても、現在のところ明確ではない。全体的な柱配置の明らかなのは2棟であり、いずれも外側の柱穴だけであり、内部の間仕切りや梁を中央で支える柱穴の痕跡は見されていない。さらにJⅣ-011建物跡では柱並びが歪んでおり、柱間寸法や柱数が異なっている。このような対応関係が一定しない長方形の掘立柱建物跡は各地にみられるが、状況資料が乏しく住居跡なのかある種の小屋なのかも明らかでない。

竪穴住居跡状遺構に類似する遺構は、中世の遺跡でかなり普遍的にみられる。県内では二戸市長瀬C・D、金ヶ崎山館山、盛岡市安倍館遺跡などでみられ、多くの場合住居跡と推定されている。住居跡と想定される例は竪穴内に焼土遺構が存在するが、曲田I遺跡では焼土の存在は認められていない。また、竪穴の短辺に入口が設けられ、中央部に柱穴をもつなど、住居跡とするには疑問が残る。中世に時期設定することも多少早計にすぎるかもしれない。

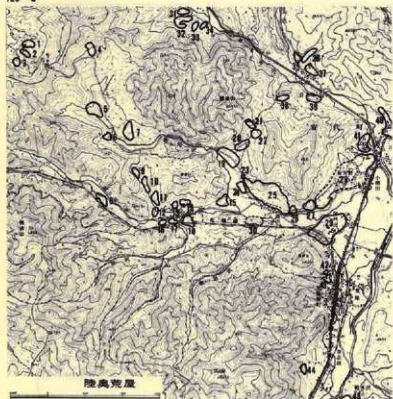




第123図 曲田 I 遺跡周辺の遺跡と消長概念図

123-1

123-2



No	遺跡名	和図 No	No	遺跡名	和図 No
1	越戸 II	42	24	曲田 II	65
2	越戸 I	43	25	上の山Ⅰ	68
3	越戸 III	44	26	上の山Ⅱ	70
4	曲田 X	45	27	上の山 X	71
5	梨木村南東遺	167	28	有矢野	74
6	曲田一里塚	168	29	保戸沢	73,76
7	未命名	54,55	30	伝説曲田遺跡 (伝説不明)	なし
8	横間英	18	31	戸沢	46
9	曲田Ⅷ	76	32	戸沢Ⅰ	47
10	曲田Ⅷ	79	33	戸沢Ⅰ	48
11	曲田Ⅴ	81	34	戸沢Ⅱ	49
12	ヤカマシタ	83	35	目黒古館跡	50
13	曲田Ⅵ	80	36	田ノ沢Ⅱ	52
14	曲田Ⅲ	82	37	田ノ沢Ⅰ	51
15	横間東	19	38	林柏峠北	55
16	横間台	84	39	谷地田	53
17	横間Ⅱ	85	40	五日市館跡	52
18	横間Ⅰ	86	41	有矢野館跡	53
19	曲田 I	60	42	荒原一里塚	76
20	上の山Ⅲ	58	43	荒谷館跡	77
	上の山 I	57	44	和戸谷地蔵跡	80
22	上の山Ⅱ	59	45	荒谷Ⅱ	80
23	曲田総塚	82,83			

遺構別出土遺物一覧表

住居跡

遺構名	土 器							石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	弥	中				
EⅡ-012住								磨石1			実1, 台付土器
013住		前+	後+			前+		〔スチレナーバー〕			
014住						後+					実1, 小型漆器
EⅢ-011住											実2(B), 大-小型漆器
012住 (後)+			後+	中+	後+	前+++	J+	石器3, 石器2, (スチレナーバー)2, 石器4, 石器3, 磨石・石片・石錐			11住
013住						前+					
FⅡ-011住						前+					実1, 小型漆
FⅢ-011住		前+		前+	後+	前+++	J+	石器3, 石器2, 使用削片1, 円板状石製品2, 磨石1, 石器2, 石片2, 石錐1			実12, 大-小型漆器 中-小型
012住							J+				
013住			後+			前+		磨石1			実13, 大-小型漆器 台付品
014住		前+				前+	J+	石器3(スチレナーバー)1, 磨石1	円板状土製品1		実10, 大-小型漆器 11住
014-015住						前+					
015住								叩石5			実1, 漆器土器
016住						前+		石器1, 大型石錐1, (スチレナーバー)1, 使用削片1, 円板状石製品1, 磨石1, 石器1, 石片1			実3, 大型漆器2 小型漆
017住						前+++		石器2(スチレナーバー)1, 石器1, 石錐1, 磨石1			実5, 大-小型漆器 中-小型, 漆
018住						前++					実2, 大型漆器
019住						前+	前+++	石器1(スチレナーバー)1			実11, 大型漆器, 台付 漆器, 漆片
0122住						前+	前++	〔スチレナーバー〕2, 使用削片1	円板状土製品 (石片)		実1, 大-小型漆器 台付
0133住 後+		後+	中+	後+	前+++	前++		石器1, 石器2, 円板状石製品2, 石錐1	円板状土製品 土塊		実11, 中-小型漆器 台付品
0144住		中+			前++	前+		石器1(スチレナーバー)2, 円板状石製品	円板状土製品		実3, 中-小型漆器
0155住						前+++	前+	石器1, 石器1, 円板状石製品4, 磨石1, 石錐1			実3, 小型漆器, 台付 漆片
0166住						前+++	前+++	石器2, 石器1, 石器2, (スチレナーバー)2, 使用削片2, 円板状石製品1, 小磨石1, 叩石1, 石器2	円板状土製品1		実10, 大-小型漆器 中-小型
FⅣ-011A住						後+	前+				実2, 大型漆器 大型台付
011B住						後+	前+				
0122住						後+	前+				
GⅡ-012住						前+	後+				実2, 大型漆器
GⅢ-012A住											実1, 大型漆
012B住											
012C住							前+				
012D住											
0122住											
014住							前?+				
016住			中+				前+++	石器1, 石器1, (スチレナーバー)2, 円板状石製品1, 磨石1, 磨石2, 石器1			実1, 中-小型漆器
017住								円板状石製品1, 磨石1			
0116住											実1, 小型漆器
GⅣ-011住								石器2, 石器1, 石器2, 石器1			
0122住			後+								
014住			後++				前++	石器1(スチレナーバー)1, ノッチ1			実11, 大-小型漆器 中-小型, 漆片
015住							前+				

産 種 名	土 器							石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	弥 中	その他				
CⅡ - 016 土			後+					石器1			実1, 中型漆鉢
017 土			後+		前+	中+		石器1, 石器1, 石器2, (スチレナー)1, 2, 使用制1, 内装石製品1, 厨中礎2, 磨石2, 小漆鉢1, 石片1, 石片1			実2, 大一小漆鉢, 白粉, 小竹串, 漆片
018 土					前+						
019 土					前+						実1, 口の土器
0110 土			後+		前++						
日Ⅱ - 011 土								石器1, (スチレナー)1			
012 土								(スチレナー)1			
日Ⅲ - 011 土											実1, 大型漆鉢
IⅢ - 011 土											
IⅣ - 011 土								(スチレナー)1			
JⅤ - 011 土					前+			(スチレナー)1, 小漆鉢2, 石器1			実1, 小型漆鉢
0120 土			後+		前++						実3, 大一小漆鉢
JⅥ - 011 土			後+		前++			(スチレナー)2, 使用制1, 磨石1, 平石1, 三角状石片1			実7, 大一小漆鉢, 小竹串
KⅣ - 011 土					前+			石器1, 使用制1, 器具1			
0121 土			後+		前+			ナナナ(漆器)			

ビツト

産 種 名	土 器							石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	弥 中	その他				
EⅡ - 028 P					初1						
FⅡ - 022 P		前+									
GⅡ - 023 P						前+					
GⅡ - 022 P						*					
GⅡ - 021 P						*					
日Ⅱ - 021 P						*					
日Ⅱ - 022 P						*					
日Ⅱ - 023 P						*					
日Ⅱ - 024 P						*					
日Ⅱ - 025 P											
日Ⅱ - 026 P						*					
IⅢ - 022 P		前+									
JⅤ - 022 P						前++					
JⅤ - 023 P						前+					
JⅤ - 024 P						中?+					
LⅡ - 021 P						中+					
LⅡ - 0218 P							中+				
MⅡ - 025 P							中++				

その他の遺構

産 種 名	土 器							石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	弥 中	その他				
GⅡ - 019 遺構					前++	中+		石器1, 石器2, (スチレナー)1, 2, 使用制1, 内装石製品1, 石片1, 石片1, 石片1			実7, 大一小漆鉢, 平石, 石片, 漆片
MⅤ - 019 遺構											

産 産 名	土 器							石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	生	その他				
NW-新渡城							J++				
GW-051遺					前+						
IV-052遺				+	+						
GW-053遺			中+	前++				石器1, 磨石1, 石片1, 環状土製品2		鉄製天弁の 金具4	美1, 小型土器類
FII-054遺								石器1			
IV-055遺							J+				美1, 大型土器類
FIII-056遺								スチレンバー1, 円板状石製品1			

概 述

産 産 名	土 器							石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	生	その他				
EII区	(後)+	前++	後++	後++	前+++			(スチレンバー), 円板状石製品, 刮削			
EIII	+	++	中+	前+	中++			平石1, 石片3, 大小石片6, 乳石石製品1, ア・ホ1, スチレンバー11, 磨石類内7, 石製1, 円板状石製品2, 刮削2	円板状土製品1 耳栓1, 土器1		美30, 大~小型土器類 骨付, 土口
FII			中+	前+	中++			(スチレンバー)1, 石製1			
FIV								甲石1, 石製1			
GII			後+	前+	後+			(スチレンバー)2			
GIII					前+++	中+		石製1, 石片1, (スチレンバー)10, 石製1, 有孔石製品1, 石片1, 石製1, 円板状石 製品1, 磨石1, 刮削1, 平石1, 石製1, 磨石1, 石製1, (スチレンバー)1, 骨製刮削2, 円 板状石製品2, 乳石石製品1	円板状土製品 土製土製品		美26, 大~小型土器類 陶器類
GIN			後+	後+	前++			石製1, 石片1, 石製1, 石製1, 磨石1, 磨石1, 石製1, 石製1, (スチレンバー)11, 円板 状石製品1, 刮削1, 磨石1, 甲石1	円板状土製品		美3, 大型土器類
HII			後+	前+	前+++			平石1, 石片1, 石片1, 石製1, 磨石1, 磨石1, 石製1, 石製1, 石製1, (スチレンバー)11, 円板状石製品15, 小埴輪1, 石製1, 石片 1, 小埴輪1, 石製1	土製, 円板状土 製品1, 不明1		美4, 小型土器類, 骨付 注1
HIIV			後+	前+	後+					環状土器1	美24, 大~小型土器類 骨付, 中~小埴輪
HV				後+	前+		J+	石製1, (スチレンバー)1, 円板状石製品 3, 小埴輪1, 石製1	不定形土製品	骨付	美2, 大~中型土器類
HVI					前+		J+	円板状石製品4, 甲石1			
IIII			中+	前+	前++		J+	(スチレンバー)1, 円板状石製品1, 磨石 1, 石製1			美11, 大~小型土器類 骨付, 土口
IIV		前++		前+	前++			(スチレンバー)11, 石へう1, 円板状石 製品1, 甲石1, 磨石1, 三角柱状磨 石類1, 耳栓1, 石製1		(磨石片)	美3, 中型土器類, 鉢
IIV		前++	+	前+	前+		J+	(スチレンバー)1, 石製1, 石へう1, 小埴 輪1, 甲石1, 磨石1, 石製1			美5, 大~中型土器類 小埴輪
IIV		前++									
IIII							J+				
IIIV								石製1, 石製1, 円板状石製品1, 磨石1, 磨 石1, (スチレンバー)1			美1, 大型土器類
IIIV			後+	前+++		前+++	J+	石製1, 石製1, 石製1, (スチレンバー)14, 円板状石製品1, 小埴輪1, 磨石1, 磨石1, 磨石1, 平石1, 注1, 甲石1			美13, 大~小型土器類 磨石
IIIV				前+++		前+++		石製1, 石製1, (スチレンバー)1, 円板状 石製品2, 小埴輪1, 磨石1, 磨石1, 石製1			美3, 大~小型土器類
KIV		前++	後+	前+	前+		J+	石製1			
KIV		前++	後+	前+	前+		J+	石製1, 石製1, 石製1, (スチレンバー)1, 円板状石製品1, 甲石1	円板状土製品	(磨石片)	美3, 大~小型土器類
KIV		前+	後+	前++	前+++						
LIII				中+				石へう1, (スチレンバー)1			
LIV					中++			磨石1, 石片1			美1, 小型土器
LIV								(スチレンバー)1			
MIV					中+			石片1, 石片1			美1, 大型土器類
MIV					中+			石製1			
MIV					中+						美1, 大型土器類
出土地不明	後+		後+	後+	前+	前+	前+				

出土遺物觀察表

第1表 土器

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色 調	整理番号
12-3	81	小型(口)土器 (口-胴上部)	EⅡ-011位	残6.0 標11.7	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		黒褐色	376
18-11	81	小型深鉢 (口-底部)	EⅡ-014位	残12.3	標16.3	標5.3	1,300	$\frac{3}{10}$ 口-底部		*	503
18-12	81	小型深鉢 (口-胴中部)	*	残8.0	標12.6	—	—	$\frac{3}{10}$ 口-底部		12.25(赤褐色)	501
18-13	81	小型深鉢 (口-胴上部)	*	残10.1	標9.3	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		暗赤褐色土	504
18-14	83	小型無文深鉢 (胴下部-高台)	*	残2.1	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-胴		12.25(赤褐色)	505
18-15	81	小型深鉢 (口-胴上部)	*	残6.5	標10.7	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		褐色	502
22-49	83	小型無文深鉢 (口-胴上部)	EⅡ-015位	11.5- 12.4	13.2	6.0	600	口-胴, 脚	+EⅡ-011位 高文残回来	明赤褐色	378
26-52	85	大型深鉢	EⅡ-011位	32.0	22.6	標6.7	6,800	$\frac{1}{10}$ 口-底部	604-2	橙	169
26-53	84	*	*	残13.4	標25.4	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底		褐色	644
26-54	84	大型深鉢 (口-胴中部)	*	残26.9	標31.6	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		*	172
26-55	84	大型深鉢	*	残33.2	標26.2	6.5	—	*		12.25(黄褐色)	187
26-56	—	小型深鉢	*	残16.0	—	7.5	1,100	$\frac{2}{10}$ 口-胴部	187	橙	186
26-57	85	大型深鉢	*	残10.0	—	7.8	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部	17-4+4-6	12.25(赤褐色)	188
26-58	—	大型深鉢 (胴下部)	*	残9.8	—	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		12.25(黄褐色)	189
27-59	84	大型深鉢	*	残6.5	標29.4	—	—	$\frac{10}{10}$		12.25(橙)	649
27-60	84	大型深鉢 (口-胴部)	*	残25.6	標32.8	—	—	$\frac{3}{10}$ 口-底部		暗赤褐色- 暗褐色	175
27-61	—	大型深鉢 (口-胴上部)	*	残15.5- 14.5	標25.8	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		12.25(黄褐色)	178
27-62	85	大型深鉢 (胴下部-底部)	*	残13.3	—	標8.8	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		12.25(橙)	190
27-63	—	大型深鉢 (胴下部-底部)	*	残9.2	—	標7.7	—	$\frac{1}{10}$ 口-胴部		*	191
27-64	85	*	*	残6.8	—	7.6	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		明赤褐色	195
27-65	85	大型中鉢 (口-胴上部)	*	残9.0	30.2	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部	906+310-2	12.25(褐色)	161
27-66	85	大型深鉢 (口-胴上部)	*	残18.3	標25.2	—	—	*		灰褐色	176
27-67	—	*	*	残14.9	標16.6	—	—	*		12.25(褐色)	179
28-68	86	大型深鉢 (口-底部)	*	残27.2	25.3	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-胴部		12.25(黄褐色)	174
28-69	86	大型深鉢 (口-胴部)	*	残25.8	25.2	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		灰褐色	171
28-70	86	大型深鉢	*	33.3	標30.8	標8.0	8,500	$\frac{1}{10}$ 口-底部		12.25(橙)	185
28-71	84	大型深鉢	*	残23.3	標19.7	—	—	$\frac{10}{10}$		灰黄褐色	648
28-72	84	*	*	残20.5	標20.4	—	—	$\frac{3}{10}$ 口-底		褐色	647
29-73	83	大型深鉢 (胴部)	*	残32.5	標33.2	—	—	$\frac{3}{10}$ 口-底部		明黄褐色	180
29-74	86	大型深鉢 (口-胴部)	*	残26.8	標16.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		12.25(赤褐色)	183
29-75	88	大型深鉢 (口-胴部)	*	残16.9	—	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		12.25(褐色)	181
29-76	86	大型深鉢 (胴下部-底部)	*	残6.4	—	標8.4	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		12.25(橙)	182
29-77	86	大型深鉢	*	残11.0	—	8.0	—	*		明赤褐色	650
29-78	—	大型深鉢 (胴下部-底部)	*	残9.0	—	8.1	—	$\frac{1}{10}$ 口-胴部		明褐色	192
29-79	86	*	*	残5.9	—	7.0	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		12.25(橙)	194
29-80	85	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残12.8	23.0	—	—	$\frac{3}{10}$ 口-胴部		12.25(赤褐色)	182
30-81	85	中型深鉢 (口-胴部)	*	残26.7- 27.6	22.9	—	6,000	*	705	*	170
30-82	87	中型深鉢 (口-胴上部)	*	28.7	21.1	6.8	5,600	$\frac{6}{10}$ 口-胴		12.25(褐色) 黄褐色	165
30-83	87	中型深鉢	*	27.3- 28.3	標20.8	7.0	4,900	$\frac{2}{10}$ 口-底部		12.25(橙)	167
30-84	—	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残11.6	標25.0	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		12.25(黄褐色)	177

国图番号	写真番号	器 種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	組合關係	色 調	整理番号
30-85	—	中 型 深 鉢	五層-011住	残13.6	残25.4	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底部		褐色	164
30-86	87	中 型 深 鉢 (口-胴中部)	*	残17.2	残16.2	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底部		紅褐色-黒	166
30-87	87	中 型 深 鉢 ? (胴下-底部)	*	残 8.7	—	7.5	—	$\frac{15}{10}$ 口-胴部		褐色	166
31-88	88	小 型 深 鉢 (口-胴上部)	*	残16.2 -17.2	13.2	5.9	1,700	$\frac{15}{10}$ 口-胴		紅褐色	117
31-89	88	小 型 深 鉢 (口-胴上部)	*	残15.4	残14.3	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底部		紅褐色- 紅褐色	119
31-90	—	中 型 深 鉢 (口-胴上部)	*	残 8.6	残17	—	—	*		紅褐色	197
31-91	88	中 型 中 鉢	*	16.2	残21.8	6.8	3,150	$\frac{8}{10}$ 口-底部		紅褐色- 黒褐色	105
31-92	88	中 型 深 鉢 (胴中-底部)	*	残11.9	—	6.0	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		淡黄褐色	379
31-93	88	中 型 深 鉢 (胴下部-底部)	*	残 6.1	—	6.0	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		紅褐色- 黒褐色	196
31-94	89	中 型 深 鉢 (胴下-底部)	*	残13.2	—	6.1	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		紅褐色	199
32-95	89	小 型 深 鉢	*	残12.4	—	5.2	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		褐色	109
32-96	—	*	*	残 8.6	—	4.6	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		紅褐色- 黒褐色	113
32-97	—	小 型 深 鉢 (口-胴上部)	*	残 6.2	—	推5.8	—	$\frac{8}{10}$ 口-底部		紅褐色	66
32-98	88	*	*	残 6.6	—	推 6.1	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴		灰黄褐色	64
32-99	89	小 型 深 鉢	*	残 9.7	—	推 6.0	—	$\frac{8}{10}$ 口-底部		暗赤褐色	112
32-100	90	小 型 深 鉢 (胴下-底部)	*	残 5.9	—	4.8	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		紅褐色	111
32-101	89	小 型 深 鉢	*	8.6	推11	3.8	400	$\frac{8}{10}$ 口-底部		黒-黒褐色	102
32-102	88	小 型 深 鉢 (白土)	*	残11.7 -12.3	15.9	—	—	$\frac{8}{10}$ 口-底部		紅褐色	101
32-103	89	小 型 深 鉢 (胴中-底部)	*	残11.5	—	6.6	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		褐色	110
32-104	89	小 型 深 鉢 (胴上-底部)	*	残12.1	—	5.2	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		暗赤褐色	108
32-105	88	小 型 深 鉢 (胴下部-底部)	*	残 6.1	—	5.7	—	$\frac{8}{10}$ 口-底部		紅褐色- 黒褐色	65
32-106	90	小 型 深 鉢	*	残 6.7	—	4.4	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		紅褐色	114
32-107	89	小 型 深 鉢 (胴上部-胴中部)	*	残 9.5	—	5.1	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴上部		紅褐色	104
32-108	88	小 型 深 鉢 (口-胴上部)	*	9.8	11.0	4.6	450	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		紅褐色	85
32-109	—	小 型 深 鉢	*	残 4.8	—	5.2	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部	藏文中取来? + G9-011住	紅褐色	562
33-110	90	小 型 深 鉢	*	残 7.4	推15.7	—	—	$\frac{8}{10}$ 口-底部		灰 褐色	121
33-111	—	小 型 深 鉢	*	13.8	14.2	6.0	1,050	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		紅褐色	99
33-112	89	*	*	11.8	推10.3	5.2	700	$\frac{8}{10}$ 口-胴		紅褐色	98
33-113	90	*	*	17.1	17	5.5	2,150	$\frac{8}{10}$ 口-底		暗-紅褐色	96
33-114	89	小 型 深 鉢 (高右付)	*	13.9	15.1	5	1,150	$\frac{15}{10}$ 口-胴部		紅褐色- 黒褐色	94
33-115	89	小 型 深 鉢 (高右付)	*	9.4	推10.1	4.4	400	$\frac{15}{10}$ 口-胴上		黄褐色	107
33-116	90	*	*	残14.1	15	5.3	1,200	$\frac{8}{10}$ 口-胴		暗褐色	95
33-117	90	小 型 深 鉢	*	11.4	推 9.5	4.4	700	$\frac{8}{10}$ 口-胴		灰 褐色	97
33-118	89	小 型 深 鉢 (胴-底部)	*	7.3	推 8.6	4.7	—	$\frac{8}{10}$ 口-胴部		褐色	103
34-119	90	中 型 深 鉢 (口-底部)	*	残 4.8	推19.8	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底部	4-2	*	162
34-120	89	小 型 深 鉢 (口-胴上部)	*	残13.9	推14.0	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底部		褐色	91
34-121	95	中 型 深 鉢 (口-胴上部)	*	残10.5	15.6	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底部	欠24+欠64	灰黄褐色	163
34-122	94	小 型 深 鉢 (口-胴部)	*	残12.6	推19.1	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底部	905+欠-1	紅褐色- 黒褐色	90
34-123	—	中 型 深 鉢 ? (口-胴上部)	*	残11.1 -11.5	18.1	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底部		紅褐色	78
34-124	90	中 型 深 鉢	*	残 7.0	推22.5	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底		紅褐色	651
34-125	90	*	*	残10.5	推22.0	—	—	$\frac{15}{10}$ 口-底		黒褐色	645

図面番号	写真番号	器 種	出土遺構	節高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色 調	整理番号
34-120	93	中型漆鉢	五層-011位	19.1 ^{cm}	20.6 ^{cm}	6.5 ^{cm}	3,800 ^{cc}	口-胴		赤 褐	164
35-127	90	小型漆鉢	*	13.3	14.5	5.8	1,300	口-底部		にじい焼	36
35-128	93	*	*	9.6	13.7	5.8	800	口-胴	202-1	黒灰-黒焼	42
35-129	92	*	*	9.8	13.9	5.5	750	口-胴		にじい焼	49
35-130	94	くびれ付 小型漆鉢	*	10.1	15.4	5.0	1,000	口-胴部	+C面-p1+	にじい焼- 黒焼	47
35-131	90	小型漆鉢	*	11.0	15	6	1,000	口-底部	512	にじい赤焼 -黒焼	39
35-132	92	小型中型	*	7.4- 6.9	11.8	4.3	400	口-胴上部		にじい赤焼	76
35-133	92	小型漆鉢	*	11.5	15.5	6.9	1,200	口-底部		にじい赤焼 -にじい焼	41
35-134	91	*	*	11.8	15.1	5.3	1,100	口-胴		黄 焼	35
35-135	91	*	*	11.0	11.6	5.2	700	胴	4-6	にじい赤焼 -黒	58
36-130	91	*	*	9.2	12.0	5.2	500	口-胴		にじい焼	44
36-137	91	*	*	9.2	11.7	5.4	550	口-胴	303外	明赤焼	55
36-138	-	*	*	10.2	12.6	5.1	700	口-胴		焼	48
36-139	91	*	*	8.8- 9.5	12.3	4.9	550	口-胴		にじい赤焼	60
36-140	92	*	*	8.2	12.3	6	500	口-胴		黒 焼	43
36-141	91	*	*	9.0	11.6	5.0	450	口-胴		にじい焼	46
36-142	91	*	*	9.8	11.4	5.0	600	口-底部		にじい焼- 黒灰	56
36-143	91	小型漆鉢 (口-胴下部)	*	6.5	8.2	4.5	300	口-底部		にじい焼- 黒焼	47
36-144	91	*	*	7.4- 8.2	8.9	3.3	200	口-底部		にじい焼- 黒灰	59
36-145	91	小型漆鉢	*	7.8	11.7	5	350	口-胴		黒焼- にじい焼	190
36-146	91	*	*	13.7	14.2	5.4	1,300	口-胴		にじい赤焼	52
36-147	93	*	*	11.3	14.7	5.4	1,100	口-胴		焼	54
36-148	91	*	*	11.5	14.7	5.7	1,000	口-胴		焼-黒	38
36-149	91	*	*	10.3	15.2	5.6	1,000	口-胴		にじい焼	51
37-150	92	*	*	残6.9	残13.4	-	-	口-底部		にじい赤焼	62
37-151	90	*	*	残12.4	16.6	残7.2	2,000	口-底部	502-2+311-2	にじい赤焼 -赤黒	49
37-152	92	*	*	残7.7	残13.7	-	-	口-底		にじい赤焼	646
37-153	93	小型漆鉢 (口-胴上部)	*	残6.8	残13.5	-	-	口-底部		にじい焼	69
37-154	93	小型漆鉢 (口-胴上部)	*	残7.0	残14.4	-	-	口-底部		にじい赤焼	79
37-155	94	くびれ付 小型漆鉢	*	13.2	11.4	6.2	800	胴-底部		*	118
37-156	91	小型漆鉢 (口部)	*	残4.3 -5.2	残12.4	-	-	口-底部		にじい焼	68
37-157	93	小型漆鉢 (口-胴上部)	*	8.6	15.3	-	-	口-底部	95-1	灰 焼	53
37-158	93	小型漆鉢	*	残5.8	残17.0	-	-	*		赤 焼	53
37-159	92	小型漆鉢 (口-胴上部)	*	残9.3	残16.8	-	-	口-底部		にじい赤焼	120
38-160	92	小型漆鉢	*	残10.8	16.2	6.2	1,300	胴-底部		焼-にじい焼	37
38-161	92	*	*	11.0	14.3	4.9	950	口-底部		にじい焼	45
38-162	92	*	*	11.3	6.1	6.0	1,200	口-胴		にじい赤焼- 黒	61
38-163	93	*	*	13.2	15.7	5.8	1,500	口-底部		にじい赤焼	50
38-164	93	*	*	残4.6	残6.0	-	-	口-底部	303-10	にじい焼	67
38-165 ^B	92	*	*	8.3	12.9	5.0	500	口-底部	(展開図)	にじい赤焼 -黒焼	57
39-166	95	くびれ付 小型漆鉢	*	13.8	13.2	4.7	1,300	口-胴		明赤焼	80

国図番号	写真番号	部 種	出土遺構	部高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	複合関係	色 調	整理番号
30-167	94	く 小 型 瓦 葺 付 鉢	瓦葺 - 口直	cm 12.2	cm 10.9	cm 5.8	cc 650	2/10口 - 胴		緑・白・黒	82
30-168	94	く 伊 丹 小 型 瓦 葺 付 鉢 (口 - 胴上部)	*	残14.6	16.5	-	2,100	2/10口 - 胴部		緑・白・赤黒 一色	86
30-169	95	く 小 型 瓦 葺 付 鉢	*	11.6	12.6	5.1	700	2/10口 - 胴部		緑・白・黒	84
30-170	95	く 伊 丹 小 型 瓦 葺 付 鉢 (口 - 胴上部)	*	11.7	13.7	4.4	500	2/10口 - 底部		桃赤陶 - 黒陶	89
30-171	95	く 小 型 瓦 葺 付 鉢	*	14.1	13.6	5.0	1,000	2/10口 - 胴部		緑・白・赤黒 一色	115
30-172	95	く 伊 丹 小 型 瓦 葺 付 鉢 (口 - 胴下部)	*	残12.4	12.5	-	-	2/10口 - 胴		灰 陶	92
30-173	95	*	*	14.2	15.2	4.7	1,500	2/10口 - 底部		緑・白・黒 - 黒陶	83
30-174	95	く 小 型 瓦 葺 付 鉢	*	12.5	12.0	4.6	800	2/10口 - 胴部		緑・白・黒	81
30-175	94	*	*	残15.5	13.7	4.7	1,900	2/10口 - 底部	231-2	緑 - 灰 陶	116
40-176	94	小 型 中 鉢	*	9.9	15.6	6.5	1,100	2/10口 - 底部		緑・白・黒	70
40-177	94	*	*	7.2	13.4	5.8	550	2/10口 - 洗	1-6+208-4	緑・白・黒	74
40-178	96	台 付 浅 鉢	*	4.9	13.5	5.5	100	2/10口 - 洗部		緑	11
40-179	96	*	*	6.2	13.9	5.2	200	2/10口 - 胴		緑・白・赤黒	15
40-180	96	*	*	9.5	12.7	4.2	450	2/10口 - 胴		*	6
40-181	96	*	*	8.9- 9.9	11.6	7.6	400	2/10口 - 胴		緑・白・黒	5
40-182	94	小 型 中 鉢	*	7.6- 8.1	12.4	4.4	450	2/10口 - 底部		緑・白・黒 一色	75
40-183	94	*	*	8.6	12.9	4.4	500	2/10口 口直	905	赤 陶	71
40-184	95	く 浅 鉢	*	10.5	17.1	5.2	1,400	2/10口 - 底部		緑・白・黒 - 緑・白・黒	156
40-185	96	台 付 浅 鉢	*	残4.6	-	6.4	-	2/10口 - 胴		緑・白・黒	25
40-186	97	*	*	残5.3	-	5.7	-	2/10口 - 胴		*	24
40-187	96	大 台 付 浅 鉢	*	残8.0	-	9.2	-	2/10口 - 胴		*	23
40-188	95	く 小 型 瓦 葺 付 鉢	*	9.0	10.6	5.2	400	2/10口 - 底部		緑・白・赤黒	86
40-189	92	小 型 中 鉢	*	8.0	12.3	3.5	400	2/10口 - 胴		緑 黒	73
40-190	90	小 型 中 鉢 (胴上 - 底部)	*	残7.4	-	4.4	-	2/10口 - 胴		緑・白・黒	77
40-191	99	小 型 中 鉢	*	8.0	14.1	5.8	600	2/10口 - 底部	508	灰 黄 陶	72
40-192	96	台 付 浅 鉢	*	残10.5	残14.2	残4.6	残750	2/10口 - 胴		緑・白・黒	17
41-193	97	*	*	残13.4	12.9	7.3	850	2/10口 - 口		黒 - 緑・白・黄陶	21
41-194	96	台 付 浅 鉢	*	12.8	11.8	6.1	550	2/10口 - 洗		洗 黄 陶	22
41-195	96	く 浅 鉢	*	14.3	21.3	-	2,450	2/10口 - 底部	(横間田)	*	157
41-196	96	台 付 浅 鉢	*	14	18.7	9.2	1,800	2/10口	(横間田)	黒陶・明赤陶	1
41-197	97	*	*	残12.4	-	7.8	1,000	2/10口 - 洗部	507-1	緑・白・黒	25
41-198	97	*	*	残12.5	15.4	9.5	2,300	2/10口 - 胴	1204-1+1052	緑 黒	18
41-199	97	*	*	残6.7	残12	-	500	2/10口 - 胴		赤陶 - 緑・白・黒	19
41-200	96	*	*	10.3	残12.0	残5.9	450	2/10口 - 胴		洗 黄 陶	16
41-201	96	*	*	3.4	8.4	-	100	2/10口 - 洗		黒 陶	13
41-202	97	*	*	10.6	13.6	6.7	600	2/10口 - 胴	211-9	緑	9
41-203	97	*	*	残6.1	残19.7	-	1,800	2/10口 - 胴上・洗		明 赤 陶	215
42-204	97	*	*	7.9	11.5	7.5	250	2/10口 - 洗		*	7
42-205	97	*	*	残12	残17.8	-	1,800	2/10口 - 胴	(横間田)	緑 黒	20
42-206	99	*	*	9.6	12.7	6.8	500	2/10口 - 胴下部		緑 灰	4
42-207	-	*	*	-	-	-	-	-	大塚 (205と同7)		

図例番号	写真番号	部 種	出土遺跡	器高	口徑	底徑	容量	残存部位 残存割合	発 見 所	色 調	整理 番号
41-208	98	浅 鉢	E田-011柱	9.8	17.6	6.3	1,400	9/10 口-底	(製陶区)欠113+114 ○高さは1.15倍に伸ばし	明黄-暗黄	153
42-209	—	台付 浅 鉢	*	10.4	9.3	—	100	10/10 脚		にふい 橙	12
42-210	98	くびれ付浅鉢	*	8.3	30.0	9.2	1,350	10/10 口-底部	206-1	にふい+赤黄	144
42-211	97	台付 浅 鉢	*	12.3	16.4	8.6	1,000	10/10 口-脚部		橙-黄緑	3
42-212	97	*	*	7.2	9.9	4.8	150	10/10 口-脚		にふい 橙	14
42-213	97	*	*	6.1-7.5	10.9	5	200	10/10 口-脚		にふい 橙	8
42-214	95	台付 浅 鉢	*	5.4	9.3	—	200	10/10 脚	(製陶区)	黒	16
43-215	96	小型くびれ付鉢	*	5.8	19.1	8.8	600	10/10 口-脚部	(製陶区)	暗 赤 灰	151
43-216	96	小型 浅 鉢 (脚上-底部)	*	2.8	—	丸底	—	10/10 口-底部		にふい+橙- にふい 橙	150
43-217	96	小型くびれ付 浅 鉢	*	5.1	11.1	—	300	10/10 口-脚部	(製陶区)	暗赤+赤黄-黒	152
43-218	99	小型台付浅鉢 (口-脚上部)	*	7.1	12.7	5.9	450	10/10 口-脚		にふい 橙	160
43-219	99	くびれ付浅鉢 (口-脚上部)	*	5.0	13.0	4.9	300	10/10 口-底部		にふい+黄緑	159
43-220	99	くびれ付浅鉢	*	6.6	14.6	8.4	700	10/10 口-底部	(製陶区) 202-1	赤黄-黒	145
43-221	99	くびれ付 小型 浅 鉢	*	6.7	16.5	5.3	700	10/10 口-底部		暗-黒黄	158
43-222	99	小型有文浅鉢	*	6.1	13.8	丸底	450	10/10 口-脚部		灰 黄	148
43-223	98	耳付小型浅鉢	*	9.7	15.5	—	650	10/10 口-底部	(製陶区)	黒 黄	155
43-224	98	*	*	3.5-5.8	11.1	5.8	200	10/10 定形	○は製陶区の高さは不定 (*)	*	154
44-225	99	小型無文浅鉢	*	8.0	17.0	7.3	1,000	10/10 口部-脚	206-1+108-2	にふい+赤黄	146
44-226	99	*	*	6.2	14.6	—	550	10/10 口-底部	欠-13	明 黄	147
44-227	99	小型無文浅鉢 (口-脚上部)	*	3.9	9.2	—	—	10/10 口-底部		にふい+赤黄	209
44-228	99	超小型無文浅鉢	*	4.5-4.9	7.3	3.2	100	10/10 口-脚部		にふい 橙	214
44-229	99	小型くびれ付 浅 鉢	*	8.2	15.2	7.7	800	10/10 口-脚部	206	明赤+黒 オリーブ黄	149
44-230	99	超小型浅鉢	*	3.6	6.2	5.9	200	10/10 口-底部		橙	213
44-231	100	中型丸胴壺	*	24.5	9.8	8.2	4,800	10/10 脚		にふい+黄緑	156
44-232	100	中型丸胴壺 (脚上-中部)	*	12.1	—	—	—	10/10 口-脚部		にふい 橙	142
44-233	99	小型つぼみ口壺 (口部部)	*	5.8	7.4	—	—	10/10 口-底部		赤黄- にふい 橙	131
44-234	99	小型 壺	*	16.0	8.0	5.8	1,450	10/10 脚	11	にふい+黄緑	127
45-235	100	大型丸胴壺 (脚上-底部)	*	16.8	—	11.0	—	10/10 口-底部	804+908-1+518-4	にふい 橙	170
45-236	100	大型直口壺 (口-脚上部)	*	10.5	14.2	—	—	10/10 口-底部		暗 黄	141
45-237	100	大型丸胴壺	*	25.3	11.4	8.2	5,800	10/10 口-脚部	505+511-2+908-2 (製陶区)	赤 黄	137
46-238	101	中型直口壺 (口-脚中部)	*	23.1	11.4	8.0	3,950	10/10 口-脚部	1101-1	赤 黄	136
46-239	101	中型丸胴壺 (脚上-脚部)	*	12.1	—	—	—	10/10 口-底部		にふい+黄緑	124
46-240	100	中型丸胴壺 (脚上-底部)	*	12.9	—	8	—	10/10 口部-脚上		橙-浅黄	140
46-241	100	中型無文壺	*	15.2	10.5	7.5	2,300	10/10 口-脚部	F田-019柱	赤黄-赤黒	132
46-242	101	中型長胴壺 (脚上-底部)	*	16.5	—	8.4	—	10/10 口-底部		浅 黄 橙	125
47-243	102	長 胴 壺 口	*	22.8	4.8	6.4	1,400	10/10 口-底部	1-6	にふい 橙	134
47-244	102	超小型無文壺	*	5.8	2.6	3.0	20	10/10 口-底部		*	212
47-245	102	長 トツクリ壺	*	15	4.8	5.3	400	10/10 脚 部	(製陶区)	暗 灰 - 黒	(A, B) 129
47-246	102	小型直口壺	*	16.5	3.6	5.3	990	10/10 定 形	902	にふい+黄緑	120
47-247	102	小型扁平口壺	*	4.4	6.3	丸底	100	10/10 口部-脚上	105-2	灰 黄 緑	208
47-248	101	小型直口壺 (口-脚部)	*	12.5	19.0	—	—	10/10 口-底部	欠78	にふい+褐色土	130

図録番号	写真番号	器 種	出土遺跡	高さ	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色 調	整理番号	
47-249	102	小型無文甕 (口-胴)	FⅡ-011位	高さ 8.4 口径 5.2	—	—	—	口-底部 100%		赤褐色	126	
47-250	101	民 陶 甕 (口-胴)	*	高さ13.0	—	—	—	口 - 頸	遺土埋没跡 EⅡⅢ, FⅡⅢ, GⅡⅢ, FⅡ-012, 282, 283	明 褐色	504	
47-251	102	小型無文甕	*	7.9- 8.0	6.6	5.5	300	口-底部 75%		黒褐色 に赤い帯	211	
48-252	102	小型式口甕	*	10.1	12.2	3.4	800	口-底部 100%	欠108+?	灰黄色	122	
48-253	104	小型無文甕	*	高さ6.4	口径5.2	—	—	口-底部 100%	110-1	に赤い 赤褐色土	133	
48-254	102	*	*	高さ10.6	—	6.9	700	口-底部 100%	107	暗 灰	123	
48-255	102	*	*	6.5	4.8	3.4	100	口-底部 100%	306	に赤い黄褐色	125	
48-256	—	超小型甕	*	高さ3.9	口径4.8	—	—	口-底部 100%		黒 褐色	216	
48-257	102	小型式口甕	*	6	口径7.0	3.5	150	口 口	315	明 赤褐色	207	
48-258	—	小 型 甕 (口-胴上部)	*	高さ6.4	口径6.7	—	—	口-底部 100%		に赤い 赤褐色土	208	
48-259	102	小型無文式口甕	*	9.1	8	6	450	口-胴 100%		に赤い赤褐色 -暗赤褐色	201	
48-260	102	*	*	9.1	口径7.4	5.8	400	口-胴 100%	106	赤 灰	202	
48-261	—	*	*	11.2	9.8	4.9	950	口-胴 100%		に赤い黄褐色 -灰黄色	200	
48-262	102	小型無文厚平甕 (胴-底部)	*	高さ4.9	口径5.0	3.6	150	口-底部 100%	607	暗 灰 色 土	205	
48-263	102	小型無文式口甕 (口-胴部)	*	高さ9.2	口径7.0	口径5.0	450	口-底部 100%		に赤い黄褐色	203	
48-264	103	小型無文甕	*	11.8	口径6.8	6.8	700	口-胴 100%		に赤い黄褐色	128	
48-265	103	*	*	高さ8.7	口径7.6	口径6.6	500	口-底部 100%		灰 黄 色 土	210	
48-266	103	小型無文式口甕	*	10	口径7.6	6	450	口-胴 100%	201	に赤い 橙	204	
48-267	104	注 口 土 器	*	高さ3.7	—	口径6.6	—	口-底部 100%	311-2	暗 褐色	34	
48-268	103	*	*	10.2- 12.1	15.4	口径6.6	1,200	口-底部 100%	311+G3デリノト出土品	黒 褐色	26	
48-269	—	*	*	高さ7.6	口径7.5	—	—	口-底部 100%		に赤い黄褐色	657	
48-270	103	*	*	10.3	口径13.7	口径6.6	700	口-底部 100%		暗赤りアツ褐色	29	
50-271	104	*	*	11.0	口径9.5	*	800	口-底部 100%	5	赤褐色 に赤い帯	33	
50-272	103	*	*	11.2	13.3	*	800	口-底部 100%	201-1	オレンジアツ	27	
50-273	103	*	*	11.9- 12.6	9.2	*	1,200	口-底部 100%	311-1	灰 褐色	28	
50-274	103	*	*	高さ10.5	口径11.9	*	950	口-底部 100%	4-1+欠75	淡 黄 色	32	
50-275	104	*	*	13.7	口径7.7	*	1,200	口-底部 100%	9	に赤い黄褐色	31	
50-276	104	*	*	5.4	—	—	—	口-底部 100%	104+99	に赤い 橙	30	
58-302	108	小型細口丸胴甕 (口-胴中部)	EⅡⅢ-012位	高さ11.6	口径3.4	—	550	口-底部 100%		に赤い黄褐色	383	
63-364	108	大型 深 鉢 (口-胴中部)	FⅡⅢ-013位	22.0	口径29.5	口径7.5	(表) 9,500	1		に赤い黄褐色	391	
63-365	108	大型 深 鉢 (口-胴中部)	*	高さ16.9	口径27.3	—	—	口-底部 100%		黒 褐色	393	
63-366	108	大型 深 鉢 (口-胴上部)	*	高さ14.0	口径28.4	—	—	口-底部 100%	+FⅡⅢ-0113位	に赤い黄褐色	390	
63-367	108	大型 深 鉢 (口-胴中部)	*	高さ17.7	口径19.4	—	—	口-底部 100%		に赤い褐色	389	
63-368	108	*	*	高さ23.0	口径25.4	—	—	口-底部 100%		に赤い赤褐色	388	
63-369	108	*	*	高さ20.6 -21.3	口径23.0	—	—	*	1	明 褐色	392	
64-370	109	高小 形 深 鉢 (口-胴下部)	*	12.5	口径12.7	口径5.4	850	口-胴部 100%		に赤い赤褐色	395	
64-371	109	小型 深 鉢	*	15.7	口径14.8	口径6.7	1,500	*		暗 色	397	
64-372	109	高小 形 深 鉢 (口-胴下部)	*	17.9	口径16.9	口径6.4	2,000	口-胴 100%	+計算一規, 011埋理土 (埋理土)		に赤い赤褐色	394
64-373	109	コブ付長筒丸胴甕 (口-胴上部)	*	高さ15.9	口径6.8	—	—	口-底部 100%	No15-2, FⅡⅢ 遺文埋理土	黄 褐色	496	
64-374	109	小 形 深 鉢 (口-胴下部)	*	高さ10.8	口径18.5	—	—	*		に赤い黄褐色	399	
64-375	109	中 型 深 鉢 (口-胴下部)	*	高さ17.8	口径20.6	—	—	口-底部 100%		に赤い褐色	396	

国统番号	写真番号	器 種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色 調	整理番号
64-376	109	小型浅钵	FⅡ-013住	8.7	11.8	4.6	450	口-腹部		赭灰色	388
64-377	—	小型広口浅钵 (口-腹部)	*	残6.4	残17.8	—	1,000	口-腹部		12.25・赤褐色	387
64-378	109	高台付小型浅钵	*	6.4	10.2	残4.4	300	口-高台付 (狭間区)		12.25・褐色	400
67-383	110	大型深钵 (口-胴中部)	FⅡ-014住	残26.4	—	—	—	口-腹部		灰褐色	408
67-384	110	中型深钵	*	残12.6	残22.4	—	—	口-底		12.25・橙	652
67-385	110	小型無文浅钵	*	3.1	残7.9	残3.7	100	口-腹部		明黄褐色	405
67-386	110	小型浅钵 (口-胴下部)	*	残9.0	—	—	—	口-腹部		12.25・赤褐色	406
67-387	110	大型深钵 (胴部-底部)	*	残8.2	—	8.0	—	口-胴下		12.25・褐色	409
67-388	111	小型浅钵	*	10.6	18.2	5.0	1,400	口-胴部 (狭間区) 8, 欠-4		浅黄色	402
67-389	110	小型浅钵 (口-胴下部)	*	残5.6	残8.0	—	150	口-腹部 (狭間区)		明赤褐色	407
67-390	110	高台付小型 丸足付浅钵	*	12.2	13.8	6.7	1,000	口-胴部 (狭間区) 欠5-4, 1-2		12.25・黄褐色	401
67-391	—	超小型 無文浅钵	*	4.4	2.7	丸底	10	口-底	AG 5	灰黄褐色	404
67-392	110	小型丸足钵 (口-胴下部)	*	残3.8	—	*	600+α	口-底部		黄褐色	405
69-410	111	小型広口浅钵	FⅡ-015住	残6.4	残19.3	—	—	口-腹部		橙 色	410
71-411	111	大型深钵 (口-胴中部)	FⅡ-016住	残25.0	残27.1	—	—	口-底部	+ 5-1	12.25・褐色	413
71-412	111	大型深钵 (口-胴上部)	*	残38.0	残31.0	—	—	口-底部		12.25・黄褐色	412
71-413	—	中型丸足钵 (口-胴上部)	*	残24.3	残11.5	—	—	口-底部		明 褐色	411
74-423	112	大型深钵	FⅡ-017住	残6.7	残35.6	—	—	口-底	707-1	12.25・黄橙	653
74-424	112	中型高台付中钵 (口-胴中部)	*	残16.6	残21.2	—	—	口-胴部		黑褐色-褐色	418
74-425	112	中型高脚大碗 (口-胴下部)	*	残21.8	—	—	—	口-胴部		12.25・赤褐色	417
74-426	113	小型丸足钵 (口-腹部)	*	残9.4	残13.8	—	—	口-底部		棕色- 浅黄棕色	415
74-427	112	大型深钵 (胴下-底部)	*	残9.2	—	7.5	—	口-胴下部		明赤褐色	420
74-428	113	小型高台付深钵	*	7.9	8.1	4.2	200	胴 部		12.25・黄褐色	414
74-429	113	中型深钵 (口-胴上部)	*	残6.5	残15.0	—	—	口-底部		明赤褐色	419
49-430	113	小型丸足钵 (口-底部)	*	残16.6	—	3.2	—	口-胴下部	+ FⅡ-Ⅰ組	12.25・黄褐色- 黑褐色	416
78-435	—	大型深钵 (胴中部)	FⅡ-018住	残15.5	—	—	—	口-底部		灰黄褐色	421
82-461	115	中型深钵 (口-胴上部)	FⅡ-019住	残11.9	残19.2	—	—	口-底部		灰 褐色	429
82-462	116	大型深钵 (口-胴上部)	*	残17.8	—	—	—	口-底部	欠1-9, 床1	12.25・黄棕色	431
82-463	116	大型深钵 (口-胴上部)	*	残15.2	残26.7	—	—	口-底部		12.25・黄棕色- 明褐色	430
82-464	116	大型深钵 (胴上-胴下部)	*	残26.0	—	—	—	口-底部		棕色- 12.25・赤褐色	616
82-465	116	高台付小型浅钵	*	残11.3	—	—	—	口-胴部		灰 褐色	422
82-466	—	小型広口浅钵 (口-胴下部)	*	残5.6	残14.8	—	—	口-底部		12.25・棕色	428
82-467	116	中型深钵	*	残29.5	26.0	—	(丸) 9, 250	口-底部	2-2	浅 黄色	506
82-468	115	高台付小型浅钵	*	14.7	17.0	5.1	1,900	口-胴部 (狭間区) 8-2, P 様土		明赤褐色	423
82-469	115	小型無文钵 (口-胴上部)	*	7.0	残18.0	残10.0	1,150	口-底部		灰黄褐色	427
82-470	—	小型深钵	*	残9.7	残13.5	5.2	800	口-底部		赭 灰色	424
82-471	115	小型丸足浅钵	*	4.4	12.4	丸底	200	口、 胴		12.25・褐色- 一点色	425
82-472	115	狭口土器 (胴中部)	*	残7.2	—	*	400+α	口-底部		12.25・黄褐色	426
89-504	119	大型深钵 (口-胴上部)	FⅡ-012住	残13.6	残33.0	—	—	口-底部		12.25・黄棕色	433
89-505	119	中型深钵 (口-胴部)	*	残18.8	残21.0	—	—	口-底部	+0140住	12.25・棕色	432
89-506	119	小型高台付 丸足付浅钵	*	11.5	残17.0	6.7	—	口-胴部		12.25・棕色- 黑褐色	434

図例番号	写真番号	部 種	出土遺構	跡高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接 合 部 合	色 調	整理番号
91-522	120	小型深鉢 (口-胴下部)	FⅡ-0114Ⅱ	残13.8 18.3	16.3	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部		12.1Ⅱ・褐色	441
91-523	120	高台付小型深鉢	*	残19.3 18.5	16.5	径5.2	2,250	$\frac{25}{10}$ 口-底部	+0112Ⅱ	12.1Ⅱ・褐色	442
91-524	120	小型深鉢 (口-胴上部)	*	残10.0	径20.4	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部		明 褐色	563
91-525	120	小型高台付深鉢 (胴上-底部)	*	残12.0	—	5.7	—	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		灰 褐色	437
91-526	—	中型深鉢	*	残17.0	径23.4	—	1,550	$\frac{25}{10}$ 口-底部	欠R-2	黒 褐色 12.1Ⅱ・黄褐色	438
91-527	120	小型中鉢	*	6.7	径9.0	径4.8	250	$\frac{25}{10}$ 口-底部	+114Ⅱ, 欠4, FⅡ-011Ⅱ	12.1Ⅱ・黄褐色	435
91-528	120	小型高台付深鉢	*	7.4	10.0	3.2	200	$\frac{25}{10}$ 口-底部		橙 色	429
91-529	—	小型高台付深鉢 (胴上-胴部)	*	残4.3	—	径6.1	—	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		*	556
91-530	120	小型無文浅鉢	*	5.8	径12.2	7.6	400	$\frac{25}{10}$ 口-底部		*	440
93-531	—	注口土器 (胴上-胴部)	*	残9.4	—	丸底	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部		12.1Ⅱ・黄褐色 黒 褐色	436
93-532	120	注口土器 (胴 部)	*	残11.8	—	*	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部	欠5-4, 欠4-1, + FⅡ-011Ⅱ, FⅡ-0114Ⅱ	橙 色	443
95-562	122	小型深鉢 (口-胴下部)	FⅡ-0114Ⅱ	16.1	径19.6	径7.2	2,600	$\frac{25}{10}$ 口-底部		12.1Ⅱ・黄褐色 黒	444
95-564	122	高台付小型深鉢 (口-胴下部)	*	残7.9	15.2	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部		12.1Ⅱ・赤褐色	446
95-565	122	小型深鉢 (胴 部)	*	残11.5	径11.5	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部		橙 色	447
95-566	122	小型深鉢 (口-胴下部)	*	残7.7	—	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部	+FⅡ-0116Ⅱ	灰 黄褐色	445
95-567	122	超小型高台付深鉢	*	5.2	径8.8	4.2	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部		12.1Ⅱ・橙	656
98-598	122	超小型広口高台付深鉢 (口-胴中部)	FⅡ-0115Ⅱ	残5.6	径5.6	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部		12.1Ⅱ・赤褐色 土	558
—	—	超小型無文浅鉢 (胴上-胴部)	*	残2.7	—	3.0	—	$\frac{25}{10}$ 口-胴下部		12.1Ⅱ・黄褐色	557
103-628	124	高台付大型深鉢 (胴上-胴部)	FⅡ-0116Ⅱ	残29.0	24.7	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部	1-3, 1-1, 11	12.1Ⅱ・赤褐色	466
103-629	124	高台付 中型深鉢	*	29.1	14.2	8.9	4,350	$\frac{25}{10}$ 口-胴部	Ⅱ3	12.1Ⅱ・黄褐色	465
103-630	124	大型深鉢 (口-胴上部)	*	残10.4	径28.0	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部	欠20	12.1Ⅱ・褐色	468
103-631	124	中型深鉢	*	16.7	17.0	5.6	3,250	$\frac{25}{10}$ 口-胴部	3-1	12.1Ⅱ・黄褐色	464
103-632	—	*	*	残15.0	径20.8	—	—		田506の内の一ツ	明 赤 褐	658
102-633	124	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残14.9	径30.4	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部		12.1Ⅱ・赤褐色	467
102-634	124	中型高台付深鉢 (胴上-胴中部)	*	残10.0	—	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部	欠1-1	明 黄 褐色	463
102-635	124	小型無文丸胴部	*	残9.0	—	50	550	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		黄褐色- 黄褐色	462
102-636	124	小型無文長胴部	*	15.9	8.6	7.9	1,000	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		12.1Ⅱ・褐色	461
102-637	125	小型高台付浅鉢 (口-胴下部)	*	9.7	10.0	5.5	—	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		12.1Ⅱ・褐色	451
102-638	124	小型無文浅鉢	*	4.0	8.0	3.0	100	$\frac{25}{10}$ 定 形	Ⅱ3	橙 色	454
102-639	124	超小型高台付無文深鉢 (胴中-胴部)	*	残3.7	—	2.2	—	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		*	559
102-640	124	超小型深鉢	*	残3.2	—	2.3	—	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		12.1Ⅱ・黄褐色	457
102-641	125	高台付(口)深鉢 (口-胴下部)	*	残15.9	径12.4	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		12.1Ⅱ・褐色	458
102-642	125	中型高台付深鉢 (口-胴中部)	*	残9.6	径19.4	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		12.1Ⅱ・褐色	453
102-643	125	小型高台付深鉢	*	残13.9	14.5	—	1,100	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		*	448
102-644	124	小型無文浅鉢	*	5.4	9.5	3.7	250	$\frac{25}{10}$ 口-底部		灰 黄 褐色	455
102-645	125	小型広口浅鉢 (口-胴下部)	*	残5.1	径19.0	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-底部		橙 色	460
102-646	—	小型高台付深鉢 (口-胴上部)	*	残6.3	径15.9	—	—	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		*	459
102-647	—	小型高台付浅鉢	*	9.0	9.3	7.4	300	$\frac{25}{10}$ 口、胴	欠1-4, 21	12.1Ⅱ・黄褐色 12.1Ⅱ・赤褐色	450
102-648	125	小型広口浅鉢	*	9.9	18.1	5.0	750	$\frac{25}{10}$ 口-胴部	+欠4-2, 12-1, 2-3, 11-4	赤 褐 色	452
102-649	125	小型高台付浅鉢	*	10.0	10.2	6.2	300	$\frac{25}{10}$ 口-胴下部	+FⅡ-011Ⅱ	12.1Ⅱ・黄褐色	449
102-650	125	小型深鉢	*	11.6- 12.3	径8.3	4.5	450	$\frac{25}{10}$ 口-胴部		橙 色	456

図説番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	図説 番号
112-721-1	129	大型台付中鉢	FⅡ-011住	残29.5 ^{cm}	28.8 ^{cm}	13.5 ^{cm}	5,150 ^{cc}	1/10口-脚部	底1	にぶい褐色	498
112-722-1	129	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残16.0	残24.0	—	—	1/10口-底部		褐色褐色- にぶい褐色	499
113-739	129	大型深鉢 (口-胴上部)	FⅡ-012住	残14.5	残27.8	—	—	1/10口-底部		灰青褐色	500
113-740	—	大型深鉢 (胴部)	*	残24.9	—	8.0	—	1/10口-胴部		にぶい黄褐色 褐色	507
117-741	130	小型深鉢	GⅡ-012住	残4.3	残14.1	—	—	1/10		にぶい褐色	(図説 154)
130-757 ^a _b	131	大型直口丸胴鉢 (胴上部)	GⅡ-012住	33.8	12.1	9.9	—	1/10口-底部	(腰間図) 1	にぶい黄褐色	386
134-760	131	中型深鉢 (胴中-底部)	GⅡ-014住	残16.5	—	8.0	—	1/10口-胴部		にぶい赤褐色- 灰褐色	227
134-761	131	中型丸胴鉢	*	残13.6	—	横5.0	—	1/10口-底部	+GⅡドリット	にぶい赤褐色	238
136-762	131	高台付小型深鉢 (口-胴上部)	GⅡ-015住	残8.1	—	5.7	—	1/10口-胴部		淡赤褐色	239
129-764	131	小型深鉢 (口-胴上部)	GⅡ-016住	残7.5	残18.0	—	—	1/10口-底部		暗褐色	229
129-765	—	小型深鉢 (胴下-底部)	*	残7.5	—	横5.9	—	1/10口-底部	+GⅡ層	赤褐色	231
129-766	131	*	*	残4.0	—	横4.4	—	1/10口-底部		黒褐色	230
129-767	131	平すくね 超小型鉢	*	4.4	横3.9	先底	—	1/10口-底部		褐色	690
129-768	131	小型深鉢	*	6.4	横7.5	3.6	100	1/10口-胴		にぶい赤褐色	553
130-804	134	*	GW-014住	14.2	15.3	4.5	1,500	1/10口-胴部	埋土, 底1+017住	にぶい褐色	316
130-805	134	*	*	15.1	15.0	6.0	1,250	1/10胴部		にぶい赤褐色	325
130-806	—	注口土器	*	残6.5	横9.2	—	—	—		黒褐色 (図説 924)	—
130-807	134	高台付中型深鉢	*	残21.1	20.4	—	4,500	1/10口-高台	4	にぶい黄褐色	317
130-808 ^a _b	134	注口土器	*	残10.9	横7.8	先底	1,100 ^{cc}	1/10口, 3/10注口		褐色- にぶい黄褐色	326
140-809	135	大型深鉢 (口-胴上部)	*	残8.8	残36.0	—	—	1/10口-底部		褐色	324
140-810	135	中型深鉢 (胴下部-底部)	*	残6.0	—	7.4	—	1/10口-底部		暗褐色	318
140-811	134	大型深鉢 (口-胴中部)	*	残20.5	残27.0	—	—	*		にぶい黄褐色	320
140-812	134	大型深鉢 (口-胴上部)	*	残16.9	残26.5	—	—	1/10口-底部		赤褐色	321
140-813	135	大型深鉢 (口-胴中部)	*	残21.8	残27.8	—	—	1/10口-底部		褐色	322
140-814	134	大型深鉢 (口-胴下部)	*	残23.4	残29.0	—	—	1/10口-底部	2	にぶい赤褐色	319
146-836	136	大型深鉢 (胴上部-胴中部)	GW-016住	残17.6	残21.0	—	—	*	縄文中期	にぶい褐色	327
—	—	小型平底丸胴鉢 (胴下部)	GW-0110住	残6.0	残12.2	—	—	1/10口-底部		にぶい黄褐色	561
149-851 ^a _b	136	小型深鉢 (口-胴下部)	HⅡ-012住	残10.0	残15.2	—	—	1/10口-底部		にぶい褐色	380
153-855	136	大型深鉢 (胴下-底部)	HⅡ-011住	残8.2	—	横8.6	—	1/10口-底部		褐色	579
156-856	137	大型深鉢 (口-胴中部)	HⅡ-012住	残23.4	残26.8	—	—	1/10口-底部		黒褐色	347
156-857	137	大型深鉢 (胴下部-底部)	*	残4.8	—	横8.0	—	1/10口-底部	8	暗灰色	346
156-858	—	大型深鉢 (胴部)	*	残20.6	—	—	—	*		灰褐色	343
156-859	137	大型深鉢 (口-胴上部)	*	残10.4	残27.9	—	—	1/10口-底部	2-1, 5-1	褐色	343
156-860	137	*	*	残16.6	残27.8	—	—	1/10胴上-底部		にぶい褐色	342
156-861	137	大型深鉢 (胴部)	*	残8.4	—	—	—	1/10口-底部		褐色	344
156-862	137	大型深鉢 (口-胴上部)	*	残17.9	残34.0	—	—	1/10口-底部		黒褐色	356
157-863	137	大型台付深鉢	*	残34.0	残33.4	—	25,500	1/10口-脚部	017住-01-2-1 砂鉢5-1, 1-1, 1-2	暗褐色	354
157-864	137	小型深鉢 (口-胴上部)	*	残6.3	残12.5	—	—	1/10口-底部	1-3-2	灰青色	332
157-865	138	高台付小型深鉢	*	残15.0	12.3	—	1,300	1/10口-高台		にぶい赤褐色	328
157-866	138	小型深鉢 (口-胴中部)	*	残10.7	残14.7	—	—	1/10口-底部		灰青褐色	330
157-867	139	小型深鉢	*	残10.5	残13.8	—	—	1/10口-底部		にぶい黄褐色	338

図面番号	写真番号	部 種	出土遺構	断面	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	組合 関係	色 調	型式 番号
157-866	130	小型深鉢 (口-胴部)	日原-012住	径17.4 17.4	12.4	5.7	1,190	口-胴部		にぶい褐色	329
157-869	138	小型深鉢 (口-胴部)	*	径14.8	径16.8	—	—	口-底部	+日原類	にぶい褐色	366
158-870	136	小型浅鉢	*	径7.2	—	4.4	—	口-胴部	(横間塚)+日原類	暗灰黄色	337
158-871	138	小型中鉢 (尹丸形)	*	6.7	6.4	5.2	150	口-胴部	(*)埋1	黒褐色	338
158-872	138	小型浅鉢	*	6.8	15.7	4.7	600	口-底部	HW、GM類、FV-011住	にぶい黄色	336
158-873	138	小型深鉢	*	10.1	7.2	3.5	250	口-底部	丸?	灰褐色	334
158-874	136	超小型浅鉢	*	1.8	4.8	2.0	30	口-底部		にぶい褐色	357
158-875	138	小型深鉢 (口-胴上部)	*	径7.9	径14.9	—	—	口-底部		灰褐色	331
158-876	138	*	*	径6.3	径20.0	—	—	口-底部		褐色	333
158-877	138	中型深鉢	*	径11.5	径18.9	—	—	口-底部		灰褐色	339
158-878	138	小型無文土器 下く丸蓋	*	15.2	10.1	7.0	1,200	口-底部		褐色	341
158-879	130	注口土器 (口-胴中部)	*	径9.0	—	丸底	2,300+0	口-底部		オリーブ黄色	355
158-880	—	注口土器 (口底部)	*	径4.6	径12.0	—	—	口-底部		にぶい黄褐色	353
158-881	130	注口土器	*	12.4	13.5	丸底	1,100	口-胴部	13	褐色-黒褐色	349
158-882	130	*	*	径10.4 -11.3	15.0	*	1,300	口-胴部	10	灰黄色	350
158-883	130	中型無文土器 (口-胴下部)	*	径16.5	14.2	—	2,500	口-底部		明赤褐色 黄色	340
158-884	—	注口土器 (口底部)	*	径5.4	径8.0	—	—	口-底部		にぶい褐色	352
158-885	—	注口土器 (口-胴下部)	*	径13.6	—	—	1,000+0	口-底部		にぶい赤褐色	351
168-959	145	くびれ付大型深鉢 (口-胴上部)	JV-011住	径10.7	径26.4	—	—	口-底部		褐色	529
168-980	145	大型深鉢 (口-胴上部)	*	径5.3	—	9.1	—	口-底部		*	585
171-961	145	小型丸形蓋 (口-胴上部)	JV-012住	径6.7	8.1	—	—	口-底部	(横間塚) 高3	にぶい黄褐色	541
168-962	145	くびれ付大型深鉢 (口-胴下部)	JV-011住	径35.0	径35.6	—	—	口-底部		にぶい褐色	530
171-963	145	小型深鉢	*	15.4	径14.8	6.5	1,100	口-胴部	(横間塚)	にぶい褐色	537
171-971	146	小型丸形蓋 (胴上部-底部)	JV-011住	径10	—	6.6	600+0	口-底部	(*)	にぶい黄褐色	549
171-972	146	くびれ付 大型深鉢	*	26.2	33.8	10.6	6,500	口-胴部		褐色	543
171-973	146	*	*	34.5	径31.8	13.6	—	口-胴部		浅黄褐色	543
171-974	146	小型丸形蓋	*	9.7	5.4	5.0	250	口-底部	横間塚(内部)	にぶい黄褐色	539
171-975	146	小型深鉢 (胴下部-底部)	*	11.0	径10.8	6.5	500	口-胴部		にぶい黄褐色	536
—	—	大型深鉢	*	径7.7	16.7	—	—	完形	第2層、縄文後期前葉	にぶい黄褐色	531、 532
182-1020	150	くびれ付 小型深鉢	KV-012住	13.8	14.5	6.8	1,050	口-胴部	(横間塚)	にぶい褐色	813
182-1021	150	大型深鉢 (口-胴上)	*	径12.4	径30.0	—	—	口-底部		褐色	518
182-1022	150	小型無文深鉢	*	6.0	径7.3	3.5	100	口-胴部		にぶい褐色	517
182-1023	—	小型無文丸形蓋 (胴上-底部)	*	径10.4	—	5.0	450	口-底部		褐色	516
185-1025	150	高台付無文土器	L.V-建物跡	9.4	10.0	8.5	150	底部		褐色	508
218-1028 ^a c	151	つばみ口、くび れ付丸形小深鉢	玉置-021P	11.15	4.1	4.1	600	口-底	(横間塚) E2、3、3、3、3	灰黒-黒褐色	642
219-1027	151	くびれ付大型深鉢 (口部)	日原-021P	径7.8	径28.8	—	—	口-底部		にぶい褐色	567
219-1038	151	くびれ付小深鉢 (口-胴上)	*	径14.9	径24.8	—	—	口-底部		にぶい褐色	568
220-1045	—	小型無文深鉢	日原-210P	9	9	4.8	300	口-底部		にぶい赤褐色 黒褐色	550
220-1046	152	大型深鉢	日原-091 埋マノP	径32.1	—	6.3	13,000	口-胴部		にぶい黄褐色	548
221-1049	152	大型深鉢 (口-胴中)	日原-022P	径30.0	径34.3	—	—	口-底部		浅黄褐色	571
221-1050	152	*	*	径28.5	径27.2	—	—	口-底部		にぶい黄褐色	572

図面番号	写真番号	群 種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接 合 関 係	色 調	整理 番号
221-1081	153	小型 深鉢	HⅡ-022P	14.8 口径17.2	6.7	5.7	1,600	1/10口~胴部		褐色	606
221-1082	153	小型(五分六分)口付深鉢	*	7.0	6.1	4.0	300	1/10口~底部	HⅡ区P1:	12.25黄褐色	575
221-1083	—	中型 深鉢 (胴下~底部)	*	径4.5	—	6.3	—	1/10口~胴部		褐色	573
221-1084	—	*	*	径7.9	—	4.7	—	1/10口~胴部	HⅡ区P1:	12.25黄褐色	576
221-1085	153	小型 深鉢	*	10.5	径12.0	5.2	600	1/10口~胴部		12.25黄褐色	607
221-1086	153	小型高台付深鉢	*	径11.4	径13.5	—	700	1/10口~高台		12.25黄褐色	608
221-1087	153	小型広口浅鉢 (口~胴上)	*	径6.8	径16.3	—	—	1/10口~底部		灰黄褐色	574
221-1088	153	大型 深鉢	IⅤ-021P	径23.3	径29.0	—	—	1/10口~底部		12.25黄褐色	596
222-1063	154	双広口浅鉢	JⅤ-023P	8.2	径18.2	3.5	450	1/10口~胴部		12.25黄褐色	527
222-1066	154	台付小型浅鉢	JⅤ-024P	径10.7	19.8	径6.0	1,450	1/10口~胴部		灰黄褐色	538
222-1069	154	(5分口, 中胴部) (口~胴中部)	JⅤ-024P	径17.4	径17.2	—	—	1/10口~底部	(継ぎ目)	灰黄褐色	545
222-1070	154	(5分口, 中胴部) (口~胴上部)	*	径13.5	径19.4	—	—	1/10口~底部		12.25黄褐色	544
224-1071	155	中型無文 広口浅鉢	JⅤ-028P	16.1	径25.8	8.0	4,500	1/10口~胴部	太多量着付	12.25赤褐色	546
224-1072	155	小型割取広口壺	*	14.3	9.8	5.4	1,100	1/10口~胴部	*	灰黄褐色	547
224-1073	155	小型無文丸胴壺	*	9.6	7.8	4.0	300	1/10口~胴部		褐色	548
224-1076	155	小型 深鉢 (口~胴下)	KⅣ-025P	径15.7	19.4	—	径20.1 2,500	1/10口~底部		灰黄褐色	519
225-1083	156	大型 深鉢 (口~胴中部)	GⅡ-093 浅鉢	径14.5	26.0	—	—	1/10口~底部		12.25赤褐色 ~12.25黄褐色	274
225-1084	156	中型無文浅鉢 (胴下部~底部)	*	径5.7	—	9.5	—	1/10口~底部		12.25黄褐色	269
225-1085	156	大型 深鉢 (胴下部~底部)	*	径10.5	—	6.8	—	1/10口~胴部		灰褐色	276
225-1086	156	中型無文浅鉢 (胴下部~底部)	*	径6.3	—	径10.0	—	1/10口~底部		12.25赤褐色	294
225-1087	156	大型丸胴壺 (胴部)	*	径6.7	—	13.2	—	1/10口~胴部		12.25赤褐色	289
225-1088	156	大型丸胴壺 (胴上部)	*	径10.8	—	—	—	1/10口~底部		オリーブ褐色	288
225-1089	156	大型 浅鉢 (口~胴上部)	*	径16.5	径24.8	—	—	*		12.25赤褐色	617
225-1090	156	大型 深鉢 (口~胴部)	*	径6.9	径26.4	—	—	*		12.25褐色	277
225-1091	156	大型 深鉢 (口~胴上部)	*	径15.4	径31.2	—	—	*		浅灰色色	306
225-1092	156	*	*	径8.7	径29.0	—	—	*	B-1-1, 欠-47-1	灰オリーブ色	275
225-1093	157	大型 浅鉢 (口~胴中部)	*	径14.4	—	—	—	1/10口~底部	1-7, 欠-20, 欠-22	12.25黄褐色	285
225-1094	—	大型 深鉢 (口~胴中部)	*	径28.8	径30.0	—	—	1/10口~底部	7, 1-6, 欠-50-2	12.25赤褐色	273
225-1095	—	大型 深鉢 (口~胴下部)	*	径27.5	27.8	—	—	1/10口~底部	13	褐色	272
226-1096	157	小型 深鉢	*	径13.0	径14.0	3.8	—	1/10口~底部	欠-41, 欠43, 欠39-2	12.25黄褐色 ~黄褐色	254
226-1097	157	小型 深鉢 (口~胴中部)	*	径5.5	径11.4	—	—	*	B, イ-15, 欠-26	灰褐色	276
226-1098	157	*	*	径8.7	径10.5	—	—	1/10口~底部		赤褐色 ~黄褐色	255
226-1099	157	小型 深鉢 (口~胴上部)	*	径6.5	径12.3	—	—	1/10口~底部		黒褐色	259
226-1100	157	小型 深鉢 (口~胴上部)	*	径5.4	径14.0	—	—	1/10口~底部		12.25褐色	258
226-1101	156	小型 深鉢 (胴~底部)	*	径7.2	—	5.7	—	1/10口~胴下部		明褐色 ~黄褐色	260
226-1102	157	中型 中鉢 (口~胴中部)	*	径11.2	径19.4	—	—	1/10口~底部	10, 48, 欠-64	12.25黄褐色	267
227-1103	—	小型台付浅鉢 (胴下部~胴部)	*	径8.4	—	5.2	—	1/10口~胴部		12.25褐色	250
227-1104	—	小型 深鉢 (口~胴上部)	*	径6.6	径14.0	—	—	1/10口~底部		灰褐色	257
227-1105	158	小型無文深鉢	*	14.5	径13.9	5.2	1,250	1/10口~胴部		12.25黄褐色	261
227-1106	158	中型台付深鉢	*	20.2	19.5	19.7	2,900	1/10口~胴部	1-4, 5-5, 9-4 6, 2, 欠47-1~56		240
227-1107	158	超小型無文壺	*	9.3	径8.8	1.7	250	1/10口~胴部	7+G継ぎ	明褐色	299

図版番号	写真番号	部 種	出土遺構	跡高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	組合關係	色 調	整理 番号
227-1108	158	小型台付深鉢 (口-胴上部)	GII-061 埋没部	残 9.9	13.4	—	0.700	口-首部		12.20+褐色 -灰褐色	245
227-1109	158	小型台付浅鉢 (口-胴下部)	*	残 6.2	横13.6	—	—	口-腹部		12.20+褐色	284
227-1110	—	中型無文深鉢 (口-胴下部)	*	残17.0	横18.9	—	—	口-腹部		黄褐色	258
227-1111	158	小型深鉢 (口-胴上部)	*	残 14.1	12.4	7.2	1,000	口-腹部		褐色- 12.20+黄褐色	253
229-1112	159	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残12.5	23.8	—	—	口-腹部	7-2, 欠-26, 6-6, 欠-37 (埋没部)	灰 褐色	265
229-1113	158	小型深鉢 (口-胴上部)	*	残 8.0	横18.0	—	—	口-腹部	欠-1, 欠-61, 41-1	12.20+褐色	619
229-1114	159	小型台付深鉢 (口-胴上部)	*	15.0	14.4	5.5	1,250	口-腹部	(埋没部) 15-1, 欠-52-2 G且組, 欠-15	12.20+赤褐色 -灰褐色	243
229-1115	159	中型深鉢 (胴上-胴下部)	*	残 6.5	16.8	—	—	口-腹部	101, 9-8, イ-15, イ-10	黄褐色	266
229-1116	158	小型台付深鉢 (胴上-胴下部)	*	残 5.8	—	—	—	口-腹部	11, 欠66	12.20+褐色	248
229-1117	159	小型台付浅鉢 (口-胴上部)	*	残 6.4 -5.9	9.3	—	—	口-腹部	1-2-4, ナ-9	橙 色	247
230-1118	—	小型台付浅鉢	*	残 4.6	—	—	—	口-腹部	欠31, イ-22	12.20+褐色	249
230-1119	158	小型台付深鉢 (口-胴下部)	*	11.0	5.8	6.2	200	口-腹部	イ-15, イ-28, 欠-16 欠55-20	12.20+黄褐色	246
230-1120	158	小型台付浅鉢 (口-胴上部)	*	残 4.2	8.6	—	—	口-腹部		12.20+赤褐色	252
230-1121	158	小型高台付浅鉢	*	7.4	11.5	横 5.1	450	口-高台	49, 95-1, 欠42	12.20+褐色	244
230-1122	158	小型台付深鉢 (口-胴上部)	*	残 8.8	—	—	—	口-腹部	(埋没部) 62, 3-4, 欠-2	12.20+赤褐色	251
236-1123	159	小型浅鉢	*	6.7	12.2	3.8	400	口-腹部	(埋没部) 9-5-1, 欠-79, 欠-94-1	12.20+黄褐色 -灰黄褐色	278
236-1124	159	*	*	4.3	10.2	—	250	口-胴部	(埋没部)	灰 褐色	280
236-1125	159	小型丸底浅鉢 (口-胴下部)	*	7.0	横11.8	丸底	350	口-胴部	51,	灰 黄色	279
236-1126	—	小型浅鉢 (口-胴上部)	*	残 6.9	横13.9	*	600	口-底部	1+7+GII-012値	灰 褐色	284
236-1127	160	超小型無文深鉢	*	5.7- 5.2	8.0	2.6	100	口-胴部	手付(イ イ-12, ナ-20	灰黄褐色	263
236-1128	—	*	*	5.0	横 5.0	3.0	50	口-底部	ナ-15	12.20+褐色	262
236-1129	160	*	*	2.6	横 4.3	横 2.0	10	口-底部		灰 黄色	264
236-1130	159	中型台付 無文浅鉢	*	14.4	横22.6	9.2	2,400	口-底部		明赤褐色	241
236-1131	160	*	*	8.5	16.9	7.8	900	口-胴部		浅黄褐色	242
240-1132	160	小型丸底浅鉢	*	5.5	横15.0	5.0	600	口-胴部	7-欠-84-5 G且-1組, G且-012値	明 褐色	262
240-1133	160	*	*	5.9	横18.3	8.1	900	口-胴下部	7-欠-61	12.20+褐色	281
240-1134	160	中型長胴器	*	25.8	横12.0	9.0	4,100	口-胴部	欠-45-1, 欠86	12.20+黄褐色	286
240-1135	160	中 型 蓋	*	残 5.3	横 8.8	—	—	*	*	*	(68) 1536
240-1136	160	中型高台付浅鉢 (胴上部-胴部)	*	横 9.25	—	—	—	口-胴部		12.20+褐色	271
240-1137	160	中型深鉢 (胴下部-底部)	*	残 7.0	—	横 7.0	—	口-底部		褐 色	270
240-1138	—	小型丸底器 (胴上-底部)	*	残12.5	横17.4	—	—	口-胴部		12.20+赤褐色	618
241-1139	160	中型丸底器 (口-胴上部)	*	残 6.1	横 9.5	—	—	口-底部		12.20+赤褐色	259
241-1140	160	中型無文器 (胴 部)	*	残16.7	—	—	—	口-底部		12.20+黄褐色	256
241-1141	160	小型丸底器 (胴上-胴下部)	*	残14.7	—	—	—	口-底部	9,	12.20+褐色	267
241-1142	161	小型蓋口器	*	11.7	5.1	4.1	400	口-底部	定形 No11	12.20+黄褐色 -明褐色	305
241-1143	161	小型無文手洗鉢	*	9.7	8.3	6.0	350	口-胴部		12.20+赤褐色	281
241-1144	161	小型無文器	*	残12.9	—	6.1	—	口-胴部	7-下部-011値 G且-011値	12.20+褐色	285
241-1145	161	中型無文器 (胴下部-底部)	*	残 7.5	—	5.0	—	口-底部		12.20+赤褐色	255
241-1146	—	小型無文手洗器 (口-胴上部)	*	残 5.6	横 6.0	—	—	口-胴部	10,	*	252
241-1147	161	小型下斗(丸底)	*	残16.3	7.0	11.0	750	口-底部	2, 9, 5, ナ-18, 29, 88	暗黄褐色 -灰褐色	297
241-1148	161	小型無文浅鉢 (胴上-底部)	*	残 6.5	—	丸底	—	口-胴部	8-2, 54	明赤褐色- 褐色	289

図例番号	写真番号	部 種	出土遺跡	器高	口径	胴径	容量	残存部位 残存割合	備 考 附 録	色 調	整理 番号
241-1149	161	小型長頸直 (口・直部)	CII-061 池原跡	98 9.4	9.4	—	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	8、縄文前期	12.2a・黄褐色	298
242-1150	161	注口土器	*	14.1	9.4	丸底	1,000	$\frac{1}{10}$ 口・直部	*	*	302
242-1151	161	*	*	22.0	7.4	1.6	500	$\frac{1}{10}$ 口・直部	4-5、5-5、縄文後期	明赤褐色	300
242-1152	161	*	*	22.1	9.2	丸底	1,100	$\frac{1}{10}$ 口・直部	31、1-3、6-2 欠-25、欠-5、欠-33	褐色	301
252-1297	169	小型台付中鉢	I III-061 池原跡	7.9	9.7	6.0	200	$\frac{1}{10}$ 口・直部	*	橙	589
252-1298	169	中型長頸直 (胴上・直部)	MW-061 池原跡	22.4	7.0	7.5	2,700	$\frac{1}{10}$ 口・直部	*	*	612
252-1299	169	中型長頸直 (胴上・胴中)	*	18.2	7.5	丸底	2,100	$\frac{1}{10}$ 口・直部	12.2a・赤褐色	611	
252-1300	170	小型丸頸直	*	13.8	7.2	4.8	1,050	$\frac{1}{10}$ 胴 部	12.2a・黄褐色	510	
252-1301	170	中型台付中鉢 (口・胴下部)	*	12.5	18.0	—	1,300	$\frac{1}{10}$ 口・胴部	褐色	610	
254-1302	170	大型深鉢 (口・胴中)	*	22.1	18.5	—	—	$\frac{2}{10}$ 口・直部	12.2a・褐色	598	
254-1303	170	高台付浅鉢	*	7.5	9.6	6.4	200	$\frac{1}{10}$ 胴 部	暗黄褐色	511	
254-1304	170	台付小型鉢	*	4.0	—	7.2	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	19 99 十	橙 色	1863 1584
255-1316	171	大型深鉢 (口・胴中部)	F III-082 池原跡	16.2	17.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口・直部	灰黄褐色	359	
255-1317	171	小型中鉢 (口・直部)	*	8.0	—	—	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	橙 色	360	
7-1411	178	大型深鉢 (胴部)	F III-082 池原跡	26.7	—	—	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	12.2a・褐色	491	
7-1412	178	大型深鉢 (胴上・直部)	*	12.4	—	7.2	—	$\frac{1}{10}$ 直部	*	492	
7-1413	178	中型無文深鉢	*	23.5	11.3	—	(水) 4,500	$\frac{2}{10}$ 口・直部	12.2a・褐色	483	
7-1414	178	中型中鉢 (口・直部)	*	10.1	21.1	—	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	灰黄褐色	480	
7-1415	178	中型深鉢 (口・胴上部)	*	4.6	20.6	—	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	褐色	481	
7-1416	179	小型深鉢 (胴上・直部)	*	10.1	13.0	—	1,250	$\frac{1}{10}$ 口・直部	(筑前国) 欠2-1	橙 色	476
7-1417	—	小型深鉢 (胴上・直部)	*	15.4	14.0	7.0	1,900	$\frac{1}{10}$ 口・直部	80年度試掘	12.2a・褐色	615
7-1418	—	小型台付浅鉢 (口・胴上部)	*	12.6	22.3	—	—	$\frac{2}{10}$ 口・直部	*	479	
7-1419	179	小型高台付浅鉢 (胴上・胴部)	*	6.3	—	4.6	150+40	$\frac{1}{10}$ 口・直部	灰黄褐色	474	
7-1420	179	小型高台付浅鉢	*	10.9	7.3	500	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	褐色	475	
7-1421	179	小型中鉢 (口・胴下部)	*	14.7	15.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口・直部	褐色	477	
7-1422	179	中型広口浅鉢	*	10.0	13.7	5.6	1,750	$\frac{2}{10}$ 口・直部	欠2-1	12.2a・褐色	473
7-1423	179	小型浅鉢	*	5.1	16.1	—	700	$\frac{1}{10}$ 口・直部	灰 褐色	487	
7-1424	—	小型広口浅鉢 (胴上・直部)	*	3.7	—	5.8	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	12.2a・黄褐色	469	
7-1425	179	小型深鉢 (胴上・直部)	*	6.7	—	5.0	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	灰黄褐色	478	
6-1426	180	小型くびれ付 丸底浅鉢	*	7.7	15.5	6.5	600	$\frac{1}{10}$ 口・直部	(筑前国)	12.2a・黄褐色	484
6-1427	179	小型丸頸直 (口・胴上部)	*	10.1	7.7	—	—	$\frac{1}{10}$ 胴上・直部	*	560	
6-1428	180	中型丸頸直 (胴上・胴中部)	*	10.5	—	—	2,000	$\frac{1}{10}$ 口・直部	12.2a・褐色	484	
6-1429	179	小型注口土器	*	9.0	6.8	丸底	200	$\frac{1}{10}$ 口、注口	12.2a・褐色・ 12.2a・黄褐色	485	
6-1430	180	小型無文鉢	*	5.7	12.0	4.0	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	赤 褐色	643	
6-1431	179	小型無文浅鉢	*	6.0	16.2	5.3	600	$\frac{1}{10}$ 口・直部	灰黄褐色	472	
6-1432	179	小型無文浅鉢 (胴上・胴下部)	*	4.0	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口・直部	12.2a・褐色	552	
6-1433	179	小型くびれ付 (口・胴上部)	*	4.8	16.5	—	—	$\frac{1}{10}$ 口・直部	*	486	
6-1434	180	超小型中鉢	*	1.9	—	2.2	16	$\frac{1}{10}$ 口・胴部	明赤褐色	489	
6-1435	—	超小型無文浅鉢 (口・胴下部)	*	3.9	2.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口・直部	*	490	
6-1436	180	広口外反 浅鉢	*	5.8	12.5	7.6	350	*	(筑前国) 80年度試掘	淡赤・棕色	614
6-1437	179	小型深鉢 (口・胴中部)	*	9.7	19.0	8.6	1,800	$\frac{1}{10}$ 口・直部	12.2a・褐色	471	

図版番号	写真番号	器 種	出土遺跡	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	検 合 関 係	色 調	整理番号
5-1438	—	くびれ付 大口小型浅鉢 (口-胴上部)	下田一組Ⅱ	残5.7 ^{cm}	底19.6 ^{cm}	— ^{cm}	— ^{cc}	$\frac{1}{10}$ 口-底部		明赤褐色	470
5-1439	180	中型丸胴直口鉢 (口-胴上部)	*	残5.7	底10.4	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		にじみ黄褐色	483
5-1440	180	広口扁平盥	*	7.9	11.5	6.0	400	$\frac{5}{10}$ 口-底部		にじみ褐色	495
5-1441	180	細小型直口土器 (胴及び底部)	*	残2.1	—	丸底	—	$\frac{5}{10}$ 口-胴上部		にじみ黄褐色	488
22-1629	191	中型深鉢 (口-胴上部)	G田一組Ⅱ	残13.5	底26.3	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		*	620
22-1630	191	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残13.0	底27.2	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		にじみ黄褐色	222
22-1631	191	大型深鉢 (胴下部-底部)	*	残10.0	—	10.0	—	$\frac{5}{10}$ 口-底部		にじみ黄褐色 →明褐色	236
22-1632	191	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残6.0	底19.6	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		暗褐色	234
22-1633	192	小型深鉢 (口-胴上部)	*	残7.3	底14.6	—	—	*		にじみ赤褐色	505
22-1634	192	小型中鉢 (口-胴下部)	*	残9.3	底15.0	—	—	$\frac{5}{10}$ 口-底部		淡黄色	311
22-1635	191	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残7.1	22.4	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		灰黄褐色	223
22-1636	—	中型深鉢	*	残13.5	底20.8	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		にじみ褐色	220
22-1637	191	大型深鉢 (胴下部-底部)	*	残8.1	—	8.0	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		明赤褐色 →淡黄色	225
22-1638	192	くびれ付小型深鉢 (口-胴上部)	*	残18.4	底16.0	—	—	$\frac{5}{10}$ 口-底部		褐色	238
22-1639	191	くびれ付中型深鉢 (口-胴上部)	*	残10.9	底20.4	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		赤褐色	217
23-1640 ^a _b	192	小型深鉢 (口-胴上部)	*	残5.9	底13.6	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-胴上部	(横割面)	灰黄褐色	314
23-1641	192	小型深鉢 (胴上-底部)	*	残7.7- —8.4	—	6.5	—	$\frac{5}{10}$ 口-底部		灰黄褐色	312
23-1642	192	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残4.1	底19.0	—	—	$\frac{5}{10}$ 口-底部		暗褐色	223
23-1643	192	小型深鉢 (口-胴上部)	*	残9.5	15.0	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		灰黄褐色	219
23-1644	192	小型浅鉢	*	残5.9	底14.7	底5.0	450	*	A5グリット	にじみ黄褐色	303
23-1645	192	小型浅鉢 (胴上部-底部)	*	残5.6	—	底5.2	—	$\frac{5}{10}$ 口-底部		*	309
23-1646	192	小型浅鉢 (口-胴部)	*	残5.2	底19.0	—	1,100	$\frac{1}{10}$ 口-底部		暗灰色	310
23-1647	193	小型台付浅鉢 (口-胴上部)	*	残6.0	底12.4	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-胴部		にじみ黄褐色	307
23-1648	192	小型台付浅鉢 (口-胴部)	*	残8.0	底14.1	—	—	*		にじみ黄褐色 →赤褐色	308
23-1649	192	中型丸胴直 (胴上-胴下部)	*	残14.7	—	—	—	$\frac{5}{10}$ 口-底部		にじみ褐色 →赤褐色	315
23-1650	192	中型丸胴直 (口-胴中部)	*	残12.6	底6.3	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		にじみ褐色	623
38-1803	201	大型直鉢	GⅡ一組Ⅱ	残28.6	底33.1	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		にじみ黄褐色	361
38-1804	201	大型直鉢	*	残21.0	底30.0	—	—	$\frac{5}{10}$ 口-底部		暗褐色	362
38-1829	203	小型深鉢 (口-胴下)	H田一組Ⅱ	残14.7	底18.9	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		にじみ褐色	504
38-1830	203	小型直鉢	*	11.3	11.6	3.8	650	$\frac{1}{10}$ 口-底部	C-8、グリット	黒褐色	551
38-1831	203	浅口土器	*	残4.5	—	丸底	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		暗黄褐色	566
38-1832	203	小型台付浅鉢 (胴部)	*	残4.3	—	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-胴部 + H田一組Ⅱ	メ	にじみ褐色	565
50-1947	211	大型深鉢 (口-胴部)	HⅡ一組Ⅱ	残28	—	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部	19グリット	明黄褐色	622
50-1948	211	中型深鉢	*	22.1	底23.7	8.2	(表) 5,500	$\frac{5}{10}$ 口-底部		暗褐色	373
50-1949	212	中型深鉢 (口-胴上部)	*	残8.8	底19.0	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部	+ GⅡ-017Ⅱ, 埋土目	暗褐色	374
50-1950	211	小型台付浅鉢	*	残9.2	底17.4	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-胴部		にじみ褐色	367
50-1951	211	大型深鉢 (胴中-底部)	*	残19.6	—	6.5	—	$\frac{1}{10}$ 口-胴部	C9グリット	にじみ黄褐色	633
50-1952	211	小型深鉢	*	11.3- 12.3	底14.2	5.2	900	$\frac{1}{10}$ 口-胴部		明赤褐色 →にじみ	581
50-1953	212	小型深鉢 (口-胴中部)	*	残8.2	16.6	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		暗褐色	369
50-1954	212	小型台付浅鉢 (口-胴下部)	*	残8.5	底18.1	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-胴部		暗褐色	577
50-1955	211	小型深鉢	*	9.1	底12.8	5.0	700	$\frac{1}{10}$ 口-胴部	+ GⅡ-017Ⅱ, GⅡ-014Ⅱ	にじみ褐色	363

図説番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	整合関係	色調	図説番号
50-1956	211	小型深鉢 (口-胴上部)	HⅡ層-相模	残5.1	残16.0	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		棕色	583
50-1957	211	小型浅鉢	*	残5.2	残8.1	3.9	100	$\frac{55}{100}$ 口-胴部	+GW-017注	12.2の黄褐色 -黒褐色	366
50-1958	212	小型深鉢 (口-胴中部)	*	残4.2	残8.2	—	200	$\frac{30}{100}$ 口-底部		12.2の黄褐色	370
50-1959	211	小型深鉢	*	残10.0	残4.6	3.0	350	$\frac{10}{100}$ 口-底部		12.2の棕色	582
50-1960	212	小型台付浅鉢 (口-胴下部)	*	残7.7	残18.3	—	1,050	$\frac{35}{100}$ 口-胴部		明黄色	578
50-1960b	—	小型台付浅鉢 (口-胴部)	*	残8.3 -9.4	残14.4	—	650	$\frac{6}{10}$ 口-胴部	(展開図)+GW-017注 GW-018, GⅡ-1P	明黄色 -黒色	364
50-1962	212	小型台付浅鉢	*	10.6	14.9	残5.9	650	$\frac{7}{10}$ 口-胴部	+GW-011注	棕色	363
50-1963	212	小型深鉢	*	9.0	残10.9	残4.8	400	$\frac{30}{100}$ 口-底部	GW-011注	12.2の黄褐色	371
50-1964	212	小型台付浅鉢 (口-胴下部)	*	残4.2	残12.4	—	—	$\frac{2}{100}$ 口-胴部		12.2の棕色	379
49-1965	215	小型台付浅鉢 (口-胴上部)	*	残5.8	残18.4	—	—	*		黄褐色	368
49-1966	212	中型無文浅鉢	*	8.5	残20.5	残5.7	1,700	$\frac{20}{100}$ 口-底部	G9グリット	12.2の黄褐色	634
49-1967	212	小型口付浅鉢 (口-胴中)	*	残4.6	残14.7	—	—	$\frac{2}{100}$ 口-底部		明黄色	580
49-1968	212	超小型 無文長脚蓋	*	5.7	残2.3	3.0	50	$\frac{5}{100}$ 口-胴上		12.2の赤褐色	584
49-1969	212	大型丸脚蓋 (胴-胴上部)	*	残5.5	—	—	—	$\frac{1}{100}$ 口-底部		暗褐色	372
49-1970	212	口付土器 (口-胴下-胴上部)	*	残7.4	—	丸底	—	$\frac{1}{100}$ 口-底部		12.2の黄褐色	375
61-2113	221	大型深鉢	HⅤ-相模	残10.3	残27.6	—	—	$\frac{1}{100}$ 口-底部		棕色	589
61-2114	221	大型深鉢 (胴下-底部)	*	残9.9	—	7.2	—	$\frac{15}{100}$ 口-胴部		12.2の黄褐色	601
65-2141	222	中型台付浅鉢 (胴部)	IⅡ層-相模	残20.6 +8	残29.3	16.0	3,850	$\frac{30}{100}$ 口-胴部	F7.8グリット	棕色	628
65-2142	—	小型台付浅鉢 (胴部)	*	残4.9	—	8.1	—	$\frac{10}{100}$ 口-胴部		12.2の赤褐色	629
65-2143	223	小型深鉢	*	6.6	残8.6	3.6	200	$\frac{30}{100}$ 口-胴部	F7グリット	12.2の黄褐色	623
65-2144	222	小型深鉢 (胴下-底部)	*	残5.1	—	4.9	—	$\frac{8}{100}$ 口-胴部		灰褐色	595
65-2145	223	小型深鉢	*	10.25 -11.7	残15.8	5.5	900	$\frac{10}{100}$ 口-胴部		12.2の橙- 灰褐色	592
65-2146	—	大型深鉢 (胴上-底部)	*	残29.4	残26.8	残8.8	9,400	$\frac{3}{100}$ 口-胴部	F7グリット	棕色	630
65-2147	223	小型深鉢 (口-胴下部)	*	残10.0	残16.6	—	—	$\frac{8}{100}$ 口-底部	G7グリット	灰黄色	620
65-2148	223	大型深鉢 (胴上-胴部)	*	残20.0	残29.0	—	—	$\frac{10}{100}$ 口-底部		12.2の黄褐色	594
65-2149	223	小型丸脚蓋 (胴上-胴部)	*	残9.7	—	残6.7	—	$\frac{3}{100}$ 口-底部	G8グリット	棕色	627
66-2150	223	くびれ付大型深鉢 (口-胴部)	*	残6.8	残20.6	—	—	$\frac{1}{100}$ 口-底部		12.2の棕色	593
66-2151	—	口付土器 (胴中-底部)	*	残4.6	—	丸底	—	$\frac{3}{100}$ 口-底部	F7.8グリット	褐色	624
68-2170	224	大型深鉢	IⅤ-相模	28.8	19.8	残12.5	7,000	$\frac{5}{100}$ 口-底部	D6グリット	棕色	631
68-2171	224	大型深鉢 (口-胴中)	*	残21.4	残22.1	—	—	$\frac{15}{100}$ 口-底部		12.2の棕色	597
68-2172	224	小型台付浅鉢 (口-胴部)	*	残8.4	残16.6	—	—	$\frac{10}{100}$ 口-胴部	D2グリット	12.2の黄褐色	609
68-2173	224	中型深鉢 (胴中-底部)	*	残9.6	—	—	—	$\frac{10}{100}$ 口-底部	C3グリット 編文後期前葉	12.2の棕色	635
68-2174	224	小型丸脚蓋	*	残11.6	—	残5.8	—	$\frac{3}{100}$ 口-底部	D9グリット	棕色	602
68-2175	224	小型無文蓋	*	残6.4	—	7.3	—	$\frac{2}{100}$ 口-底部	H5グリットまとめ	灰黄色	636
70-2252	—	大型深鉢	IⅤ-相模	残24.0	—	—	—	$\frac{10}{100}$ 口-底部	編文前期	12.2の黄色	654
70-2253	—	大型深鉢 (口-胴)	*	残25.2	残27.4	—	—	$\frac{10}{100}$ 口-底部		黄褐色	637
70-2254a	230	小型深鉢	*	18.8	残11.5	8.3	—	$\frac{2}{100}$ 口-胴部	(展開図) & 4グリット 編文前期前葉	12.2の棕色	639
70-2255	230	小型深鉢 (胴中部)	*	残12.2	—	—	—	$\frac{15}{100}$ 口-底部	A3グリット 編文前期前葉	12.2の黄褐色	638
70-2256	230	小型丸脚蓋 (口-胴上)	*	残7.5	残6.8	—	—	$\frac{5}{100}$ 口-底部	15グリット 編文後期前葉	12.2の棕色	640
80-2289	232	中型丸脚蓋口付 (口-胴上)	JⅡ層-相模	残3.7	13.1	—	—	$\frac{1}{100}$ 口-底部	α-3グリット	12.2の棕色	529
82-2303a	234	くびれ付大型深鉢 (口-胴上部)	JⅤ層-相模	27.0	21.3	10.5	6,800 6,750	$\frac{10}{100}$ 口-底部	(展開図)J-1グリット	12.2の赤褐色	526

図号番号	写真番号	部 種	出土遺構	壁厚	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	組合関係	色 調	図号番号
82-2304	233	くひれ付大甕鉢 (口-胴上部)	JⅤ-一般版	21.2 ^{cm}	— ^{cm}	— ^{cm}	— ^{cc}	$\frac{2}{10}$ 口-底部		にじい・褐色	587
82-2305	233	くひれ付大甕鉢 (口-胴下部)	*	径24.8	径29.2	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		にじい・黄褐色	586
82-2306	233	くひれ付大甕鉢 (口-胴上部)	*	径11.6	径20.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部	B-0グリット	にじい・褐色	525
82-2307	233	小 甕 深鉢 (胴中-底部)	*	径 8.6	—	6.0	—	$\frac{2}{10}$ 口-胴	A7グリット	緑 色	521
82-2308	234	中小型口浅鉢 (口-胴上部)	*	径 6.3	19.7	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部	(異同図)A-9グリット	にじい・褐色	523
82-2309	233	くひれ付中小型鉢 (口-胴上部)	*	径 7.5	径18.5	—	—	$\frac{15}{10}$ 高部	1-9グリット	赤 灰	524
82-2310	233	小型丸胴壺 (胴上-胴部)	*	径 9.0	—	径 7.4	径+φ	$\frac{20}{10}$ 口-底部		にじい・褐色	588
82-2311	233	小 甕 深鉢 (胴上-底部)	*	径 7.8	—	径 5.5	径+φ	$\frac{2}{10}$ 口-底部	C-5グリット	にじい・黄褐色	522
82-2312	233	中小型深鉢 (胴上-底部)	*	径10.4	径17.9	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		にじい・褐色	589
82-2313	233	中小型深鉢? (胴中-下部)	*	径17.2	—	—	—	$\frac{20}{10}$ 口-底部	縄文前期初?	緑 色	590
88-2376	238	くひれ付大甕鉢 (口-胴上部)	JⅤ-一般版	径14.0	径24.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部	g-8グリット	にじい・黄褐色	526
88-2379	238	*	*	径20.2	径24.9	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部	g-6グリット	にじい・黄褐色	526
88-2380	238	大 甕 深鉢 (胴中)	*	径19.1	径27.7	—	—	$\frac{1}{10}$ 口-底部		黄 褐色	604
88-2381	—	大 甕 深鉢 (胴上-底部)	*	径11.1	—	径 8.2	—	$\frac{15}{10}$ 口-底部	J-0グリット	にじい・黄褐色	534
88-2382	238	くひれ付中小型鉢 (口-胴上部)	*	径10.3	径19.9	—	—	$\frac{20}{10}$ 口-底部	J-g, g-3グリット	*	533
88-2383	238	中小型自在形深鉢 (底部-胴部)	*	径 5.3	径 5.4	径 3.0	—	$\frac{2}{10}$ 口-胴部	H2グリット	にじい・赤褐色	603
88-2384	238	小 甕 深鉢 (胴下-底部)	*	10.2	—	8.2	—	$\frac{20}{10}$ 口-胴部	I-0グリット	にじい・褐色	531
88-2385	238	小型丸胴壺	*	11.9	径 7.2	5.0	600	$\frac{2}{10}$ 口-底部	I-1グリット	緑 色	522
88-2386	238	小型丸胴壺 (口-胴上部)	*	径 7.5	径 7.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		にじい・褐色	591
96-2499	245	くひれ付大甕鉢 (口-胴上部)	KⅤ-一般版	径18.8	径32.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部	B-2グリット	灰 褐色	513
96-2500	245	*	*	径29.9	径31.2	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部	C-0グリット	にじい・黄褐色	514
96-2501	245	くひれ付小甕鉢 (口-胴中)	*	径10.3	径10	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部	A8グリット, 縄文後期初	にじい・黄褐色	605
102-2505	249	小 甕 深鉢 (胴中)	縄文一般版	径 6.8	—	4.8	—	$\frac{2}{10}$ 口-胴部	1-0グリット	にじい・黄褐色	512
105-2602	249	大 甕 深鉢 (口-胴中)	縄文一般版	24	径33.5	—	—	$\frac{20}{10}$ 高部		にじい・黄褐色 — 縄文期	613
108-2612	250	大 甕 深鉢 (口-胴上部)	近土用不明	径18.1	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		にじい・黄褐色 — 縄文期	609
108-2613	250	小 甕 深鉢 (口-胴上部)	*	径 8.7	18.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底部		にじい・黄褐色	381
108-2614	250	くひれ付大甕鉢	*	径 4.6	径19.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口-底		緑 灰色	650

第2表 土 製 品

図番番号	部 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重量	色 調	保存状況 残存割合	備 考	出土所 時代	整理 番号
66-406	(6-1) 円板状土製品	(6-1) F層-014位	4.6	4.5	0.8	21.00	鈍い黄緑 色		右上がり半部斜縁文付土器 部破片利用。煤付着。有孔。	縄文時代 晩期前葉	5793
72-422	土 器	F層-016位埋	6.7	9.9	6.9	215.00	鈍い黄 色	割 裂 部	中空。頸部破片。全面に亀裂 状の線状痕跡のこる。	縄文時代 後 期 ？	1150
75-448	円板状土製品	F層-017位	3.3	3.2	0.8	10.05	鈍い黄緑 色	定 形	左上がり半部斜縁文付土器 部破片。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5794
87-517	有孔半球状 土 製 品	F層-0112位	3.4	3.8	1.6	22.44	黒 緑 色	1 1 塊	断面中四角の隅部引。平らな 面の中央部に貫通しない孔一。 手捏成形。無文。	？	5812
92-554	(集まり) 土 器	F層-0113位	6.8	5.5	1.5	29.72	黄 灰	左側部一 手捏	中空小型遠光器型土器の左側 部一手指部片状部+点列+端 文。朱印痕あり。	縄文時代 晩期前葉	5811
92-558	*	*	6.3	6.5	1.2	26.45	淡黄緑 灰 白	面一 部 残	中空小型遠光器型土器の頂部 左側面破片。一部。右上が り斜縁文付。朱印痕あり。	縄文時代 晩期前葉	5810
92-556	円板状土製品	*	3.3	3.1	0.8	7.67	鈍い黄 色	定 形	右上がり半部斜縁文付土器 部破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5795
96-589	*	F層-0114位	4.1	4.0	0.7	11.07	明黄緑 色	*	右上がり半部斜縁文付土器 部破片利用。煤なし。	縄文時代 晩期前葉	5796
107-710	*	F層-0116位	4.4	4.2	0.5	12.05	鈍い黄 灰 色	*	左上がり半部斜縁文付土器 部破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5797
107-711	*	*	3.9	3.6	0.8	11.80	鈍い黄 鈍い黄	*	左上がり半部斜縁文付土器 部破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5798
141-831	土 器 (胎痕姿勢)	G IV - 014位	3.3	2.6	1.6	13.70	黒 緑 色	胴体部 $\frac{1}{3}$ 残	首部に渦巻状波痕+右上がり 斜縁の縄文よりなる。煮海 文による文様あり。	縄文時代 後 期 ？	5861
249-1266	筒状土製品	G II - 061 砂埋跡	2.4	3.1	1.1	9.72	橙	一 部 残	無文。断面短長方形の器状 破片。	縄文時代 後 期 ？	5859
249-1267	耳 形	*	2.7	2.7	2.0	12.75	灰 緑 色	一 部 欠	台付白帯断面四角一面は四角 一面は平ら。比較。刺突点列 よりなる垂線文あり。知3	*	5860
249-1268	円板状土製品	*	5.6	6.5	1.0	48.74	鈍い赤褐 鈍い黄緑	定 形	右上がり半部斜縁文付土器 (大型)部破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5863
249-1269	*	*	5.4	4.7	0.8	20.24	淡黄緑 色	*	右上がり半部斜縁文付土器 部破片利用。煤なし。	*	5865
249-1270	*	*	6.1	6.8	0.9	41.72	*	*	右上がり半部斜縁文付土器 (大型)部破片利用。煤煤付 着。	*	5864
250-1328	*	F層-082 黄泥跡	4.9	4.6	1.0	24.25	鈍い黄緑 色	*	右上がり半部斜縁文付土器 部破片利用。煤煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5867
2-1388	扁平半球 状土製品	(F2) 瓦敷一層厚	4.7	2.2	1.0	12.40	鈍い赤 褐色	細 形	全形。用途とも不明。無文。	*	5866
13-1551	円板状土製品	F層 - 一般層	3.6	3.4	0.8	30.35	明赤褐 色	完 形	右上がり斜縁文付土器部破 片利用。	縄文時代 晩期前葉	5863

図版番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重量	色 調	保存状況 残存割合	備 考	測定所属 時 期	整理 番号
13-1552	円板状土製品	(J4) 下層 - 範囲	4.6	4.3	0.7	15.27	黒 褐	定 形	右上がり半筒状土器製 部破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5802
13-1553	*	*	4.5	4.4	0.9	20.40	鈍い 褐	*	右上がり半筒状土器製 付破片利用。煤なし。	*	5801
13-1554	*	*	4.7	4.5	0.6	16.30	黒 橙	*	扁状土器土器製部破片利用。 煤付着。	*	5799
13-1885	土 罎	(正)	2.1	2.8	2.7	10.65	灰 黄 褐	尾 部	中空土罎。尾部破片。足は平 面内前面に若干あり。	*	5858
13-1556	耳 椀	FⅢ - 範囲	1.7	1.6	0.9	1.88	鈍い黄橙	一 部 欠	椎骨状の小笠形。中央部縦方 向に一孔。無文。	縄文時代 後 期 葉	5808
30-1763	土 製 器	GⅢ - 範囲	7.5	7.5	1.5	160.00	橙 褐	後背部小塊	沈積による採取りや浸食状 痕跡あり。底部孔残る。 集取り器。	縄文時代 晩期前葉	1264
30-1764	円板状土製品	*	6.1	6.0	1.2	44.05	浅 黄 橙	光 彩	右上がり？ 半筒状土器 製部破片利用。煤なし。	*	5806
40-1880	平板状土製品	(F9) 耳部 - 範囲	4.1	2.1	1.2	10.84	鈍い黄橙 橙	一 部 残	全形不明。土器の部品かも知 れない。無文。	縄文時代	1252
40-1881	角柱状土製品	(B4) *	5.2	4.2	2.9	47.50	橙 黄 灰	脚 部	断面略丸四角形の柱状土製品。 沈積による浸食方向の線文。 全体材料不明。	縄文時代 晩期前葉	1253
40-1882	短円柱状 土 製 品	(E9) *	2.4	2.7	2.6	9.15	黄 灰	一 部 欠	無文。両端が丸みを帯びてい る。	縄文時代	1251
56-2075	角柱状土製品	(I9) 耳部 - 範囲	8.5	8.3	5.2	100.00	浅 黄 橙 黄 灰	脚 部	中空土罎。耳部～足部破片部 部に沈積。一点側よりなる横 平行文。尾部に沈積。亀裂土罎。	縄文時代 晩期前葉	1254
61-2120	扁板状土製品	HⅣ - 範囲	9.4	6.9	8.1	35.00	橙 黒	一 部 欠	砂多く含む粘土。指圧面多く 散付着。黒色付着物体あり。	縄文時代 晩期前葉	1255
66-2165	土 罎	(F7) IⅢ - 範囲	3.6	2.8	2.3	7.00	灰 黄 褐	頸 部 部	中空。頸部破片。 上道縁紋付で扁平。	縄文時代 後 期 葉	1257
70-2208	円板状土製品	(A1) IⅢ - 範囲	3.5	2.9	0.5	5.80	鈍い 褐	一 部 欠	三叉文入。粘製。土器口部部 破片利用。	縄文時代 晩期前葉	1263
92-2454	土製えびす	JⅣ - 範囲	2.7	2.9	0.6	5.42	鈍い 橙	頸 部	全体的に円板状。背面平ら。 型押し製品か？	歴史時代	1258
92-2455	釣鐘状土製品	*	4.1	3.3	3.3	18.30	鈍い黄橙 黄 灰	一 部 欠	頸部平ら。胴部くびれ。中央 全体に点列+沈積文よりなる。 帯状入組文あり。	縄文時代 後期前葉	1259
99-2568	釣 鐘 状 小笠土製品	(J1) KⅢ - 範囲	4.7	3.4	3.3	25.68	浅 黄 橙	完 形	無文。胴部くびれ一孔あり。 下部くびれ。	縄文時代 後期前葉	1262
99-2569	小瓶土遺構	(C2) *	2.3	2.2	1.7	7.80	鈍い赤褐	*	手捏ね器小状。しみやびが 入った不整形の砂入り粘土土 製品かわからない。	不 明	1260
109-2045	土製長丸玉	出土地不明	1.8	1.2	0.8	1.45	鈍い 褐	$\frac{1}{2}$ 塊	手捏ね状。長軸方向中央に一 孔あり。無文。	*	1261

第3表 石器

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大中	最大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 破損割合	整理番号
12-1	81	砥石(磨有り)	EⅡ-011住	11.5 ^{cm}	4.9 ^{cm}	4.2 ^{cm}	400.00	鈍黄緑	柱状凝灰岩	完形	5064
12-2	81	石 匙	EⅡ-011住	4.1	6.3	1.2	25.95	黒 褐	柱状凝灰岩	完形	5063
14-4	81	磨 石	EⅡ-012住	10.2	6.5	5.5	580.00	灰 黄	花崗石安山岩	完形	5813
17-10	81	スクレーパー	EⅡ-013住	4.0	1.6	0.8	7.50	黒 褐	硬質泥岩	5塊	5019
20-34	82	石 錐	EⅡ-014住	5.8	1.9	0.8	6.00	鈍黄緑	柱状凝灰質泥岩	一部欠	5146
20-35	82	石 錐	EⅡ-014住	4.3	1.4	0.7	2.82	鈍黄緑	硬質泥岩	ほぼ完形	5147
20-36	82	石 錐	EⅡ-014住	4.6	2.3	1.2	12.05	鈍黄緑褐	柱状凝灰質泥岩	完形	5148
20-37	82	石 錐	EⅡ-014住	4.0	6.1	0.8	17.25	黒 褐	柱状凝灰岩	完形	5109
20-38	82	小スクレーパー	EⅡ-014住	2.4	3.9	0.7	8.03	黒	硬質泥岩	完形	5106
20-39	82	石 匙	EⅡ-014住	6.8	3.1	0.8	13.80	明黄白・褐色	柱状凝灰質泥岩	ほぼ完形	5106
20-40	83	スクレーパー	EⅡ-014住	6.2	6.1	1.6	52.05	褐 灰	柱状凝灰岩	完形	5110
20-41	82	加工痕のある 刮	EⅡ-014住	3.7	2.8	0.7	7.00	鈍黄緑	凝灰質凝結凝灰岩	完形	5112
20-42	83	スクレーパー	EⅡ-014住	7.5	4.4	0.9	38.43	鈍黄黒	硬質泥岩	完形	5107
20-43	83	スクレーパー	EⅡ-014住	5.00	4.50	0.70	24.42	黒	硬質泥岩	完形	5111
20-44	83	磨製石斧	EⅡ-014住	3.20	3.10	2.2	38.00	オリーブ灰	凝灰質砂岩	破損部	5077
20-45	83	磨製石斧	EⅡ-014住	6.6	3.3	1.7	40.25	鈍黄緑	硬 砂 岩	開部部	5078
20-46	—	石 錐	EⅡ-014住	12.20	2.5	2.1	85.00	暗 灰	粘 板 岩	細片	5162
21-47	83	石 錐	EⅡ-014住	30.4	30.4	13.4	11,500.00	灰白・黄灰 緑・黒	花崗石安山岩	完形	5818
21-48	83	円板状石製品	EⅡ-014住	3.7	4.9	1.8	99.67	緑 黒	*	完形	5084
22-51	83	スクレーパー	EⅡ-018住	4.1	3.6	0.7	11.89	黒	硬質泥岩	5塊	5020
54-341	107	石 錐	EⅡ-011住	3.6	1.2	0.5	1.65	灰明 緑	*	欠損一部欠	5050
54-342	107	石 錐	EⅡ-011住	3.4	1.2	0.5	2.26	灰黄緑	柱状凝灰質泥岩	完形	5039
54-343	107	石 錐	EⅡ-011住	3.2	1.3	1.3	5.58	黒黄 緑	柱状凝灰岩	完形	5040
54-344	107	石 錐	EⅡ-011住	3.9	1.9	1.3	8.20	褐色・灰白 緑・オレンジ	柱状凝灰質泥岩	完形	5041
54-345	107	石 匙	EⅡ-011住	4.3	3.8	0.7	7.40	灰 緑	*	上 3	5029
54-346	107	石 匙	EⅡ-011住	4.7	6.0	1.1	27.85	灰黄 灰白	*	完形	5030
54-347	107	石 匙	EⅡ-011住	4.3	2.7	0.8	9.80	褐色 灰	柱状凝灰岩	上 5	5028
54-348	107	石 匙	EⅡ-011住	6.3	2.5	0.5	8.12	灰 緑	柱状凝灰質泥岩	完形	5031
54-349	—	スクレーパー	EⅡ-011住	3.5	4.0	1.1	11.45	鈍 緑	*	3塊	5056
54-350	107	スクレーパー	EⅡ-011住	3.8	2.5	0.6	5.45	鈍 灰	柱状凝灰岩	一部欠	5033
54-351	107	スクレーパー	EⅡ-011住	3.6	6.5	0.7	10.40	灰 緑	硬質泥岩	完形	5052
54-352	—	スクレーパー	EⅡ-011住	4.3	3.0	0.7	9.90	灰 緑	柱状凝灰質泥岩	一部欠	5032
54-353	—	スクレーパー	EⅡ-011住	6.1	2.3	0.9	9.85	明黄・鈍黄 灰 緑	*	下 5	5062
55-354	107	スクレーパー	EⅡ-011住	6.3	5.0	1.4	27.85	黒 褐	硬質泥岩	一部欠	5035
55-355	—	スクレーパー	EⅡ-011住	6.5	4.2	1.5	36.70	黄明 黄・灰 赤	柱状凝灰質泥岩	完形	5034
55-356	107	使用痕のある 刮片	EⅡ-011住	6.2	4.4	0.9	16.10	灰 白	*	完形	5038
55-357	107	石 錐	EⅡ-011住	23.8	2.9	2.5	320.00	暗 黄 灰	粘 板 岩	下 5	5026
55-358	—	刮 石	EⅡ-011住	10.4	7.9	5.6	640.00	鈍黄緑	花崗閃緑岩	一部風化	5027
55-359	107	磨 石	EⅡ-011住	7.0	6.3	5.8	600.00	灰オリーブ	花崗閃緑岩	完形	5815
55-360	107	小型磨製石斧	EⅡ-011住	5.6	2.8	0.9	23.00	オリーブ灰	凝灰質砂岩	完形	5025

国庫番号	写真番号	器 種 類	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
56-364	107	石 皿	FⅢ-011位	41.5 ⁹⁸	26.0 ⁹⁸	14.5 ⁹⁸	17,000.0 ⁹⁸	灰 白	陶質石室土器	完 影	5614
61-382	130	瀬 石	FⅢ-013位	11.4	9.2	6.5	1,000.00	黒・灰土色	花崗閃緑岩	完 影	5617
66-407	111	石 皿	FⅢ-014位	3.8	1.4	0.7	2.50	灰 緑	注貫磁質灰岩	完 影	5149
66-408	—	スクレーパー	*	3.6	2.4	1.0	9.37	*	硬質花崗岩	完 影	5113
66-409	—	磨 石	*	8.4	8.2	7.3	680.0	灰	陶質石室土器	完 影	5619
71-414	111	石 皿	FⅢ-016位	21.4	16.0	5.8	1,200.00	黄 緑	*	2.5 塊	5620
72-418	—	叩 き 石	*	10.8	8.0	6.4	580.0	橙	注貫磁質灰岩	完 影	5623
72-419	—	円板状石製品	*	5.5	6.2	2.0	85.00	黒	硬質花崗岩 (未製品)		5085
72-420	—	江煎みる焼	*	6.8	5.6	2.6	130.00	緑	注貫磁質灰岩	完 影	5100
72-421	111	スクレーパー	*	5.8	3.1	0.6	11.85	黒・橙	注貫花崗岩	5 塊	5171
78-449	114	瓦状石器	FⅢ-017位	6.9	3.8	1.6	43.10	黒 緑	硬質花崗岩	完 影	5156
78-451	114	石 匙	*	6.0	3.1	0.8	32.80	黄 灰	注貫磁質灰岩	ほぼ完 影	5114
78-452	114	磨 石	*	7.80	7.10	4.90	300.00	青 灰	陶質石室土器	完 影	5101
78-453	114	凹 石	*	19.50	5.20	4.20	510.00	灰 白・黒	緑色花崗岩	完 影	5622
78-454	—	石 俵	*	56.00	12.40	12.0	12,500.00	灰 黄 緑	陶質石室土器	完 影	5621
84-490	118	石 皿	FⅢ-019位	31.00	16.50	11.00	3,800.00	灰 白	*	完 影	5694
84-494	118	石 俵	*	13.00	2.80	1.40	56.55	明 灰	陶質土器	破 片	5163
84-495	118	石 匙	*	4.7	4.7	0.8	10.35	灰 白	硬質花崗岩	完 影	5115
84-496	118	スクレーパー	*	5.1	5.7	1.7	10.65	黒・灰 白	硬質花崗岩	完 影	5116
84-497	118	石 皿	*	2.8	1.8	0.6	1.75	灰 黄 緑	注貫磁質灰岩	基部欠	5150
87-518	119	スクレーパー	FⅢ-012位	3.7	2.2	0.7	6.98	灰黄緑・灰白	注貫磁質灰岩	ほぼ完 影	5118
87-519	119	加工跡のある 銅片	*	3.5	2.8	0.8	11.20	緑	*	小 片	5408
87-520	119	スクレーパー	*	4.0	3.6	0.9	11.35	灰 黄 緑	*	完 影	5119
87-521	119	*	*	6.1	6.1	1.2	29.00	灰黄緑・明 灰・赤土色 赤土黄緑色	注貫花崗岩	完 影	5117
92-507	121	石 俵	FⅢ-013位	8.0	2.2	0.7	21.28	赤 黒	粘 板 岩	破 片	5164
92-508	121	石 匙	*	4.50	5.50	0.70	10.30	黄 灰	注貫花崗岩	完 影	5121
92-509	121	*	*	5.90	4.20	0.90	20.33	灰 白	注貫磁質灰岩	完 影	5120
92-560	121	石 俵	*	3.0	1.50	0.90	1.40	緑 灰	注貫花崗岩	完 影	5158
92-561	121	円板状石製品	*	5.0	5.0	1.8	78.00	緑	注貫磁質灰岩	未製品	5086
92-562	121	*	*	5.1	6.3	2.1	65.00	*	注貫花崗岩	完 影	5087
96-500	—	スクレーパー	FⅢ-014位	4.0	2.2	1.2	9.15	黒 緑	注貫花崗岩	一部欠	5122
96-501	122	石 皿	*	4.6	1.6	1.1	8.20	灰 黄 緑	*	完 影	5159
96-502	122	石 匙	*	5.0	2.3	0.8	9.95	黒 緑	硬質花崗岩	6 塊	5657
96-503	—	スクレーパー	*	5.2	2.3	1.4	20.40	灰 緑	注貫花崗岩	6 塊	5123
96-504	122	円板状石製品	*	4.90	6.1	1.3	42.55	緑	注貫花崗岩	未製品	5088
99-619	123	石 皿	FⅢ-015位	4.1	2.4	1.1	8.45	黄 緑	注貫磁質灰岩	一部欠	5160
99-620	123	石 皿	*	2.6	1.0	0.5	1.12	灰 緑	注貫磁質灰岩	完 影	5151
99-621	123	円板状石製品	*	4.2	5.3	1.3	41.37	灰 赤 緑	注貫花崗岩	完 影	5090
99-622	123	*	*	4.4	5.8	2.0	65.00	明 緑	注貫磁質灰岩	未製品	5092
99-623	123	*	*	6.0	6.9	2.0	100.00	灰 赤 緑	*	完 影	5089
99-624	123	磨 石	*	10.9	1.8	7.5	1,000.00	灰 黄 緑	陶質石室土器	*	5625

図取番号	写真番号	部 材	出土遺構	最大長	最大中	最大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
100-625	123	円板状石製品	FⅡ-0115住	4.9 ^{cm}	5.0 ^{cm}	1.3 ^{cm}	90.75 ^g	黒	柱貫堀坑貫岩	未製品	5091
100-626	—	平 き 石	*	5.5	4.2	4.3	120.00	灰 緑	柱貫堀坑貫岩	完 影 10	5104
100-627	123	石 板	*	9.50	3.80	1.90	65.00	黒	粘 板 岩	断 片	5165
107-712	128	石 板	FⅡ-0116住	3.7	1.3	0.5	2.35	淡 黄 白 濁	柱貫堀坑貫岩	一部欠	5183
107-713	128	石 板	*	4.8	1.6	0.9	4.87	黒 黄	柱貫堀坑貫岩	完 影 10	5161
107-714	128	石 板	*	3.1	1.6	0.9	3.83	*	柱貫堀坑貫岩	未製品	5154
107-715	128	*	*	3.4	1.2	0.5	1.60	*	硬 質 泥 岩	完 影 10	5135
107-716	128	*	*	3.0	1.2	0.6	1.80	灰 黄 緑	柱貫堀坑貫岩	一部欠	5152
107-717	128	ノコ付石部	*	3.9	3.2	0.6	8.32	淡 黄	柱貫堀坑貫岩	6 塊	5127
107-718	128	加工穴の 丸彫り	*	2.5	2.0	0.7	3.68	黒 緑 黒 濁	*	完 影 10	5410
107-719	128	石 板	*	4.2	7.2	1.4	30.42	黒 濁	*	完 影 10	5125
107-720	128	*	*	4.0	4.8	1.2	15.10	淡 黄・灰黄濁 赤褐色混濁	*	上9塊	5124
107-721	128	スレーパー	*	3.6	2.3	1.5	11.45	黒 濁	硬 質 泥 岩	5 塊	5775
107-722	128	加工穴の 丸彫り	*	6.1	2.6	0.5	12.86	淡 黄 黒 濁	柱貫堀坑貫岩	完 影 10	5400
107-723	128	スレーパー	*	3.4	2.4	1.0	8.65	黒	硬 質 泥 岩	6 塊	5120
107-724	128	*	*	3.5	2.5	0.8	6.70	黄 灰	柱貫堀坑貫岩	完 影 10(下)	5118
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
108-726	128	磨 製 石 斧	FⅡ-0119住	11.20	5.40	3.4	240.00	黄 緑 赤 濁	凝 灰 質 砂 岩	刃部欠	5080
108-727	128	*	*	10.3	5.0	2.2	200.00	赤 濁 赤 濁	*	*	5084
108-728	128	*	*	10.3	4.3	2.3	165.00	黄 緑 灰	*	11片完影 10	5079
108-729	—	叩 き 石	*	13.7	5.8	4.0	560.00	淡 黄 黄 濁	凝 灰 質 礫 岩	完 影 10	5026
108-730	128	円板状石製品	*	4.1	5.8	1.4	30.40	黄 赤	輝 緑 凝 灰 岩	未製品	5093
108-731	128	*	*	3.1	5.0	1.1	23.65	灰 濁 黄 濁	柱貫堀坑貫岩	5 塊	5094
108-732	—	小 球 礫	*	3.3	3.2	2.9	27.25	淡 黄 白 濁	凝 灰 質 礫 岩	完 影 10	5103
108-733	128	*	*	4.0	3.6	3.2	55.90	淡 黄 橙	柱貫堀坑貫岩	完 影 10	5102
112-737	128	石 板	FⅡ-011住	4.1	2.3	1.4	11.42	黒	黒 緑 石	一部欠	5420
112-738	128	円板状石製品	*	5.5	3.7	1.5	65.00	黄	柱貫堀坑貫岩	完 影 10	5421
130-792	133	石 板	GⅡ-016住	3.9	6.4	1.1	20.52	黒 濁	柱貫堀坑貫岩	完 影 10	5517
130-793	133	石 板	*	1.6	2.0	0.9	2.55	黄 灰	チャート	一部欠	5514
130-794	—	スレーパー	*	3.5	4.5	0.9	16.50	*	硬 質 泥 岩	5 欠	*5515
130-795	133	*	*	4.0	4.8	0.8	13.80	灰 黄 橙	チャート	完 影 10	5516
130-796	133	円板状石製品	*	6.3	6.5	1.8	100.00	淡 黄 黄 濁	柱貫堀坑貫岩	完 影 10	5777
130-797	133	礫 石	*	12.0	9.7	7.6	1,200.00	淡 黄 黄 濁	凝 灰 質 礫 岩	完 影 10	5830
131-798	—	*	*	7.0	6.5	6.0	400.00	緑 灰	凝 灰 質 礫 岩	完 影 10	5834
131-799	133	磨 製 石 斧	*	4.3	4.7	2.7	97.00	淡 黄 白・黄 濁	輝 石 礫 岩	刃部欠	5535
131-800	133	(磨石磨理) 凹 石	*	3.3	8.2	6.4	809.00	灰	凝 灰 質 礫 岩	完 影 10	5835
131-801	—	石 板	*	14.20	12.60	9.80	1,300.00	淡 黄 白 濁	*	2.5塊	5845
132-802	134	石 板	GⅡ-011住	11.80	3.5	1.3	53.32	灰 濁	硬 質 泥 岩	完 影 10	5612
141-832	136	ノコ付 スレーパー	GⅡ-014住	2.9	6.5	1.2	24.10	黄 灰	*	*	5612
141-833	136	石 板	*	5.0	4.9	0.9	15.02	*	柱貫堀坑貫岩	*	5621
141-834	136	スレーパー	*	3.5	4.7	0.9	15.42	黒 濁	硬 質 泥 岩	*	5791

図面番号	写真番号	部 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
91-849	—	磨製石斧	GW-0110住	6.0 ^{cm}	3.9 ^{cm}	2.1 ^{cm}	292.00 ^g	黒 オリーブ灰 赤	輝石砂岩	断面部残	5641
91-850	—	円板状石製品	*	2.8	5.3	0.9	21.20	赤 黒	注貫凝灰岩	5 枚	5633
148-852	136	スクレーパー (ノッチ)	日Ⅱ-012住	8.2	4.1	1.4	55.31	黒	注貫泥岩	完 10	5713
148-853	136	石 匙	日Ⅱ-015住	2.9	2.9	0.4	2.80	黒 灰	注貫凝灰質泥岩	8 枚	0174
148-854	136	スクレーパー	*	5.2	6.0	1.1	30.50	灰 黄	灰 黄	完 10	0172
161-921	143	石 匙	日Ⅱ-012住	3.6	1.4	0.6	2.20	黒 赤	注貫泥岩	基部欠	5609
161-929	143	*	*	3.3	1.5	0.5	2.02	*	*	*	5608
161-930	143	スクレーパー	*	3.7	2.0	0.7	5.13	鉄 赤	注貫凝灰質泥岩	一部欠	5620
161-931	143	石 匙	*	7.0	3.3	0.8	19.80	黒 赤 黄	注貫泥岩	*	5614
161-932	143	*	*	3.4	5.3	0.8	11.9	黒 黄	注貫泥岩	*	5613
161-933	143	石 錠	*	3.5	2.5	0.9	6.25	灰 赤	注貫凝灰質泥岩	*	5624
161-934	143	加工痕のある 割片(ノッチ)	*	3.5	5.5	1.6	16.05	黒 黄	凝 灰 質 泥 岩	完 10	5619
162-935	143	加工痕のある割片 (ノッチ)	*	3.7	2.7	0.8	4.83	黒 灰	注貫泥岩	一部欠	5617
162-936	143	加工痕のある 割片(ノッチ)	*	2.6	2.5	0.9	5.45	灰 赤	注貫凝灰質泥岩	断片	5615
162-937	143	小型 スクレーパー	*	2.4	2.4	0.7	4.35	黒 赤	*	未製品	5783
162-938	143	スクレーパー	*	4.6	2.4	1.1	11.72	黒 赤	凝 灰 質 泥 岩	*	5782
162-939	143	加工痕のある割片 (ノッチ)	*	4.1	3.0	0.6	9.65	灰 白・黄 赤	注貫凝灰質泥岩	一部欠	5618
162-940	143	*	*	4.3	3.5	0.6	9.35	鉄 赤 黄	注貫泥岩	完 10	5616
162-941	143	石 錠	*	9.9	3.3	1.5	49.00	鉄 赤	注貫凝灰質泥岩	未製品	5784
162-942	143	石 棒	*	16.6	2.2	1.9	89.00	鉄 赤	粘 土 質 泥 岩	3 枚	5644
162-943	143	石 錠	*	3.6	2.9	0.9	5.85	灰 白	流紋岩質凝灰質泥岩	小片	5646
162-944	143	小 球 礫	*	5.0	4.6	3.4	95.00	灰 白・赤 黒	輝石石山岩	完 10	5635
162-945	143	磨製石斧	*	3.3	4.4	2.8	70.00	灰 白・赤 黒	輝石砂岩	断面部片	5640
162-946	143	円板状石製品	*	4.4	4.5	2.0	65.00	緑 灰	輝石石山岩	完 10	5636
162-947	144	*	*	4.2	4.4	1.1	28.32	鉄 赤	注貫泥岩	*	5627
162-948	144	*	*	5.2	5.4	1.9	57.05	灰 白	流紋色凝灰岩	*	5628
162-949	144	加工痕のある 扁平礫	*	6.5	3.6	1.2	29.35	明 オリーブ 灰	流 紋 岩	*	5638
162-950	144	円板状石製品	*	5.2	5.3	1.1	55.53	明 赤・灰 白	注貫凝灰質泥岩	未製品	5632
162-951	144	磨 石	*	5.4	4.3	5.1	140.00	緑 灰・灰 白	準花崗岩	小片	5637
162-952	144	円板状石製品	*	5.5	5.9	2.3	120.00	鉄 赤・流 紋 明	注貫泥岩	完 10	5628
162-953	144	加工痕のある 扁平礫	*	7.2	6.0	1.8	120.00	オ リーブ 灰	流 紋 岩	*	5639
162-954	144	磨 石	*	6.4	6.1	4.5	230.00	灰 白 オ リーブ 灰	輝石石山岩	*	5636
164-955	144	円板状石製品	*	5.9	6.0	2.0	100.00	鉄 赤	注貫泥岩	*	5631
164-956	144	*	*	5.6	5.9	2.0	96.00	赤 赤	*	*	5630
164-957	144	平 石	*	13.3	12.2	2.2	620.00	鉄 赤・明 赤 灰 白	凝灰質角礫岩	*	5639
171-964	145	磨製石斧	JⅤ-012住	5.2	3.8	2.3	68.00	鉄 赤・鉄 赤 黒	プロピライト	断面残	0189
171-965	145	スクレーパー	*	3.2	3.4	0.7	8.45	明 赤	凝灰質泥岩	完 10	0180
171-966	145	小 球 礫	*	3.9	3.1	2.6	42.90	灰 白	注貫泥岩	*	0213
171-967	145	*	*	3.7	3.7	3.1	57.85	鉄 赤 灰 白	*	*	0212
176-1000	148	スクレーパー	JⅤ-011住	6.0	4.4	1.5	43.30	鉄 赤・明 赤・鉄 赤	注貫凝灰質泥岩	*	0178
176-1001	148	使用痕ある割片	*	5.3	3.8	1.7	34.95	鉄 赤	*	*	0182

図面番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大径	最大巾	最大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
176-1002	148	スクレーパー	JⅢ-011 住	4.8 ^{cm}	4.2 ^{cm}	0.8 ^{cm}	23.00	黒 褐	硬質泥岩	完形 10	0175
176-1003	148	*	*	3.7	3.1	0.7	9.800	暗赤褐	柱状凝灰質泥岩	7 残	0179
176-1004	148	*	*	3.5	2.9	0.9	10.60	黒 褐	柱状泥岩	5 残	0179
176-1005	148	フ レ ー ク	*	6.5	1.7	0.9	10.30		*	完形 10	0177
176-1006	148	煎 み 石	*	7.8	5.4	3.7	140.00	緑い赤褐色 鉄質	麻痺石炭山岩	5 塊	0163
177-1007	148	平石(磨石?)	*	11.3	6.9	1.8	230.50	灰白・黄褐色 鉄質	柱状凝灰岩	完形 10	0200
177-1008	148	平 石	*	23.10	20.60	6.0	395.00	灰 白・灰 褐色	麻痺石炭山岩	*	0211
177-1009	148	三角柱状塊	*	15.30	8.40	6.80	1,080.00	明黄褐色・灰 白・灰褐色	石炭山岩	5 塊	0158
179-1015	149	石 錘	KⅢ-011 住	3.1	1.1	0.6	2.30	灰 黄 褐色	硬質凝灰質泥岩	基部欠	0161
179-1016	149	スクレーパー	*	6.3	3.9	1.0	24.70	明 黄 褐色 鉄質	柱状凝灰岩	一部欠	0207
179-1017	149	フ レ ー ク	*	4.3	2.7	0.8	6.40	黒 褐	石質泥岩	完形 10	0185
179-1018	149	常用供ふる 割 片	*	4.4	3.2	0.9	10.80	黄 褐	凝灰質泥岩	*	0186
179-1019	149	打 製 錘 具	*	20.8	12.5	2.0	710.00	オリーブ灰 褐色・緑褐色	凝灰質千枚岩	*	0137
182-1034	150	バナナ状塊	KⅢ-012 住	30.30	11.80	7.80	4,430.00	明オリーブ灰 褐色	柱状凝灰岩	*	0210
189-1035	151	エンドサイド スクレーパー	GⅢ-021P1	7.2	3.3	1.1	25.10	灰 白・褐色 水和鉄褐色	柱状凝灰質泥岩	*	0778
189-1036	151	四板状石製品	GⅢ-021P1	5.8	6.1	1.7	90.00	橙	柱状凝灰岩	*	0545
189-1040	152	磨痕ある 小平盤	HⅢ-022p1	4.4	2.8	0.9	11.45	淡 黄	凝結凝灰岩	2本破れ 1は完形	0180
189-1064	154	四板状石製品	JⅣ-0210p1	4.3	4.2	1.0	24.30	緑 い 黄 褐色	柱状凝灰岩	完形 10	0208
189-1065	154	磨製石片	*	4.5	1.9	0.4	5.20	緑 黄 褐色	凝灰質千枚岩	刃一部残	0206
189-1078	155	石 刺 (片)	MⅢ-025 P	8.0	2.9	1.3	32.90	暗 黄 灰	粘 板 岩	断面磨 痕跡片	0161
189-1082	156	石 棒	FⅢ-041 葉石遺構	25.7	9.9	8.3	4,800.80	明黄・灰白 褐色・鉄褐色	麻痺石炭山岩	完形 10	0829
189-1271	168	石 錘	GⅢ-061 粘塊跡	2.1	1.8	0.5	2.62	黒 褐色	柱状凝灰質泥岩	*	0422
189-1272	168	石 錘	*	3.6	3.8	0.6	7.22	黒	硬質泥岩	基部欠	0429
189-1273	168	石 匙	*	3.5	2.7	0.9	4.62	褐 灰	チャート	基部残	0435
189-1274	168	*	*	5.8	4.3	1.2	29.65	黄褐色・黒 褐色・赤褐色	柱状凝灰質泥岩	一部欠	0434
189-1275	168	*	*	4.1	3.1	0.9	10.43	黒 褐	硬質泥岩	*	0433
189-1276	168	スクレーパー	*	2.5	2.6	0.5	3.17	灰 褐	柱状凝灰質泥岩	端片	0430
189-1277	168	石 匙	*	2.6	4.0	0.7	4.65	黄 灰	*	基部残	0438
189-1278	168	スクレーパー	*	3.5	2.0	0.6	3.96	淡 黄 褐色 鉄質	柱状泥岩	完形 10	0433
189-1279	168	*	*	4.2	2.1	1.2	10.16	灰 黄 褐色 鉄質	柱状凝灰質泥岩	*	0432
189-1280	168	石 匙	*	5.9	2.0	0.8	8.07	灰黄褐色・黄 褐色・赤褐色	*	*	0437
189-1281	168	スクレーパー	*	3.9	2.9	0.5	7.30	灰 褐	*	5 残	0435
189-1282	168	加工痕の ふる割片	*	3.80	1.80	0.60	3.58	黄 灰	柱状泥岩	完形 10	0440
189-1283	168	スクレーパー	*	2.5	2.6	0.5	3.17	灰 褐	柱状凝灰質泥岩	端片	0430
189-1284	168	*	*	7.5	4.1	1.2	34.85	灰 黄 褐色 鉄質	硬質泥岩	完形 10	0681
189-1285	168	*	*	4.5	3.3	1.0	17.53	黄 灰	柱状凝灰質泥岩	6 残	0427
189-1286	168	*	*	4.2	5.8	1.2	33.40	*	硬質泥岩	一部欠	0426
189-1287	168	*	*	2.5	4.6	0.8	7.70	灰黄・黄褐色 水和鉄褐色	柱状泥岩	完形 10	0434
189-1288	169	*	*	5.2	3.6	1.1	19.45	黒 褐	硬質泥岩	*	0428
189-1289	169	*	*	4.0	4.5	1.0	16.60	淡 黄 灰 褐色	柱状凝灰質泥岩	6 残	0429
189-1290	—	石 打	*	3.6	3.3	1.0	16.45	暗 赤 褐	柱状凝灰質泥岩	端片	0446

図號番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号	
250-1201	169	円板状石製品	GⅡ-061 貯蔵坑	4.7 ^{cm}	4.9 ^{cm}	1.3 ^{cm}	34.60 ^g	橙	珪質凝灰岩	完 形 10	5444	
250-1202	169	*	*	5.0	5.3	0.8	34.52	*	*	*	5443	
250-1203	169	*	*	5.0	6.4	1.1	50.95	*	*	*	5445	
250-1204	169	磨製石斧	*	4.0	3.2	2.4	44.67	緑灰・黄 緑・赤 緑・灰 緑	輝石砂岩	崩壊部残	5442	
250-1205	169	*	*	4.40	3.10	1.90	33.23	灰 緑	凝灰質千枚岩	*	5441	
252-1206	169	スアレバー	IⅢ-061 貯蔵坑	4.4	6.9	0.8	22.70	灰 黄	燧燐質流紋岩	9 残	0119	
256-1312	171	石 錘	GN-051溝	2.7	1.9	0.6	2.60	黄 灰	珪質泥岩	基部欠	0435	
256-1313	171	磨製石斧	*	4.2	4.5	1.7	49.35	黄 灰	輝石砂岩	基部残	0204	
256-1314	171	右側1辺まで 平石(イム)	*	13.6 33.5	19.5 25.4	3.2 5.0	1,290.00 4,220.00	黄 灰 白・赤	輝石安山岩	2 片 1 片	0185	
256-1315	171	石 錘	*	33.5	19.9	1.5	1,530.00	黄 灰	赤オリーブ状 粗面岩	緑褐色砂質凝灰岩	崩壊中(0190) と基部(6 片)	0197
265-1325	172	石 匙	FⅣ-062 灰土層	3.4	7.3	0.9	20.20	灰 白	珪質凝灰質泥岩	完 形 10	5623	
261-1330	172	磨製石斧	*	4.6	3.5	2.4	53.20	灰 白	輝石砂岩	崩壊部残	5642	
261-1331	172	磨削のある石片 (A B)	*	5.3 3.0	6.8 4.1	2.6 1.3	75.00 16.75	灰 黄	A 凝灰質泥 岩 B 粘 土	断 片	(A) 5643	
260-1339	173	スアレバー	EⅢ-071 貯蔵坑	3.8	2.3	0.6	655	黄 灰	珪質凝灰質泥岩	完 形 10	5131	
260-1340	173	*	*	3.4	3.3	1.1	10.45	*	珪質泥岩	小片	5125	
260-1341	173	*	*	5.5	2.5	1.0	13.80	黄 灰	珪質凝灰質泥岩	完 形 10	5130	
26-1342-1	173	円板状石製品	*	4.3	4.4	1.4	36.95	黄 灰	珪質粗粒凝灰岩	完 形 10	5065	
1-1285	-	スアレバー	EⅢ 掘 堀	5.4	2.5	0.8	8.80	黄 灰	珪質泥岩	下 5	5067	
2-1280	177	*	*	3.9	1.10	0.4	2.45	黄 灰	珪質泥岩	6 残	5754	
2-1281	177	扁 平 石	*	14.3	12.5	1.40	440.10	黄 灰	珪質粗粒凝灰岩	完 形 10	5836	
3-1302	177	石 刀	*	7.90	4.10	1.10	52.12	黄 灰	凝灰質千枚岩	小片	5066	
3-1283	177	円板状石製品	*	4.20	4.60	1.40	37.65	黄 赤	珪質凝灰岩	未製品	5065	
4-1284	177	石 棒	FⅡ-1 掘堀	5.8	2.60	0.80	13.52	灰 黄	凝 質 泥 岩	小 片	5075	
5-1408	177	円板状石製品	FⅡ-1 掘堀	5.00	4.30	1.40	43.80	黄 灰	珪質粗粒凝灰岩	完 形 10	0039	
5-1409	177	スアレバー	*	8.60	3.70	1.20	37.15	赤・黄オリーブ 灰 白	粘 土 質	*	0138	
5-1410	177	磨製石斧	*	8.90	7.00	2.60	200.00	赤・黄オリーブ 灰 白	凝灰質千枚岩	基部欠	0048	
13-1558	187	石 匙	FⅡ-1 掘堀	3.20	5.00	0.70	8.70	灰 黄	珪質泥岩	完 形 10	5133	
13-1559	187	*	*	7.30	2.10	0.50	9.72	黄 赤	*	*	5132	
13-1560	187	*	*	6.0	1.60	0.80	8.25	灰 黄・緑 黄	珪質凝灰質泥岩	*	5134	
14-1561	187	*	*	6.9	3.9	1.3	22.28	黄 赤	凝 質 泥 岩	ほぼ完形 10	5143	
14-1562	187	瓦 状 石 器	*	6.00	3.00	1.40	25.80	黄 赤	珪質泥岩	一部欠	5157	
14-1563	187	ノコギリ状器	*	6.40	4.00	0.90	20.32	黄 赤	凝 質 泥 岩	完 形 10	5145	
14-1564	187	加工痕のある 石	*	4.00	3.10	1.10	12.24	黄 赤	粘 土	*	5417	
14-1565	187	スアレバー	*	4.50	2.90	0.50	4.60	黄 赤	珪質泥岩	*	5137	
14-1566	187	*	*	8.20	4.70	1.10	45.70	灰 黄	*	*	5138	
14-1567	187	*	*	3.70	3.30	0.8	9.80	灰 黄	凝 質 泥 岩	一部残	5416	
14-1568	187	*	*	3.30	3.50	0.9	8.66	灰 黄	珪質粗粒凝灰岩	5 残	5141	
14-1569	187	加工痕のある 石片(ノコギリ)	*	5.00	3.40	0.80	9.85	灰 黄	珪質凝灰質泥岩	完 形 10	5412	
14-1570	187	*	*	2.70	2.90	0.60	4.75	*	*	*	5419	
15-1571	187	スアレバー	*	4.20	3.40	0.80	10.15	黄 白・灰 黄	凝 質 泥 岩	*	5142	
15-1572	187	*	*	4.60	6.20	1.20	42.08	灰 黄	珪質凝灰岩	一部欠	5413	

図面番号	写真番誌	部 種	出土遺跡	最大長	最大巾	最大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 備考明合	整理番誌
15-1573	187	加工痕のある 銅片(ノブ)	F田一相掘	4.50	3.60	1.00	10.55	黒 銅	注貫銅質炭素	一部欠	5415
15-1574	187	スチレ—ン	*	4.50	2.50	0.50	7.15	灰 銅	注貫銅質炭素	(7) 5 塊	5140
15-1575	187	*	*	5.00	2.50	1.10	12.65	*	硬質炭素	完形 10	5138
15-1576	187	*	*	3.40	4.00	0.90	12.05	銅	注貫銅質炭素	*	5144
15-1577	187	*	*	2.00	3.10	0.40	2.70	灰 白	注貫銅質炭素	*	5411
15-1578	188	*	*	7.00	3.00	1.40	25.40	灰黄緑・明黄 銅・鉄質	注貫炭素	*	5139
15-1579	188	加工痕のある 銅片	*	8.00	3.10	1.30	32.65	灰 黄 銅	注貫銅質炭素	*	5414
15-1580	187	スチレ—ン	*	4.00	5.50	1.00	23.25	純 銅	注貫銅質炭素	*	5775
15-1581	188	*	*	4.80	4.00	0.80	18.35	灰 黄 銅	注貫銅質炭素	*	5135
15-1582	187	加工痕のある 銅片	*	4.5	3.00	0.90	13.77	灰 銅	注貫炭素	*	5418
16-1583	—	磨製石斧	*	12.0	4.6	2.4	229.00	暗緑灰・暗 緑銅・鉄質	輝石砂岩	刃部欠	5082
16-1584	188	石 棒	*	9.7	2.0	1.3	65.00	オリーブ灰 銅	硬砂岩	断片	5160
16-1585	188	*	*	4.3	2.0	1.5	24.58	銅 灰	粘板岩	*	5168
16-1586	188	磨製石斧	*	10.3	4.3	2.2	130.00	灰 白	輝石砂岩	完形 10	5083
16-1587	188	石 棒	*	11.70	3.6	1.5	100.00	オリーブ灰 銅	硬質千枚岩	断片	5169
16-1588	188	*	*	9.20	2.00	1.00	41.65	灰	粘板岩	*	5170
16-1589	188	*	*	22.3	12.60	11.60	4,020.00	鉄質銅・灰 銅・赤	輝石安山岩	2.5塊	5083
16-1590	188	*	*	9.50	3.0	2.0	90.00	銅 青 灰 銅	粘板岩	断片	5167
17-1591	188	河杭状石製品	*	5.50	6.00	1.70	98.00	純 銅	注貫炭素	完形 10	5095
17-1592	188	*	*	6.20	6.50	1.70	130.00	明オリーブ灰 銅	輝石安山岩	*	5099
17-1593	188	*	*	6.0	6.1	2.0	100.00	暗赤灰・鉄質 銅・赤	注貫炭素	*	5096
17-1594	188	*	*	3.8	4.5	1.0	27.10	鉄 小 銅	注貫銅質炭素	*	5097
17-1595	180	石 鏝	*	22.3	29.4	4.70	3,140.00	明緑銅・灰 オリーブ灰 銅	輝石安山岩	6 塊	5080
17-1596	180	平き石	*	9.0	6.4	4.5	440.00	灰 白	安山岩	完形 10	5029
17-1597	180	白 石	*	29.8	22.4	10.5	6,000.00	黄 銅 灰 白	輝石安山岩	*	5032
18-1598	180	石 鏝	*	35.2	29.0	7.8	9,600.00	暗銅・暗 銅	*	*	5031
19-1599	180	スチレ—ン	*	3.5	3.7	0.7	8.38	黒 銅	注貫炭素	6 塊	5421
21-1628	191	石 楯	G田一試掘	4.3	3.0	1.1	5.50	銅い黄 銅	硬質炭素	端一部 欠	0183
30-1706	190	石 鏝	G田一相掘	3.40	1.00	0.40	1.20	黒 銅	注貫炭素	(117完形) 10	0140
30-1707	190	石 鏝	*	1.80	1.80	0.50	1.90	純 赤 銅	注貫銅質炭素	断端欠	5525
30-1708	190	石 鏝	*	3.7	1.8	0.8	4.21	純 灰 銅	*	(117完形) 10	5513
30-1709	190	石 鏝	*	3.1	6.8	0.9	4.65	灰 銅	*	*	5534
30-1770	190	加工痕のある 銅片	*	3.1	1.8	0.9	4.75	黒 銅	硬質炭素	*	5531
30-1771	190	スチレ—ン	*	4.0	2.6	1.1	12.15	銅 灰 銅	注貫銅質炭素	完形 10	5533
30-1772	190	*	*	5.10	2.50	0.50	8.21	明 灰 銅 灰 銅	*	*	5530
30-1773	190	加工痕のある 銅片	*	3.2	3.8	0.6	6.32	黄 銅 灰 白	注貫炭素	小片	5526
30-1774	190	*	*	2.0	2.0	0.9	3.35	黄 銅 銅	*	*	5502
30-1775	190	*	*	4.0	3.5	0.9	9.52	純 灰 銅	硬質炭素	*	5528
30-1776	190	*	*	3.7	2.7	1.2	10.85	純 銅	注貫炭素	*	5529
30-1777	190	*	*	3.9	3.0	1.2	10.82	灰 銅	注貫銅質炭素	*	5530
31-1728	190	スチレ—ン	*	4.5	3.7	1.1	21.05	*	*	6 塊	5521

図説番号	写真番号	器 種	出土遺構	竈大長	竈大巾	竈大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 備考(組合)	整理番号
31-1779	190	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5521
31-1780	199	ステレオパネ	G壁一組部	5.0	8.0	1.5	58.95	鈍黄・橙 灰	注貫凝灰質泥岩	定形 10	5519
31-1781	199	*	*	5.2	7.9	1.5	56.84	褐 灰	硬 質 泥 岩	*	5518
31-1782	199	*	*	7.1	3.6	0.9	27.74	灰 黄 緑	注貫凝灰質泥岩	*	5522
31-1783	199	加工前のある 割片	*	4.5	3.3	0.7	12.32	灰 黄 緑	*	小片	5527
31-1784	200	ステレオパネ	*	7.1	5.0	1.0	37.51	*	硬 質 泥 岩	定形 10	5523
31-1785	199	小型磨製石片	*	3.4	1.8	0.8	8.32	オリーブ紫	凝 灰 質 砂 岩	房部欠	5779
31-1786	199	磨 製 石 片	*	3.0	4.7	2.5	65.00	灰 黄 緑 オリーブ灰	*	割片5塊	5538
31-1787	199	*	*	6.3	4.3	2.7	117.00	鈍 黄 灰 白	輝 石 砂 岩	崩落塊	5536
32-1788	200	*	*	7.0	4.9	2.5	136.00	灰 黄 白	*	*	5539
32-1789	200	横石(四角石)	*	7.6	6.4	5.2	320.50	灰 黄 白	両輝石安山岩	定形 10	0073
32-1790	200	磨 製 石 片 (甲壳石に相当)	*	9.7	5.3	2.6	240.00	オリーブ灰	輝 石 砂 岩	*	5534
32-1791	200	磨 石	*	6.4	6.0	4.5	250.50	鈍 黄 緑 鈍 黄 緑	両輝石安山岩	*	0080
32-1792	200	有孔石製品	*	7.5	7.20	0.60	29.62	鈍 黄 緑	注貫凝灰質泥岩	*	5548
32-1793	200	砥 石	*	6.0	5.7	1.2	55.07	鈍 黄 緑 黄	*	2.5塊	5547
32-1794	200	打 製 衝 具	*	7.9	6.0	1.0	65.00	鈍 灰	粘 板 岩	6 塊	5546
33-1795	201	磨 石	*	12.00	11.70	8.40	1,560.00	灰 黄 白・橙 灰	硬 質 泥 岩	定形 10	5837
33-1796	201	平 石	*	11.0	11.7	1.6	400.00	橙	注貫泥岩	5 塊	5638
33-1797	200	石 杵	*	28.4	2.8	2.3	330.00	紺 青 黄 灰 灰	粘 板 岩	*	5537
34-1798	200	円板状石製品	*	4.8	5.3	1.0	30.60	明 黄 緑	両輝石安山岩	未製品	5544
34-1799	201	*	*	4.6	4.7	1.3	30.85	橙	注貫泥岩	定形 10	5541
34-1800	201	*	*	5.6	5.8	1.7	80.00	紺 青 赤 黄 緑	*	*	5540
34-1801	201	*	*	6.1	6.4	1.3	65.00	鈍 灰	粘 板 岩	6 塊	5543
34-1802	200	*	*	7.1	7.0	1.3	80.00	明 黄 緑 赤	注貫泥岩	定形 10	5542
37-1822	203	石 盤	G壁一組部	3.5	1.3	0.5	1.79	黒 緑	注貫泥岩	(2片)定形 10	5610
37-1823	203	*	*	4.7	1.8	0.7	6.75	灰 白	凝灰質凝結 凝灰岩	定形 10	5611
37-1824	203	加工前のある 割片	*	2.5	2.1	0.8	3.57	黒 緑	硬 質 泥 岩	小片	5625
37-1825	203	ステレオパネ	*	7.0	3.0	1.0	15.75	褐 灰	注貫凝灰質泥岩	5 欠	5785
37-1826	203	磨製円板状 石製品	*	4.7	5.2	1.9	58.55	明 緑 灰	流 紋 岩	定形 10	5634
35-1827	203	有孔石製品	*	6.2	2.4	2.1	33.65	鈍 黄 緑	注貫凝灰質泥岩	*	5647
35-1828	203	石 杵	*	19.3	2.3	2.0	90.00	灰 白	粘 板 岩	2.5塊	5645
41-1803	206	石 盤	H壁一組部	2.8	1.4	0.4	1.25	灰 黄 白	注貫泥岩	房部欠	0142
41-1804	206	*	*	4.0	2.0	0.8	5.75	灰 黄 白	*	房部欠	0140
41-1805	206	石 盤	*	4.8	1.8	1.2	4.05	灰 黄 緑	注貫凝灰質泥岩	定形 10	0155
41-1806	206	石 盤	*	2.7	1.5	0.5	1.95	褐 灰	硬 質 泥 岩	欠7 破塊	0134
41-1807	206	石 盤	*	2.7	4.0	0.5	5.30	灰 黄 緑	注貫凝灰質泥岩	一部欠	0132
41-1808	206	*	*	5.8	3.5	0.8	13.75	黒	*	定形 10	0123-11
41-1809	206	*	*	4.4	4.5	1.0	16.00	黒 緑	硬 質 泥 岩	一部欠	0123-12
41-1800	206	*	*	4.7	2.3	0.7	4.35	紺 青 灰 灰	玉 子 石	8 塊	0111
41-1801	—	フ レ ー タ	*	2.5	7.5	1.2	17.40	—	硬質泥質凝灰岩	定形 10	0587
41-1802	206	ステレオパネ	*	5.9	4.8	1.1	37.65	明 緑	注貫凝灰質泥岩	*	0093

図帳番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 埋存割合	整理番号
41-1893	206	スタレーバー	目田一机庫	3.6 ¹⁸	2.6 ¹⁸	0.9 ¹⁸	7.55	灰 黄 褐	注賢燧灰質泥岩	先 端 3 部 欠	0149
41-1894	206	*	*	6.3	4.5	1.1	37.65	黄 灰	硬質燧灰質泥岩	完 形 10	0530
41-1895	206	*	*	3.1	2.4	0.8	4.55	鈍い黄褐	*	2 塊	0168
41-1896	206	*	*	4.3	2.9	0.7	8.19	黒	両輝石安山岩	一部欠	0098
42-1897	—	*	*	4.7	3.8	1.3	22.25	褐 灰	硬 質 泥 岩	ほぼ完形 10	0083
42-1898	—	*	*	3.7	4.4	1.0	21.30	*	注賢燧灰質泥岩	5 塊	0104
42-1899	206	*	*	4.9	3.5	0.8	11.75	黒	硬 質 泥 岩	一部欠	0110
42-1900	206	使用痕のある 銅片	*	4.2	3.9	1.1	13.90	鈍 黄 緑	注賢泥岩	完 形 10	1162
42-1901	206	スタレーバー	*	4.8	5.7	1.0	39.10	褐 灰	*	ほぼ完形	0106
42-1902	206	*	*	4.5	2.9	1.1	11.30	灰 白	注賢燧灰質泥岩	完 形 10	0116
42-1903	206	使用痕のある 銅片	*	1.8	4.0	0.8	5.25	褐 灰	注賢泥岩	*	1010
42-1904	206	スタレーバー	*	3.8	3.2	0.4	7.00	灰 黄 褐	注賢燧灰質泥岩	5 塊	0118
42-1905	—	*	*	5.70	2.80	0.80	12.80	*	*	ほぼ完形	0115
42-1906	207	磨製石斧	*	4.5	3.2	2.2	42.45	緑 オリーブ系 オリーブ系 オリーブ系	淡緑色燧灰岩	頭部欠	0047
42-1907	207	*	*	5.6	4.4	2.4	80.50	*	燧 灰 岩	*	0050
42-1908	208	*	*	5.8	3.3	1.1	33.05	*	地味燧灰質 オリーブ系	頭部欠	0057
42-1909	207	*	*	4.8	4.1	2.4	70.00	オリーブ系 灰 白	*	上 部 5 塊	0051
42-1910	207	凹み石	*	10.0	7.2	6.7	640.00	灰白・燧灰 質	両輝石安山岩	完 形 10	0064
43-1911	207	石 棒	*	32.3	3.0	2.6	411.00	結 晶 質	粘板岩 ホルンフェルス	3 体に破損 上 5 塊	0064
43-1912	207	*	*	5.5	1.6	0.6	5.90	暗 青 灰	*	3 体 銅片	0065(1)
43-1913	207	*	*	6.0	1.7	1.3	41.55	*	*	*	0065(2)
43-1914	207	*	*	2.9	2.6	0.9	8.3	灰 白	粘 板 岩	銅片破片	0831
43-1915	—	*	*	5.6	2.8	1.0	27.85	暗 青 灰	粘板岩 ホルンフェルス	3 体 銅片	0065(3)
43-1916	207	凹み石 板ある燧	*	13.0	6.4	4.2	580.00	灰オリーブ 粘 灰	両輝石安山岩	完 形 10	0192
43-1917	207	凹み石	*	6.4	5.1	2.6	130.50	暗 黄 緑	*	5 塊	0082
44-1918	208	*	*	8.2	5.2	4.6	320.50	灰オリーブ 質	*	完 形 10	0075
44-1919	208	*	*	7.3	5.9	5.1	305.00	黄 灰 灰 白	*	*	0072
44-1920	208	凹み石 板ある燧	*	12.0	5.2	4.4	380.00	灰 黄 褐	*	先 端 一部欠	0191
44-1921	—	凹み石	*	10.0	7.2	6.7	640.00	灰白・燧灰 質	*	完 形 10	0084
44-1922	208	凹み石 板ある燧	*	12.60	4.30	3.80	300.00	灰	*	*	0190
45-1923	208	凹み石	*	11.30	8.40	4.50	580.00	燧 灰 質	花崗閃緑岩	*	0069
45-1924	208	凹み石	*	10.7	10.6	9.0	1,600.00	灰 黄 緑	両輝石安山岩	一部欠	0222
45-1925	208	平打(磨打形 打製石斧)	*	17.3	11.80	3.7	1,250.00	緑灰・オリーブ 系 青 灰	*	完 形 10	0210
45-1926	208	磨打形 打製石斧	*	10.6	15.3	5.3	1,200.00	明 灰 質	*	*	0206
46-1927	209	凹み石製品	*	4.70	4.90	2.00	20.00	明 燧 質	燧 灰 質 泥 岩	*	0025
46-1928	209	*	*	4.4	4.5	1.4	38.55	鈍い黄緑	*	*	0044
46-1929	209	*	*	4.7	4.6	1.5	45.10	鈍い 黄 緑	*	*	0036
46-1930	209	*	*	5.4	4.2	1.3	28.50	鈍い黄緑	*	*	0013
46-1931	209	*	*	4.8	4.1	2.0	70.00	鈍い 赤 褐	注賢燧灰質泥岩	*	0227
46-1932	209	*	*	5.1	5.0	1.6	70.50	灰 白	両輝石安山岩	*	0018
46-1933	209	*	*	5.7	5.0	2.0	79.05	磨 粉	注賢燧灰質泥岩	*	0038

図帳番号	写真番号	部 種	出土遺構	最大径	最大巾	最大厚	重量	色 澤	材 質	保存状況 保存割合	整理番号
46-1934	209	円板状石製品	日置一組	5.5 ¹⁰⁰	5.3 ¹⁰⁰	2.0 ¹⁰⁰	80.50	橙	注貫細粒凝灰岩	定形 未製品	0023
46-1935	209	*	*	5.3	4.2	1.1	29.44	黄い赤褐色 黄い	細粒凝灰岩	塊 6	0023
47-1936	209	*	*	6.3	5.4	2.1	90.00	黄い赤褐色	注貫細粒凝灰岩	定形 10	0004
47-1937	209	*	*	6.7	6.2	2.0	139.00	明黄褐色	細粒凝灰岩	*	0001
47-1938	209	*	*	6.8	6.2	2.5	190.00	黄褐色 白灰	洞輝石安山岩	*	0026
47-1939	210	明き石	*	10.0	5.6	5.1	470.00	黄褐色	注貫細粒凝灰岩	*	0193
47-1940	209	円板状石製品	*	9.3	8.4	3.3	350.20	黄い黄褐色	*	*	0002
47-1941	209	断面ある平石 (感石)	*	5.1	3.7	0.9	22.55	黄褐色	*	4 塊	0205
47-1942	209	断面ある板石製品	*	4.3	3.2	0.8	14.55	明黄褐色	細粒凝灰岩	2 塊	0001
48-1943	210	平石	*	17.00	11.20	2.80	990.00	黄い赤褐色	注貫細粒凝灰岩	7 塊	0194
48-1944	210	石籠(感石)	*	16.90	13.40	5.40	1,700.00	黄褐色	注貫凝灰岩	3 塊	0209
48-1945	210	石 籠	*	23.40	21.90	4.4	382.00	灰オリーブ	洞輝石安山岩	8 塊	0188
48-1946	210	*	*	24.30	15.90	5.70	2,702.00	オリーブ灰 赤	*	4 塊	0196
56-2077	—	石 俵	日置一組	9.4	3.7	1.0	42.55	灰 白	粘 土	断面細片	0069
57-2079	219	石 俵	*	2.90	1.40	0.50	1.40	灰 黄	注貫凝灰岩	定形 10	5714
57-2080	—	石 俵	*	5.30	2.60	1.40	11.85	灰 白	凝結砂質 細粒凝灰岩	一部欠	5715
57-2081	219	*	*	5.20	2.7	1.4	8.95	黄褐色 白	洞輝石安山岩	8 塊	0163
57-2082	219	石 俵	*	1.9	1.5	0.3	0.85	灰 黄	注貫凝灰岩	先端部 一部欠	5856
57-2083	219	スクレーパー	*	4.0	2.5	0.8	10.67	黄褐色	注貫凝灰岩	111定形 10	5719
57-2084	219	*	*	4.5	3.5	1.0	21.26	黄褐色	注貫凝灰岩	定形 10	5721
57-2085	219	*	*	6.2	3.7	1.5	23.55	黄褐色 黄	*	一部欠	5720
57-2086	219	フ	*	5.2	3.9	1.6	30.65	黄褐色 黄	注貫凝灰岩	111定形	0187
57-2087	—	フ レ ー ヅ	*	4.4	6.3	0.9	23.15	—	注貫凝灰岩	定形 10	1035
57-2088	219	断面ある 板石	*	3.0	2.8	0.6	3.40	黄褐色	凝 灰 岩	*	1192
57-2089	219	スクレーパー	*	2.9	2.8	1.0	6.70	黄褐色 黄	注貫凝灰岩	2 塊	0151
57-2090	219	*	*	6.3	3.0	1.1	18.52	黄 灰	*	定形 10	5717
57-2091	219	*	*	6.0	3.4	1.2	29.85	黄 黄	凝 灰 岩	111定形	5718
57-2092	219	断面ある 板石	*	3.8	3.0	0.9	8.95	黄 黄	*	6 塊	1044
57-2093	219	スクレーパー	*	6.2	4.1	1.4	55.31	黄褐色 灰白 黄	注貫凝灰岩	定形 10	5716
58-2094	219	円板状石製品	*	5.4	5.5	2.2	98.00	灰 白	凝結砂質 細粒凝灰岩	*	5749
58-2095	219	*	*	4.9	5.6	1.5	65.00	黄褐色 黄	注貫凝灰岩	未製品	5752
58-2096	219	*	*	5.9	5.2	1.1	29.70	黄褐色 黄	凝結凝灰岩	塊 6	0035
58-2097	219	*	*	5.8	4.9	1.0	90.05	黄褐色 黄	注貫凝灰岩	定形 10	0021
58-2098	210	*	*	5.2	5.5	1.4	59.47	黄	注貫凝灰岩	未製品	5753
58-2099	210	*	*	6.7	6.2	2.2	120.50	黄褐色 黄	凝結凝灰岩	定形 10 (未製品)	0014
58-2100	219	*	*	7.40	6.60	1.70	130.00	黄褐色 黄	洞輝石安山岩	111定形 10	0011
58-2101	210	*	*	6.40	8.00	1.90	140.00	黄 赤 黄	注貫凝灰岩	未製品	5751
59-2102	220	*	*	4.7	4.5	1.5	28.00	*	*	定形 10	0034
59-2103	220	*	*	4.5	4.8	0.7	21.05	黄褐色 黄	凝結凝灰岩	*	0017
59-2104	220	*	*	4.8	4.5	1.9	55.75	黄い 黄	*	定形 10 (未製品)	0020
59-2105	220	*	*	5.3	5.3	1.6	70.90	黄褐色 黄	洞輝石安山岩	*	0016

図説番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 埋蔵時期	整理番号	
59-2106	220	円板状石製品	HⅡ-一段階	4.8 ^{cm}	5.1 ^{cm}	1.5 ^{cm}	49.80	黒灰・灰白 一部赤化	陶碑石安山岩	完形10 (未製品)	5750	
59-2107	220	四 角 石	*	22.90	6.0	4.3	430.00	純 黄 色	*	1 欠	0200	
59-2108	220	*	*	6.9	6.0	4.3	280.00	灰 黄 色 日 晒	*	5 塊	0204	
59-2109	—	石 旗	*	12.90	13.20	6.6	131.00	黄 色	*	2.5塊	0218	
60-2110	220	磨 製 石 斧	*	18.00	6.10	2.90	570.00	緑緑灰・オリーブ灰・灰白	蛇 紋 岩	完 形 10	0052	
60-2111	220	磨 製 石	*	6.4	5.8	4.7	260.00	—	輝石安山岩	*	5644	
60-2112	220	磨 製 石 斧	*	2.9	1.8	1.1	5.30	オリーブ灰	緑色燧灰岩	刃部欠	0157	
62-2122	222	石 棒	HⅡ-一段階	25.50	2.50	2.20	200.00	黄 灰 色	緑色燧灰岩 ホルンブルグス	先端5塊	(A) 0060	
62-2123	222	*	*	12.30	2.0	1.7	53.30	*	*	*	(B) 0066	
62-2124	222	円板状石製品	*	4.40	4.20	2.00	34.85	淡黄 色 黄 色	細粒燧灰岩	完形10 (未製品)	0029	
62-2125	221	*	*	4.7	4.8	1.7	52.20	淡黄 色	*	*	0028	
62-2126	—	*	*	5.8	5.1	1.2	40.90	*	*	*	0027	
62-2127	222	磨 製 石	*	6.4	4.6	4.3	180.00	灰 オリーブ	陶碑石安山岩	*	0074	
62-2128	221	石 旗	*	5.3	2.0	1.6	15.35	灰 色	注貫燧灰質泥岩	*	0144	
62-2129	221	スチレーン	*	5.9	2.3	0.7	11.30	黄 色 黄 色	燧灰質流紋岩	ほぼ完形	0108	
62-2130	221	*	*	5.4	4.7	1.6	29.50	灰 色	注貫泥岩	完 形 10	0114	
62-2132	222	円板状石製品	HⅡ-一段階	4.7	4.5	1.5	29.65	淡 黄 色 黄 色	細粒燧灰岩	*	0008	
62-2134	222	*	*	5.0	4.3	1.5	35.15	淡 黄 色 黄 色	*	*	0007	
62-2135	222	*	*	6.5	5.2	1.8	100.00	純 白 色	陶碑石安山岩	塊 5	0032	
62-2136	222	明子石 (燧石製)	*	8.6	6.8	5.4	430.00	明 色	注貫細粒燧灰岩	完 形 10	0231	
62-2155-2	224	石 器	IⅡ-一段階	23.80	14.00	6.00	1,815.00	灰 色	陶碑石安山岩	2.5塊	0189	
62-2166	224	磨 製 石	*	9.60	6.30	1.40	190.00	淡 黄 色	細粒燧灰岩	6 塊	0063	
62-2167	224	円板状石製品	*	5.80	4.00	1.90	48.50	黄 色 黒 色	注貫細粒燧灰岩	完 形 10	0040	
62-2168	224	石 柱	*	5.9	2.2	0.8	7.65	黒 色	硬質泥岩	完 形 一部欠	0120	
62-2169	224	スチレーン	*	2.7	3.6	0.6	4.40	明 灰 色	燧灰質流紋岩	1塊欠	0105	
70-2210	226	石 旗	IⅡ-一段階	3.0	2.2	0.7	3.80	灰 黒 色	注貫泥岩	舞部欠	0154	
70-2211	226	小型 スチレーン	*	1.20	2.3	0.8	1.80	灰 黒 色	灰 白 色	*	ほぼ完形	0171
70-2212	226	石 旗	*	3.50	2.10	0.9	6.65	黒 色	*	完 形 10	0871	
70-2213	226	スチレーン	*	5.70	2.80	0.80	14.45	灰 黒 色	燧 灰 質	*	ほぼ完形	0097
70-2214	226	石 ヘラ	*	8.60	4.20	2.20	70.50	黄 灰 色 灰 色	注貫燧灰質泥岩	完 形 10	0133	
70-2215	226	スチレーン	*	4.0	4.1	0.9	20.40	灰 色	注貫細粒燧灰岩	5 塊	0096	
70-2216	226	*	*	3.6	5.3	1.2	23.60	灰 色 灰 白 色	硬 質 泥 岩	ほぼ完形	0578	
71-2217	226	磨 製 石 斧	*	3.8	3.2	2.1	23.20	純 黄 色	細粒燧灰岩	頭部欠	0008	
71-2218	—	*	*	5.0	3.8	0.6	11.95	燧 灰 質	粘 板 岩	—	0165	
71-2219	227	フ レ ー ク	*	3.8	2.7	1.5	15.20	—	注貫泥岩	完 形 10	0984	
71-2220	—	スチレーン	*	3.1	4.6	0.8	11.90	灰 白 色	燧灰質流紋岩	9 塊	0120	
71-2221	—	*	*	3.1	4.1	0.7	6.2	淡 黄 色	注貫燧灰質泥岩	8 塊	0099	
71-2222	—	*	*	3.0	3.2	0.9	10.05	—	硬質燧灰質泥岩	完 形 10	0776	
71-2223	227	*	*	4.4	2.7	1.0	14.35	灰 黒 色	注貫泥岩	ほぼ完形	0095	
71-2224	227	*	*	3.6	4.1	1.6	15.30	黒 色	硬質泥岩	完 形 10	0113	
71-2225	227	*	*	5.8	2.4	0.9	9.35	淡 黄 色 黄 色	注貫細粒燧灰岩	ほぼ完形	0549	

図物番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 保存割合	整理番号
71-2226	227	フ レ ー ク	1層一版削	2.2 ^{cm}	5.3 ^{cm}	1.5 ^{cm}	17.10g	—	柱 質 泥 岩	完 形 10	0983
71-2227	227	打 製 石 器	*	11.50	5.6	1.5	130.00	褐色オリーブ灰 赤褐色層状	粘 灰 岩	断面6残	0086
72-2228	227	磨 製 石 斧	*	12.9	5.4	3.3	400.00	灰	—	断面部欠	0046
72-2229	227	*	*	12.3	4.0	2.0	170.50	緑 緑 灰 灰	凝灰質千枚岩	下 残 3	0058
72-2230	227	打 製 石 器	*	6.2	6.0	1.7	90.00	褐色オリーブ灰 白	南輝石安山岩	断面一部残	0098D
72-2231	227	磨 製 石 斧	*	12.3	4.4	2.6	220.00	褐色オリーブ灰 褐色オリーブ灰	凝 灰 岩	完 形 10	0045
72-2232	229	磨 石	*	7.1	5.1	4.9	260.00	灰 黄 緑 黄 灰	凝 結 凝 灰 岩	*	0071
72-2233	227	磨 製 石 斧	*	11.30	4.10	1.20	100.00	オリーブ灰 灰	凝灰質千枚岩	下 残 3	0098E1
73-2234	228	磨石(西み石)	*	11.9	6.0	3.0	370.00	灰 黄 緑 灰	南輝石安山岩	完 形 10	0230
73-2235	227	砥 石	*	8.1	5.5	1.9	110.50	褐色オリーブ灰	淡緑色凝灰岩	6 残	0062
73-2236	228	押込み平石	*	11.5	6.7	2.5	330.00	黄 黄 緑 黄 灰	柱 質 凝 灰 岩	一部残	0198
73-2237	228	甲 石	*	8.7	4.8	2.2	130.00	黄 黄 緑 黄 灰	凝 結 凝 灰 岩	完 形 10	0060
73-2238	228	三角柱状磨石	*	12.50	5.5	4.9	470.00	黄 黄 緑 黄 灰	南輝石安山岩	6 残	0229
73-2239	228	甲 石	*	8.7	6.8	5.8	440.00	淡 黄 緑 黄 灰	柱質凝結凝灰岩	完 形 10	0085
74-2240	228	磨 石	*	9.8	8.6	6.4	790.00	黄 緑 灰 褐色オリーブ灰	南輝石安山岩	*	0224
74-2241	228	円板状石製品	*	7.6	7.5	2.5	32.70	黄 緑 灰 黄 灰	*	*	0037
74-2242	229	*	*	4.5	4.4	1.0	32.70	鈍い黄緑	凝 結 凝 灰 岩	*	0042
74-2243	229	*	*	4.3	4.0	1.0	27.85	鈍い橙	*	*	0024
74-2244	229	*	*	5.5	5.4	1.1	43.55	橙	*	*	0005
74-2245	229	*	*	5.7	5.7	1.9	65.00	鈍い黄緑	*	*	0041
74-2246	229	*	*	6.6	5.4	1.1	38.80	黄 緑 灰 黄 灰	*	断面 欠	0012
74-2247	229	*	*	5.7	5.3	1.2	48.30	鈍い黄	柱質凝結凝灰岩	断面 欠	0031
74-2248	228	*	*	5.7	5.8	1.9	80.00	黄 緑	*	完 形 10	0043
75-2249	—	コ ア	*	12.20	12.90	4.4	970.00	—	*	*	0172
75-2250	229	有孔自然礎	*	10.7	6.7	5.3	350.00	粗 赤 黄	*	*	0228
75-2251	229	球状石製品	*	8.2	8.2	7.6	720.00	灰 白	凝 結 凝 灰 岩	*	1089
77-2285	231	ステレオ---	1層一版削	4.0	1.9	0.7	3.95	灰 白	柱 質 泥 岩	5 残	0199
77-2286	231	石 器	*	7.3	1.8	0.9	13.14	黄 赤 黄 緑 赤 黄 緑	*	断面部欠	0126
77-2287	232	石 器	*	9.4	3.6	1.3	47.40	灰 黄	柱質凝灰質泥岩	完 形 10	0130
78-2288	232	磨 製 石 斧 (明き石製)	*	11.20	5.3	2.9	295.00	黄 赤 黄 緑 赤 黄 緑	安 山 岩	断面部欠	0053
78-2289	232	砥 石	*	19.8	9.0	2.5	449.00	鈍い黄緑	柱 質 凝 灰 岩	一部欠	0017
78-2290	231	明き石 (砥石製)	*	8.4	7.8	6.3	550.00	鈍い黄緑 黄 赤 黄 緑	柱質凝結凝灰岩	完 形 10	0232
80-2300	232	石 器	JⅤ一版削	5.3	5.3	1.0	9.95	黄 赤 黄 緑 赤 黄 緑	柱 質 泥 岩	断面部欠	0612
80-2302	232	円板状石製品	*	5.8	5.4	2.1	59.85	橙	南輝石安山岩	完 形 10	0093
84-2357	236	石 器	JⅤ一版削	2.4	1.7	0.7	1.70	粘 赤	鉄 石 黄	断面部欠	0147
84-2358	236	*	*	2.9	2.2	0.5	2.45	—	凝 灰 泥 岩	完 形 10	0604
84-2359	236	石 器	*	5.0	2.7	1.0	10.50	灰 黄	柱質凝結凝灰岩	完 形 10	0129
84-2360	236	石 器	*	1.6	1.4	0.3	0.95	黄 赤	柱 質 泥 岩	断面部欠	0625
84-2361	236	ステレオ---	*	5.7	2.5	0.9	14.30	灰 白 黄 赤	凝 結 凝 灰 岩	完 形 10	0112D
84-2362	236	石 器	*	3.6	2.0	0.7	4.35	鈍い黄緑	凝灰質凝灰岩	*	0780
84-2363	236	使用済みの 磨石	*	5.1	4.3	0.7	11.30	黄 赤	凝 灰 泥 岩	*	0785

図版番号	写真番号	部 種	出土遺構	最大径	最大中	最大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 保存割合	整理番号	
84-2364	236	スクレーパー	JⅤ-Ⅰ組	9.4	3.1	1.7	50.75	黄 灰	硬 白	粘 土 質	完 全	011211
84-2365	236	*	*	4.8	5.6	1.4	29.20	鈍 黄 色	珪 質 凝 灰 質 泥 岩	*	0163	
84-2366	—	小型磨製石片	*	2.4	1.3	0.5	2.20	石 質、不 明	粗 粒 岩	*	0857	
84-2367	236	浮石製石器	*	6.9	2.6	1.5	6.85	明 黄 色	粗 粒 岩	*	0091	
84-2368	237	叩き石	*	5.1	5.1	3.1	160.00	灰 黄	硬 白	粘 土 質	*	0090
84-2369	237	円板状石製品	*	4.1	4.0	0.8	15.80	鈍 い 黄	粘 土 質 凝 灰 質 岩	*	0010	
85-2370	236	凹み石 (叩き・磨石兼用)	*	14.4	5.5	5.6	400.00	オリーブ 灰	凝 灰 質 凝 灰 質 岩	*	0203	
85-2371	236	凹み石	*	12.6	6.7	4.6	500.00	淡 黄 色 黄 色	凝 灰 質 凝 灰 質 岩	一部欠	0225	
85-2372	236	円板状石製品	*	6.8	5.4	2.0	130.00	黄 色 黄 色	凝 灰 質 凝 灰 質 岩	一部欠	0019	
85-2373	236	*	*	5.0	4.6	1.3	38.20	淡 黄 色	粘 土 質 凝 灰 質 岩	*	0000	
86-2374	237	凹み石	*	14.6	8.0	2.6	430.00	淡 黄 色 黄 色	凝 灰 質 凝 灰 質 岩	一部欠	0223	
86-2375	237	砥石	*	12.6	7.1	6.9	480.00	淡 黄 色 白、黄 色	*	6 塊	0221	
87-2376	237	磨石	*	11.0	9.6	8.4	1,300.00	淡 黄 色 黄 色	凝 灰 質 凝 灰 質 岩	完 全	0215	
87-2377	237	平石	*	16.0	15.0	4.2	1,400.00	明 黄 色 黄 色	凝 灰 質 凝 灰 質 岩	*	0302	
92-2456	242	石 皿	JⅤ-Ⅰ組	2.8	2.0	0.8	5.3	黄 色	凝 灰 質	珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	先端部 欠	0141
92-2457	242	スクレーパー	*	3.5	2.8	1.0	10.40	淡 黄 色 黄 色	硬 白	珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	6 塊	0109
92-2458	242	石 匙	*	3.1	2.6	0.8	5.35	淡 黄 色 黄 色	硬 白	珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	頭部 欠	0156
92-2459	242	スクレーパー	*	2.8	1.9	0.6	4.50	黄 色 黄 色	硬 白	珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	3 塊	0152
92-2460	242	*	*	3.5	2.3	1.0	7.35	淡 黄 色	凝 灰 質	*	3 塊	0150
92-2461	—	フレータ	*	3.4	2.4	0.8	6.25			珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	完 全	0501
92-2462	242	スクレーパー	*	5.1	4.4	0.6	16.25	淡 黄 色 黄 色	凝 灰 質	硬 質 珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	5 塊	1129
92-2463	242	*	*	4.3	5.3	1.3	24.25	明 黄 色 黄 色	凝 灰 質	硬 質 珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	完 全	0841
92-2464	241	フレータ	*	3.8	2.8	1.4	16.15			硬 質 珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	*	0657
92-2465	242	スクレーパー	*	4.6	4.4	1.4	37.85	明 黄 色 黄 色	凝 灰 質	硬 質 珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	一部欠	0660
93-2466	241	磨製石片 (叩き石兼用)	*	3.5	3.7	2.1	29.40	明 黄 色 黄 色	凝 灰 質	粘 土 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	先端部 欠	0056
93-2467	242	磨製石片	*	3.8	3.6	0.7	14.15	明 黄 色 黄 色	凝 灰 質	凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	先端部 欠	0067
93-2468	242	磨石	*	4.4	4.0	0.5	10.70	淡 黄 色 白	凝 灰 質	珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	*	1119
93-2469	242	円板状石製品	*	4.7	4.4	1.1	30.85	オリーブ 黄 黄 色	凝 灰 質	粘 土 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	完 全	0015
93-2470	242	*	*	4.2	4.1	0.9	27.25	赤 色	凝 灰 質	珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	*	0030
93-2471	242	磨石	*	7.0	6.7	3.7	350.00	黄 色 黄 色	凝 灰 質	安 山 岩	*	0645
93-2472	242	*	*	9.0	5.7	4.4	320.00	オリーブ 黄 黄 色	凝 灰 質	粘 土 質 凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	*	0070
93-2473	242	小球	*	3.3	2.8	2.6	34.60	淡 黄 色 黄 色	凝 灰 質	*	*	0077
93-2474	—	磨石	*	4.4	3.6	3.1	70.00	淡 黄 色	凝 灰 質	珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	*	0079
93-2475	243	*	*	5.4	5.2	4.7	140.00	淡 黄 色 オリーブ 灰	硬 白	*	*	0078
93-2476	242	砥石	*	7.8	4.3	3.6	140.00	黄 色 白	凝 灰 質	*	一部欠	0088
94-2477	243	凹み石	*	17.1	5.6	3.9	385.00	淡 黄 色 黄 色	凝 灰 質	*	完 全 2 塊 保存割合	0083
94-2478	243	*	*	12.7	10.7	6.6	1,280.00	淡 黄 色 オリーブ 灰	硬 白	凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	完 全	0214
94-2479	243	石 皿	*	14.0	22.1	6.1	6,800.00	淡 黄 色 黄 色	凝 灰 質	*	9 塊	0187
95-2498	244	石 匙	KⅤ-Ⅰ組	5.7	2.3	0.8	9.70	明 黄 色	凝 灰 質	珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	一部欠	0126
99-2570	248	石 皿	KⅤ-Ⅰ組	4.5	1.3	1.0	5.45	淡 黄 色	凝 灰 質	硬 質 珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	完 全	0148
99-2571	248	石 皿	*	8.3	3.1	2.5	80.00	淡 黄 色	凝 灰 質	硬 質 珪 質 凝 灰 質 凝 灰 質 凝 灰 質 岩	(11)完形	0145

図版番号	写真番号	品 種	出土遺構	最大径	最大巾	最大厚	重量	色 調	材 質	保存状況 後存割合	整理番号	
99-2572	248	スクレーパー	KⅡ-組簡	cm	cm	cm	30.55	無 用 質	赤 土 質	鉄 石 質	ほぼ完形	0094
99-2573	248	*	*	4.6	3.7	1.0	16.20	灰 質	焼 土 質	珪 質 凝 灰 岩	完 形 10	0571
99-2574	248	フ レ ー ク	*	3.6	3.2	0.9	8.40			硬 質 泥 岩	*	0629
99-2575	248	スクレーパー	*	3.3	4.9	0.6	11.00			オリーブ灰	5 塊	0117
99-2576	—	フ レ ー ク	*	3.1	7.6	1.2	23.70			硬質凝灰質泥岩	完 形 10	1180
100-2577	248	叩き供のみ志 礎	*	12.1	8.0	6.2	630.00	明 緑 質	灰 質	麻 痺 石 雲 母 岩	*	0199
100-2578	248	円板状石製品	*	7.3	6.5	2.4	130.50	浅 黄 オレン ジ 色		*	*	0006
102-2589	249	石 ヘ ラ	LⅡ-組簡	6.5	3.7	1.3	35.10	暗 灰 質	灰 質	珪 質 泥 岩	*	0132
102-2590	249	スクレーパー	*	3.8	5.4	0.9	12.30	褐 色	灰 質	*	*	0107
102-2591	249	磨 石	*	6.9	4.0	4.3	160.00	明 黄 色	灰 質	珪 質 凝 灰 岩	*	0076
102-2592	249	*	*	5.5	4.4	3.8	220.00	青 灰 色	灰 質	粗 粒 凝 灰 岩	*	0081
102-2593	249	磨 製 石 斧	*	9.7	4.7	2.3	140.00	灰 黒 白	灰 質	雲 母 岩	*	0046
104-2594	249	スクレーパー	LⅡ-組簡	4.7	5.5	1.1	17.50	灰 黒 白	灰 質	硬 質 泥 岩	*	0523
102-2596	249	石 刀 (肉類)	MⅡ-組簡	5.6	3.6	2.3	57.45	灰 質 黄 色	黄 色 凝 灰 岩	硬 砂 岩	頭部破	0164
104-2601	249	石 匙	MⅡ-組簡	5.4	4.7	1.6	28.60	黄 灰 色 ・ 灰 質 凝 灰 岩	灰 質 凝 灰 岩	珪 質 泥 岩	ほぼ完形	0128
106-2603	250	磨 製 石 斧	GⅡ-表板	26.9	17.2	3.8	2,630.00	黄 色 凝 灰 岩	灰 質	珪 質 凝 灰 岩	完 形 10	0216
107-2604	250	石 匙	JⅡ-Ⅰ Ⅱ-Ⅰ Ⅱ-Ⅰ 表板	3.4	2.4	1.1	7.43	黒 色 凝 灰 岩	灰 質	珪 質 泥 岩	*	0672
107-2605	250	スクレーパー	*	6.6	6.5	1.3	49.45	黒 色	凝 灰 岩	硬質凝灰質泥岩	*	0673
107-2606	250	円板状石製品	*	6.4	6.0	1.4	60.00	純 白	凝 灰 岩	粗粒凝灰岩	*	0022
109-2646	252	石 匙	出土地不明	2.4	1.6	0.4	1.00	灰 白	土 質	土 質	基 部 欠	0143
109-2647	252	石 匙	*	6.4	2.0	0.6	120.00	黄 灰 色	灰 質	珪 質 凝 灰 質 泥 岩	ほぼ完形	0125
109-2648	252	*	*	4.0	6.5	1.0	22.75	黄 灰 色	凝 灰 岩	*	完 形 10	0124
110-2649	252	石 ヘ ラ	*	3.3	4.8	1.9	43.00	褐 色	灰 質	*	完 形 10	0131
110-2650	252	スクレーパー	*	3.4	3.3	0.4	5.65	明 黄 色	灰 質	硬 質 泥 岩	完 形 10	8895
110-2651	252	*	*	4.4	3.9	1.4	23.40	明 黄 色	灰 質	硬質凝灰質凝灰岩	*	0100
110-2652	252	*	*	2.7	4.2	0.8	7.60	褐 色	灰 質	珪 質 泥 岩	1 塊	0101
110-2653	253	*	*	4.7	4.2	1.0	21.00	灰 黄 色	凝 灰 岩	硬 質 泥 岩	5 塊	0102
110-2654	252	*	*	5.7	4.0	1.0	22.80	黒 色	凝 灰 岩	*	完 形 10	5006
110-2655	252	*	*	5.5	5.5	0.9	15.45	褐 色	灰 質	*	*	5005
110-2656	252	磨 製 石 斧	*	5.0	3.7	2.4	54.00	明 オ リ ー ブ 灰 質	灰 質	凝 灰 岩	頭部破	0054
110-2657	—	小型磨製石斧	*	2.7	1.4	0.8	4.20	淡 黄 色	白 土 質	凝 灰 質 凝 灰 岩	上 部 破	0170
110-2658	—	有溝扁平鏃	*	3.7	3.1	0.7	4.82	灰 質 凝 灰 岩	白 土 質	凝 灰 質 凝 灰 岩	完 形	5004
110-2659	252	組 具	*	9.3	6.1	1.0	70.00	暗 黄 色	灰 質	粘 土 質	一部欠	0092
111-2660	253	磨 製 石 斧	*	6.9	4.6	2.6	120.00	明 緑 質 ・ 純 灰 質	灰 質	麻 痺 石 雲 母 岩	頭部破	5002
111-2661	252	円板状石製品	*	2.6	6.4	2.1	41.15	灰 色	凝 灰 岩	麻 痺 石 雲 母 岩	長 塊	5007
111-2662	253	磨 製 石 斧	*	2.0	2.3	1.1	7.30	緑 黄 色	灰 質	硬 質 泥 岩	刃 の 一 部 欠	5001
111-2663	253	*	*	5.5	5.0	1.8	80.00	明 オ リ ー ブ 灰 質	灰 質	硬 砂 岩	刃 部	5003
111-2664	253	円板状石製品	*	5.6	6.2	1.4	58.60	純 赤 色 ・ 淡 黄 色	凝 灰 岩	珪 質 凝 灰 岩	完 形 10	5790
111-2665	253	*	*	4.4	5.4	1.2	38.97	純 赤 色	凝 灰 岩	*	無 頭 部 欠	5008
111-2666	253	*	*	4.4	4.9	1.1	41.45	*	*	*	完 形 10	5010
111-2667	253	*	*	4.7	4.8	1.3	35.20	*	*	*	*	5009

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
111-2668	253	磨 石	出土地不明	7.6 ^{cm}	6.3 ^{cm}	3.5 ^{cm}	340.00 ^g	緑 灰	磨練石安山岩	完 形	5847
112-2669	253	*	*	13.0	10.5	9.0	1,700.00	*	*	*	5848
112-2670	253	石 皿	*	25.2	18.1	9.4	4,640.00	青 灰	*	1 欠	5846

第4表 須恵器・陶器

図版番号	器 種	出土遺構	層位	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	保存状況 残存割合	備 考	推定所属 時 期	整理番号
56-2076	須 恵 器 (香少瓶)	G9グロッ	層	4.1 ^{cm}	4.2 ^{cm}	0.9 ^{cm}	17.70 ^g	黒褐 灰白	細 片	ロタロ製用による磨練で瓶内外にあり、外面、灰粒なし。灰かぶりあり。	古代～ 中近世	T 001
70-2209	陶 器 (スリ鉢)	I 9一拵	I b	4.0	2.3	0.7	8.10	灰褐	*	外面無文。縦方向ツツ痕あり。胎ありか？ 内面に細かな縦方向の条線多数。	近～現代	T 002
95-2497	陶 器 (漆鉢)	K V一拵	I a	1.7	2.1	0.2	0.70	*	*	外面無文横方向横リ痕あり。胎ありか？ 内面に細かな縦方向条線多数、002より厚手。	近本 1194より T 003	

第5表 金属製品

図版番号	器 種	出土遺構	層位	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材質	保存状況 残存割合	備 考	推定所属 時 期	整理番号
1075	鉄 製 品	K N- 21 pit	層 埋 土	4.1 ^{cm}	5.1 ^{cm}	1.6 ^{cm}	46.25 ^g	錆化で とど割れ 裏 傷	鉄	細片 錆化亀裂 著るしい	縦状、片割著りに 縦直交する縦状 突起帯あり。全体 形状不明。	現代？	I 001
1334	A 飯塚の 天井釣金具	F N-062 飯 塚	針 金 天井祝 願基土	17.4	8.5	0.3	24.00	黒 褐	鉄	約十 錆化する しい	四角形の板状鉄片 及び針金よりなる 針金の組立。	現代 1930年代	5843A
1335	D *	*	*	*	*	*	*	*	*	十以下 錆化する しい	鉤状に曲がって いる。	*	* D
1336	D *	*	*	*	*	*	*	*	*	*	V字形に曲がって いる。	*	* B
1337	E *	*	*	*	*	*	*	*	*	*	縦折し、おしれた りV字形に曲がっ ている。写真では まづに隠れている。	*	* E
1338	C *	*	*	*	*	*	*	*	*	*	V字形に曲がって いる。	*	* C

第6表 窯 道 具

図版番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	保存状況・残存割合	備 考	整理番号
1332	窯 突 込 石	F N-062飯塚跡	17.4 ^{cm}	8.9 ^{cm}	4.8 ^{cm}	1,080.00 ^g	黒 灰い陰	*	完 形	5849
1333	窯 口 部 品	*	17.2	10.8	9.9	1,840.00	灰い陰 灰い裏	*	*	5841

第7表 自然遺物

図版番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	保存状況・残存割合	備 考	推定所属 時 期	整理番号
222-2121	骨 片	H V一組櫃	3.4 ^{cm}	3.8 ^{cm}	0.4 ^{cm}	3.24 ^g	浅黄橙 黄 橙	細 片	中～大型哺乳動物の肩甲骨の 一部と思われる。	現代？	1256

付 編

3. 炭化材の樹種鑑定

遺構の内外から出土した炭化材の肉眼鑑定を行なった。結果は下記のとおりである。

昭和57年11月24日

岩手県木炭協会指導員 早坂 松次郎

試料整理番号	出土遺構	層位	樹種
S-26 a	FⅢ-019住居跡	埋土	クリ Castanea Mill
26 b	"	"	" "
23	GⅢ-016住居跡P 1	"	" "
22	" P 7	"	不明
16	" P 23	"	クリ Castanea Mill
15	" P 31	"	" "
25 a	GⅣ-011住居跡	床面	スギ?
24	GⅣ-017住居跡	埋土	クリ Castanea Mill
14	GⅣ-ビット	"	" "
18	"	"	" "
29 a	JⅤ-011住居跡	床面	" "
20	LⅢ-ビット	埋土	" "

写 真 图 版



写真図版1 遺跡付近景観



F IV-081 炭焼場跡



G III-016 住居跡



F III-019 A-D 住居跡

写真図版 2 調査風景



F III-0112-0116
住居跡付近



F IV-011
住居跡



E III・F III区付近

写真図版 3 調査風景



G III区から55年度
調査区域を望む



56年度調査区域
遠望（北から）



調査終了時の状況、
工事進行状況と部
材搬出（北から）

写真図版4 調査風景

J V・VI、K V・VI区
(北西から)



J V・VI、K V・VI区
(西南西から)



J V・VI、K V・VI区
(西から)

写真図版5 遺構群全景



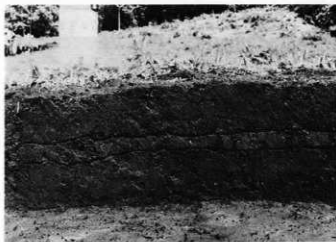


FIV区（西側）土層観察用トレンチ



FIV区（東側）土層観察用トレンチ

写真図版 6 FIV区土層断面



JV-A 6・7グリッド (東から)



JV-A 4グリッド (東から)



JV-A 4グリッド (東から)



JV-B 5グリッド (東から)



JV-B5グリッド (東から)



JV-D9-E9グリッド (南西から)



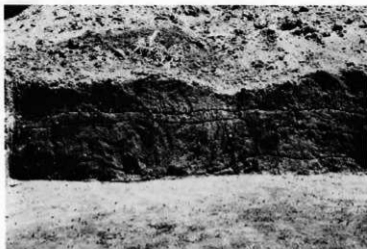
JV-G5グリッド (北から)



JV-I5グリッド (北から)



JVI-A1グリッド (東から)



JVI-A1グリッド (東から)



JVI-B2グリッド (南から)



JVI-J4グリッド (東から)



J VI-J 4 グリッド (南から)



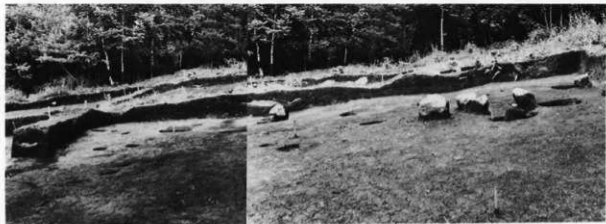
J VI-F 0-6 グリッド 深掘り (南から)



K VI-A 0 グリッド (南から)



K VI-A 4 グリッド (南から)



MV-Fグリッド(東北東から)



H区グリッド(南南西から)



IVI-F0-J0グリッド(東から)



E III · F III 区
完掘状況(1)



E III · F III 区
完掘状況(2)



G III · IV 区
完掘状況(1)

写真図版12 E III · F III · G III · G IV 区完掘状況



G III・IV区
完掘状況(2)



G III・IV区
完掘状況(3)



G III・IV区
完掘状況(4)

写真図版13 G III・IV区完掘状況



F II・III区
完掘状況



E II-011
住居跡完掘状況

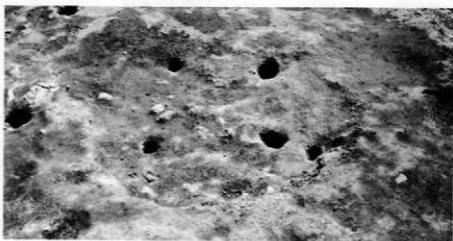


E II-014
住居跡完掘状況

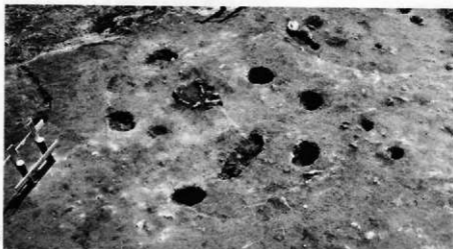
写真図版14 E II-011・014住居跡



E II-013
住居跡完掘状況



E II-012
住居跡完掘状況



E II-015
住居跡完掘状況

写真図版 15 E II-012・013・015住居跡



E III-011住居跡
遺物出土状況(1)



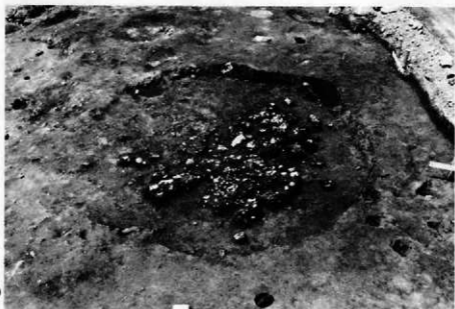
E III-011住居跡
遺物出土状況(2)



E III-011住居跡
遺物出土状況(3)

写真図版16 E III-011住居跡遺物出土状況

E III-011住居跡
遺物出土状況(4)



E III-011住居跡
完掘状況



写真図版17 E III-011住居跡遺物出土・完掘状況



E III-011住居跡
土器出土状況(1)



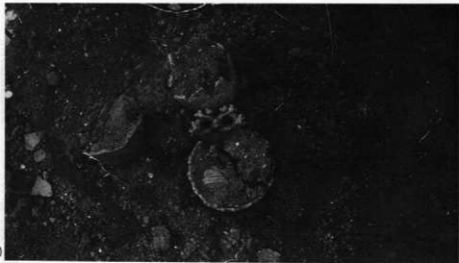
E III-011住居跡
土器出土状況(2)



E III-011住居跡
土器出土状況(3)

写真図版18 E III-011住居跡遺物出土状況(1)

E III-011住居跡
土器出土状況(4)



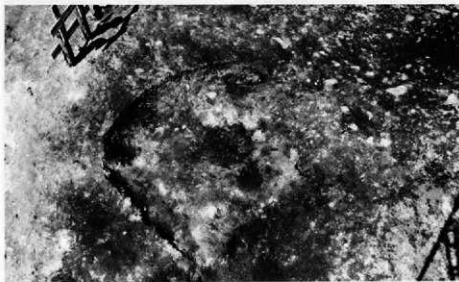
E III-011住居跡
土器出土状況(5)



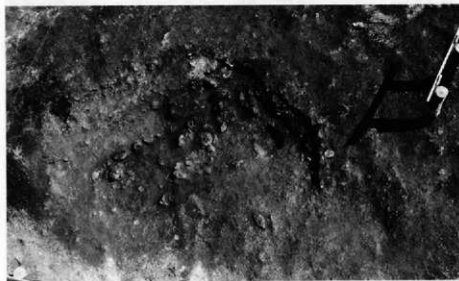
E III-011住居跡
土器出土状況(6)



写真図版19 E III-011住居跡遺物出土状況(2)



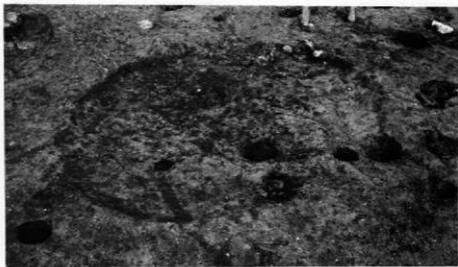
F III-011住居跡
発掘状況



F III-012住居跡
発掘状況

写真図版20 F III-011・012住居跡

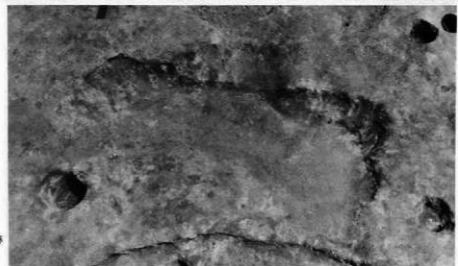
F III-015住居跡
完備狀況



F III-016住居跡
完備狀況



F III-012住居跡
完備狀況



写真図版21 F III-015・016・012住居跡



F III-014住居跡
発掘状況(1)



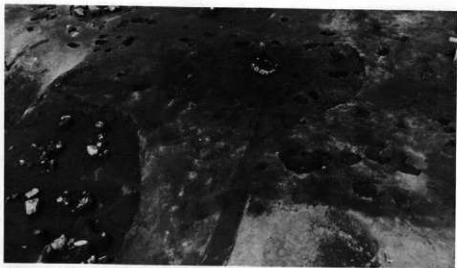
F III-014住居跡
発掘状況(2)



F III-014住居跡
炉跡

写真図版22 F III-014住居跡

F III-018A 住居跡



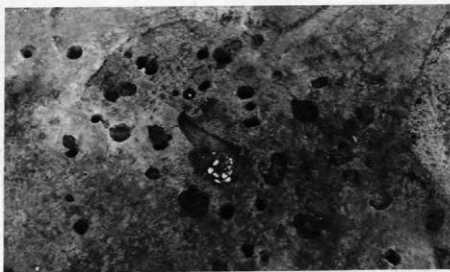
F III-018A 住居跡
炉跡



F III-018A 住居跡
炉跡断面



写真図版23 F III-018A 住居跡



F III-018B 住居跡
完掘状況



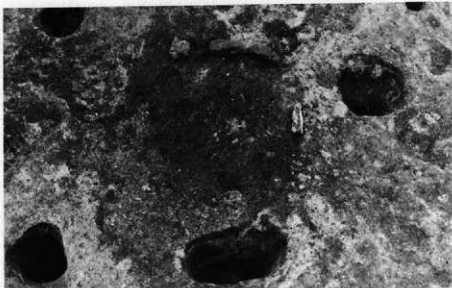
F III-018B 住居跡
炉跡



F III-018B 住居跡
炉跡断面

写真図版24 F III-018B 住居跡

F III-019A ~ D 住居跡
炉跡



F III-019A ~ D 住居跡
埋土上層部より検出した
炉跡



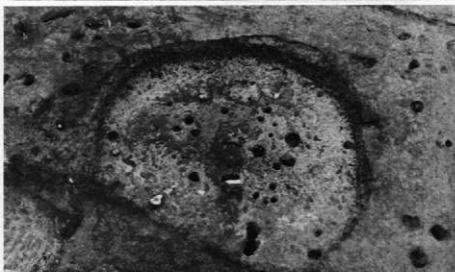
F III-019A ~ D 住居跡
埋土上層部より検出した
断面



写真図版25 F III-019住居跡



F III-019A-D住居跡
上層部検出状況



F III-019D住居跡



F III-019D住居跡
完掘状況

写真図版26 F III-019住居跡



F III-019A-D住居跡
床面の立石(1)



F III-019A-D住居跡
床面の立石(2)



F III-019A-D住居跡
炉跡断面

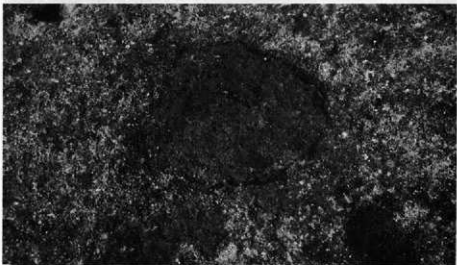
写真図版27 F III-019D住居跡



F III-0113住居跡
土層断面



F III-0113住居跡
発掘状況



F III-0113住居跡
炉跡

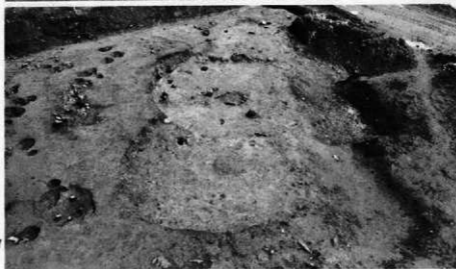
写真図版28 F III-0113住居跡



F III-0113-0116
住居跡発掘状況



F III-0113-0116
住居跡遺物出土状況

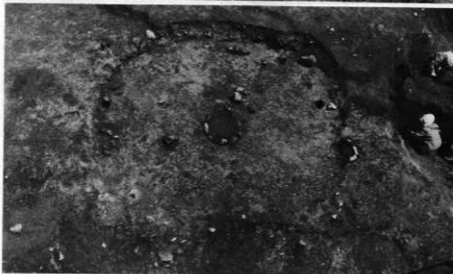


F III-014-0113-0117
住居跡発掘状況

写真図版29 F III-014-0113-0117住居跡



F III-0114住居跡
土層断面



F III-0114住居跡
完掘状況



F III-0114住居跡
炉跡

写真図版30 F III-0114住居跡



F IV-011A・B住居跡
完掘状況



F IV-011A・B住居跡
炉跡



F IV-011A・B住居跡
炉跡断面

写真図版31 F VI-011住居跡



F IV-011B 住居跡
完掘状況

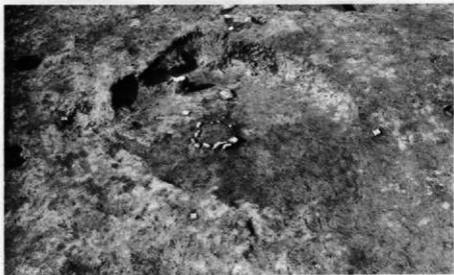


F IV-011B 住居跡
炉跡



F IV-011B 住居跡
土器出土状況

写真図版 32 F IV-011B 住居跡



F IV-012住居跡
完掘状況



F IV-012住居跡
完掘状況



F IV-012住居跡
炉跡

写真図版33 F IV-012住居跡 (1)



F IV-012住居跡
炉跡埋設状況



F IV-012住居跡
炉跡断面



F IV-012住居跡
土器出土状況

写真図版34 F IV-012住居跡 (2)



F III-0116住居跡
土層断面

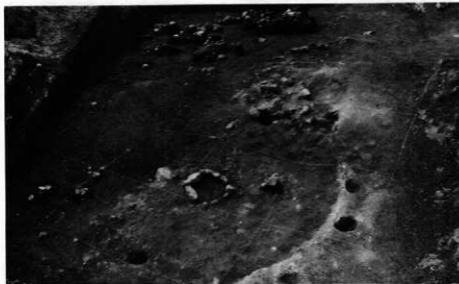


F III-0116住居跡
完掘状況



G II-011住居跡
遺物出土状況

写真図版 35 F III-0116・G II-011住居跡



G II-011住居跡
完掘状況



G II-011・012住居跡
完掘状況



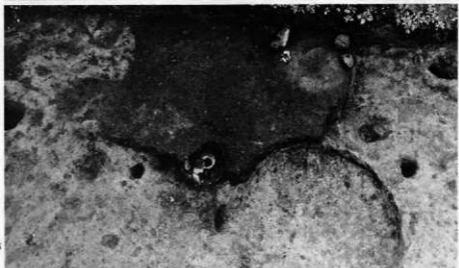
G II-011・012住居跡と
G II-021・023ピット
完掘状況

写真図版36 G II-011・012住居跡

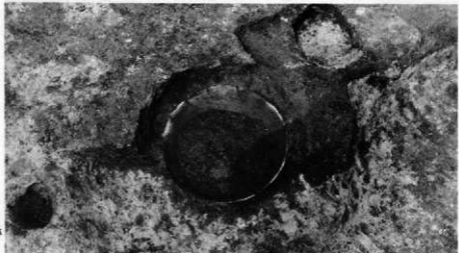
G III-012A~D
住居跡と
G III-025ピット



G III-012A~D住居跡
発掘途中の状況



G III-012E住居跡
土器出土状況



写真図版37 G III-012住居跡



G III-014住居跡
完掘狀況



G III-014住居跡
炉跡



G III-014住居跡
炉跡断面

写真図版 38 G III-014住居跡



G III-015住居跡
完掘状況



G III-015住居跡
土器出土状況



G III-015住居跡
炉跡断面

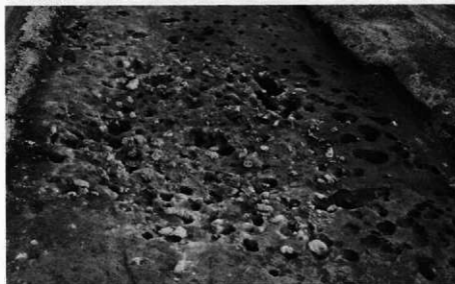
写真図版39 G III-015住居跡



G III-016住居跡
検出状況



G III-016住居跡
集石の状況



G III-016住居跡
完掘状況

写真図版40 G III-016住居跡

G IV-011住居跡
完掘状況



G IV-011住居跡
土層断面



G IV-011住居跡
炉跡断面



写真図版 41 G IV-011住居跡



G IV-013住居跡
完攝状況



G IV-013住居跡
炉跡



G IV-013住居跡
炉跡断面

写真図版42 G IV-013住居跡

G IV-014住居跡
完操状況



G IV-014住居跡
土層断面



G IV-014住居跡
炉跡断面



写真図版 43 G IV-014住居跡 (1)



G IV-014住居跡
遺物出土状況



G IV-014住居跡
土器出土状況(1)



G IV-014住居跡
土器出土状況(2)

写真図版44 G IV-014住居跡 (2)



G IV-014住居跡ほか
完掘状況



G IV-016住居跡
完掘状況



G IV-011住居跡
完掘状況ほか

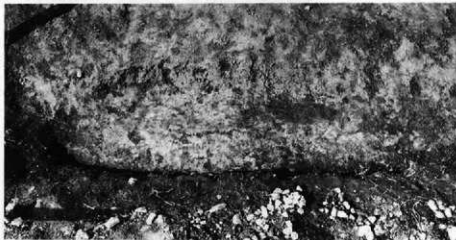
写真図版45 G IV-011・014・016住居跡



G IV-016住居跡
完掘状況

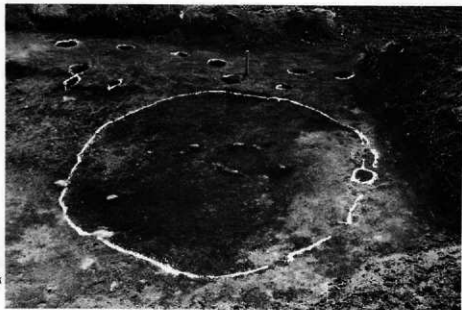


G IV-016住居跡
炉跡



H IV-013住居跡

写真図版46 G IV-016・H IV-013住居跡

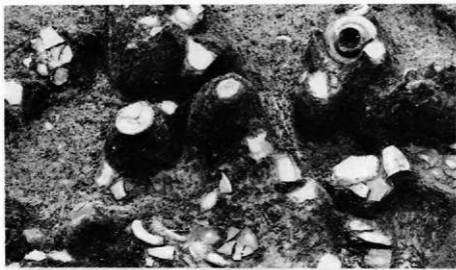


H III-015住居跡
検出状況



H III-015住居跡
完掘状況

写真図版47 H III-015住居跡



H IV-011住居跡
遺物出土状況(1)



H IV-011住居跡
遺物出土状況(2)



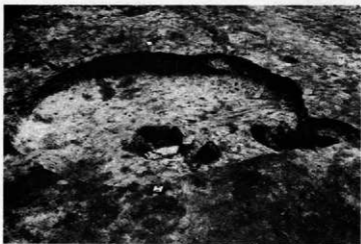
H IV-011住居跡
遺物出土状況(3)

写真図版48 H IV-011住居跡遺物出土状況

H III-011住居跡
完撮状況(南南東から)



H IV-011住居跡
完撮状況(南西から)



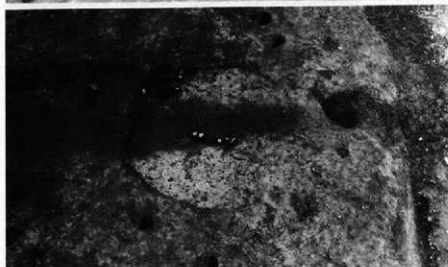
H IV-011住居跡
炉跡



写真図版49 H III-011・H IV-011住居跡



H IV-012住居跡
遺物出土状況



H IV-012住居跡
完掘状況



H IV-012住居跡
炉跡断面

J V-011住居跡
完掘状況(南から)



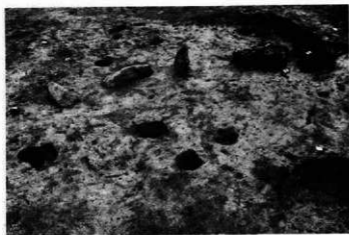
J V-011住居跡
完掘状況(東から)



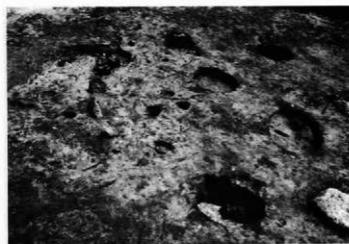
J V-011住居跡
土器出土状況



写真図版51 J V-011住居跡



J V-012A 住居跡
完掘状況(南東から)



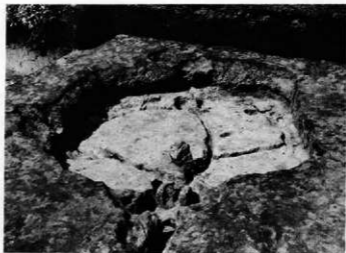
J V-012A 住居跡
完掘状況(南から)



J V-012A 住居跡
土器出土状況

写真図版52 J V-012住居跡

J VI-011A-C 住居跡
完備状況



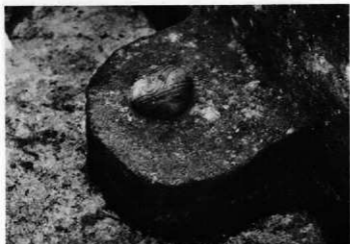
J VI-011A-C 住居跡
溝跡



J VI-011A-C 住居跡
炉跡断面



写真図版53 J VI-011住居跡 (1)



J VI-011C住居跡
土器出土状況(1)



J VI-011C住居跡
土器出土状況(2)



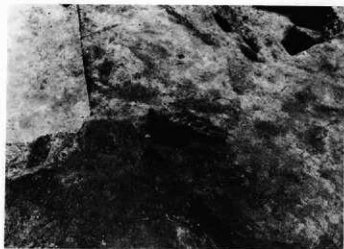
J VI-011C住居跡
土器出土状況(3)

写真図版54 J VI-011住居跡 遺物出土状況

J VI-012 掘立柱建物跡
完掘状況



J VI-012 掘立柱建物跡
炉跡断面



K VI-012 住居跡
完掘状況



写真図版 55 J VI-012・K VI-012 住居跡



K VI-012住居跡
炉跡



K VI-012住居跡
炉跡断面



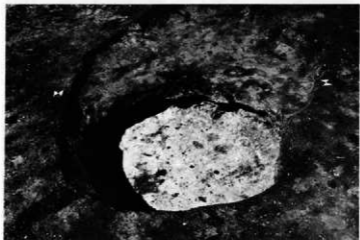
K VI-012住居跡
土器出土状況

写真図版56 K-012住居跡

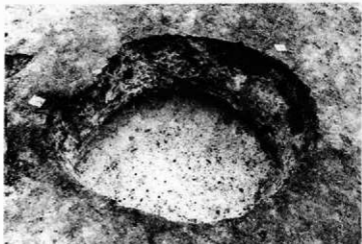
E III-021ビット
遺物出土状況



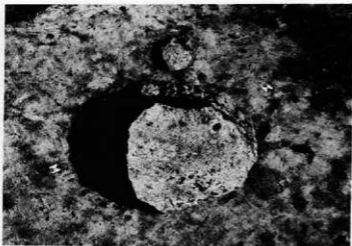
H III-021ビット
完掘状況



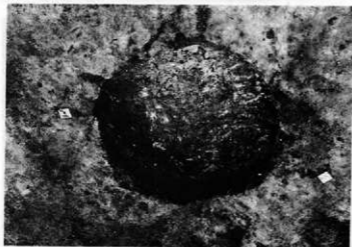
H VI-022ビット
完掘状況



写真図版57 フラスコビット (1)



H V-021ビット
完掘状況



J V-025ビット
完掘状況



J V-023 A ~ Cビット
土層断面

写真図版58 フラスコビット (2)

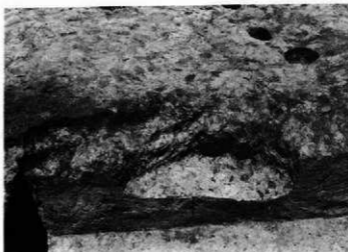
J VI-023ビット
完掘状況



J VI-023ビット
遺物出土状況



J VI-022ビット
完掘状況



写真図版 59 フラスコビット



IV-021ビット
完備状況



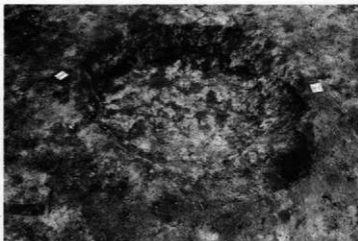
IV-021ビット
土層断面



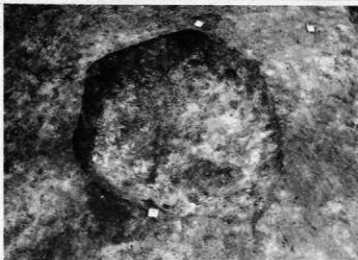
HV-021ビット
土層断面

写真図版 60 フラスコ・摺鉢状ビット

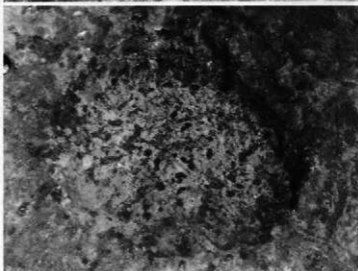
G IV-023ビット
発掘状況



G IV-026ビット
発掘状況



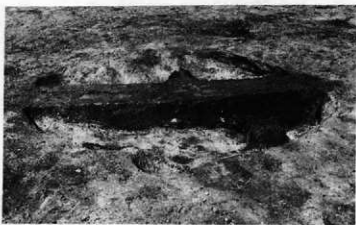
G IV-023ビット
発掘状況



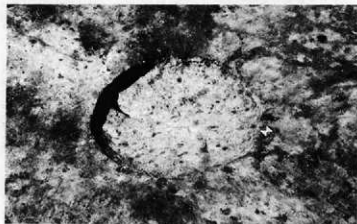
写真図版 61 大型円形ビット (1)



F III-025ピット
完掘状況



H III-023ピット
完掘状況



H IV-021ピット
完掘状況

写真図版 62 大型円形ピット (2)

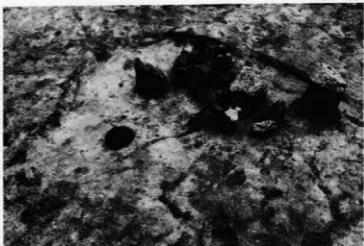
J V-024ビット
土層断面



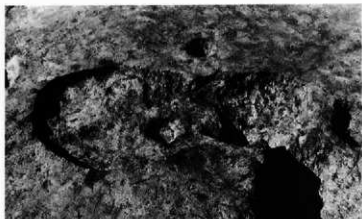
J V-0214ビット
完掘状況



J VI-0216ビット
遺物出土状況



写真図版 63 小型円形ビット (1)



J VI-0210ピット
完掘状況



F III-022ピット
完掘状況



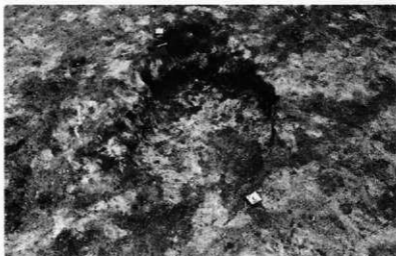
F III-028ピット
完掘状況

写真図版 64 小型円型(2)・楕円形ピット(1)

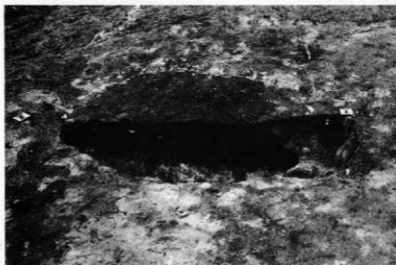
G III-023ビット
土層断面



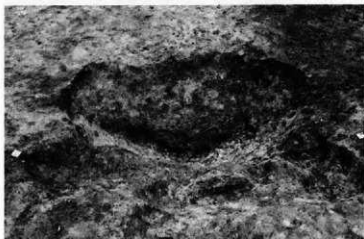
G IV-024ビット
完掘状況



G IV-024ビット
土層断面



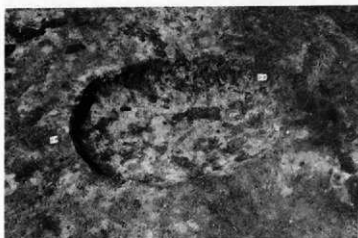
写真図版65 楕円形ビット (2)



G IV-028ビット
完掘状況



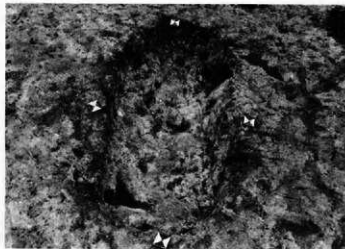
G IV-028ビット
土層断面



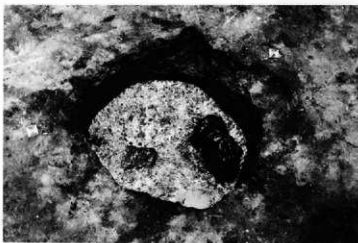
G IV-029ビット
完掘状況

写真図版66 精円形ビット(3)

J V-022ビット
完掘状況



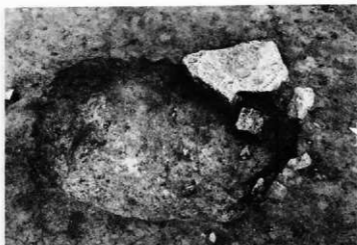
J V-023 Aビット
完掘状況



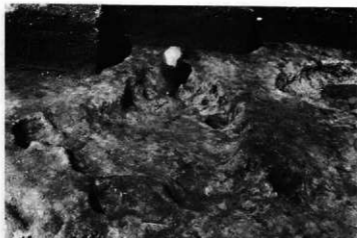
J V-0214ビット
土層断面



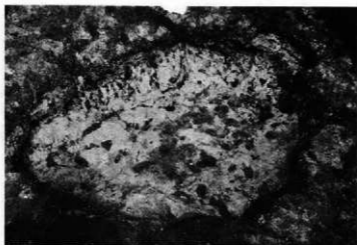
写真図版67 精円形ビット (4)



J V-0215ビット
完掘状況



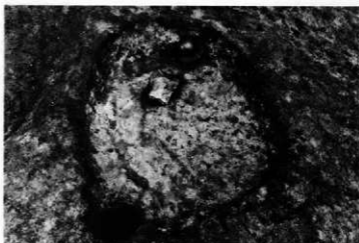
J VI-025ビット
完掘状況



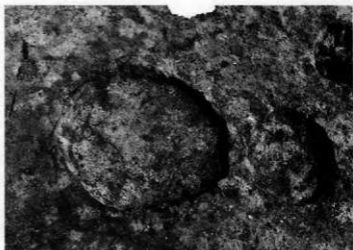
J VI-026ビット
完掘状況

写真図版68 楕円形ビット (5)

J VI-028ビット
完掘状況



J VI-029ビット
完掘状況



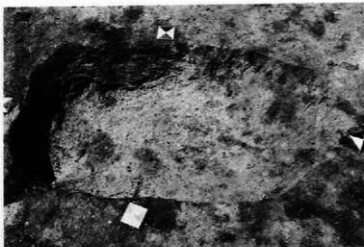
J VI-023ビット
完掘状況



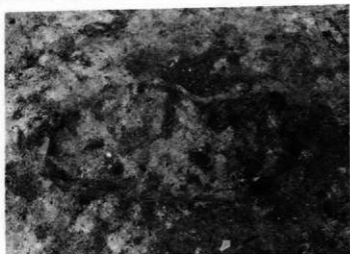
写真図版69 楕円形ビット (6)



K VI-022ビット
完掘状況



K VI-023ビット
完掘状況

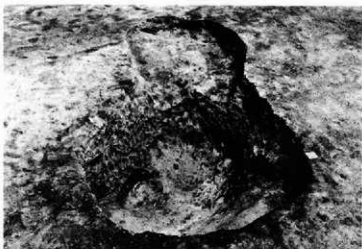


K VI-025ビット
完掘状況

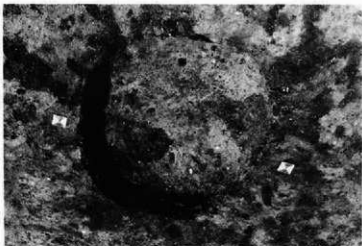
写真図版70 楕円形ビット (7)



F III-023ビット
完掘状況

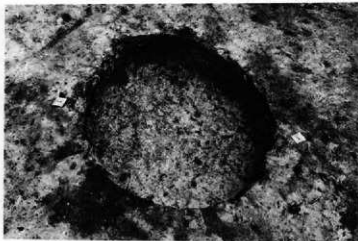


J V-027ビット
完掘状況

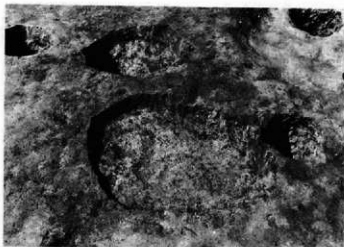


J V-028ビット
完掘状況

写真図版 71 不定形ビット (1)



J V-021ビット
完掘状況



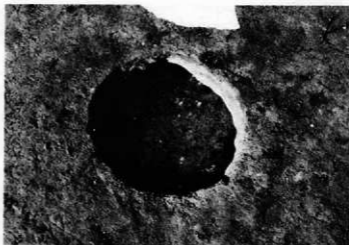
J VI-028ビット
完掘状況



K VI-024ビット
完掘状況

写真図版 72 不整形ビット (2)

J VI-0217ビット
完備状況



J VI-028ビット
土層断面



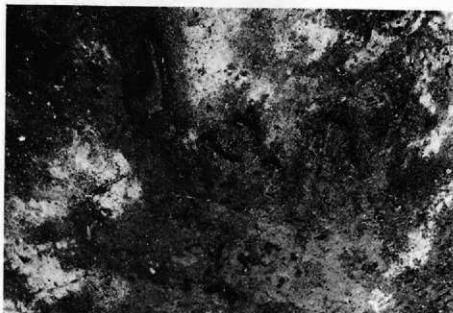
J VI-0129ビット
土層断面



写真図版73 柱穴状ビット



IV-031-023焼土遺構
発掘状況



IV-031焼土遺構
炭化物出土状況

写真図版74 焼土遺構



F III-041集石遺構
全景 (1)



F III-041集石遺構
全景 (2)



F III-041集石遺構
全景 (3)

写真図版75 集石遺構

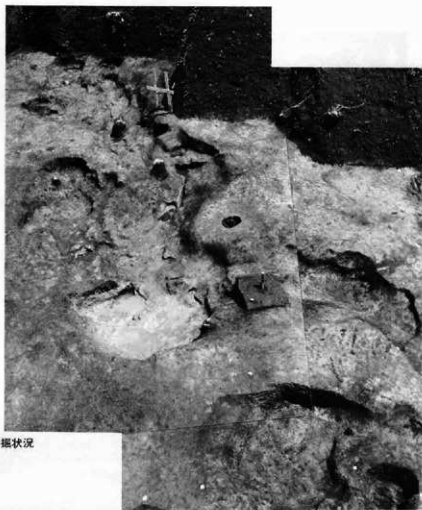


G II-061 捨て場跡遺物
包含層と G II-011 住居
跡発掘状況 (一部)



G II-061 捨て場跡遺物
包含層土層堆積状況

写真図版76 捨て場跡



G IV-051雨裂跡北半部発掘状況



G IV-051雨裂跡南半部
発掘状況

写真図版77 雨裂跡(1)



G IV-051 雨裂跡
北部断面



G IV-027 ビット
(雨裂の一部)

写真図版78 雨裂跡(2)

F IV-081炭焼場跡
土取り穴



炭窯跡
完備状況



炭窯跡
土層断面



写真図版79 F IV-081炭焼場跡 (1)



G IV区炭窯跡
断面(1)



同上
断面(2)

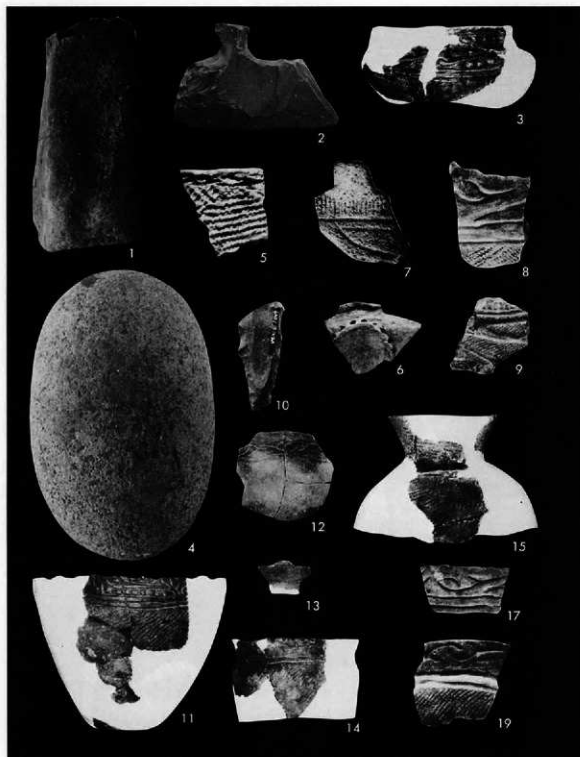


同上
断面(3)

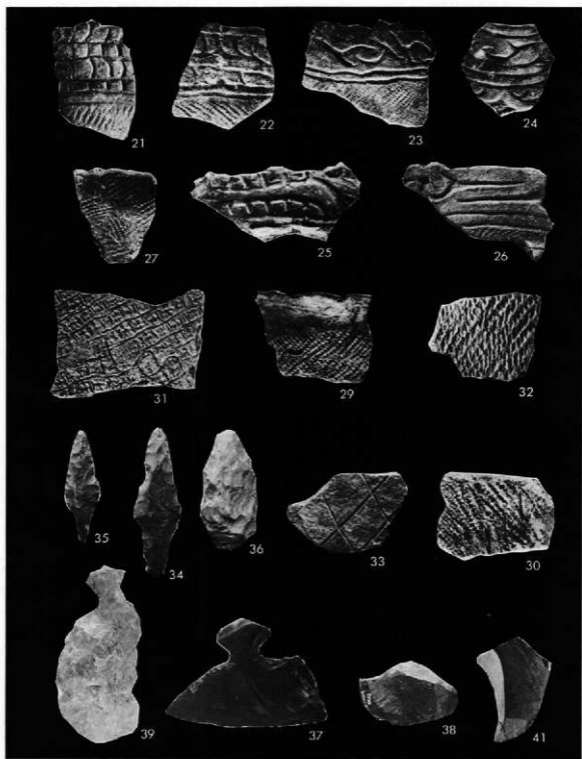


同上
断面(4)

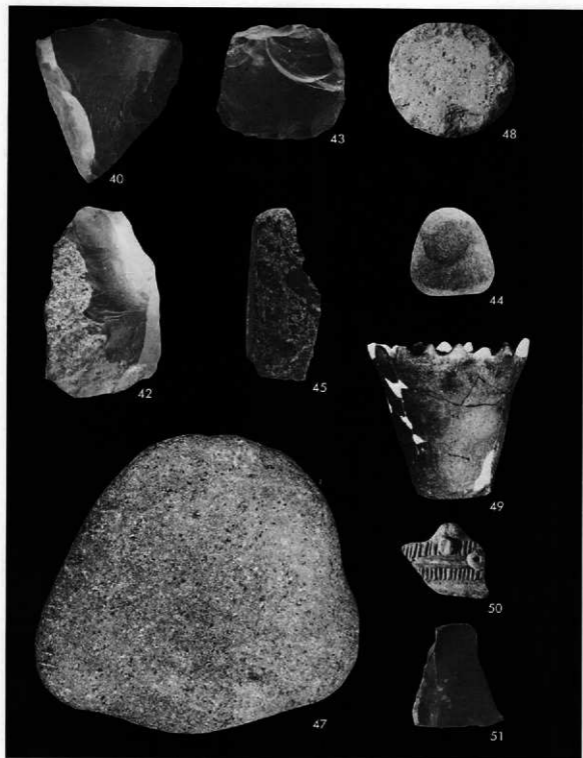
写真図版80 F IV-081炭焼場跡(2)



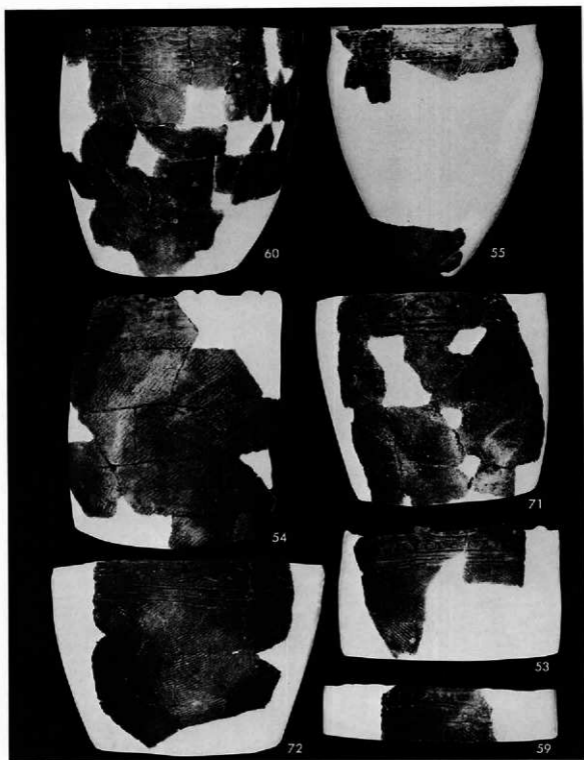
写真图版81 E II-011-014住居跡出土遺物



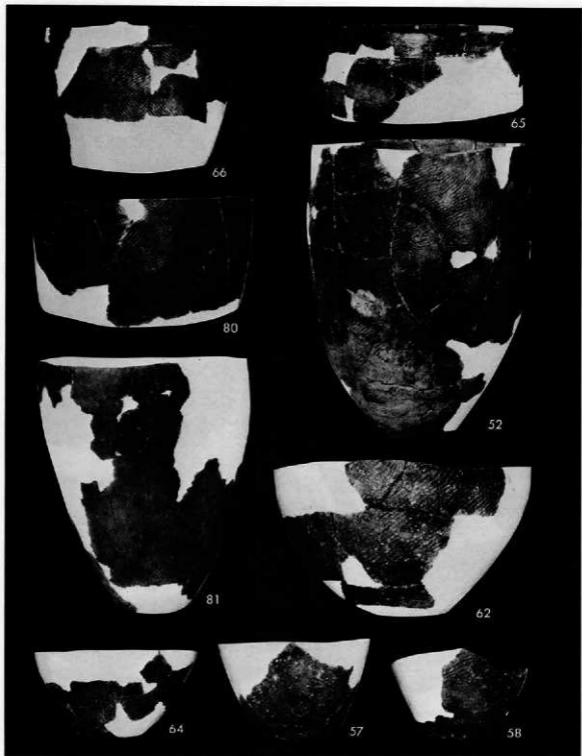
写真图版82 E II-014住居跡出土遺物



写真図版83 E II-014・015住居跡出土遺物



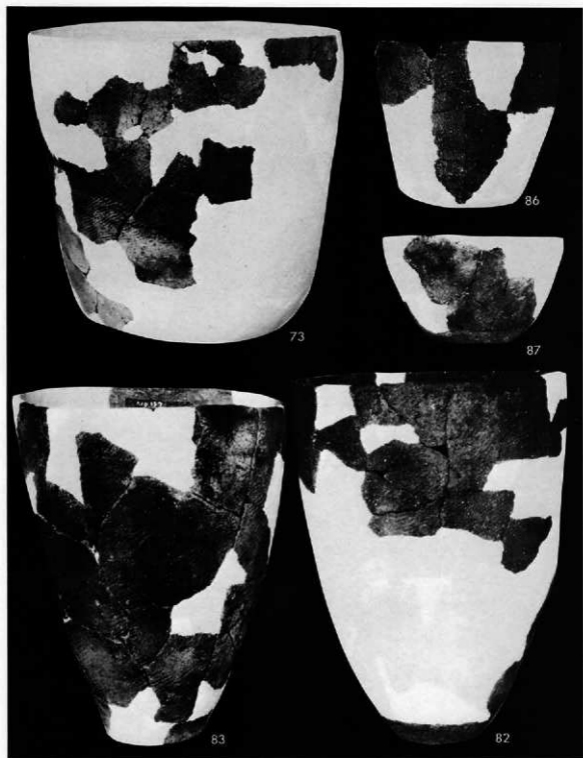
写真図版84 E III-011住居跡出土遺物(1)



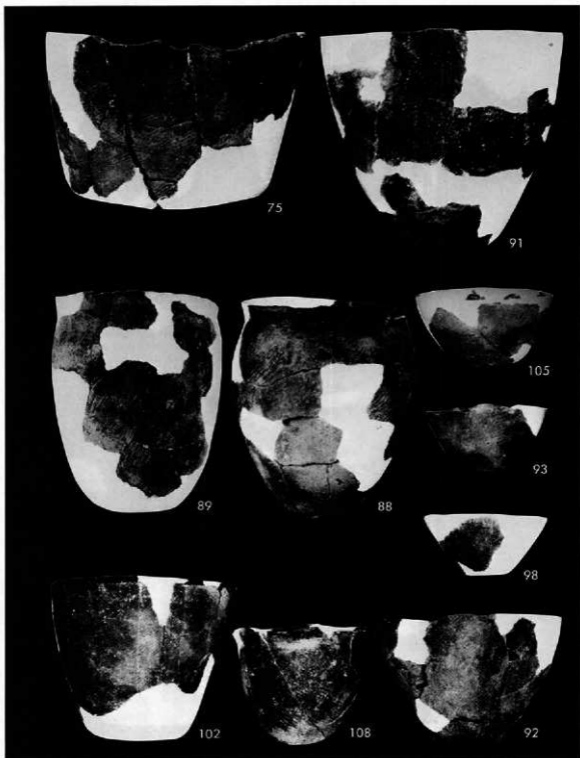
写真図版85 E III-011住居跡出土遺物(2)



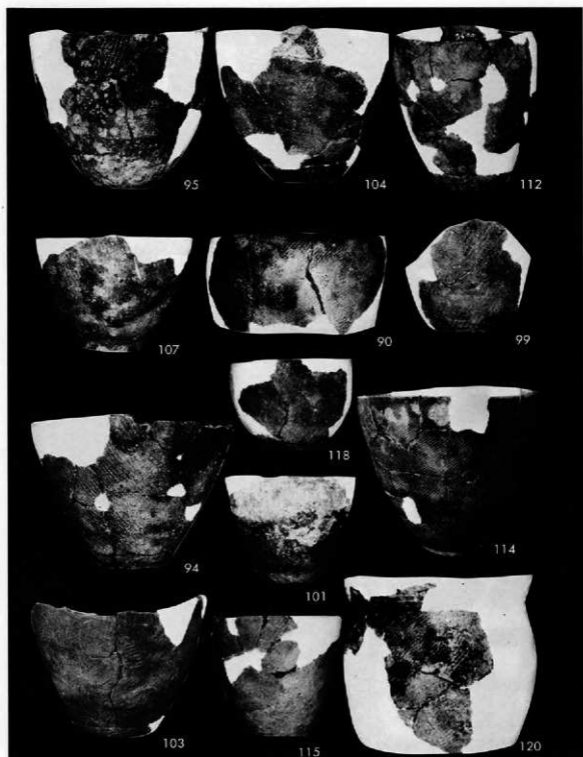
写真図版86 E III-011住居跡出土遺物(3)



写真図版87 E III-011住居跡出土遺物(4)



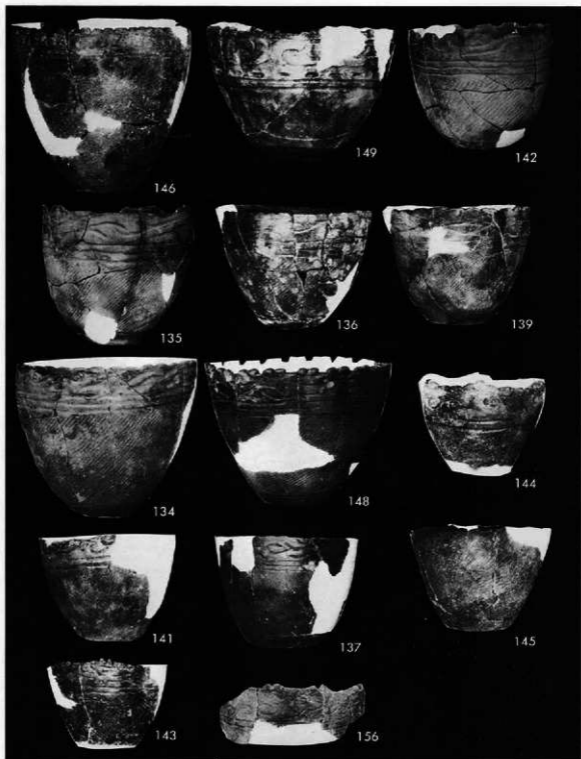
写真図版88 E III-011住居跡出土遺物(5)



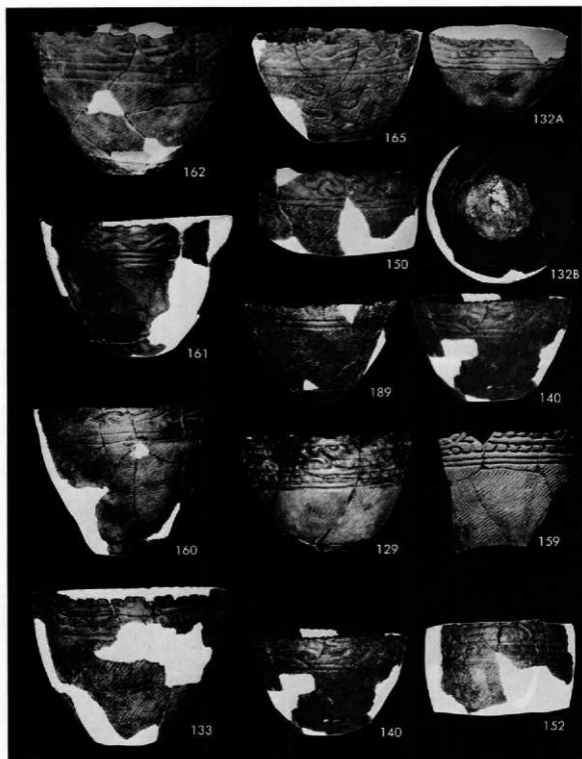
写真図版89 E III-011住居跡出土遺物(6)



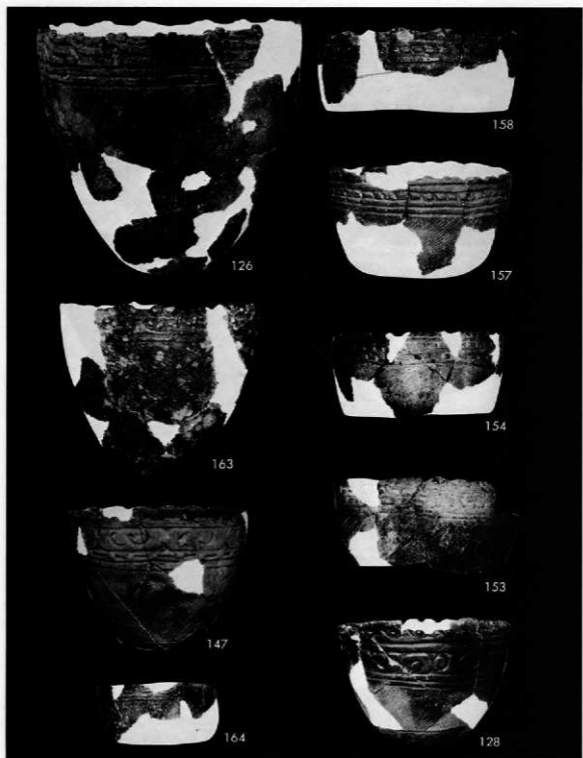
写真図版90 E III-011住居跡出土遺物(7)



写真図版91 E III-011住居跡出土遺物(8)



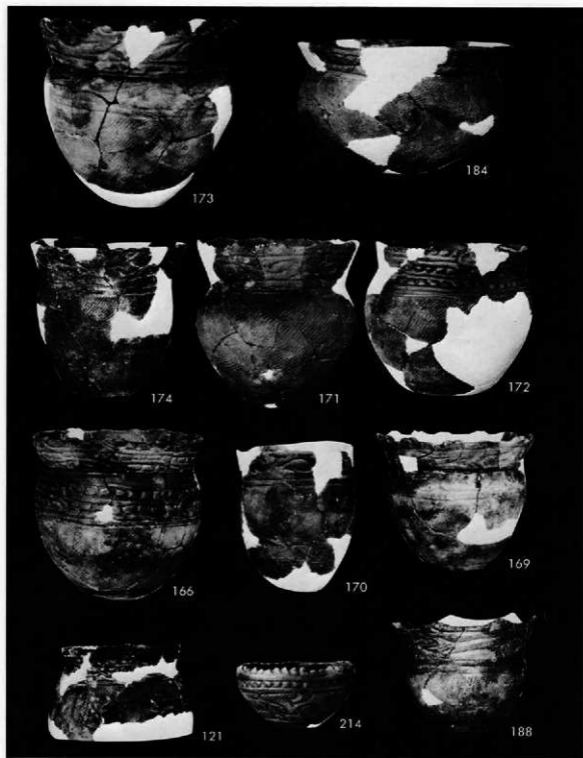
写真图版92 E III-011住居跡出土遺物(9)



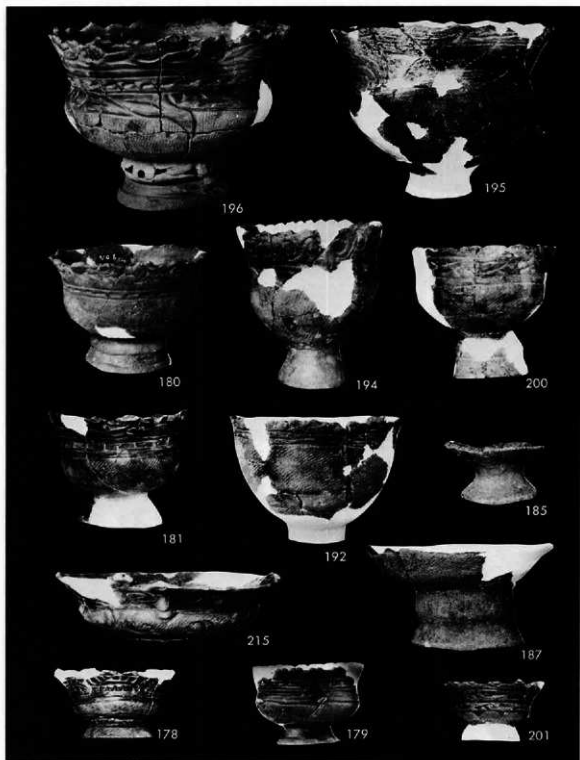
写真図版93 E III-011住居跡出土遺物 (10)



写真図版94 E III-011住居跡出土遺物 (11)



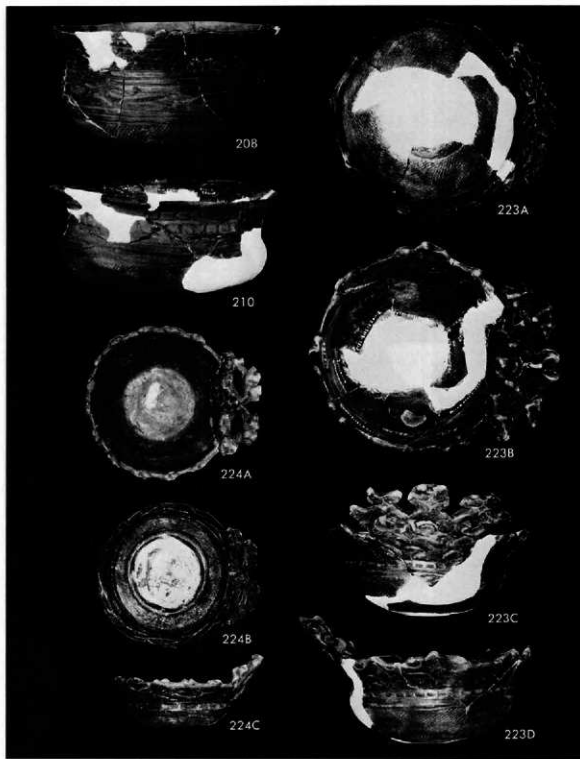
写真図版95 E III-011住居跡出土遺物 (12)



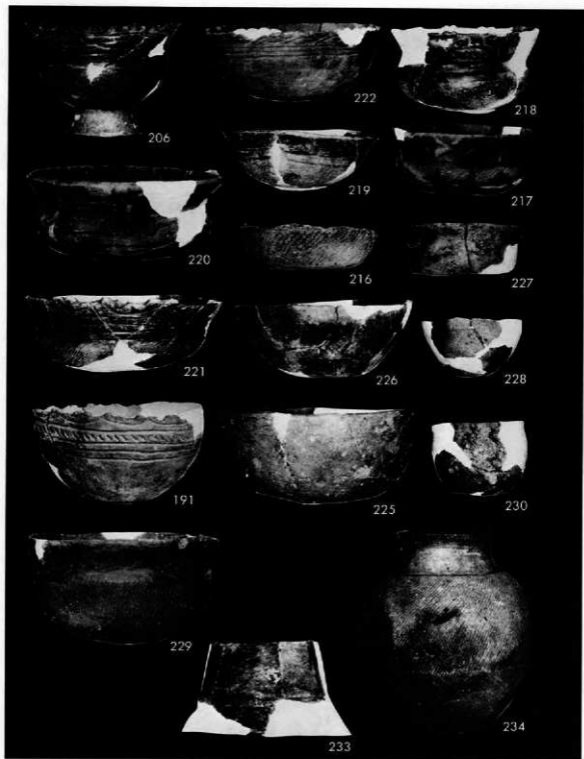
写真図版96 E III-011住居跡出土遺物 (13)



写真図版97 E III-011住居跡出土遺物 (14)



写真図版98 E III-011住居跡出土遺物 (15)



写真图版99 E III-011住居跡出土遺物 (16)



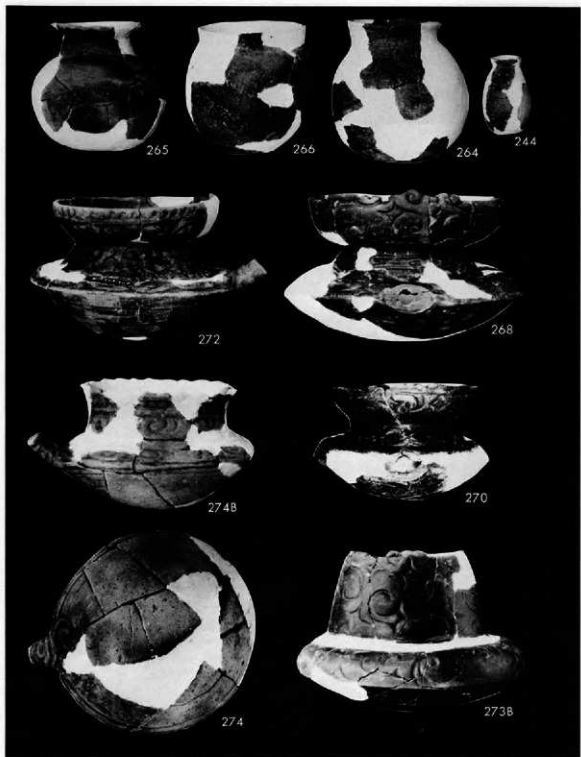
写真図版100 E III-011住居跡出土遺物(17)



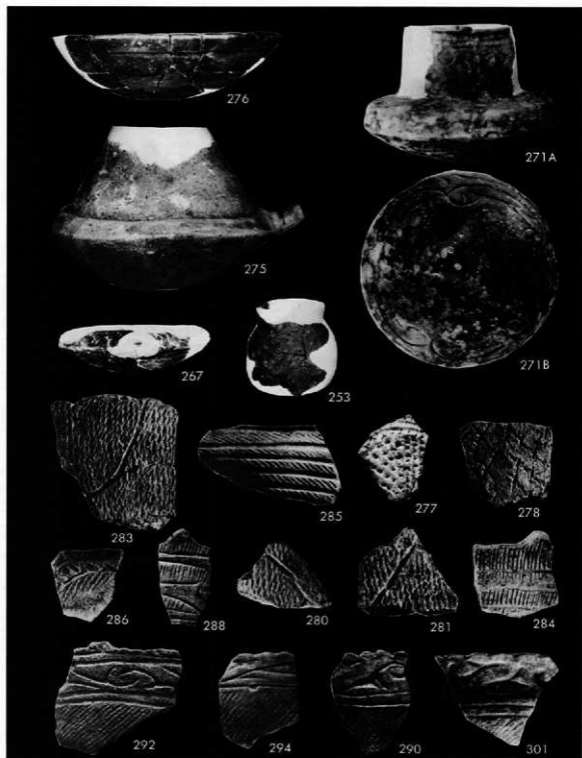
写真図版101 E III-011住居跡出土遺物 (18)



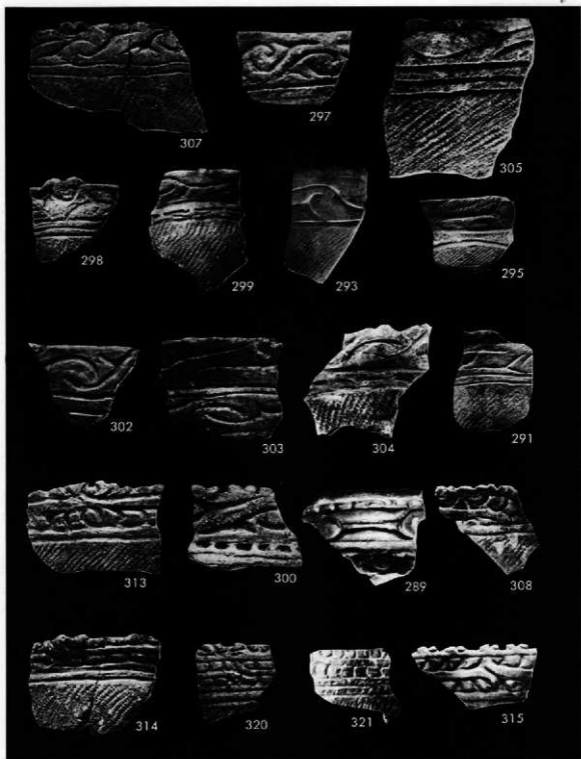
写真図版102 E III-011住居跡出土遺物 (19)



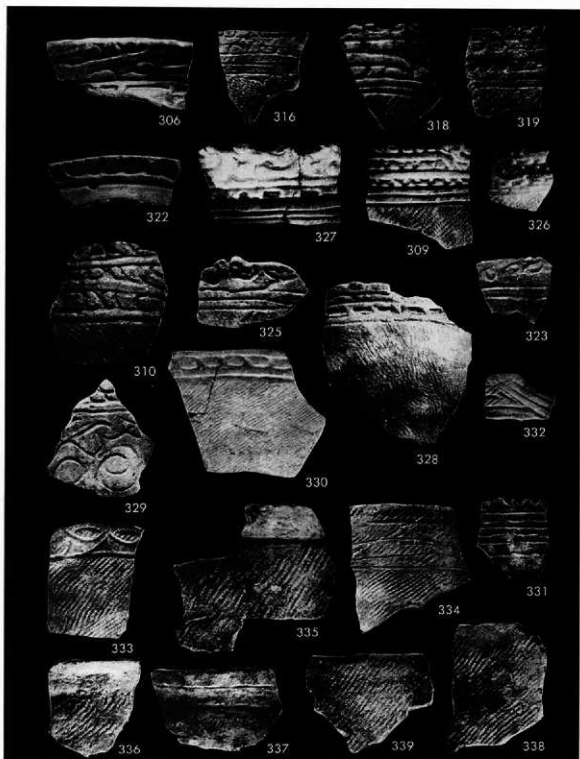
写真図版103 E III-011住居跡出土遺物 (20)



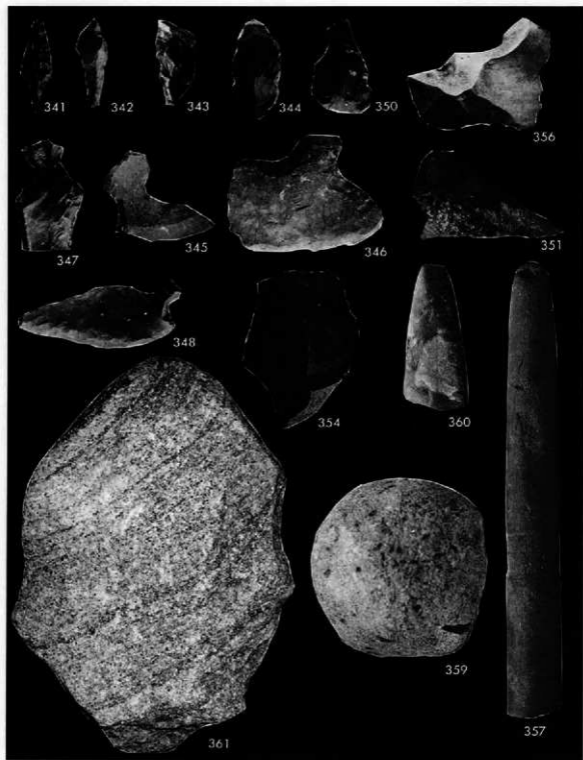
写真図版104 E III-011住居跡出土遺物(21)



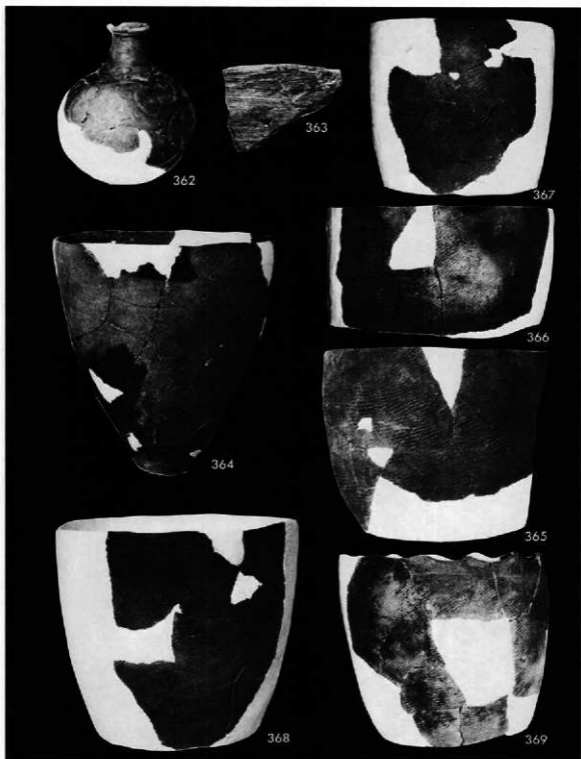
写真图版105 E III-011住居跡出土遺物 (22)



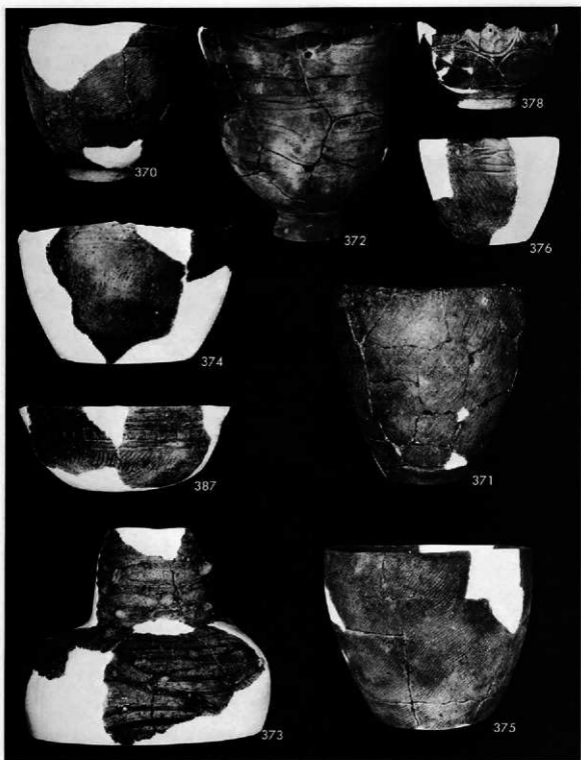
写真図版106 E III-011住居跡出土遺物 (23)



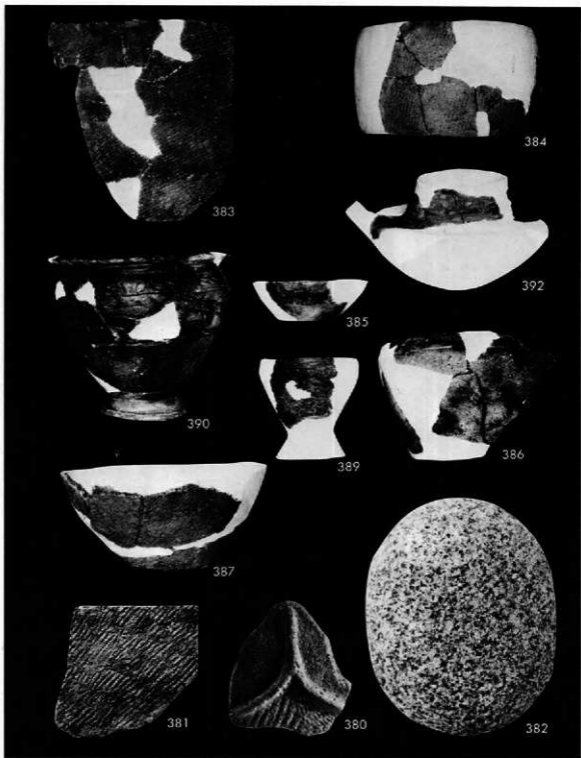
写真図版107 E III-011住居跡出土遺物 (24)



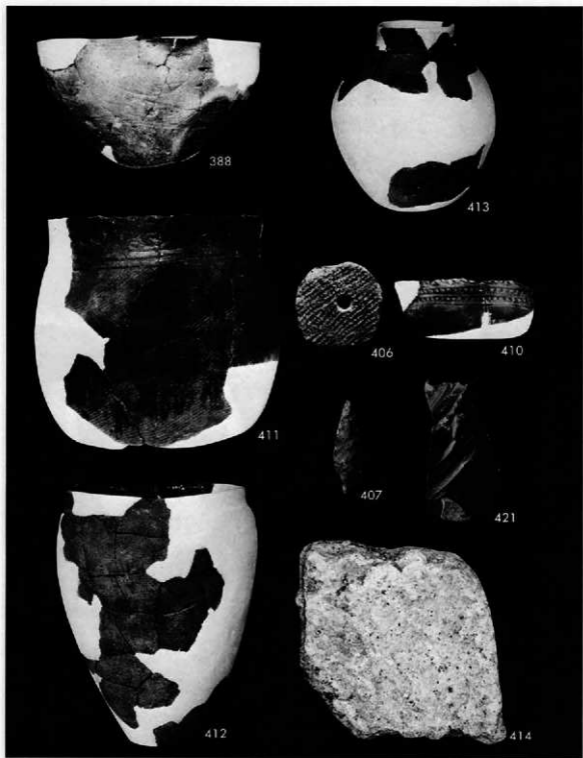
写真図版108 E III-012・F III-012・013住居跡出土遺物



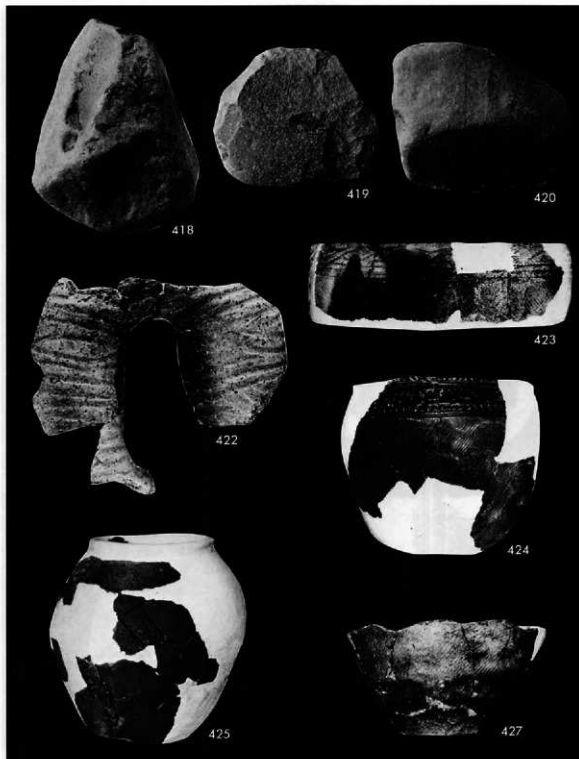
写真図版109 FⅢ-013住層跡出土遺物(2)



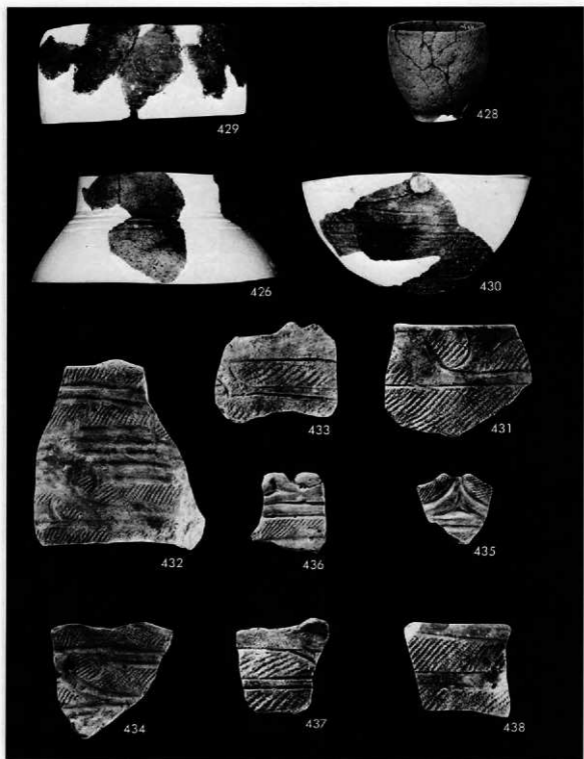
写真図版110 F III-013・014住居跡出土遺物



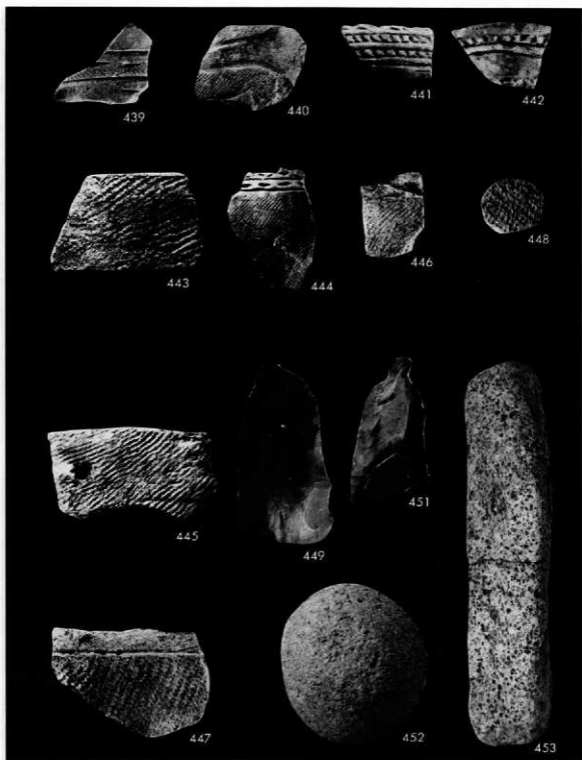
写真図版III F III-014・015住居跡出土遺跡



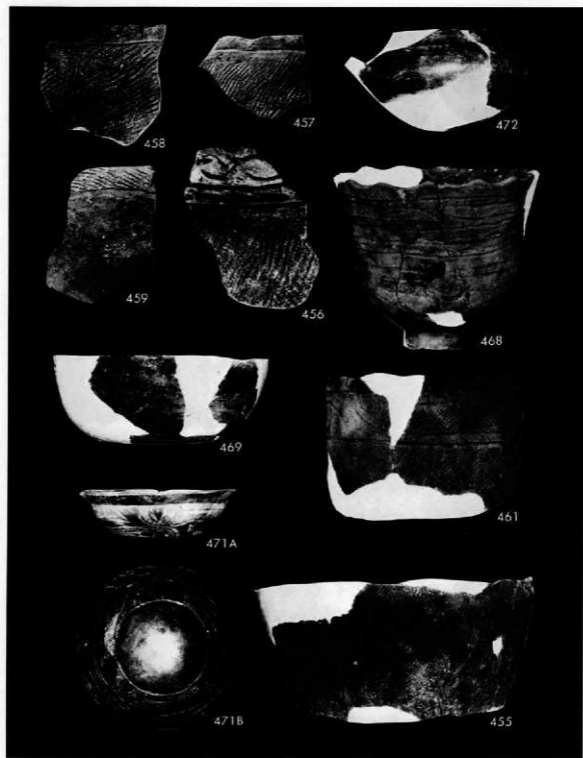
写真図版112 F III-016・017住居跡出土遺物



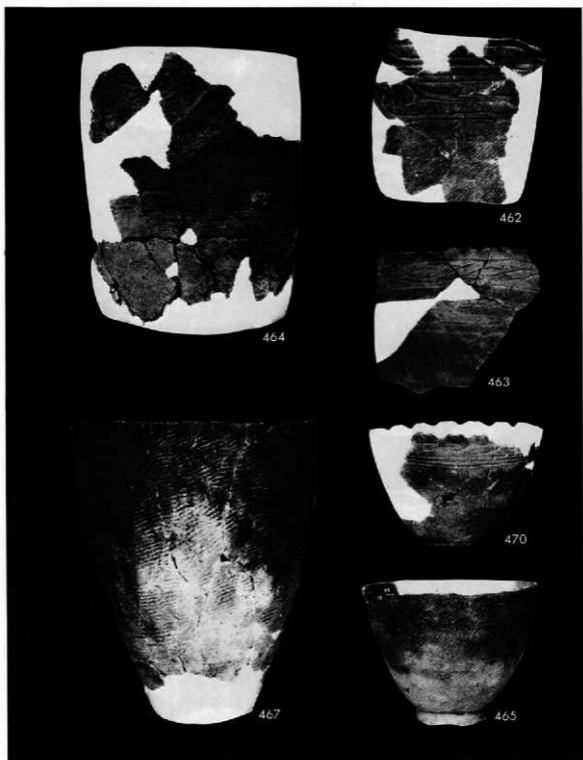
写真図版113 F III-017住居跡出土遺物(1)



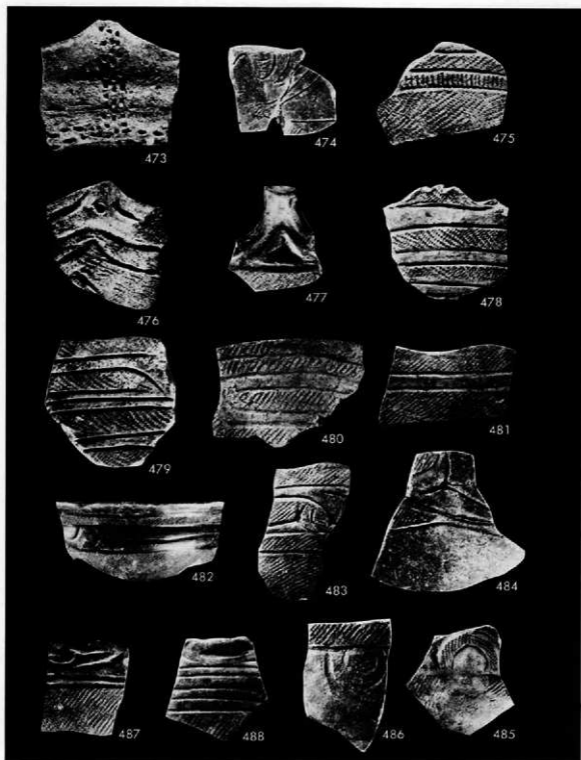
写真図版114 F III-017住居跡出土遺物(2)



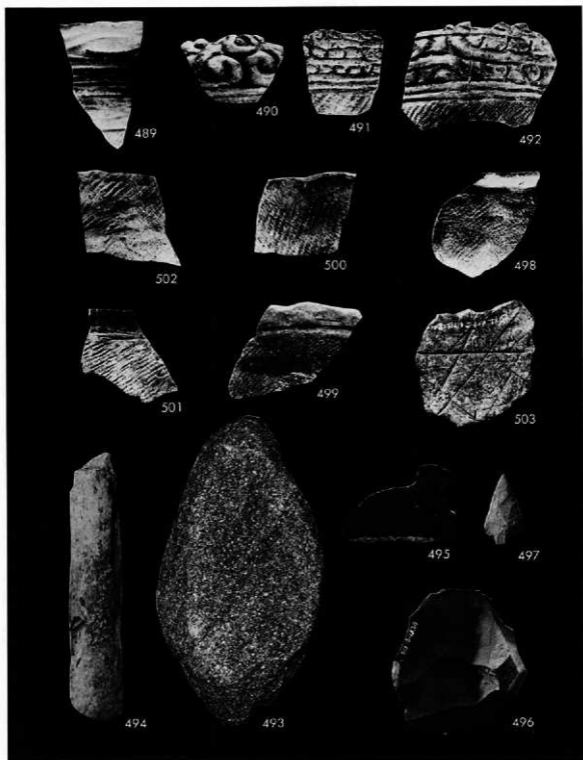
写真図版115 FⅢ-018・019住居跡出土遺物



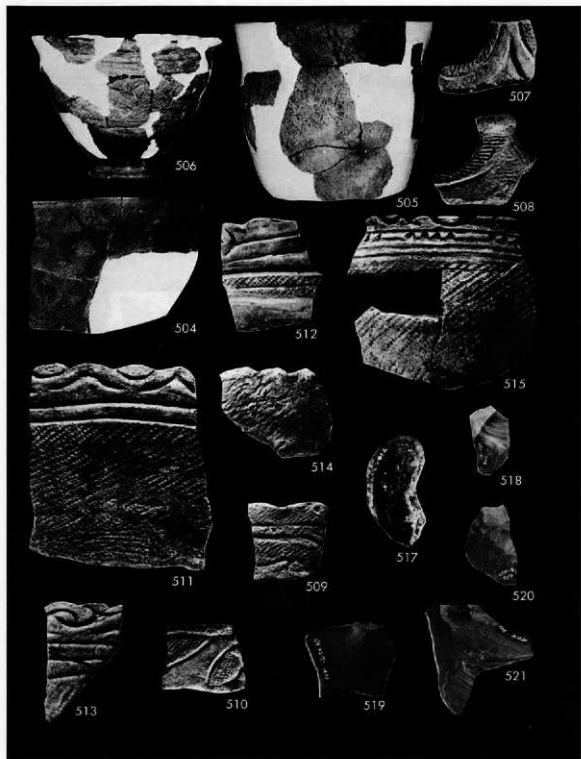
写真図版116 F III-019住居跡出土遺物(1)



写真図版117 F III-019住居跡出土遺物(2)



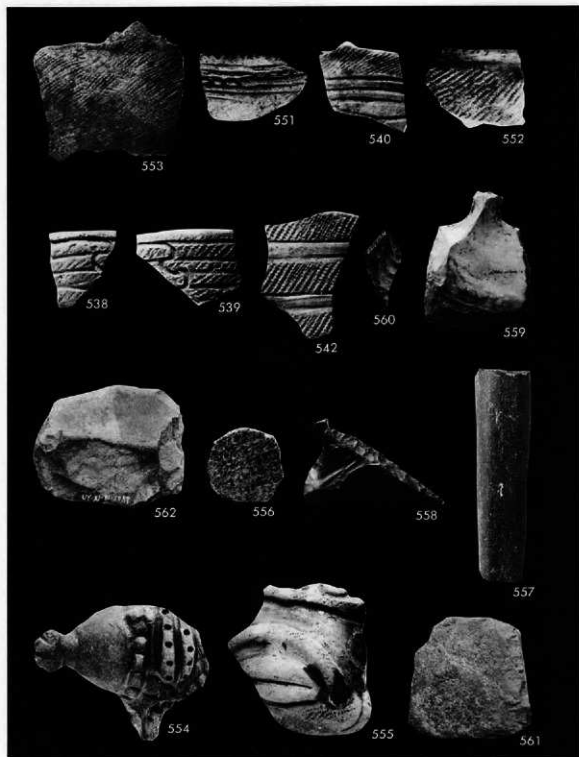
写真图版118 FⅢ-019住居跡出土遺物(3)



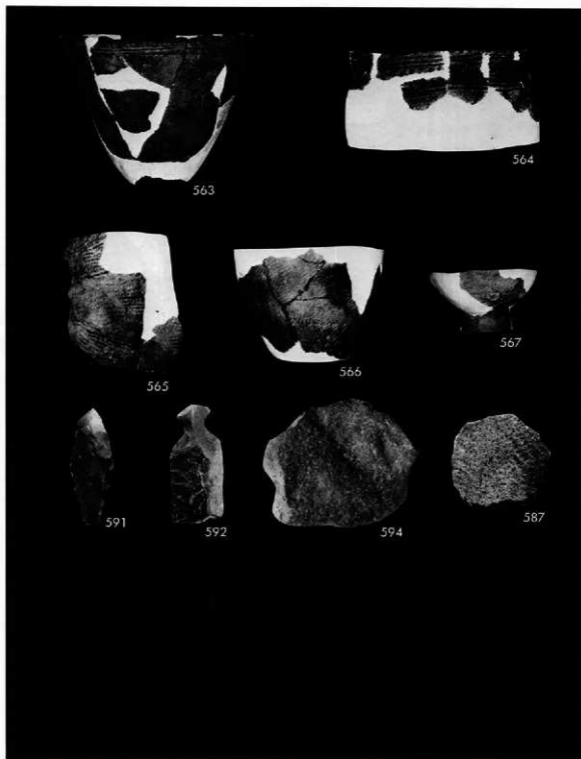
写真図版119 F III-0112住居跡出土遺物



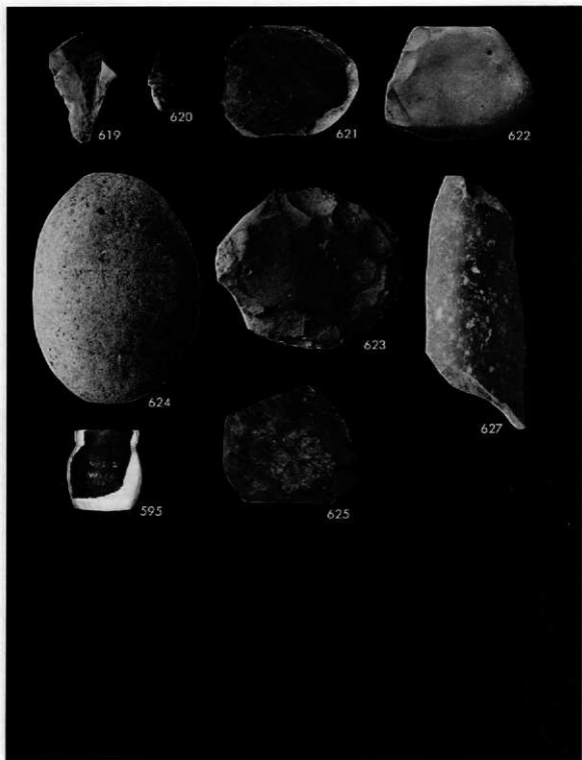
写真図版120 F III-0113住居跡出土遺物 (I)



写真図版121 F III-0113住居跡出土遺物(2)



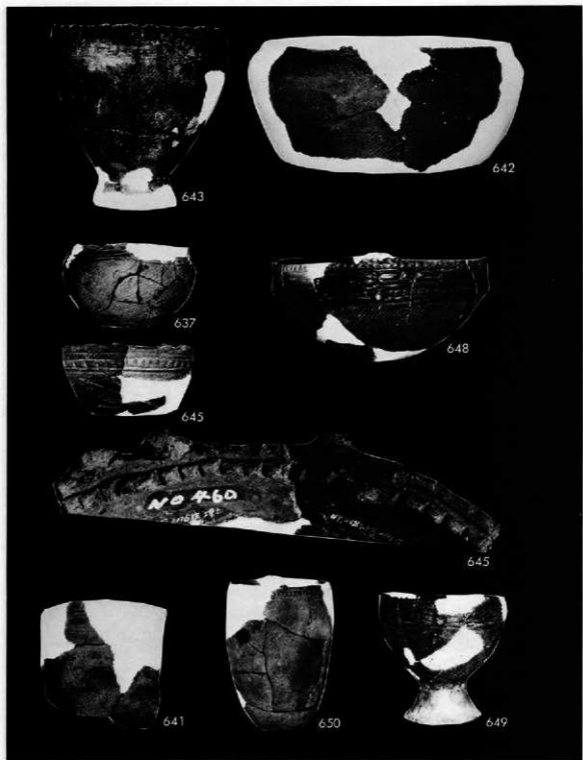
写真図版122 FⅢ-0114住居跡出土遺物



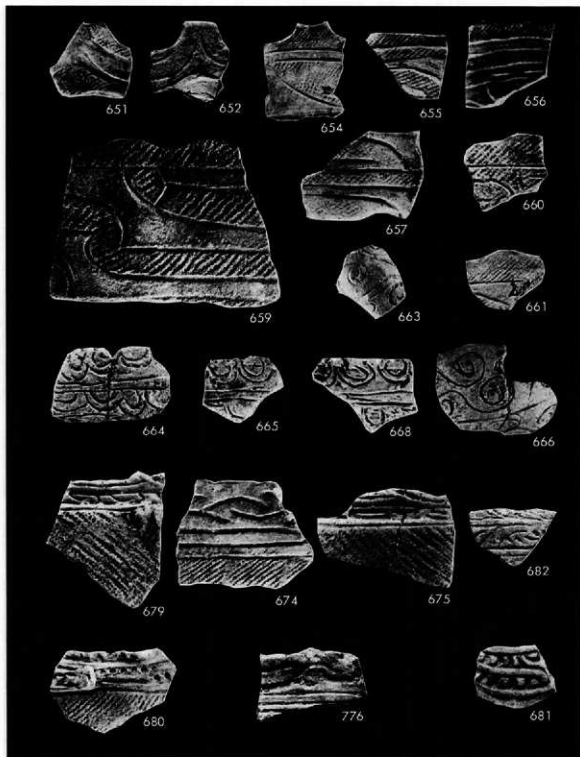
写真図版123 F III-0115住居跡出土遺物



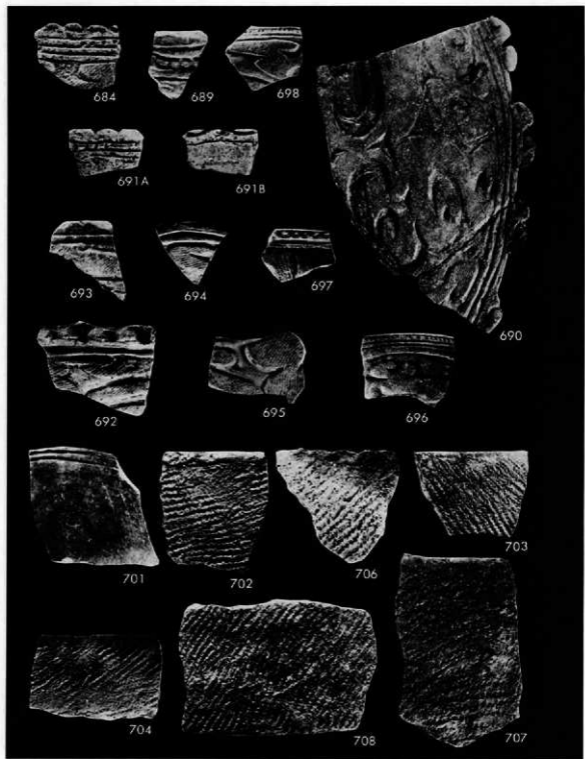
写真図版124 F III-0116住居跡出土遺物(1)



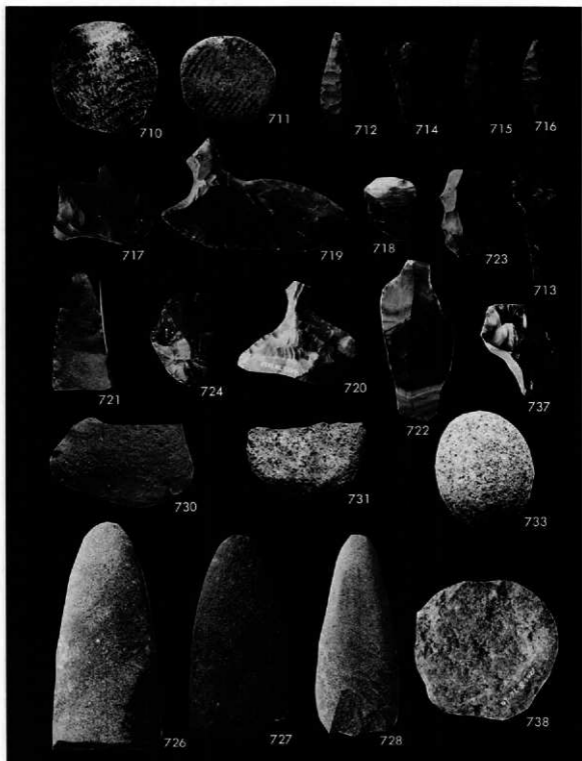
写真図版125 F III-0116住居跡出土遺物(2)



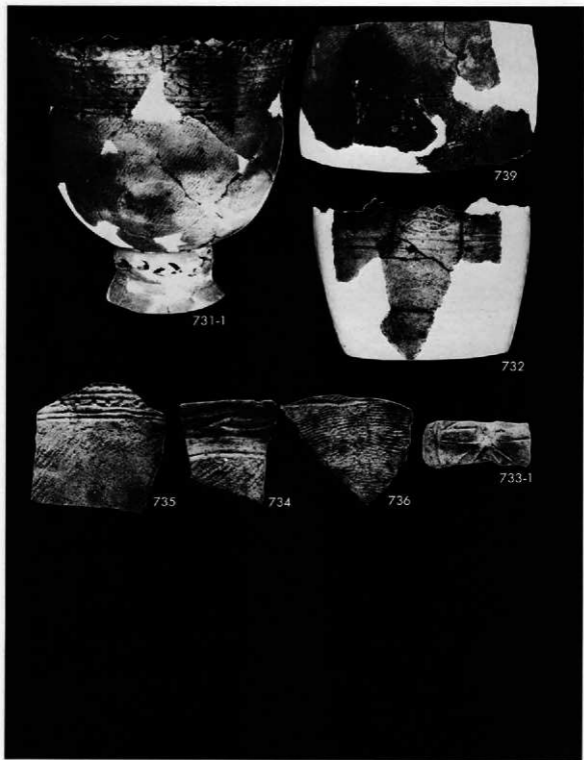
写真図版126 F III-0116住居跡出土遺物(3)



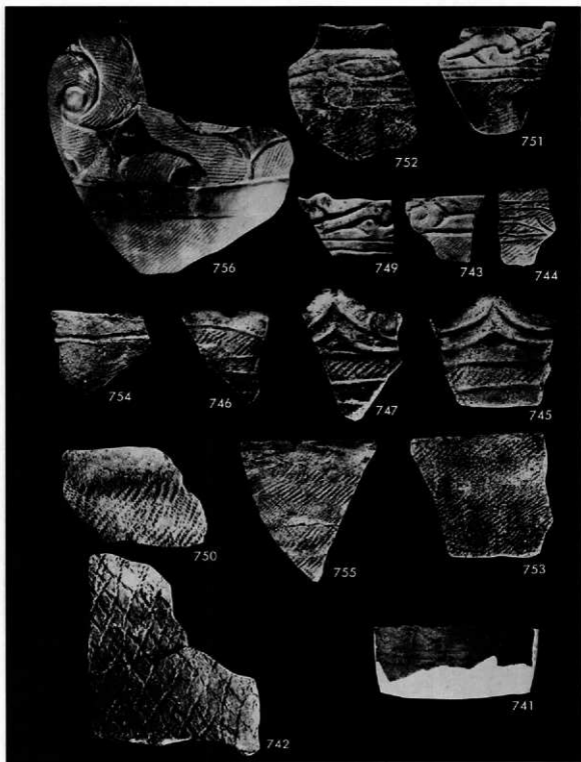
写真図版127 F III-0116住居跡出土遺物(4)



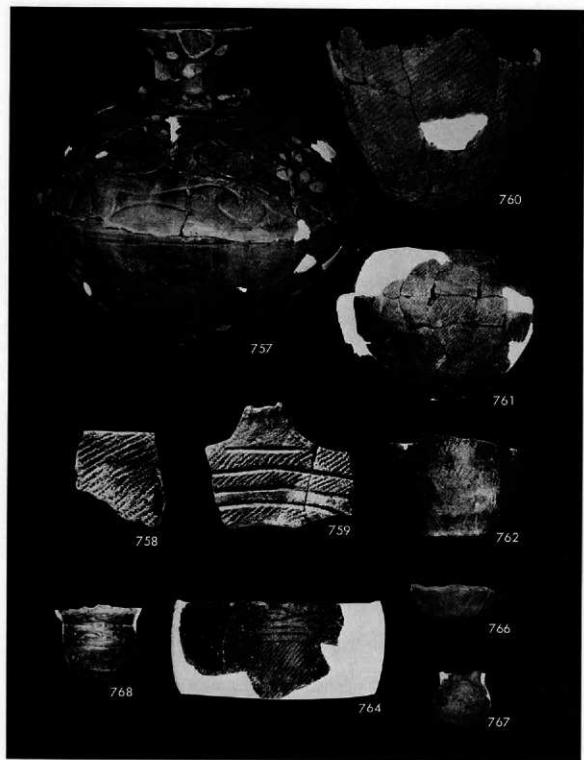
写真図版128 F III-0116住居跡出土遺物(5)



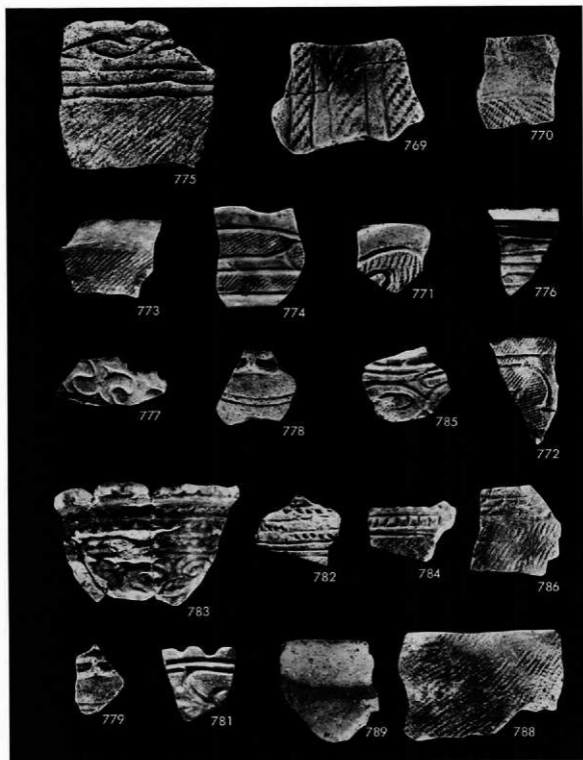
写真図版129 F IV-011・012住居跡出土遺物



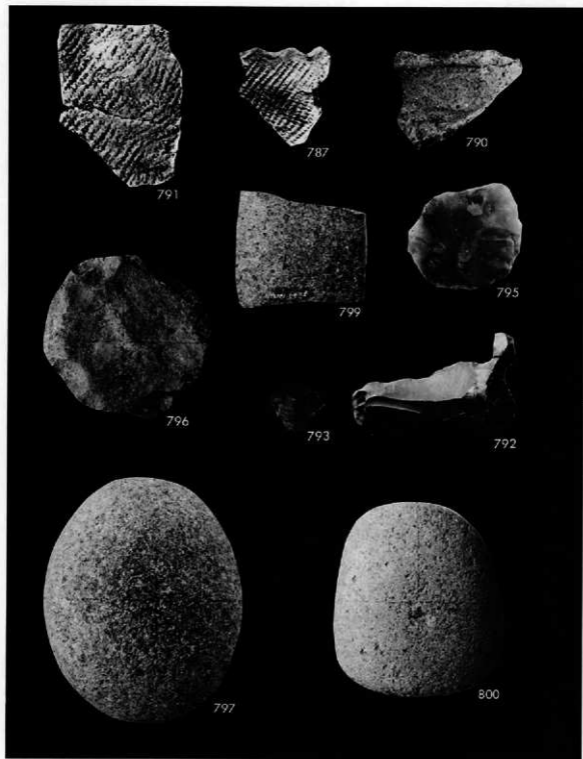
写真図版130 G II-012住居跡出土遺物



写真図版131 G III-012-016住居跡出土遺物



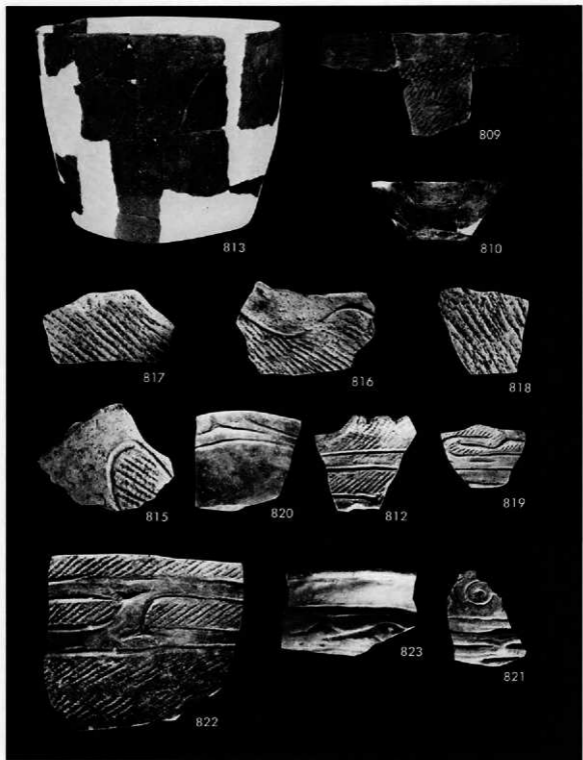
写真図版132 G III-016住居跡出土遺物(1)



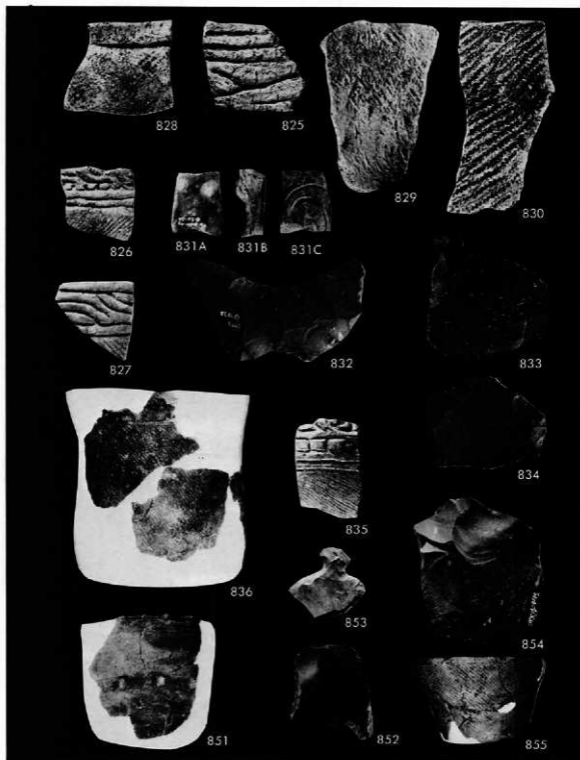
写真図版133 G III-016住居跡出土遺物(2)



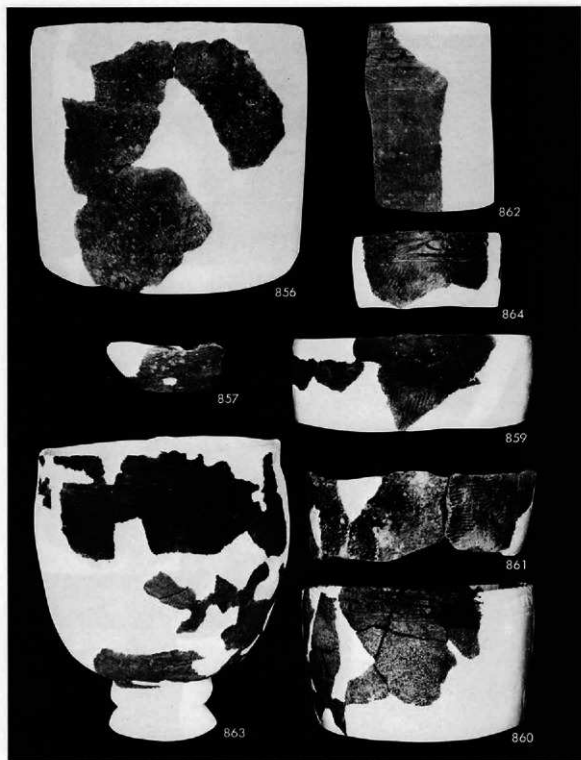
写真図版134 GⅣ-011・012・014住居跡出土遺物



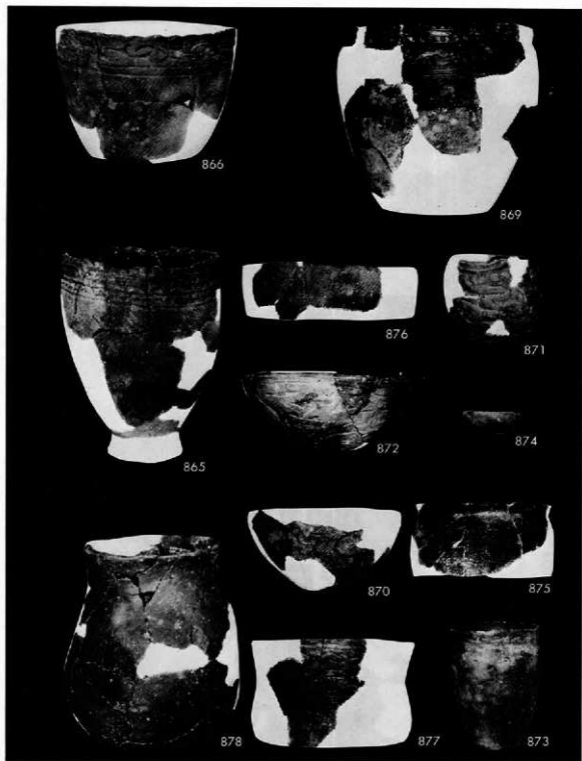
写真图版135 G IV-014住居跡出土遺物



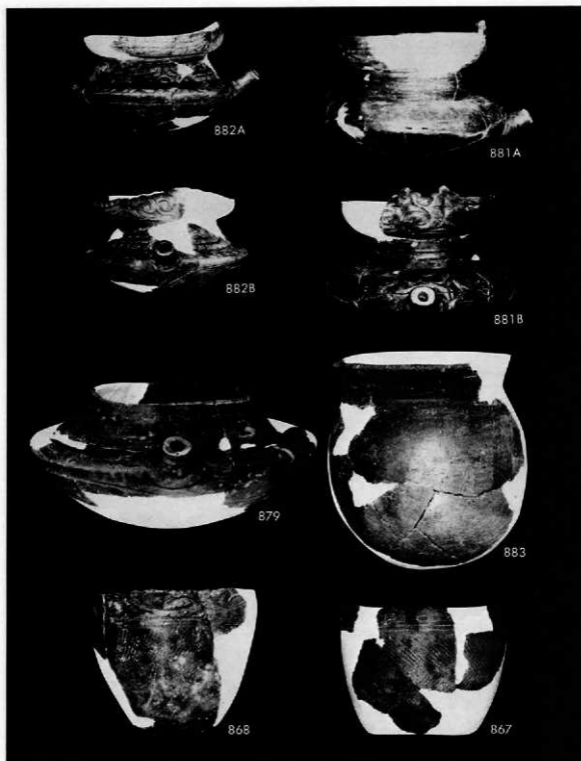
写真図版136 GⅣ-014-016・HⅢ-011・015・HⅣ-011住居跡出土遺物



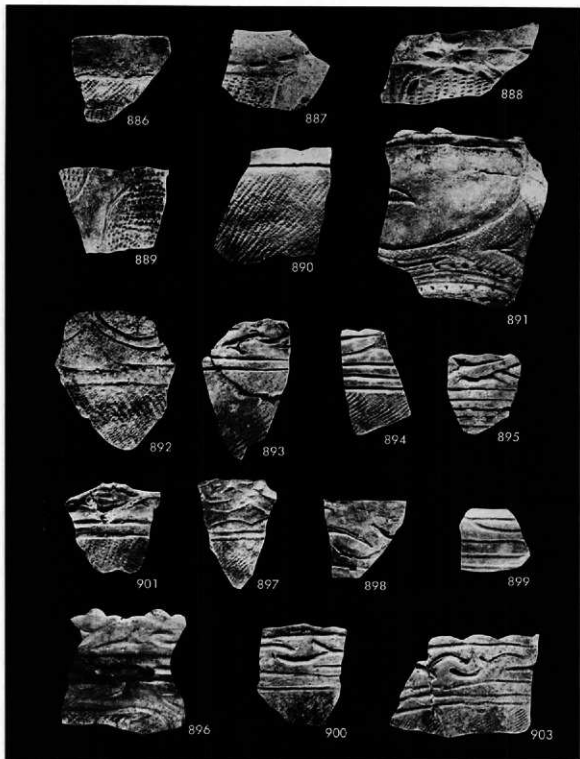
写真図版137 H IV-012住居跡出土遺物(1)



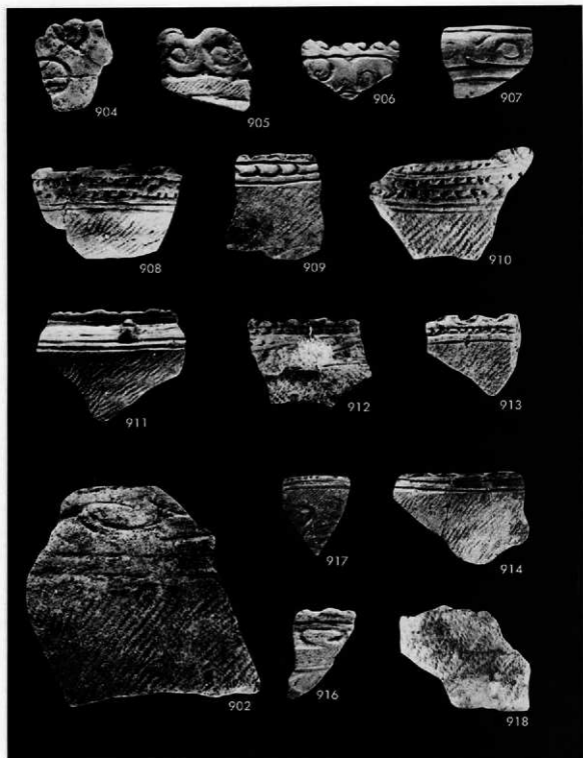
写真図版138 H IV-012住居跡出土遺物(2)



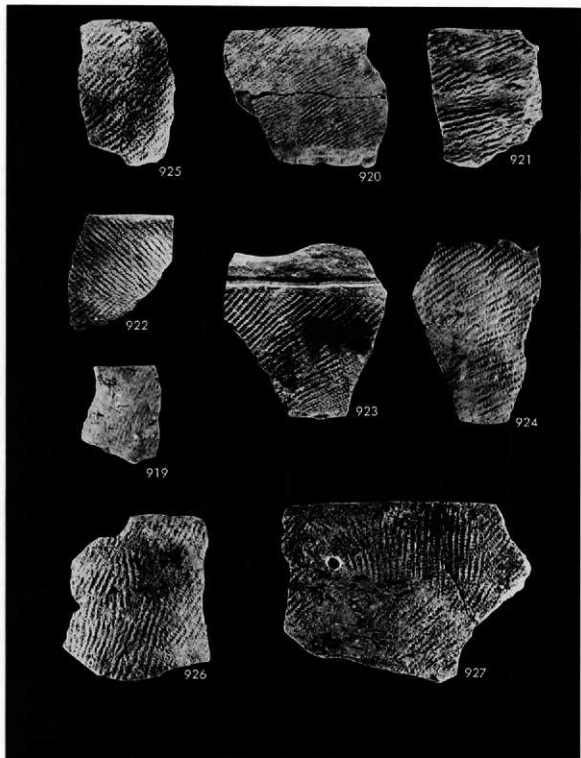
写真図版139 H IV-012住居跡出土遺物(3)



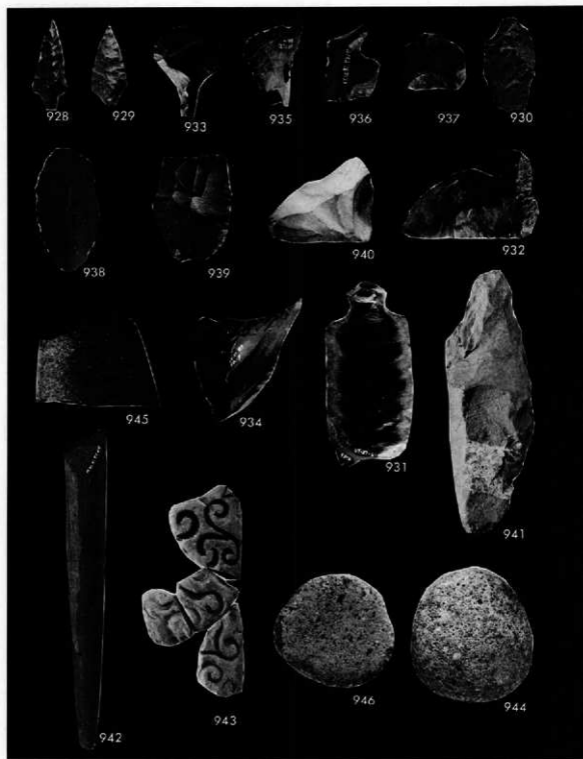
写真図版140 H IV-012住居跡出土遺物(4)



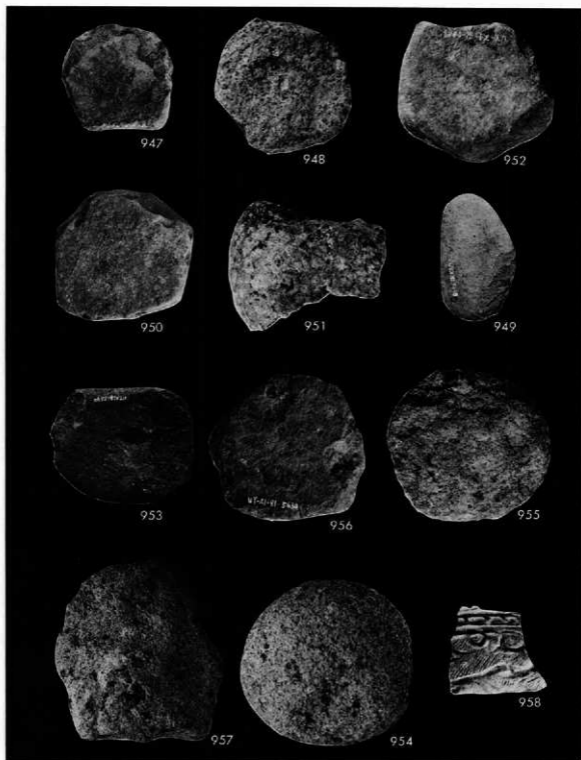
写真図版141 H IV-012住居跡出土遺物(5)



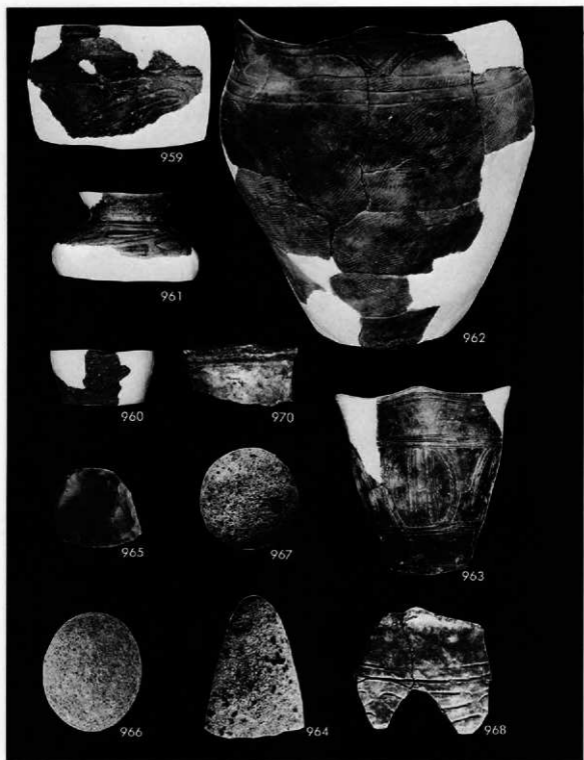
写真図版142 HV-012住居跡出土遺物(6)



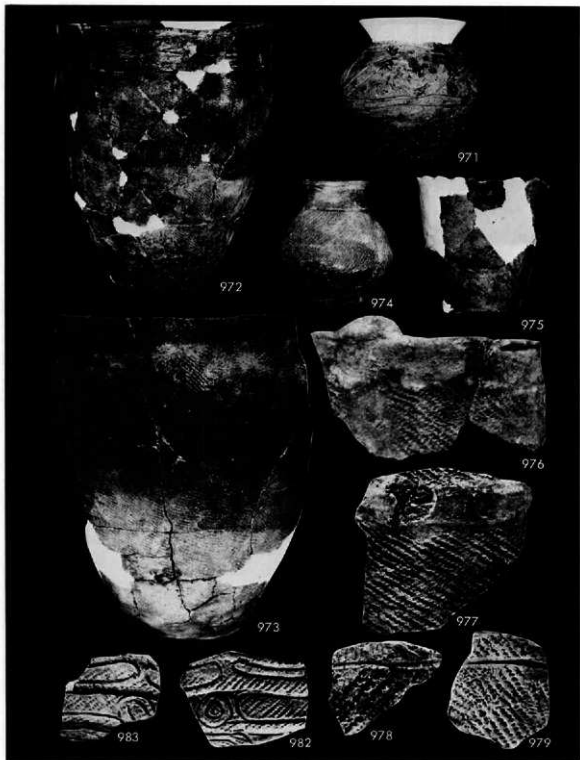
写真図版143 H IV-012住居跡出土遺物(7)



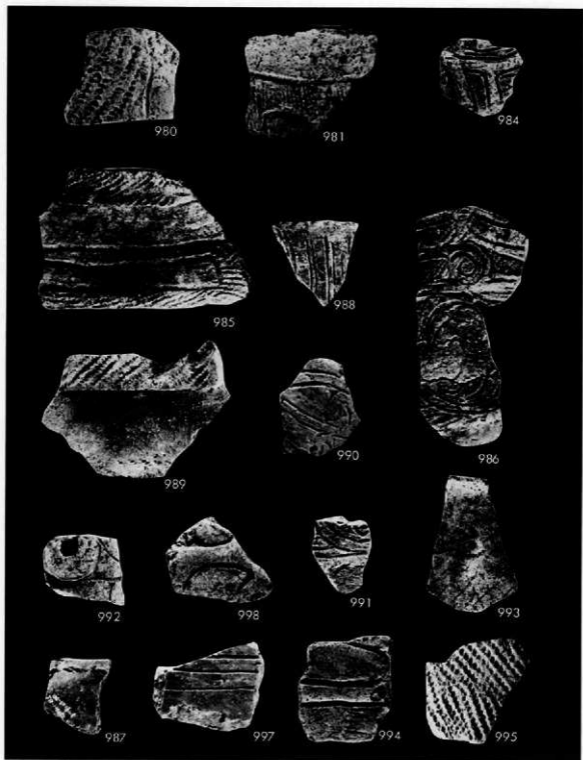
写真図版144 H IV-012住居跡出土遺物(8)



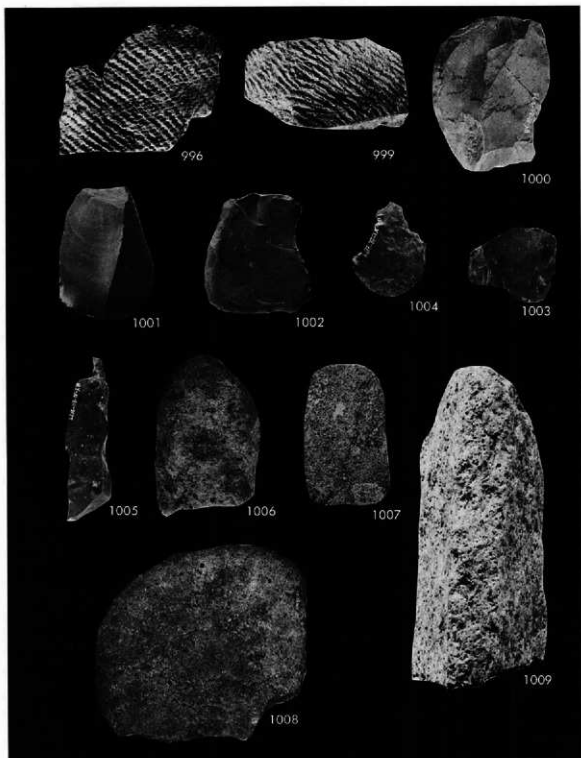
写真図版145 J V-011-012住居跡出土遺物



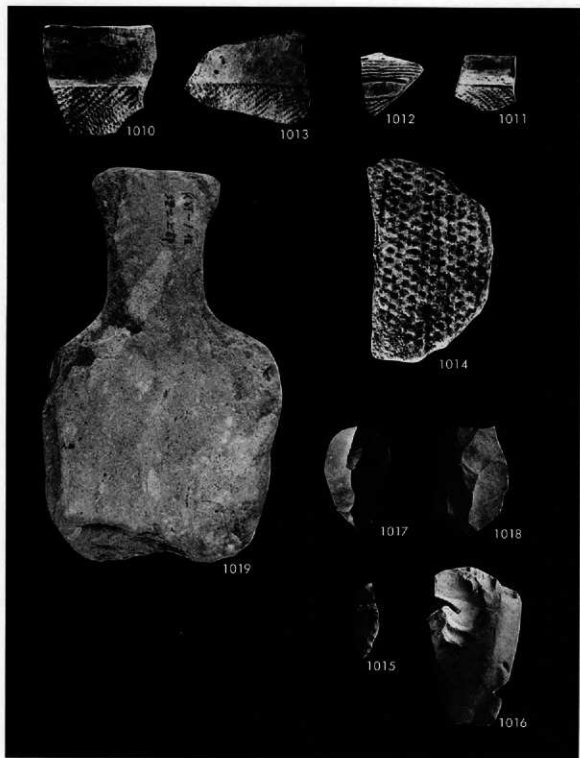
写真図版146 J VI-011住居跡出土遺物(1)



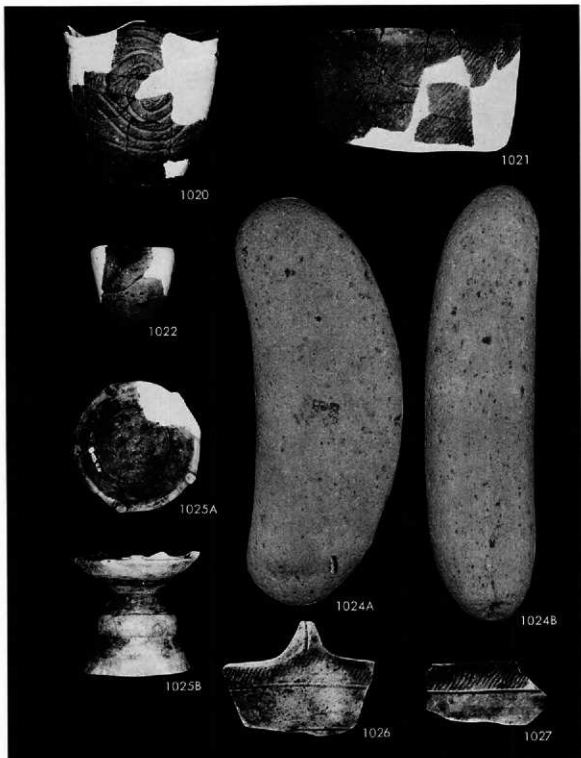
写真図版147 JVI-011住居跡出土遺物(2)



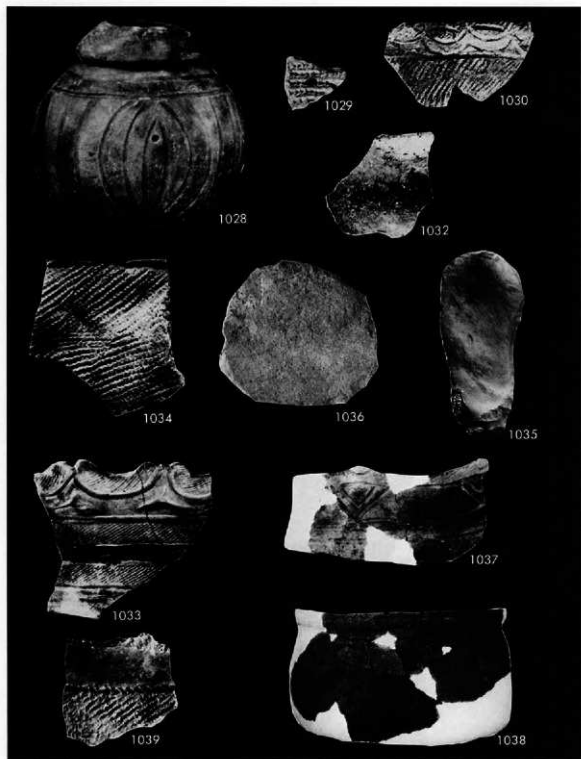
写真図版148 J VI-011住居跡出土遺物(3)



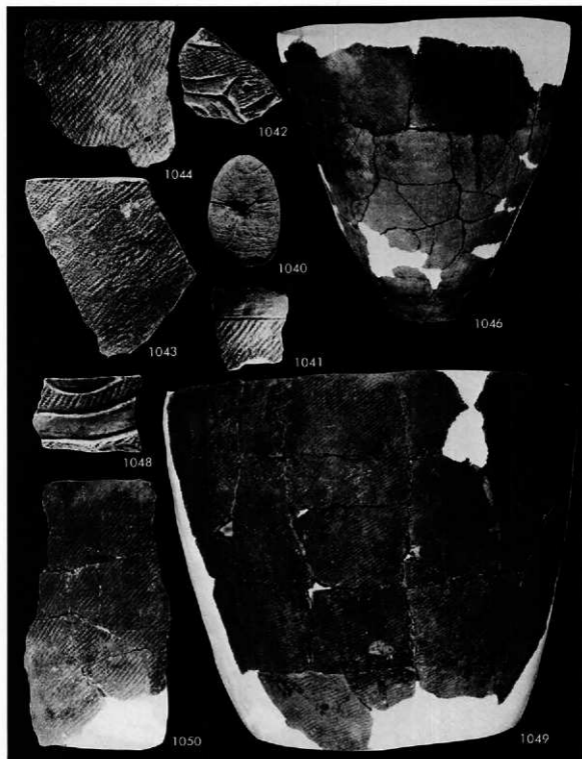
写真図版149 K VI-011住居跡出土遺物



写真図版150 K VI-012住居跡・L V-011掘立柱建物跡出土遺物



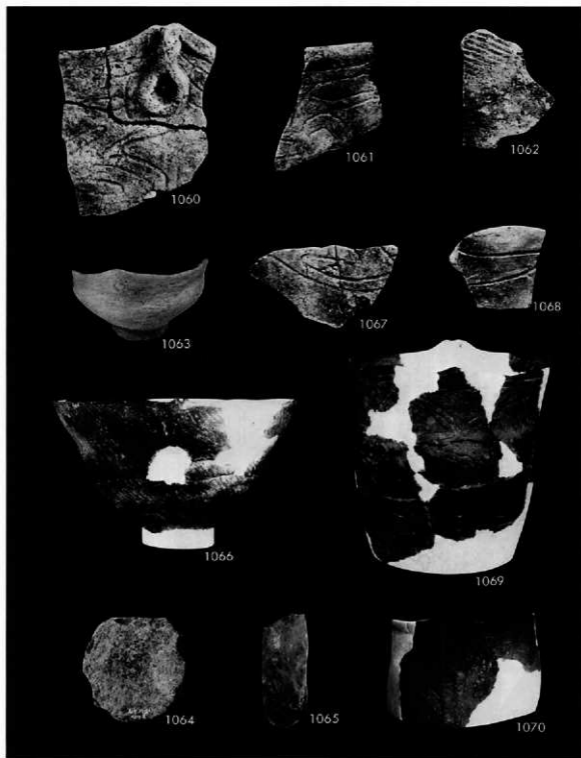
写真図版151 E III-028・G III-021・H III-021ビット出土遺物



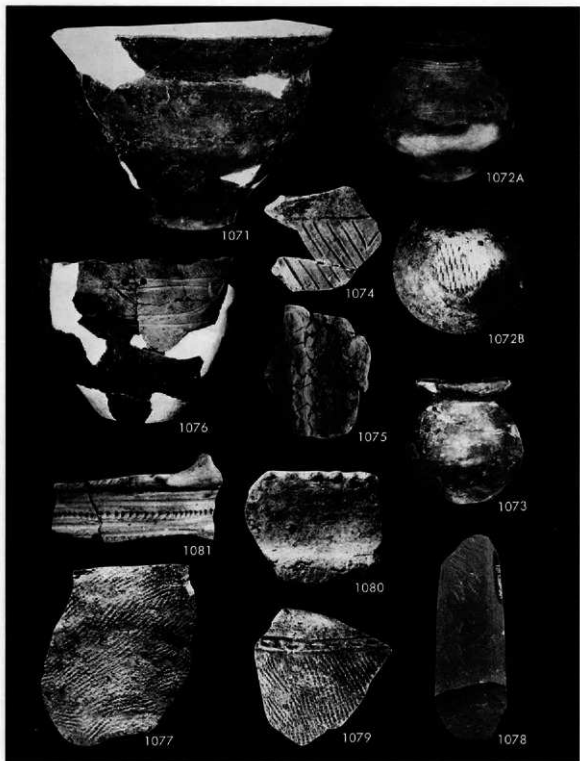
写真図版152 HⅢ-09・022～HⅣ-022ピット出土遺物



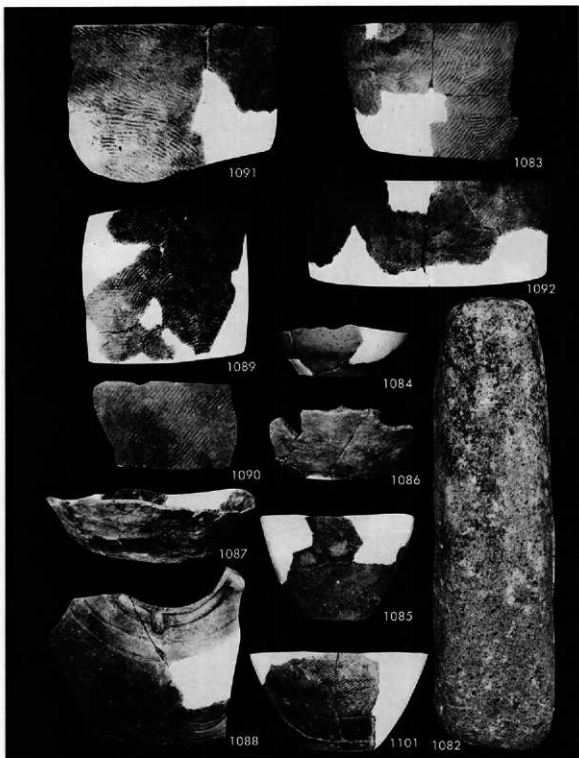
写真図版153 H IV-022- I V-021ピット出土遺物



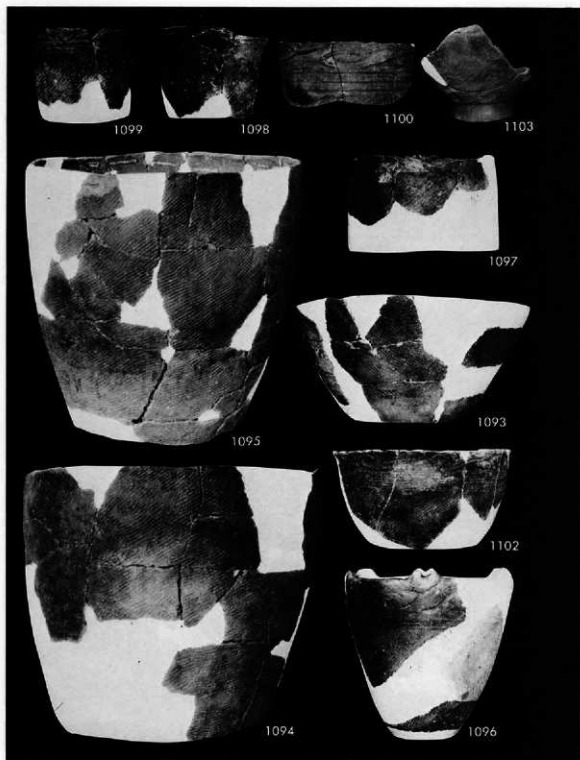
写真図版154 J V-022~J VI-024ピット出土遺物



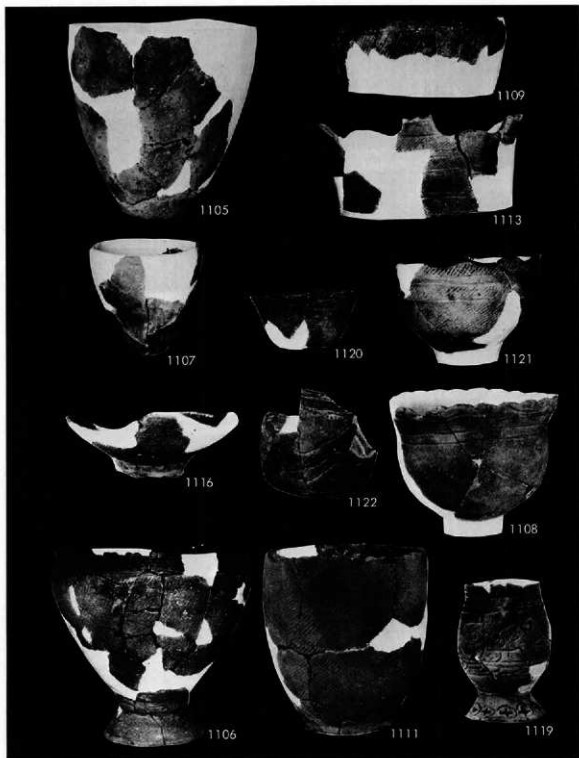
写真図版155 J IV-028-M IV-025ピット出土遺物



写真図版156 F III -04|集石遺構・G II -06|捨て場跡出土遺物



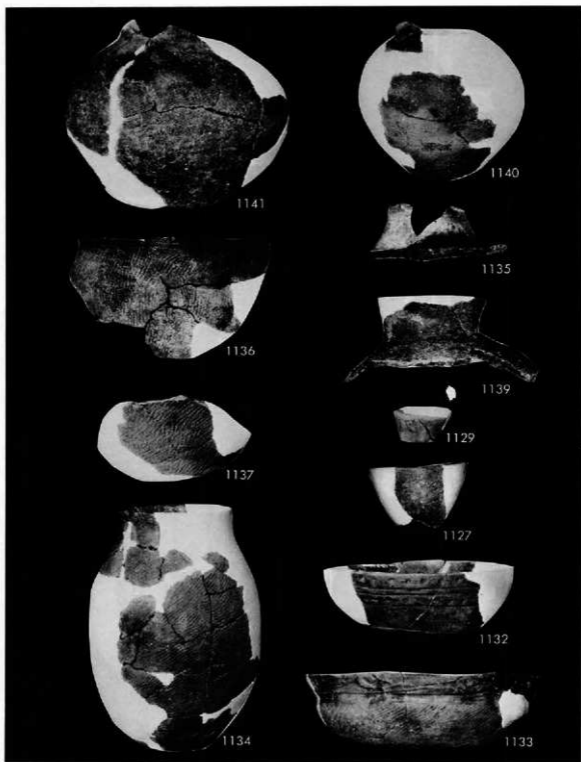
写真図版157 G II-061捨て場跡出土遺物(1)



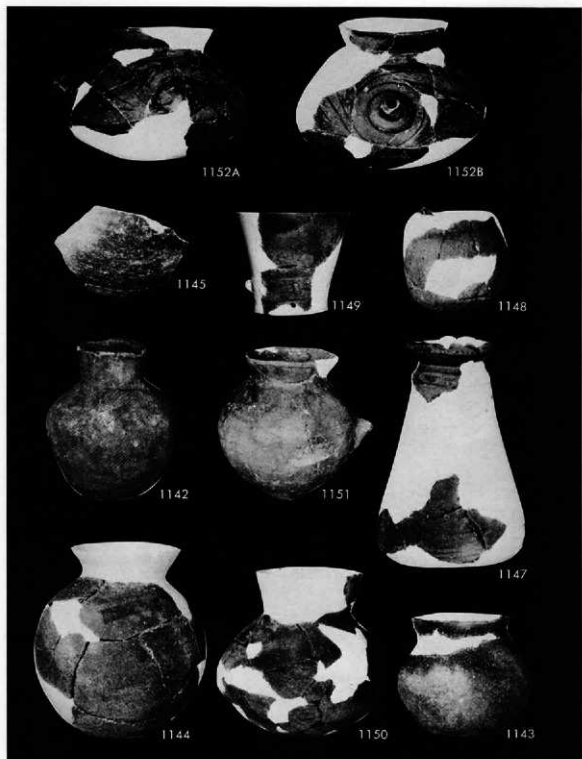
写真図版158 G II-061捨て場跡出土遺物(2)



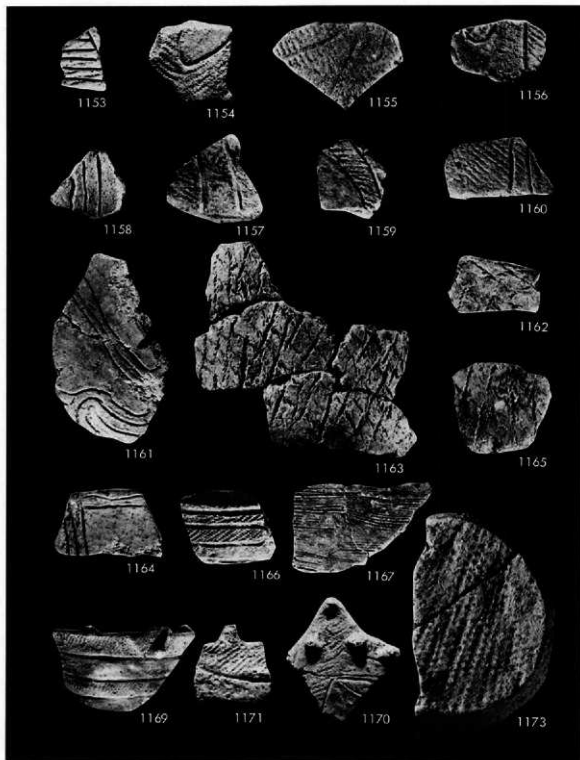
写真図版159 G II-06i捨て場跡出土遺物(3)



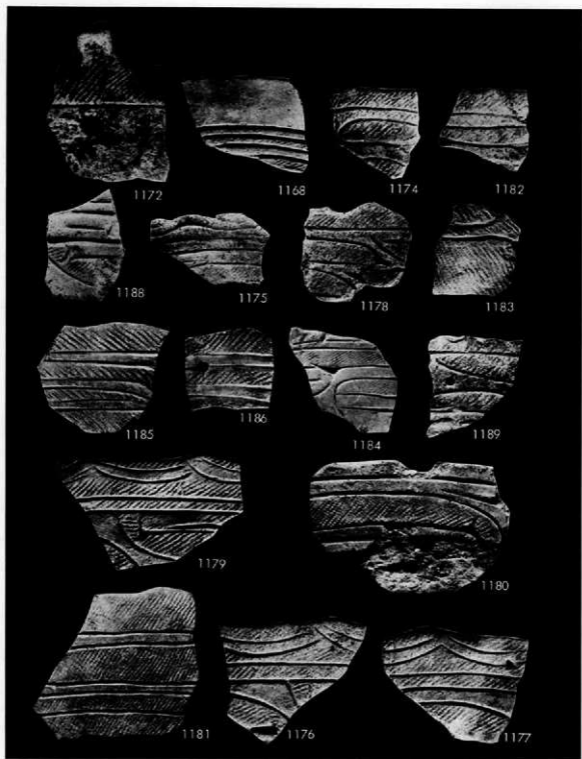
写真図版160 G II-06|捨て場跡出土遺物(4)



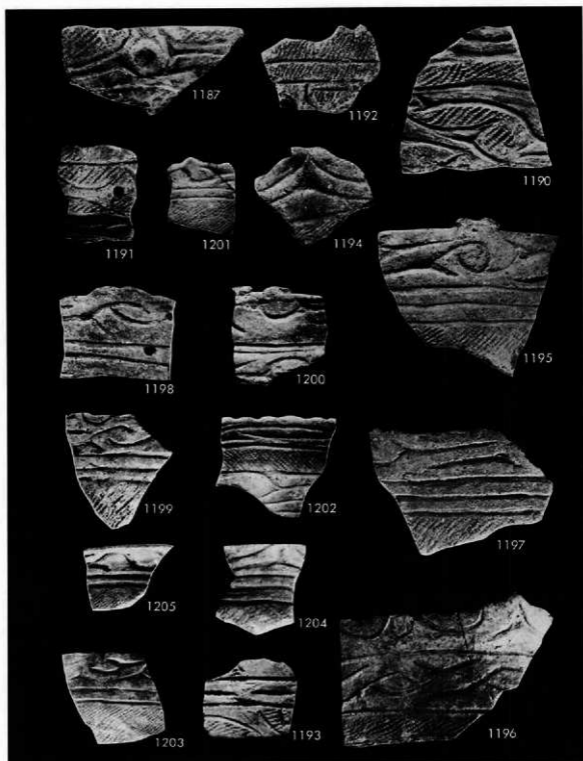
写真図版161 G II-061捨て場跡出土遺物(5)



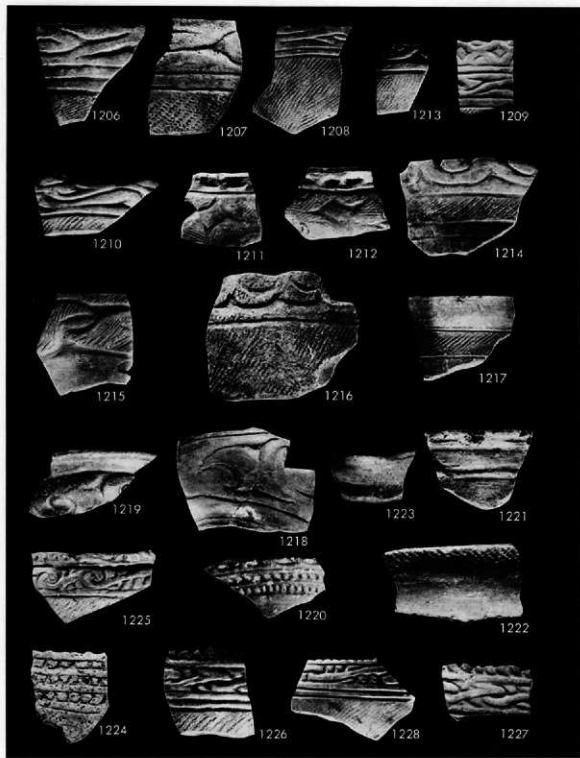
写真図版162 G II-06I捨て場跡出土遺物(6)



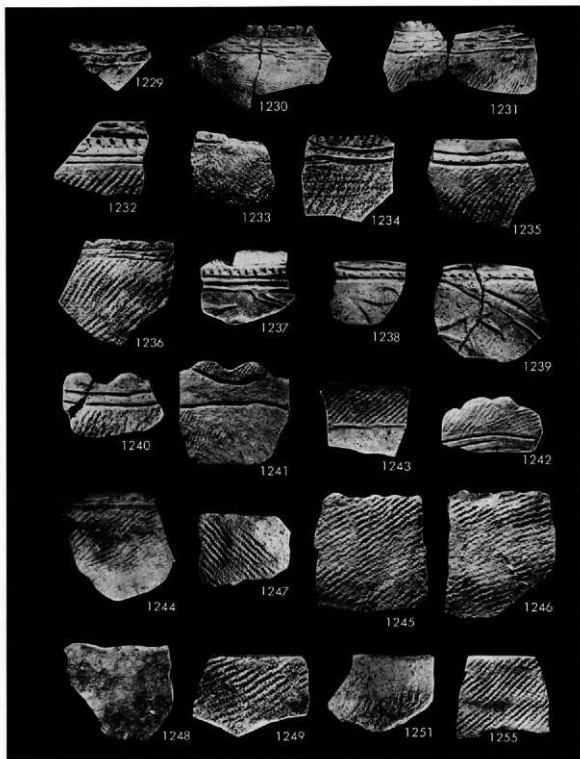
写真図版163 G II-061捨て場跡出土遺物(7)



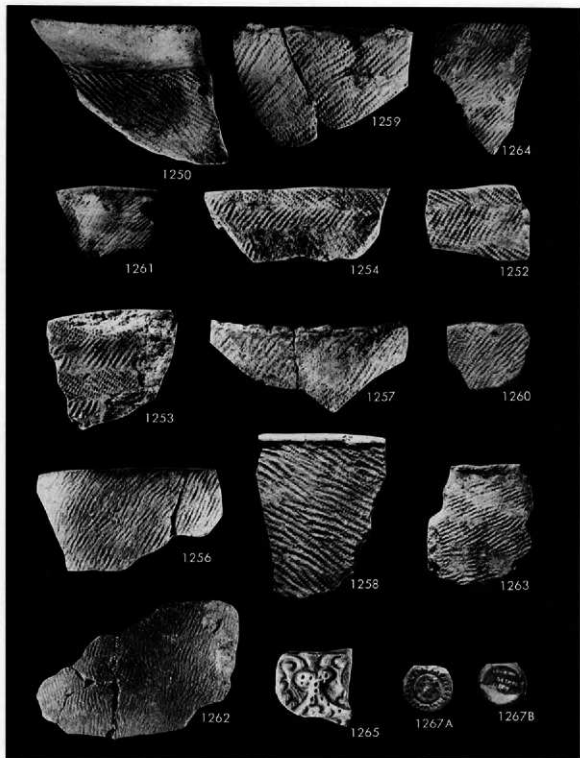
写真図版164 G II-061捨て場跡出土遺物(8)



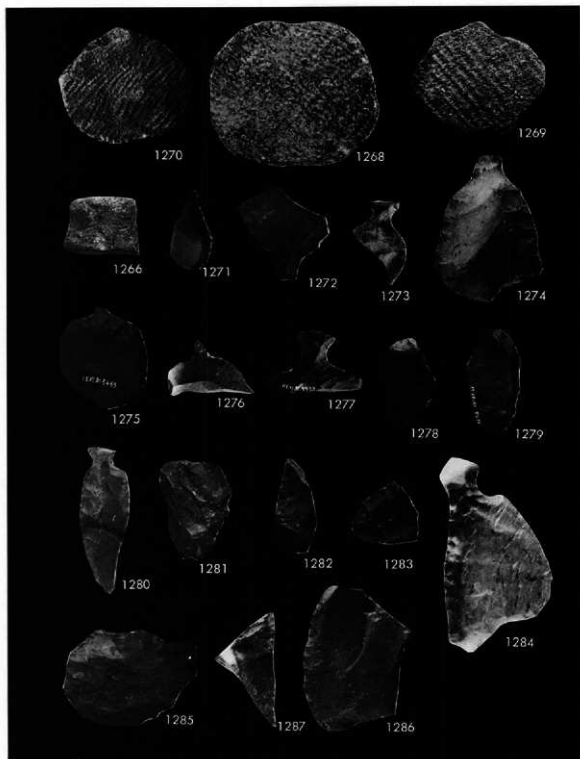
写真図版165 G II-061捨て場跡出土遺物(9)



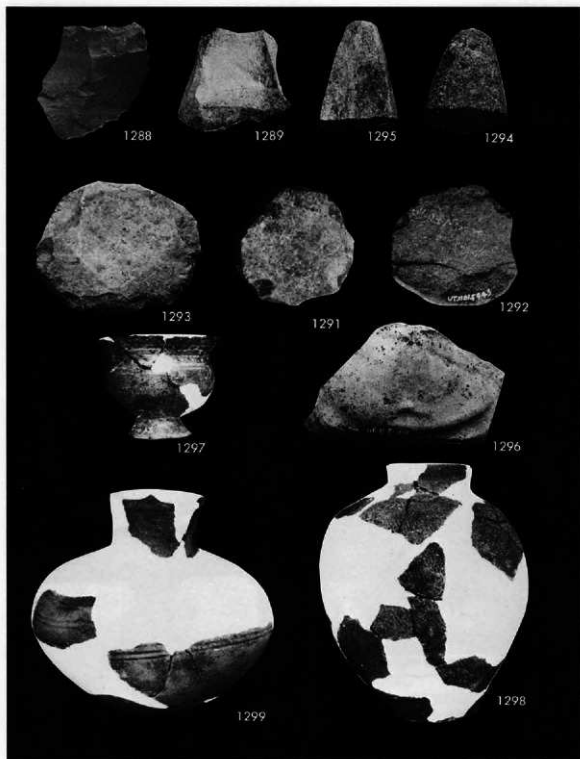
写真図版166 G II-061捨て場跡出土遺物(10)



写真図版167 G II-06I捨て場跡出土遺物 (11)



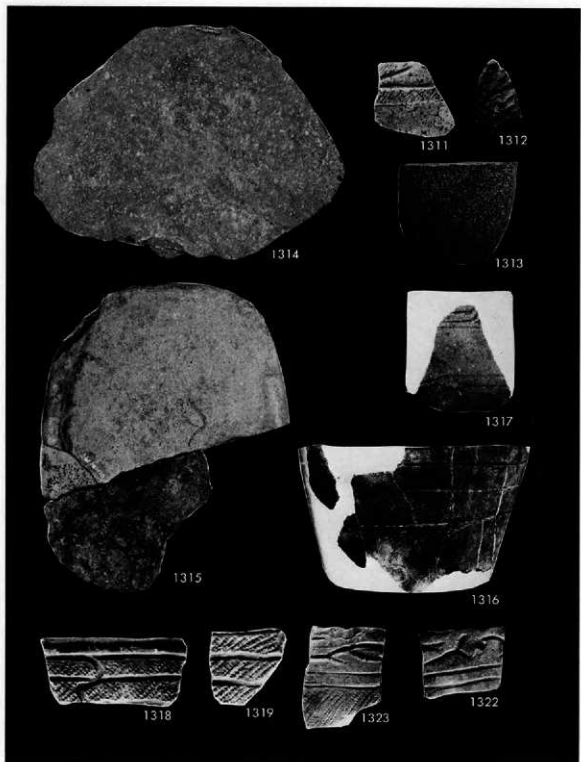
写真図版168 G II-061捨て場跡出土遺物 (12)



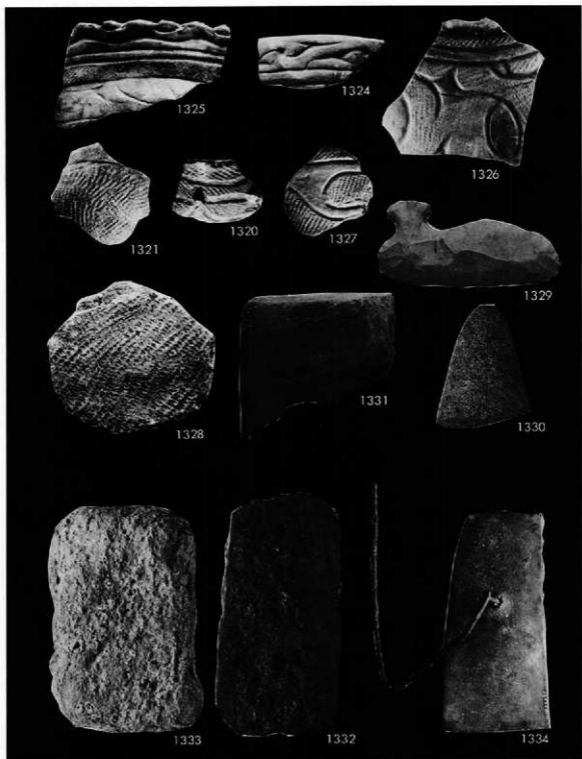
写真図版169 G II-061・I III-061捨て場跡出土遺物



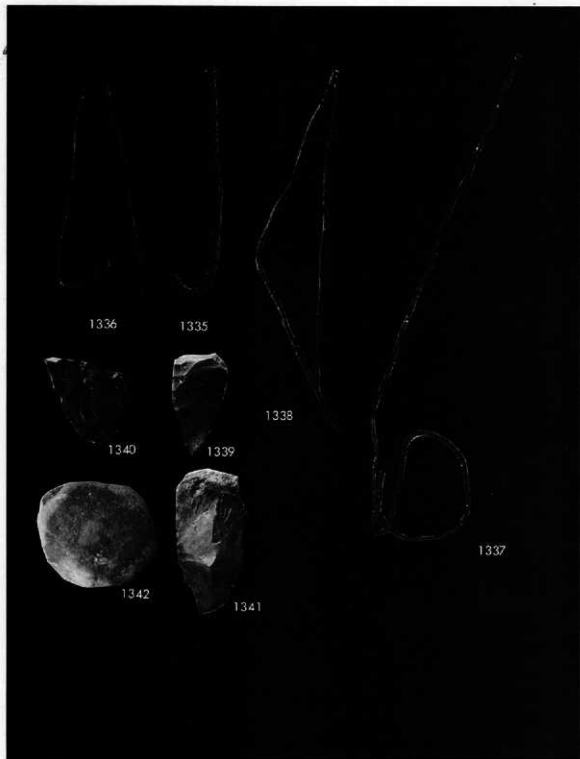
写真図版170 MIV-061捨て場跡出土遺物



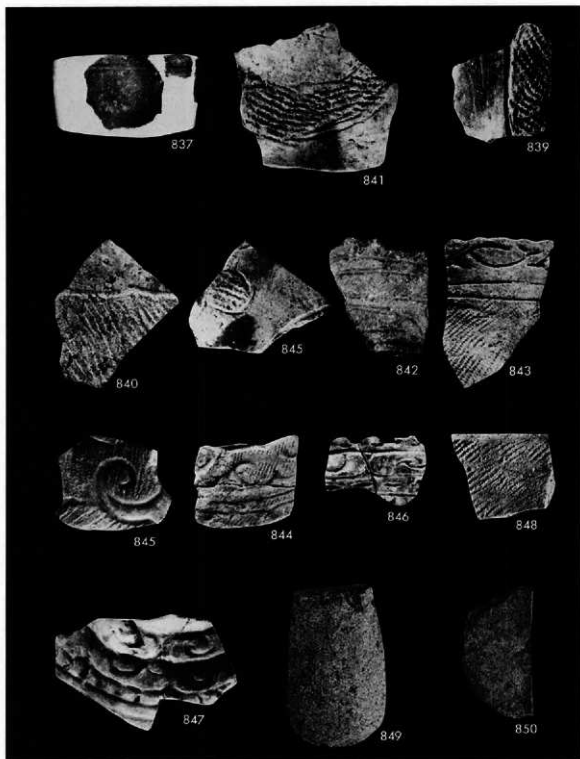
写真図版171 F IV-081炭焼場跡出土遺物(1)



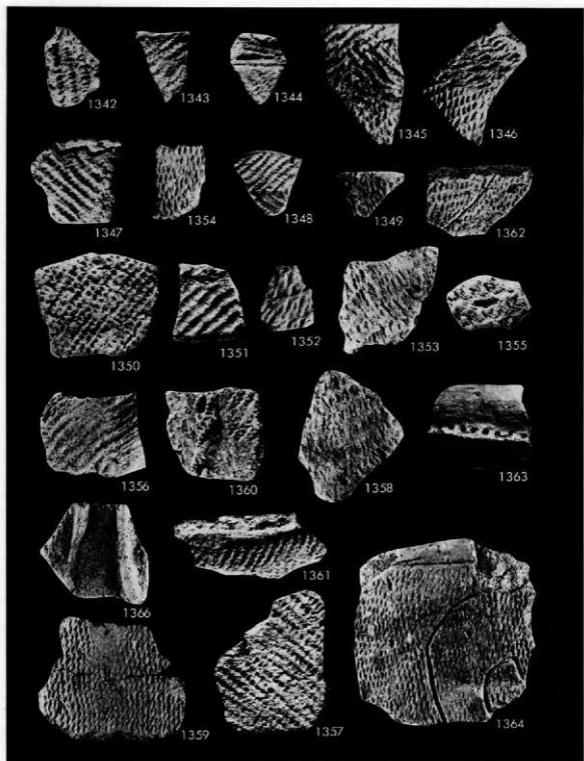
写真図版172 F IV-081炭焼場跡出土遺物(2)



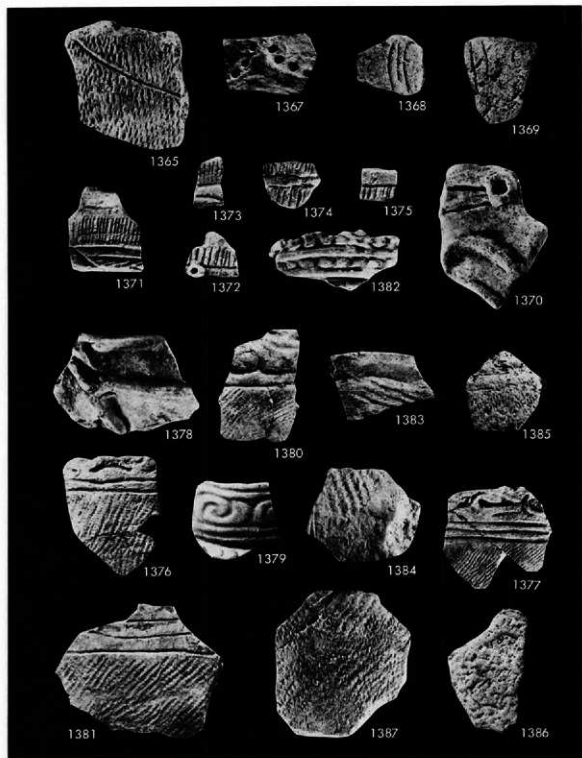
写真図版173 F IV-081炭焼場跡・E III-071道路跡出土遺物



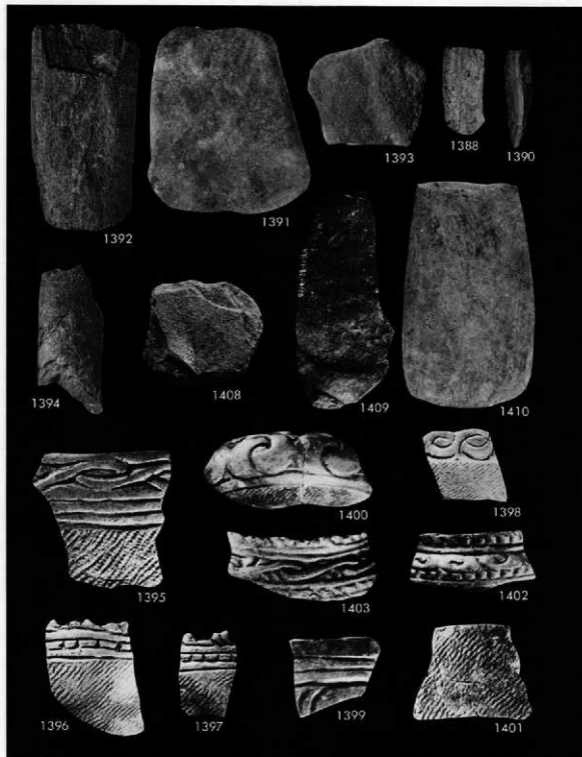
写真図版174 GⅣ-051雨裂跡出土遺物



写真图版175 E III区粗掘出土遺物(1)



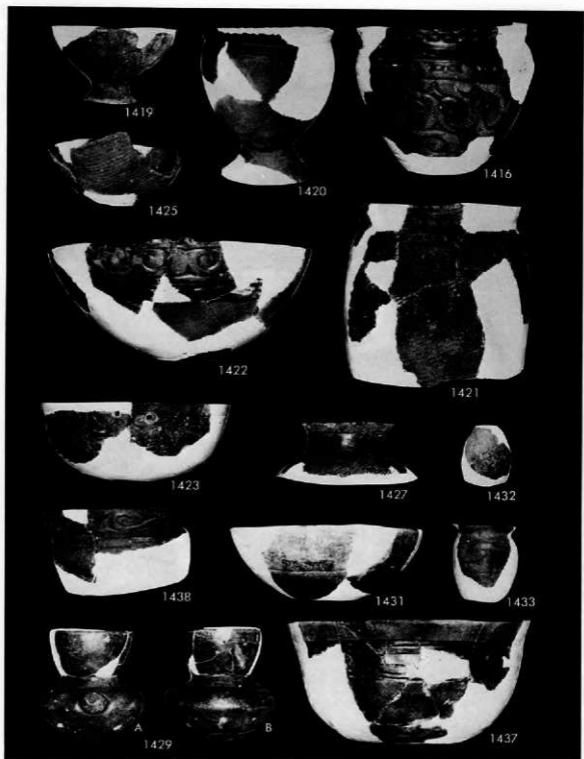
写真图版176 E III区粗掘出土遗物(2)



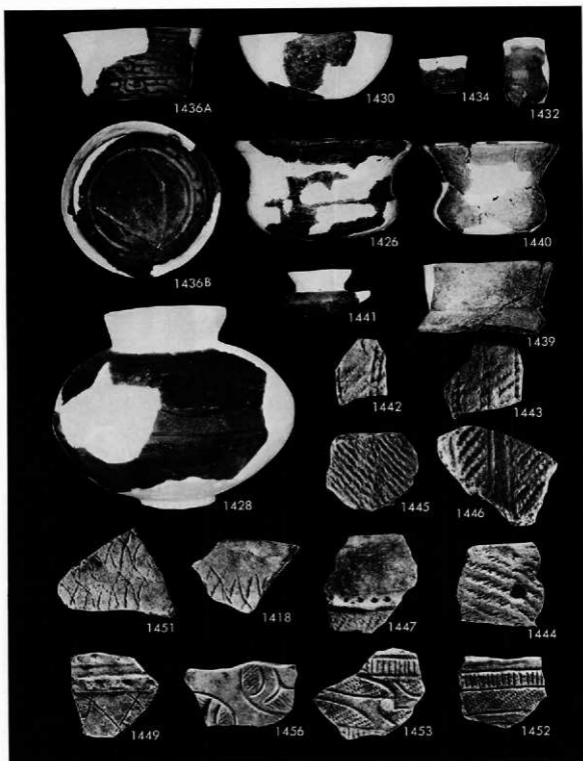
写真図版177 E III・F II・III区粗掘出土遺物



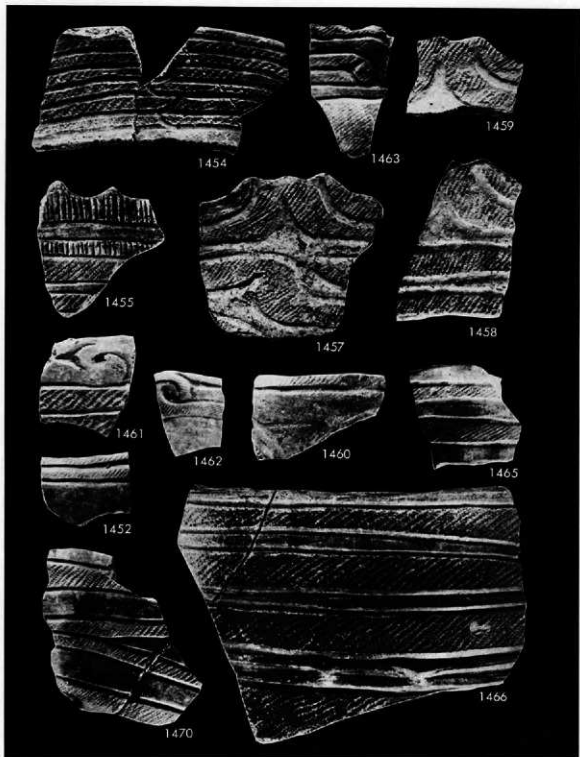
写真图版178 F III区粗掘出土遗物(1)



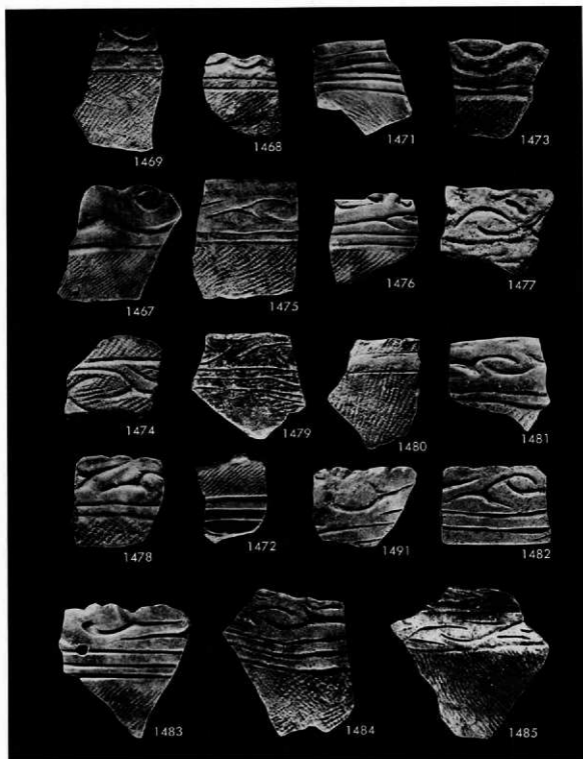
写真图版 179 F III区粗掘出土遗物(2)



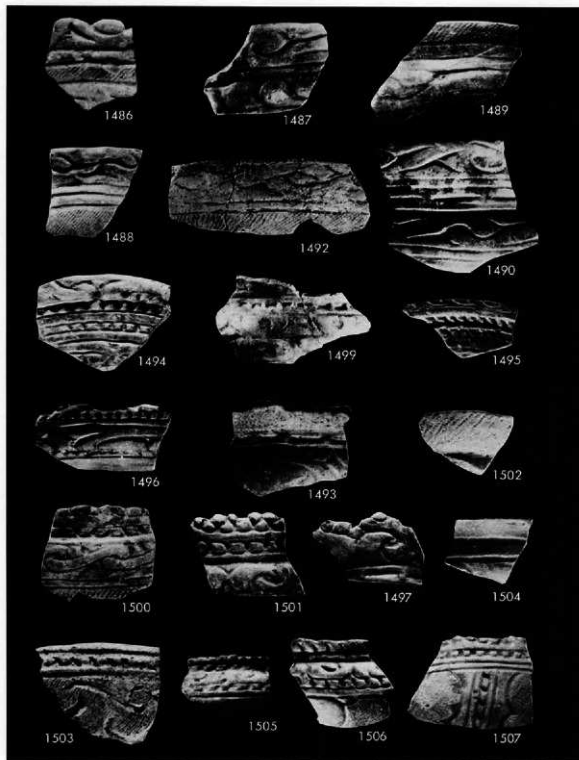
写真图版180 FⅢ区粗撰出土遗物(3)



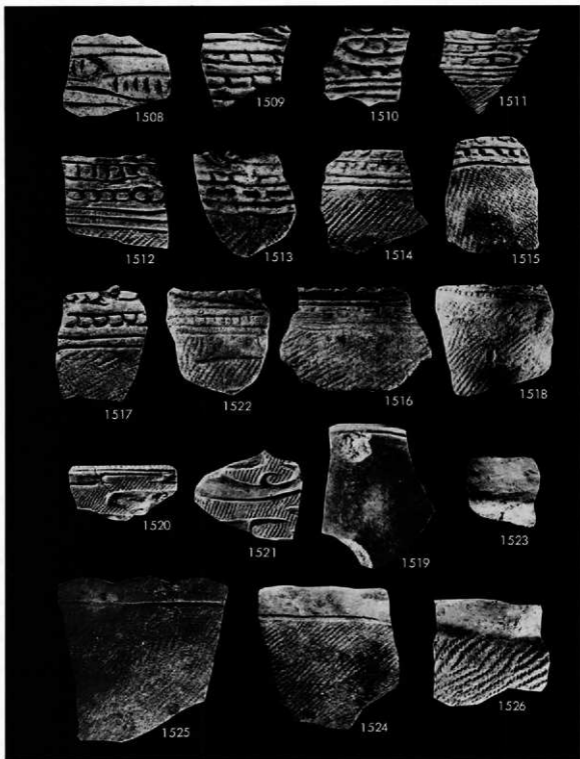
写真图版181 F III区粗壤出土遗物(4)



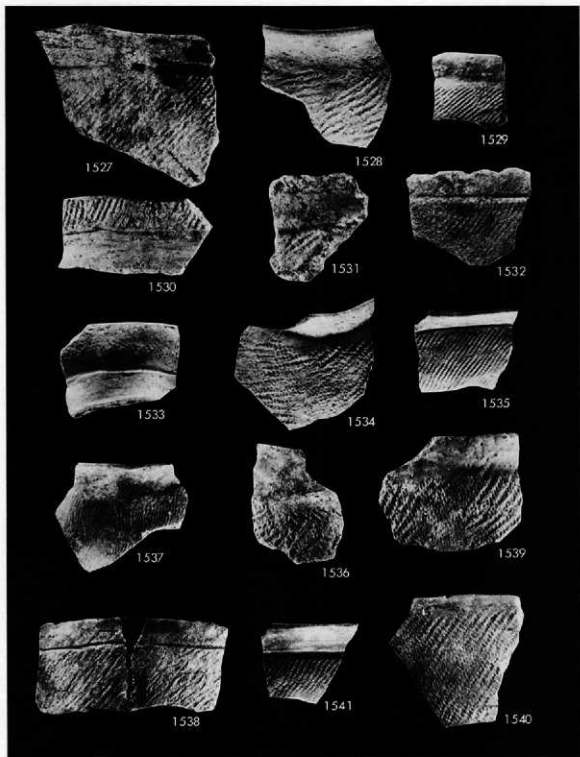
写真图版182 FⅢ区粗掘出土遗物(5)



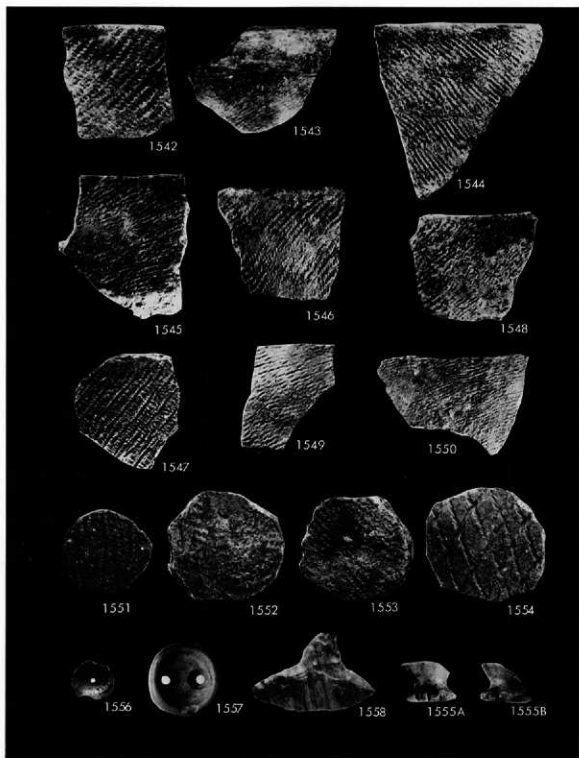
写真图版183 F III区粗掘出土遗物(6)



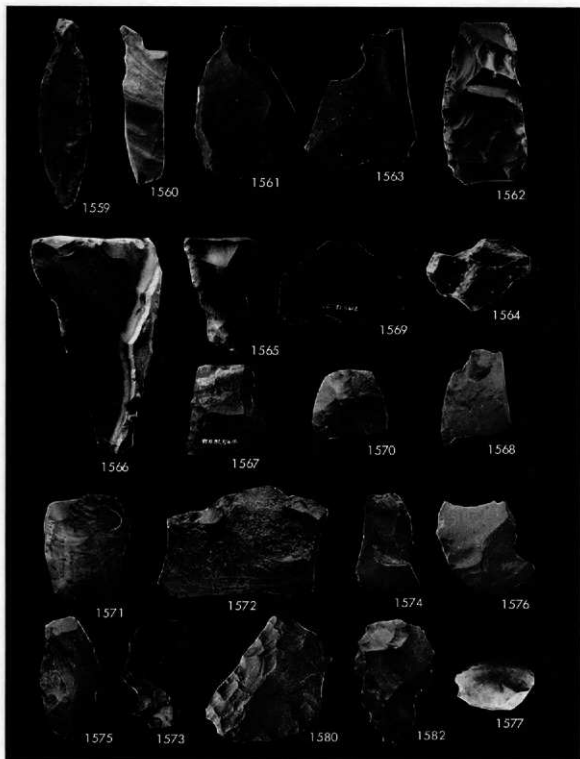
写真图版184 F III区粗罐出土遗物(7)



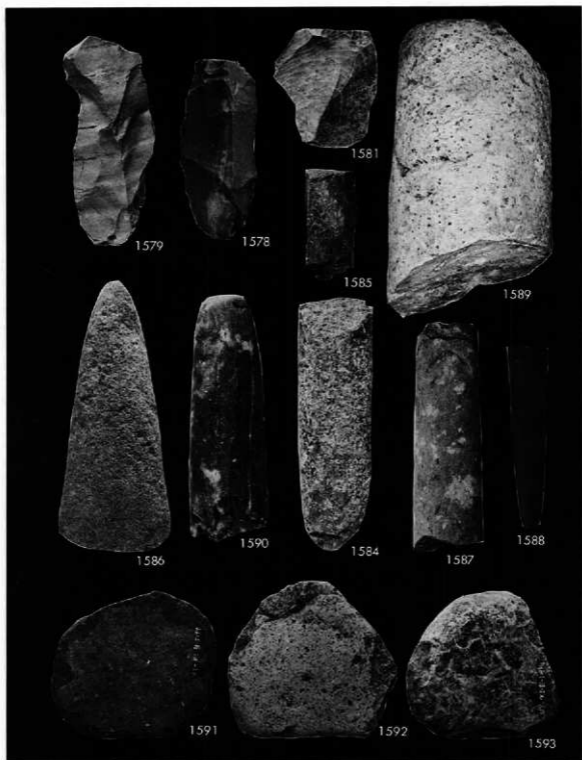
写真图版185 F III区粗掘出土遗物(8)



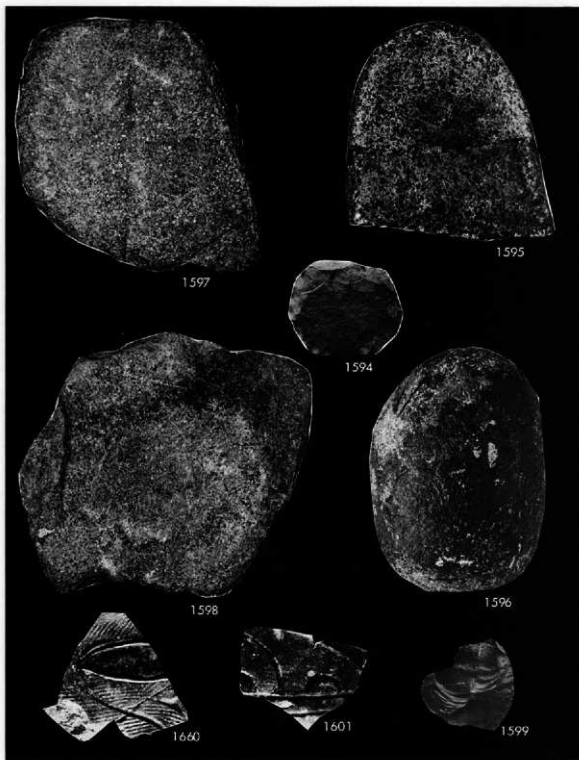
写真图版186 FⅢ区粗掘出土遗物(9)



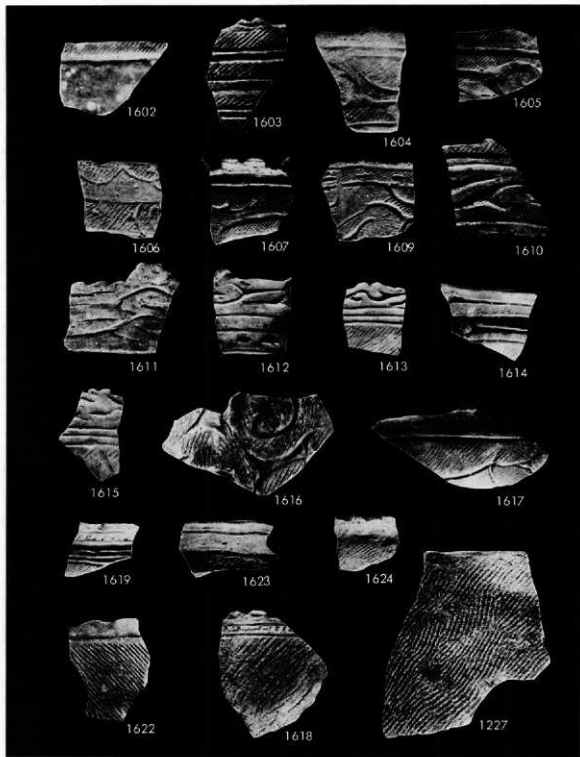
写真图版187 F III区粗掘出土遗物(10)



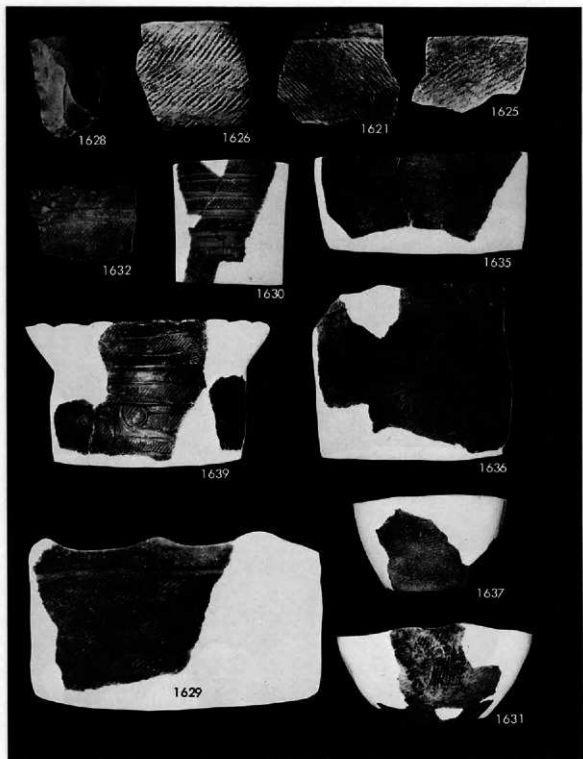
写真图版188 F III区粗掘出土遗物(11)



写真图版189 F III·G II区粗掘出土遗物



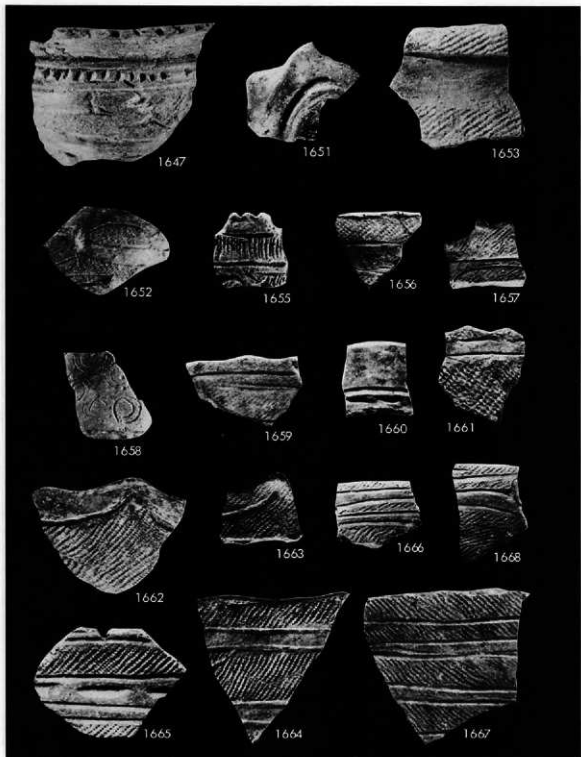
写真図版190 G III区試掘出土遺物



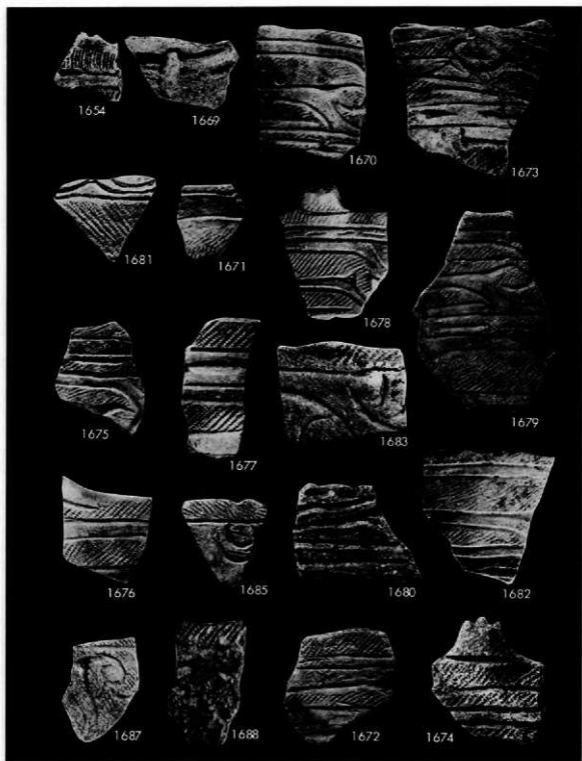
写真图版191 G III区粗掘出土遺物(1)



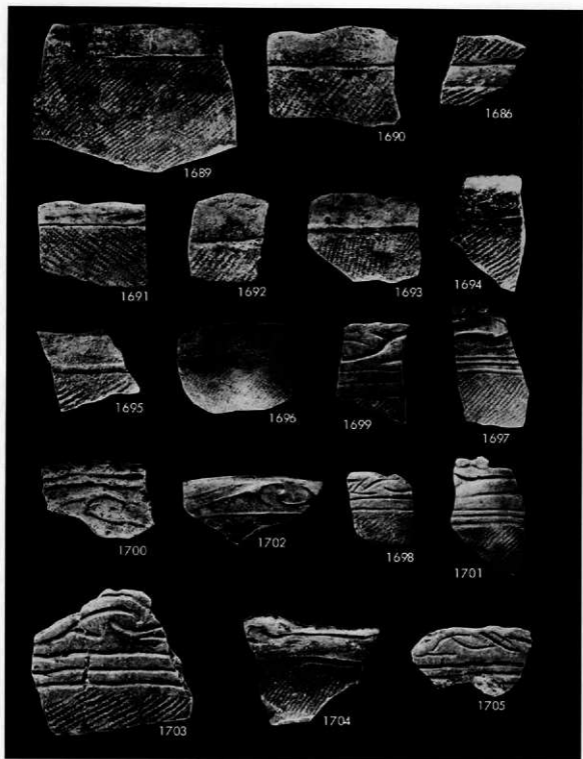
写真图版192 G III区粗掘出土遗物(2)



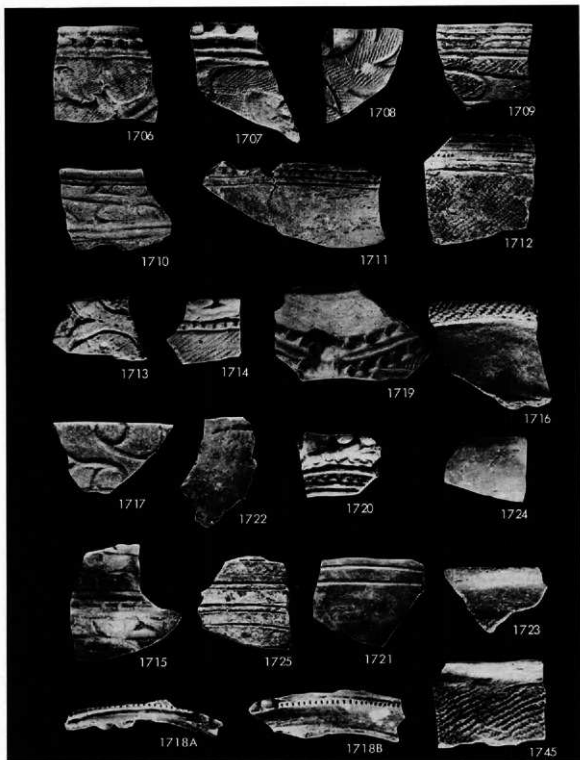
写真图版193 G III区粗掘出土遺物(3)



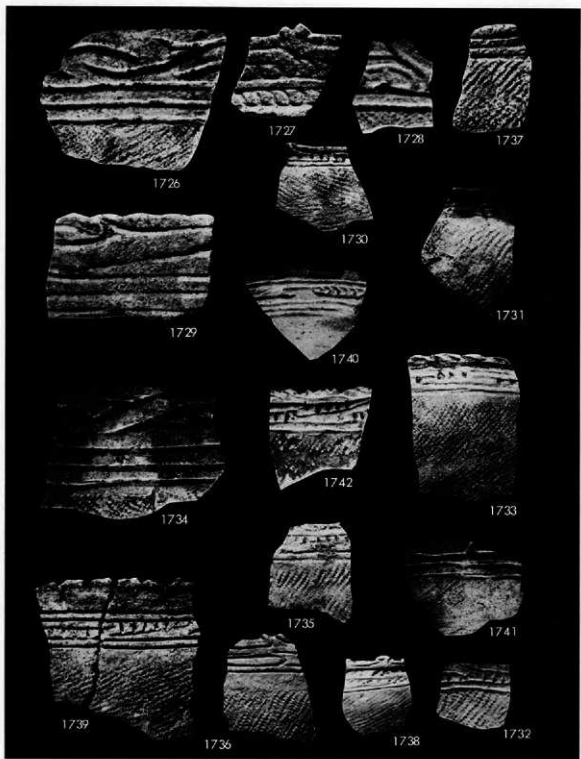
写真图版194 G III区粗掘出土遗物(4)



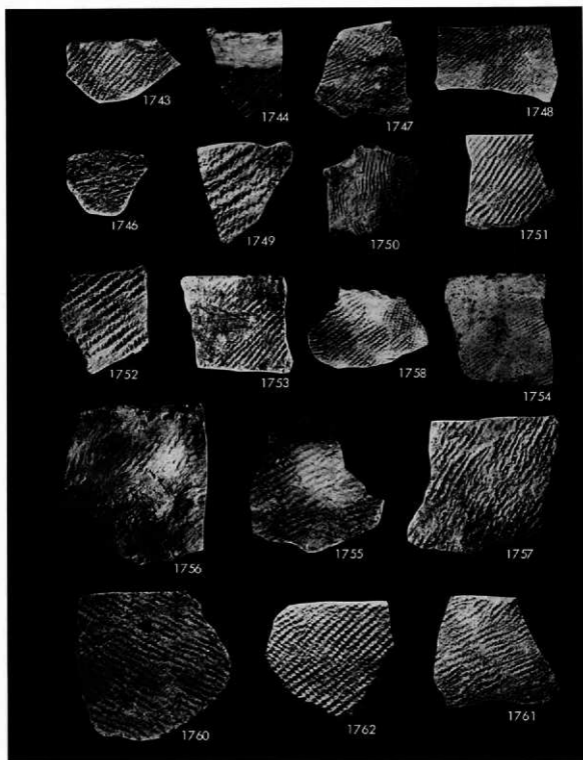
写真图版195 G III区粗掘出土遺物(5)



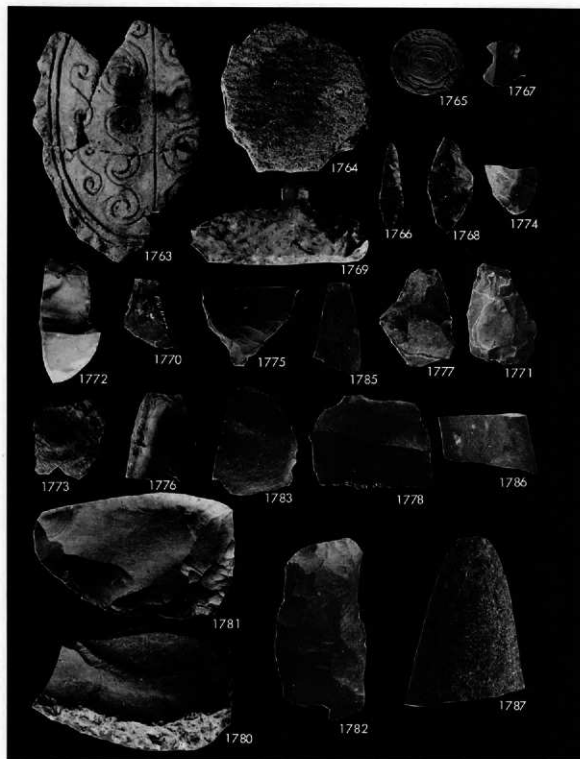
写真图版196 G III区粗掘出土遗物(6)



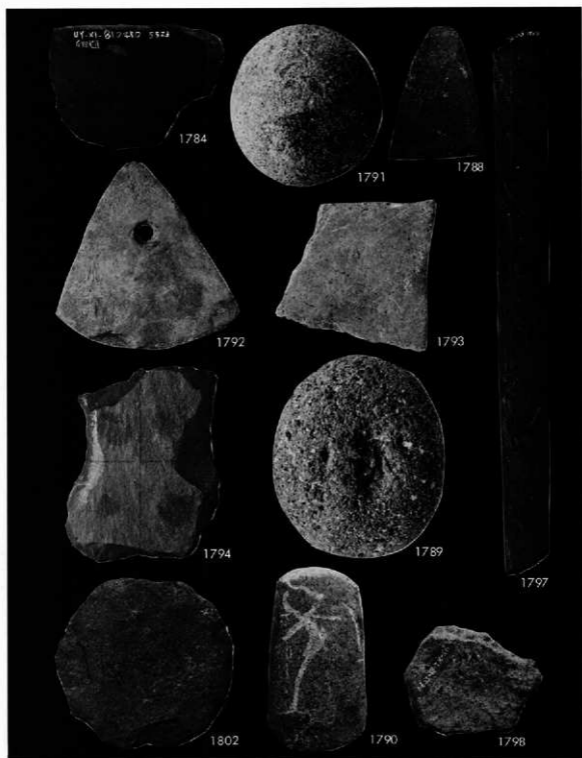
写真图版197 G III区粗掘出土遗物(7)



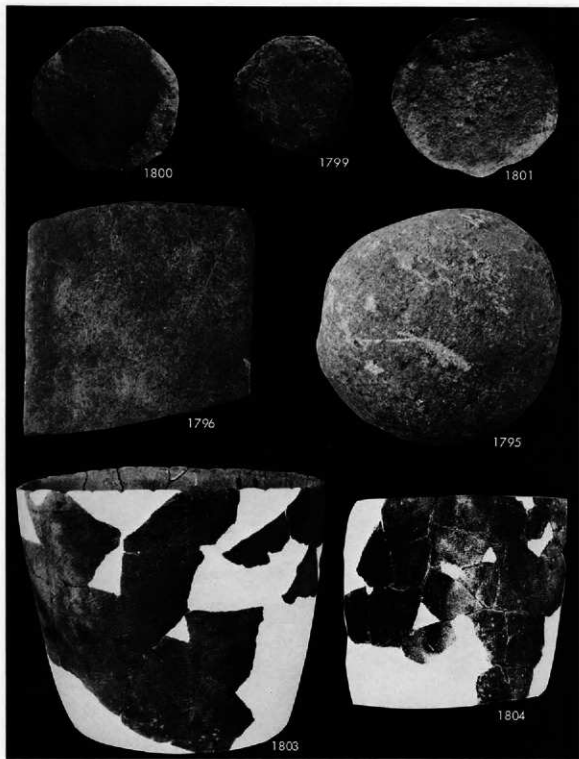
写真图版198 G III区粗掘出土遗物(8)



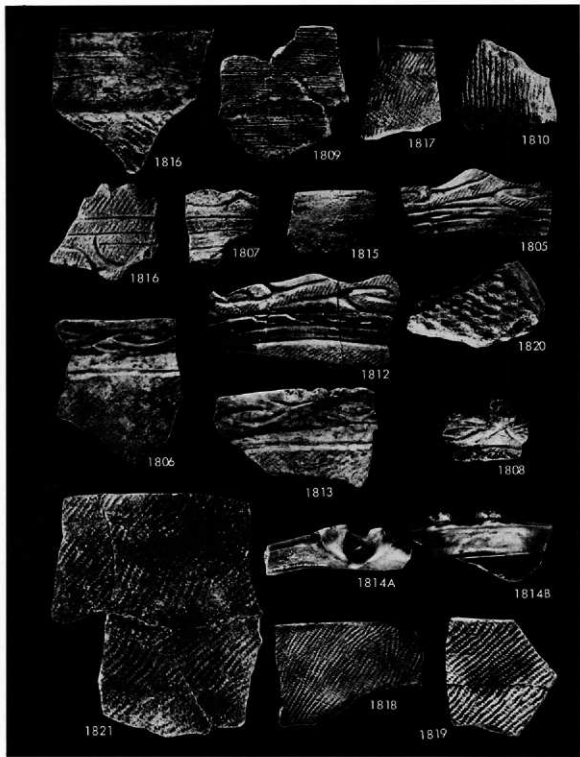
写真图版 199 G III区粗掘出土遗物(9)



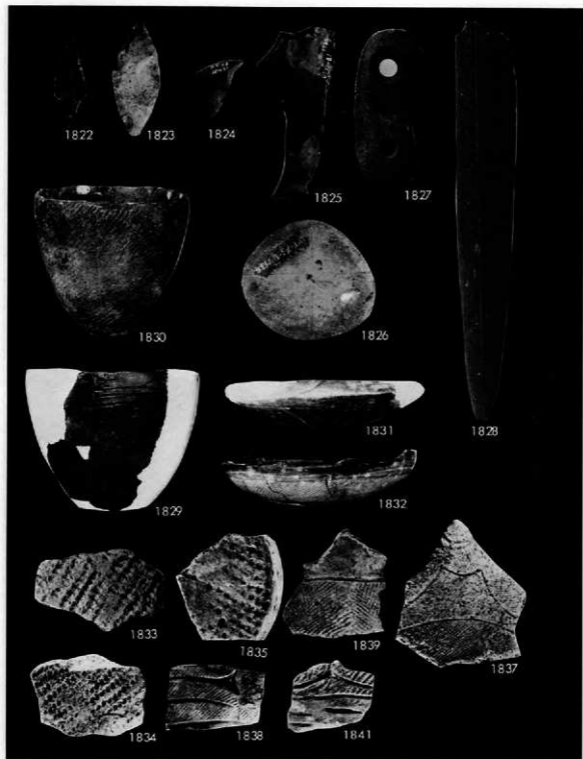
写真图版200 G III区粗掘出土遗物(10)



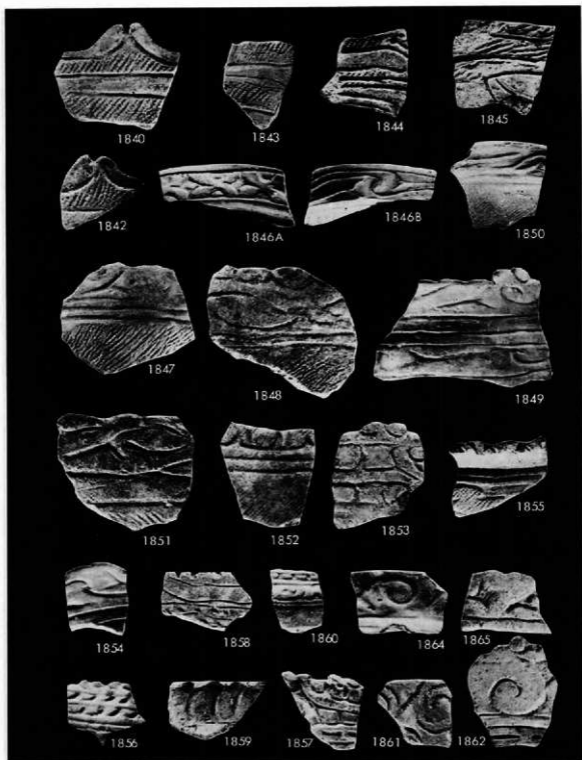
写真图版201 G III·IV区粗掘出土遗物



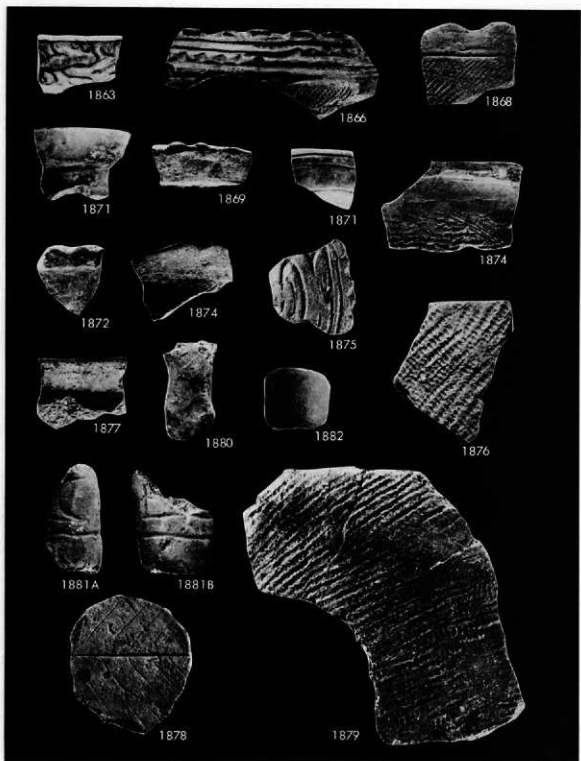
写真图版202 G IV区粗掘出土遗物



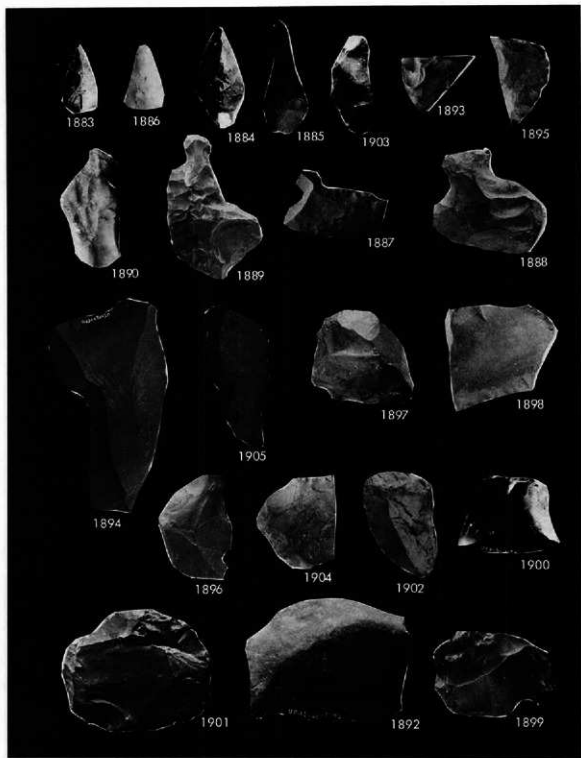
写真图版203 G IV · H III区粗掘出土遗物



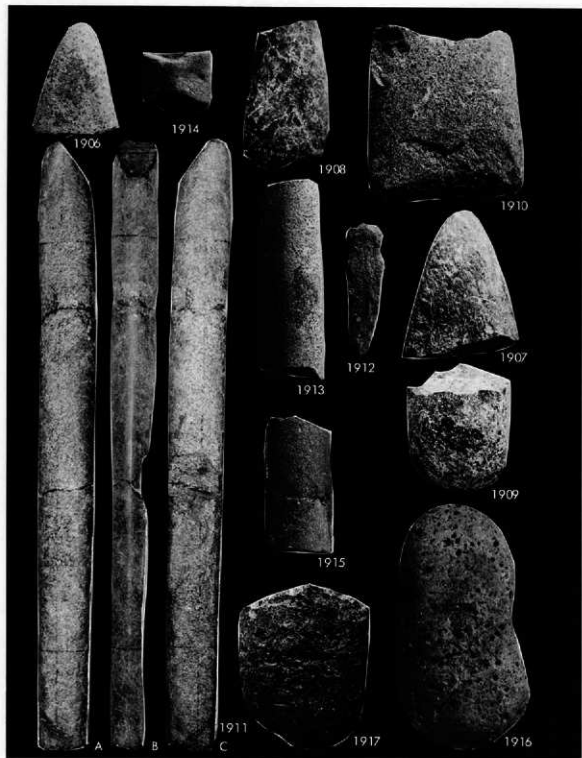
写真图版204 H III区粗掘出土遗物(1)



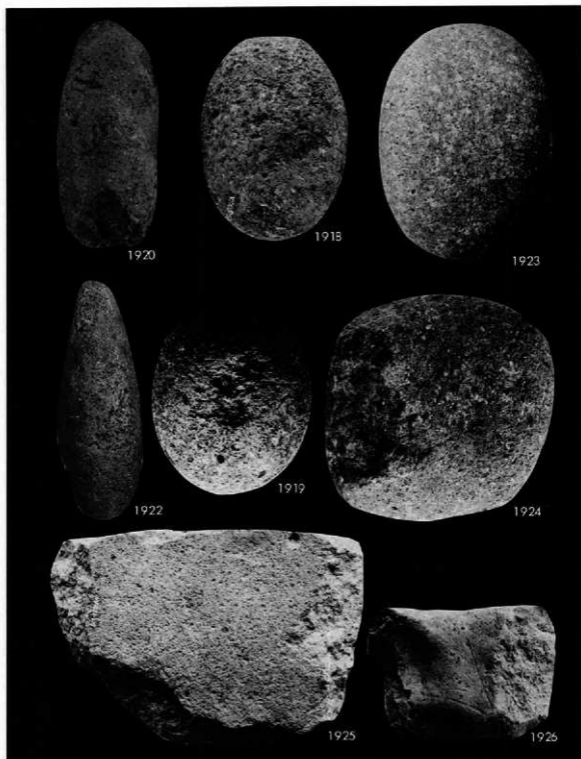
写真图版205 H III区粗掘出土遺物(2)



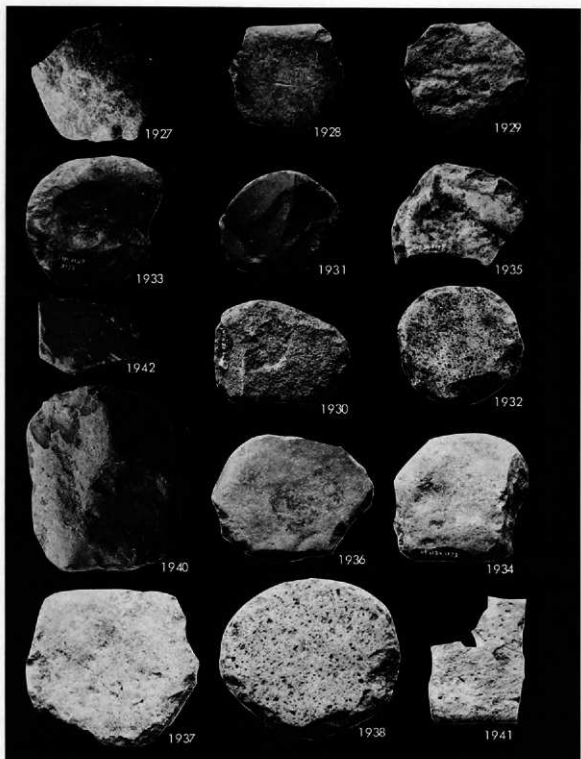
写真图版206 H III区粗掘出土遗物(3)



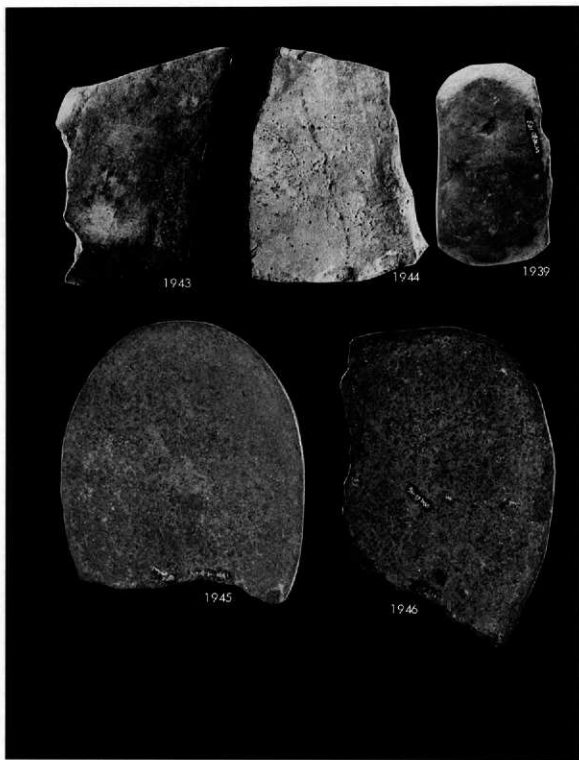
写真图版207 H III区粗掘出土遗物(4)



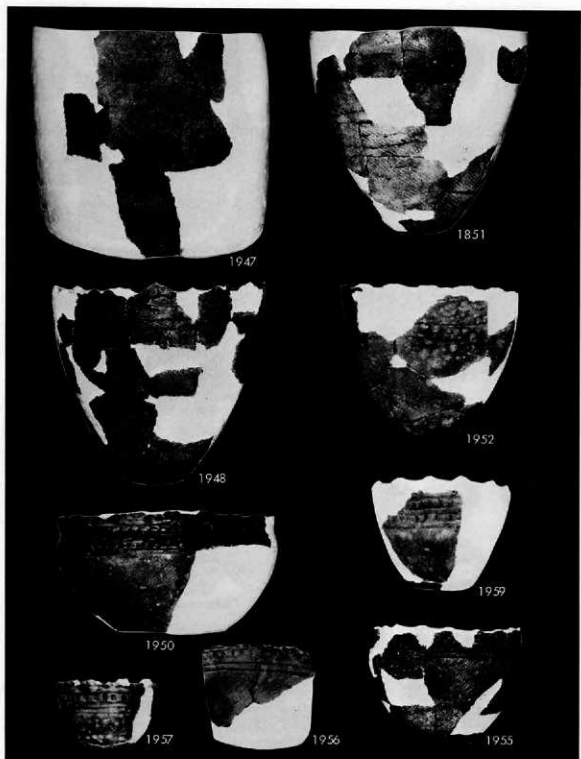
写真图版208 H III区粗掘出土遗物(5)



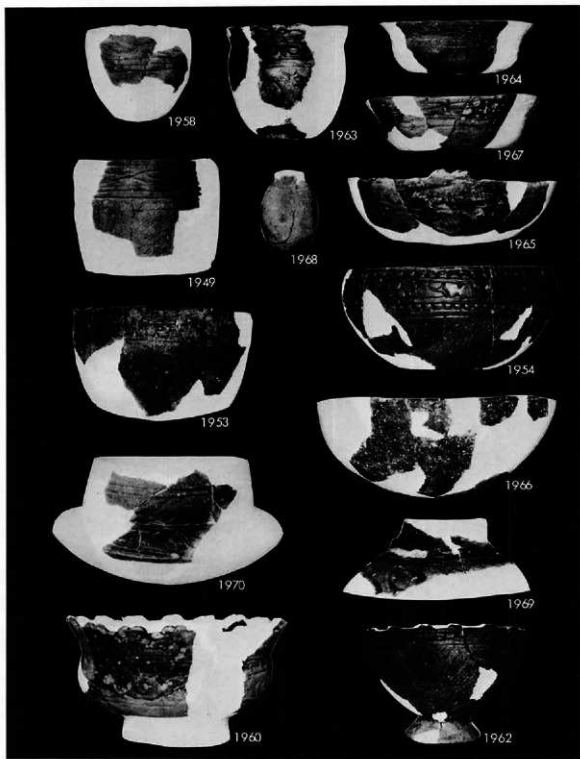
写真图版209 H III区粗掘出土遺物(6)



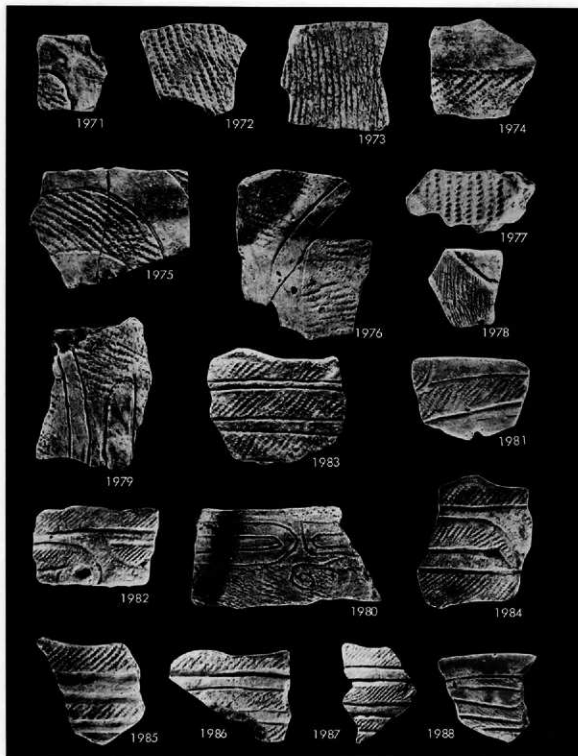
写真图版210 H III区粗掘出土遗物(7)



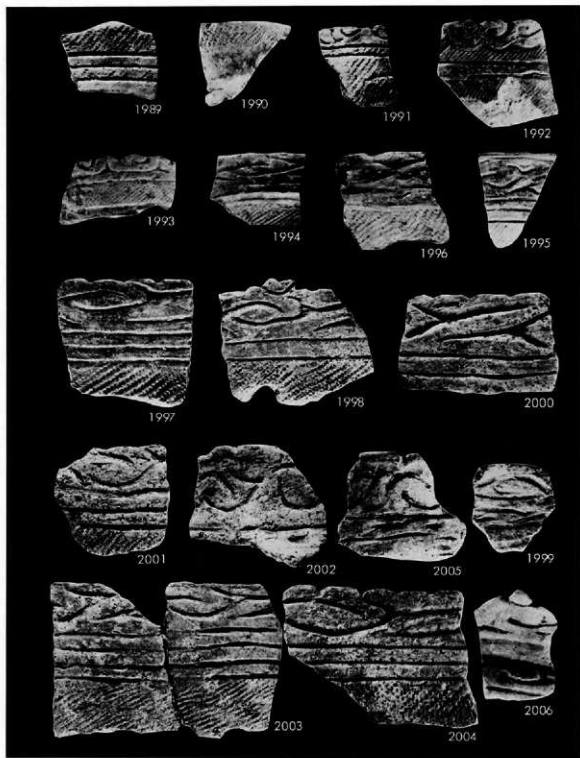
写真图版211 H IV区粗掘出土遗物(1)



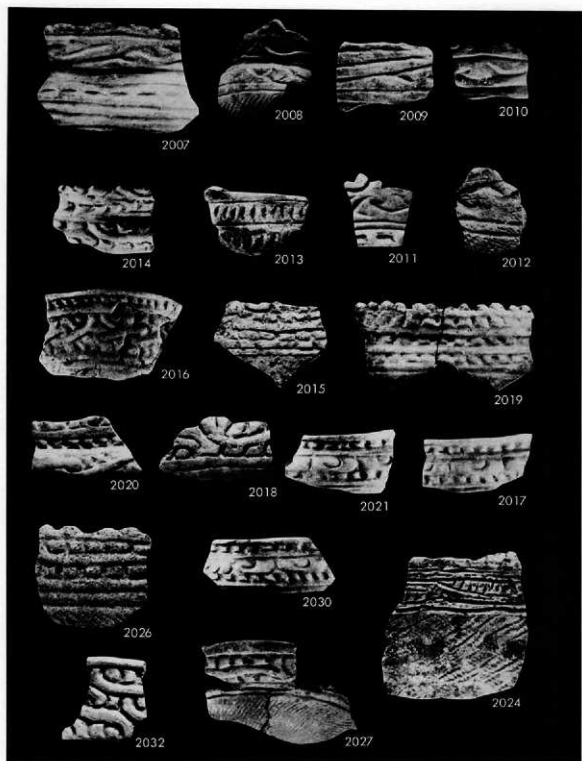
写真图版212 H IV区粗掘出土遗物(2)



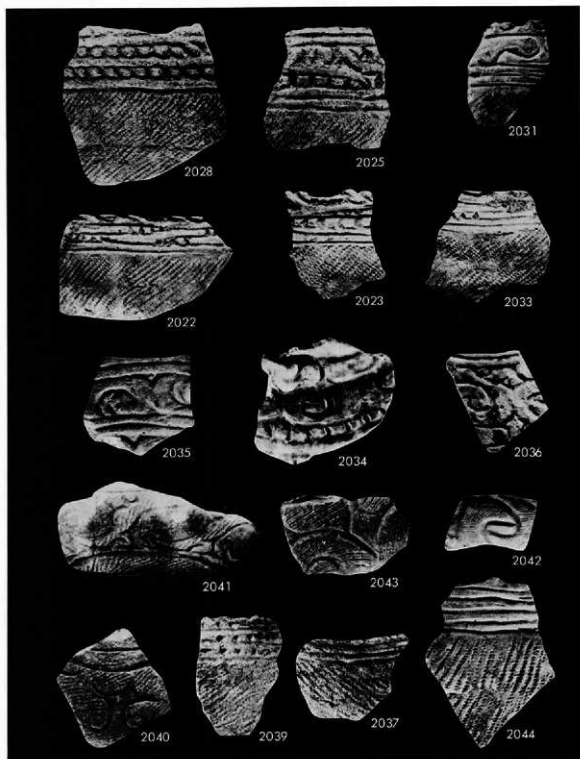
写真图版213 HN区粗掘出土遗物(3)



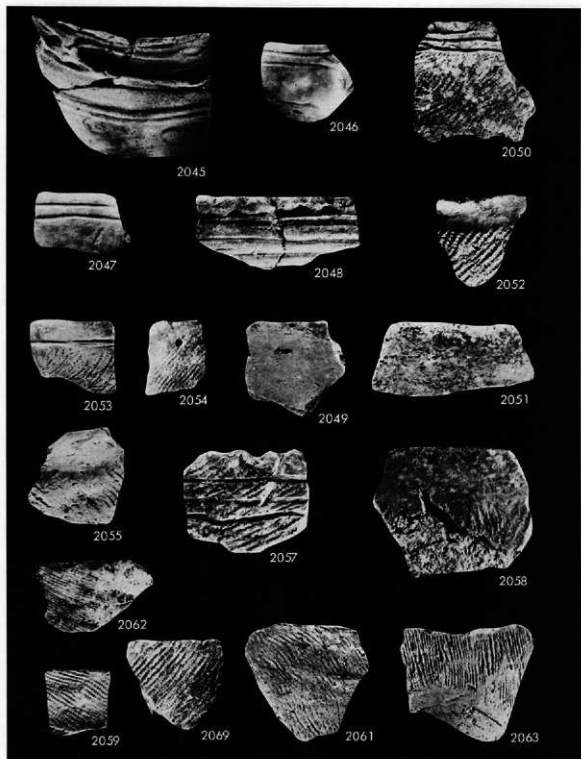
写真图版214 H IV区粗掘出土遗物(4)



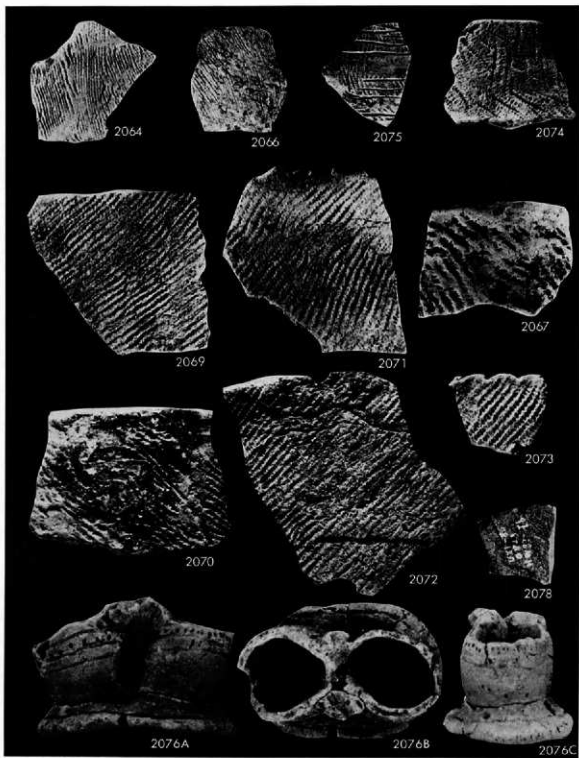
写真图版215 H IV区组掘出土遗物(5)



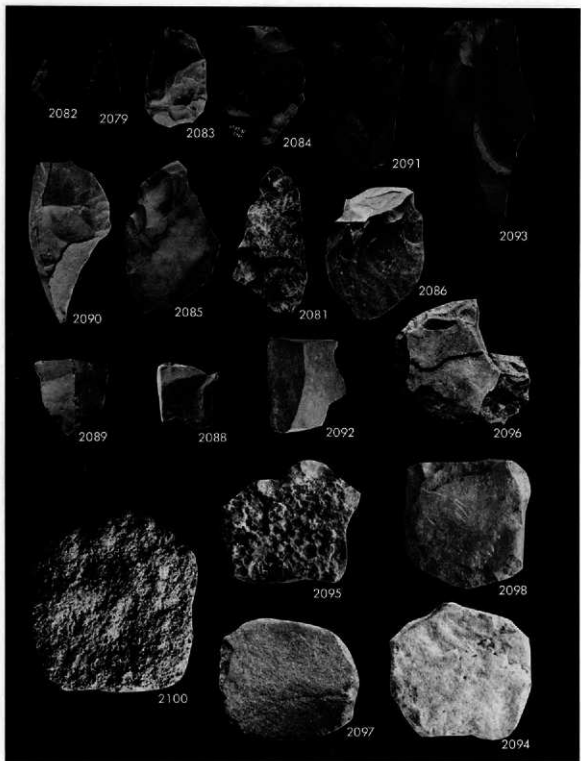
写真图版216 H IV区粗掘出土遗物(6)



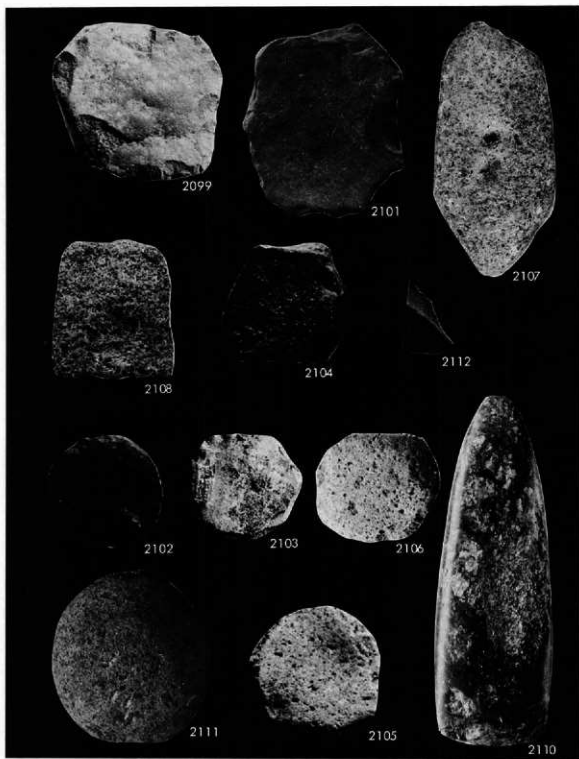
写真图版217 H IV区粗编出土遗物(7)



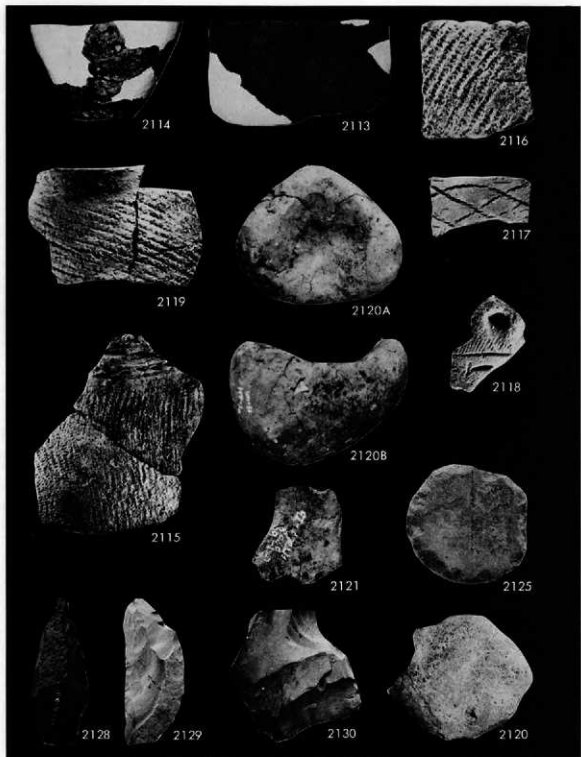
写真图版218 H IV区粗掘出土遗物(8)



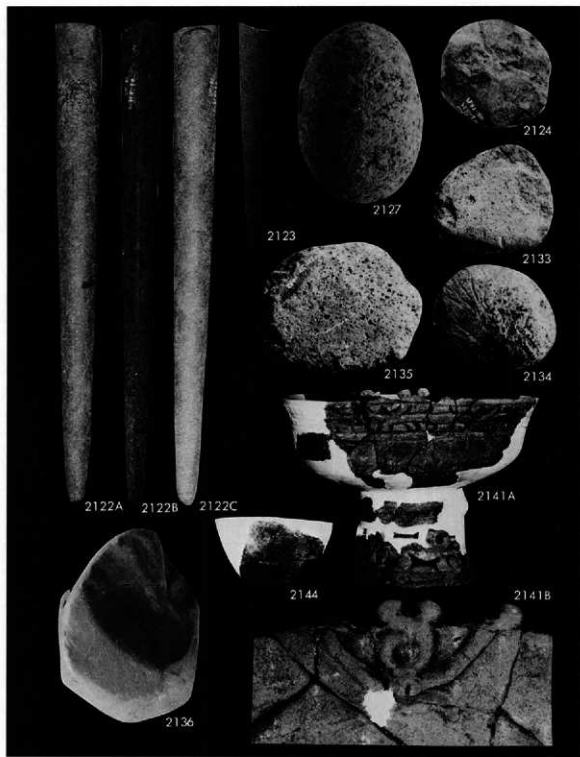
写真图版219 H IV区粗掘出土遺物(9)



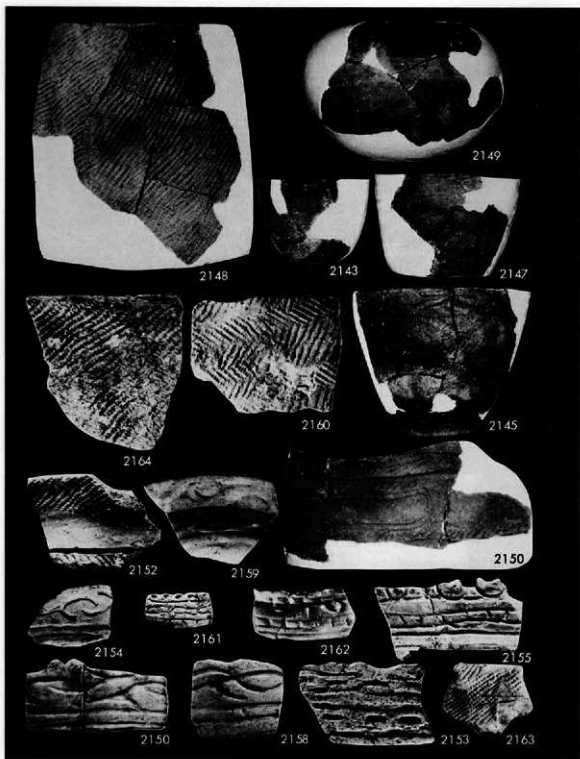
写真图版220 H IV区粗掘出土遗物(10)



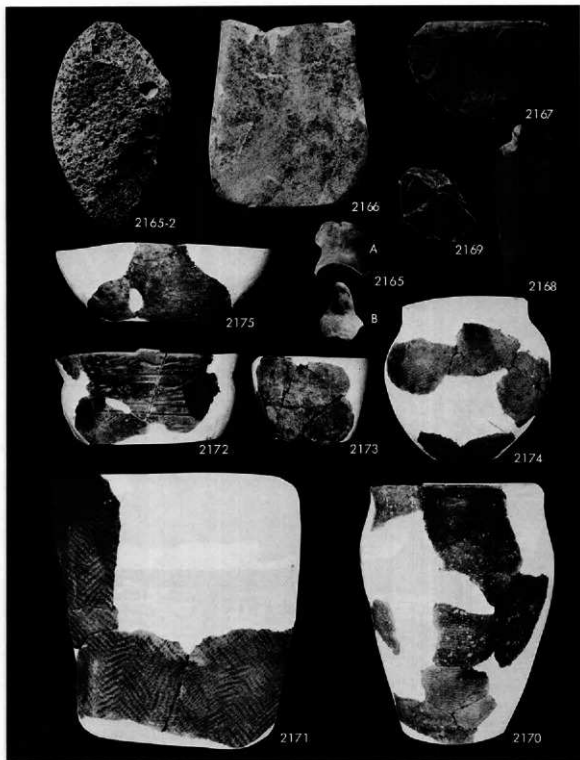
写真图版221 H V区粗掘出土遗物



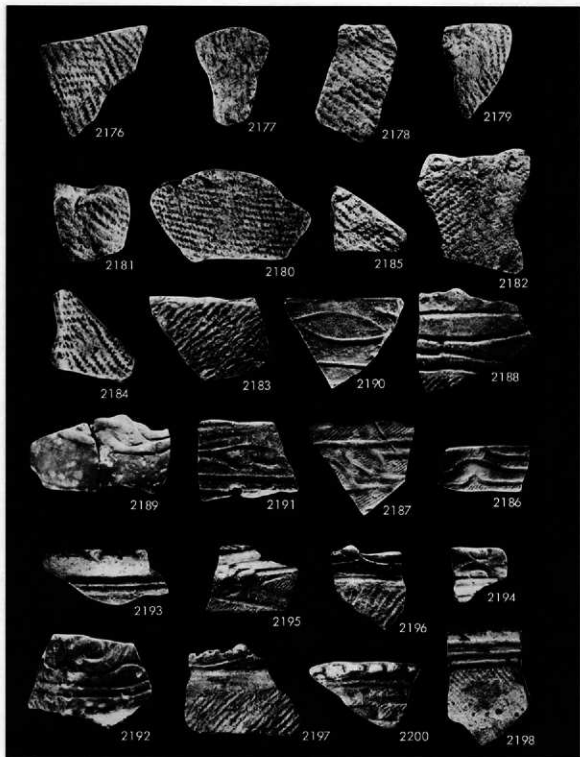
写真图版222 H V · VI区粗掘出土遗物



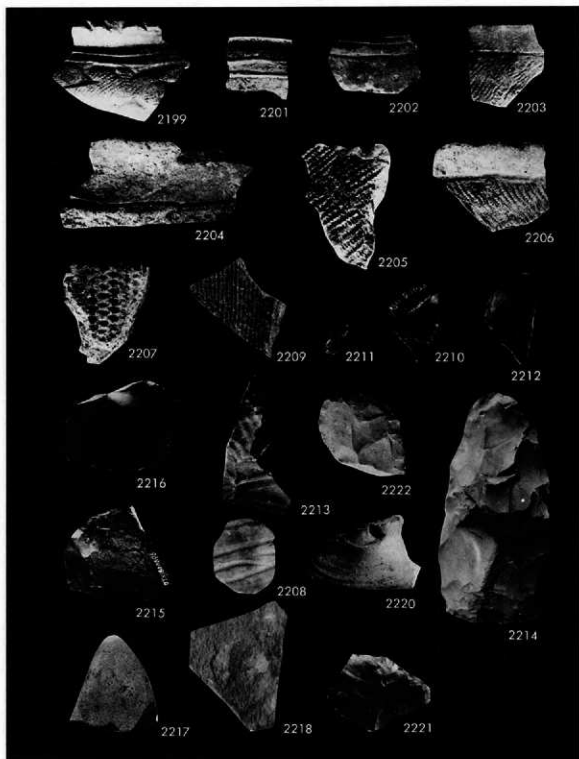
写真图版223 I III区粗掘出土遗物



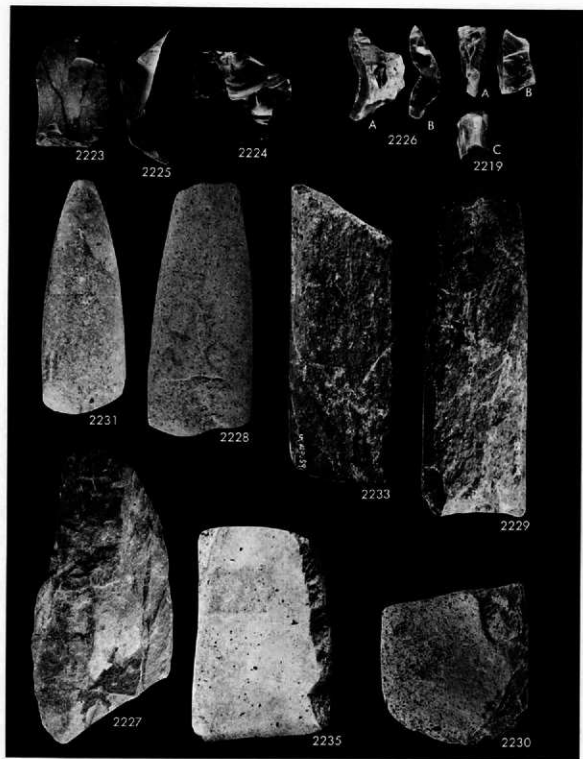
写真图版224 I III·IV区粗掘出土遗物



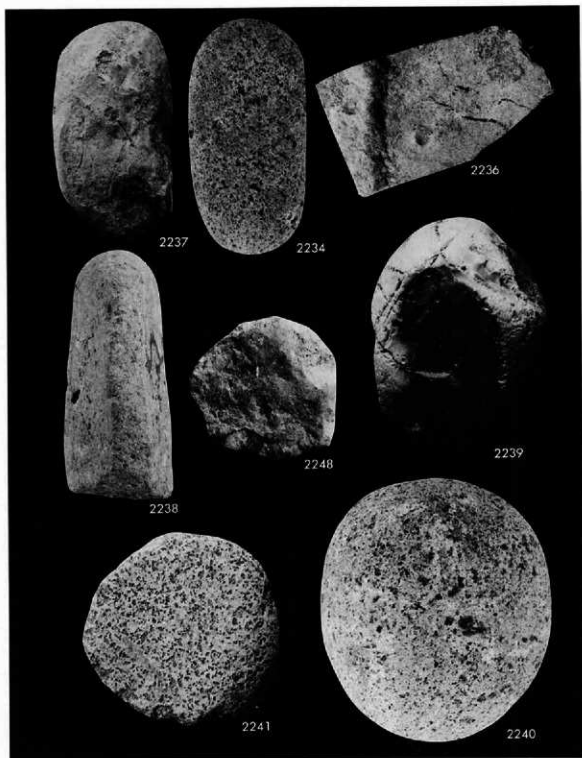
写真图版225 I IV区粗掘出土遗物(1)



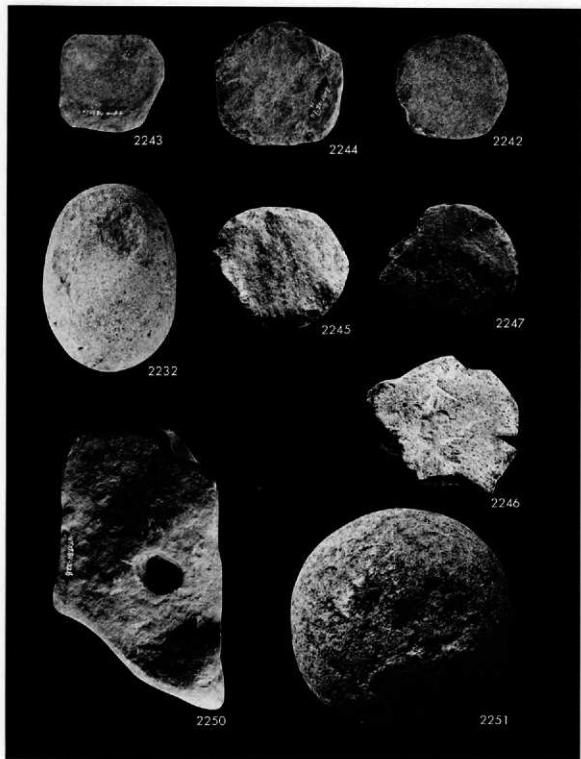
写真图版226 I IV区组掘出土遗物(2)



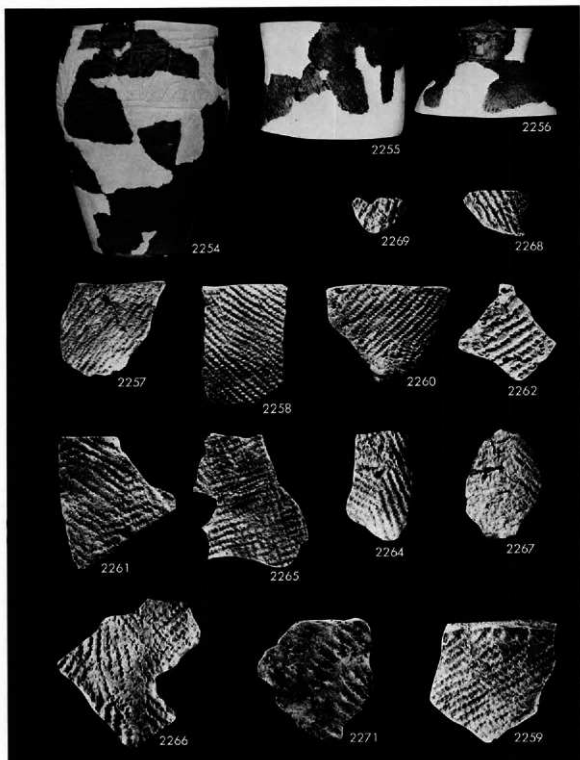
写真图版227 IⅣ区出土遗物(1)



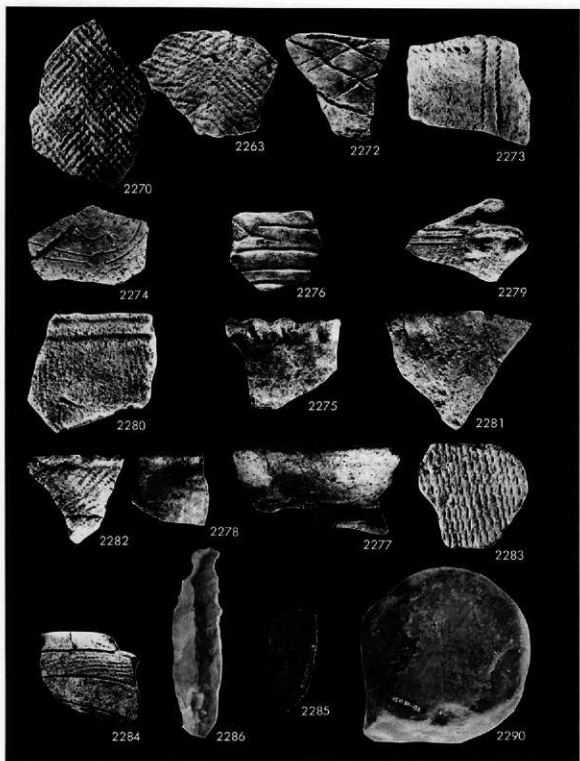
写真图版228 IⅣ区出土遗物(2)



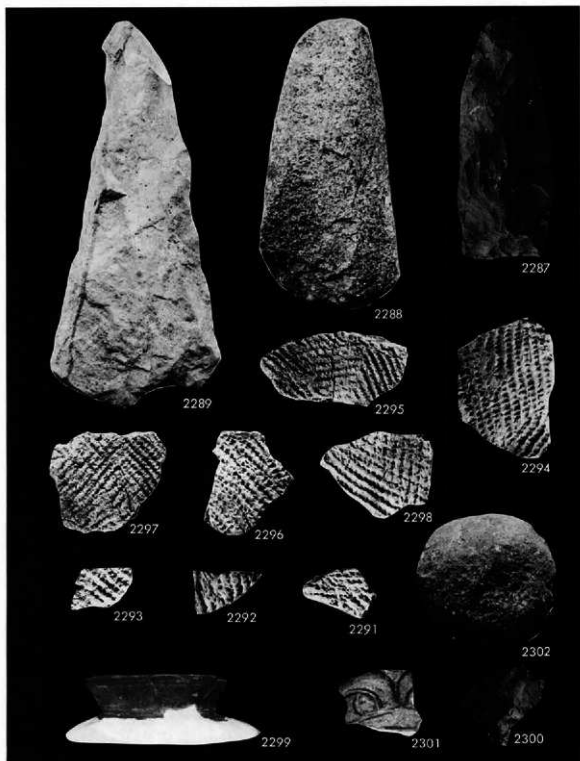
写真图版229 I IV区出土遗物(3)



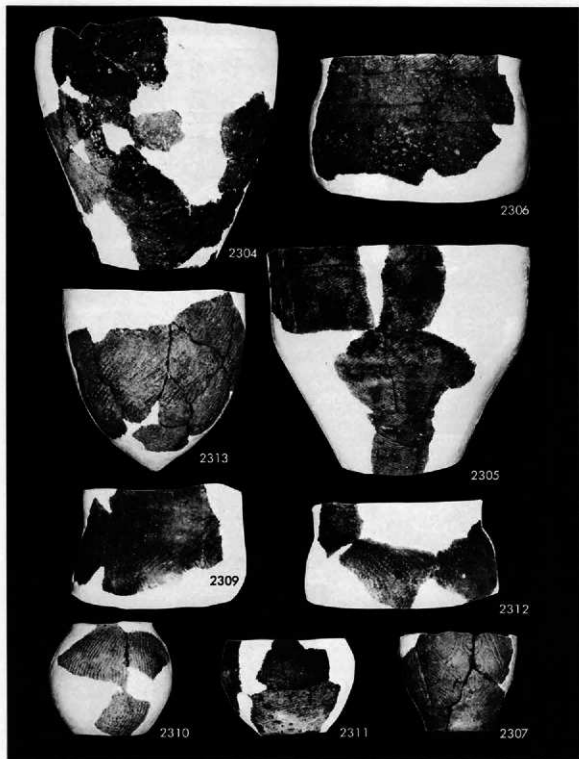
写真图版230 I V区粗掘出土遗物



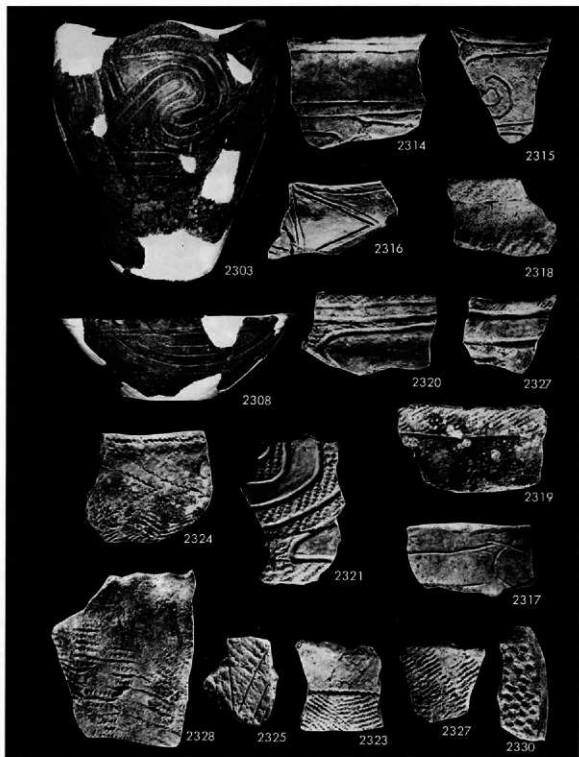
写真图版231 | V区出土遗物



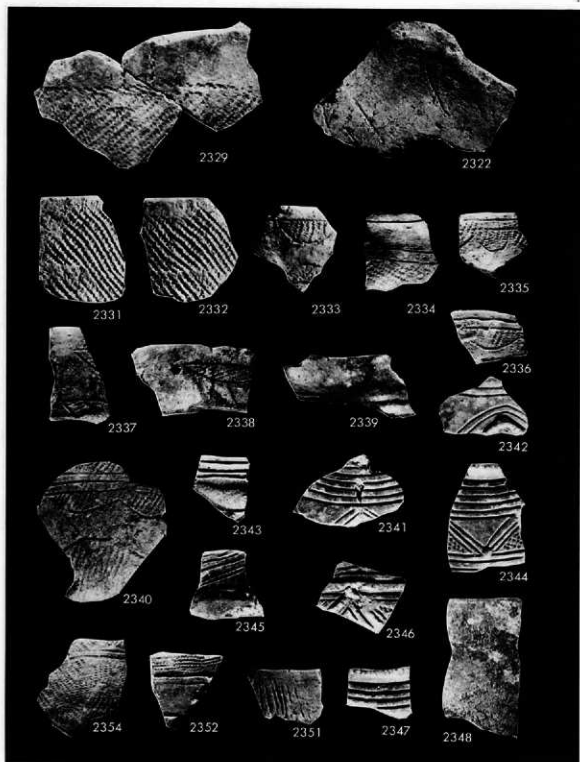
写真图版232 I V · VI · J IV区出土遗物



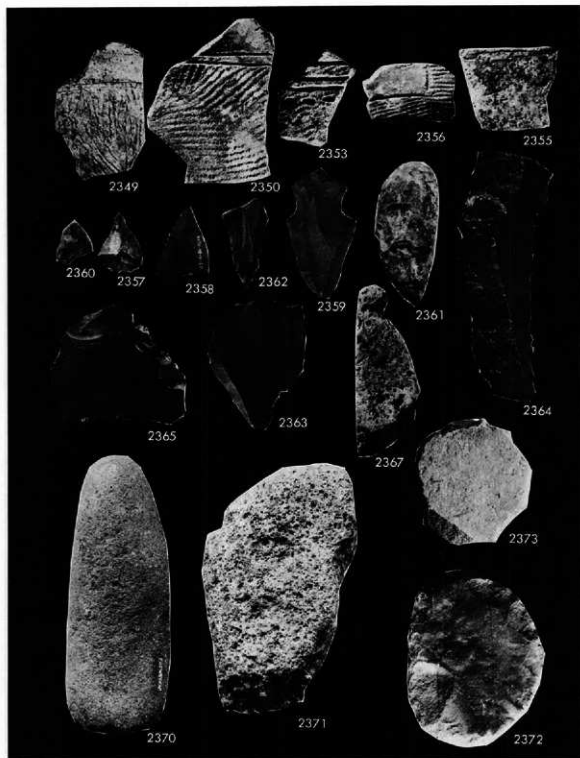
写真图版233 J V区粗掘出土遗物(1)



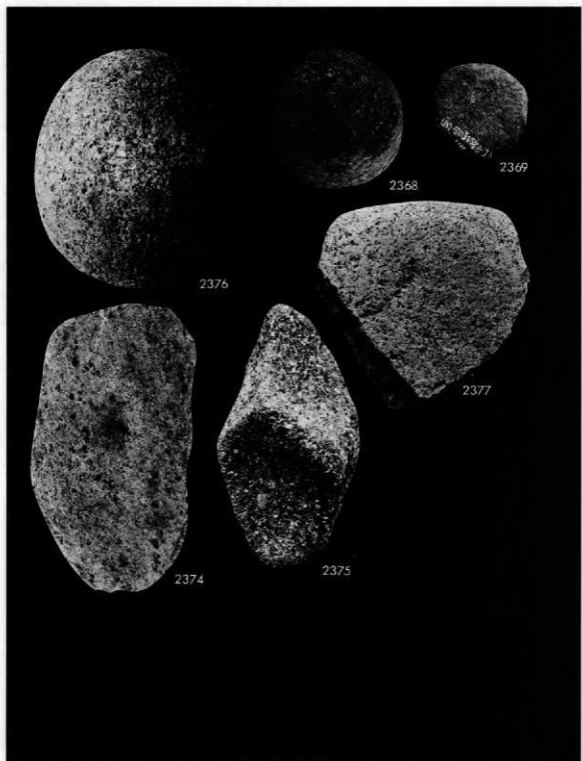
写真图版234 J V区粗掘出土遗物(2)



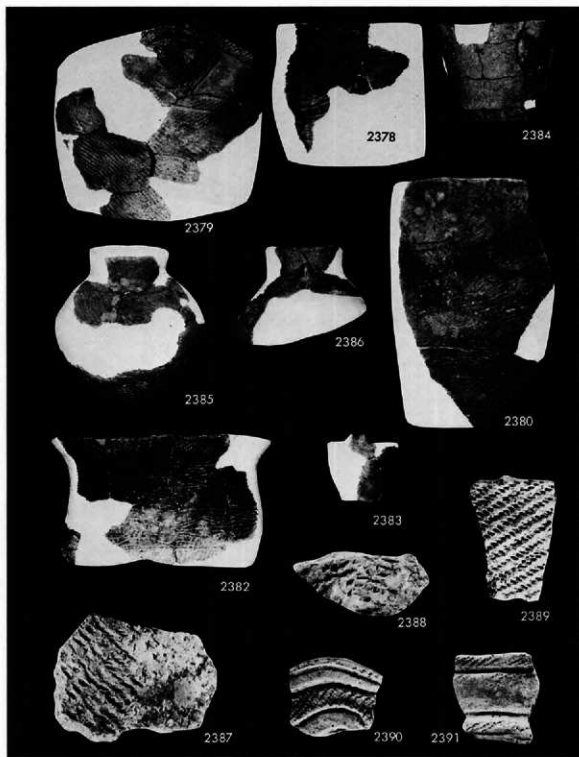
写真图版235 J V区粗掘出土遗物(3)



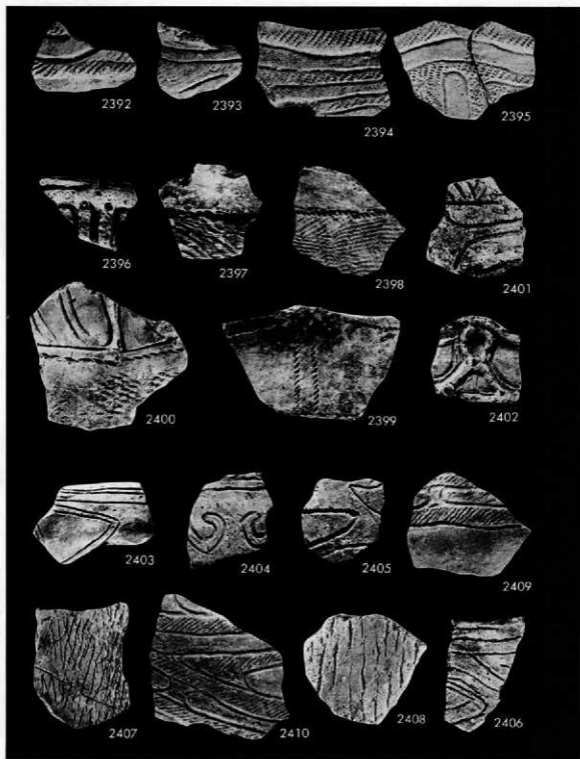
写真图版236 J V区粗掘出土遗物(4)



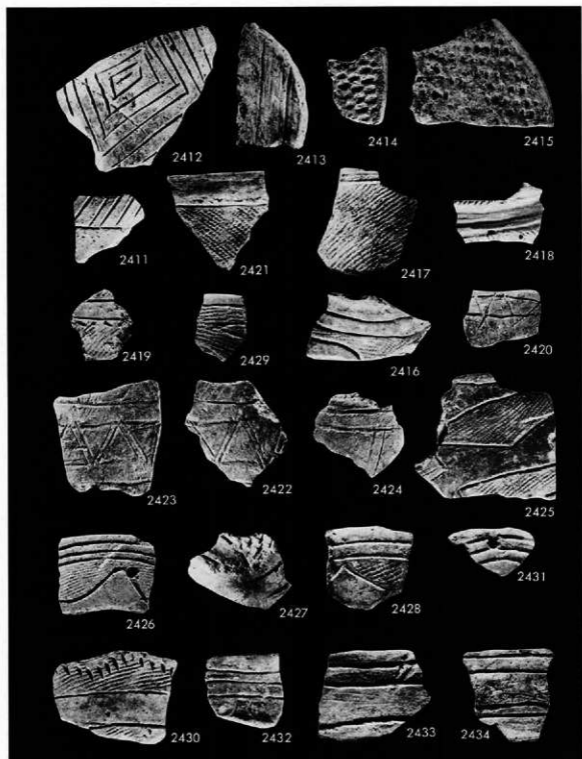
写真图版237 J V区粗掘出土遗物(5)



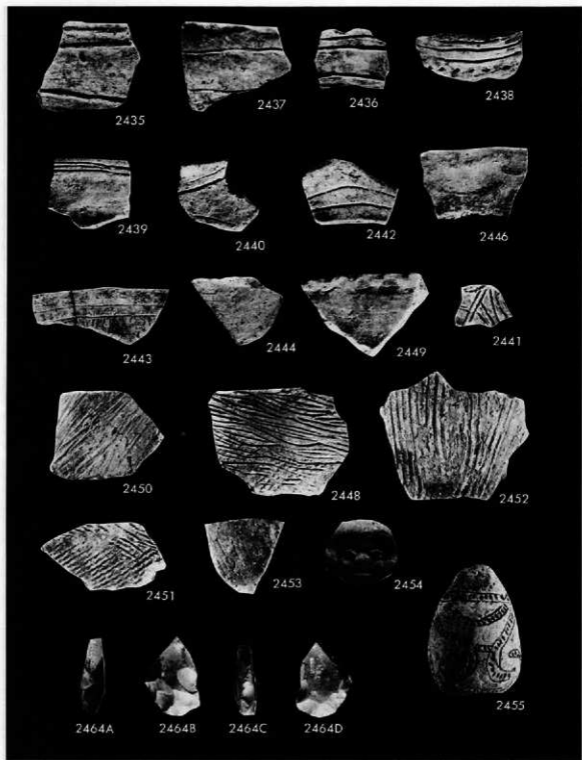
写真图版238 J VI区粗掘出土遗物(1)



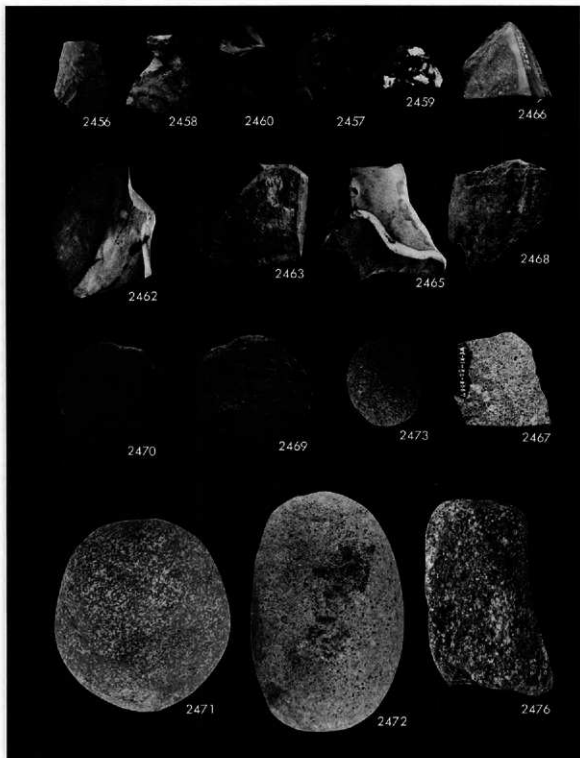
写真图版239 J VI区粗编出土遗物(2)



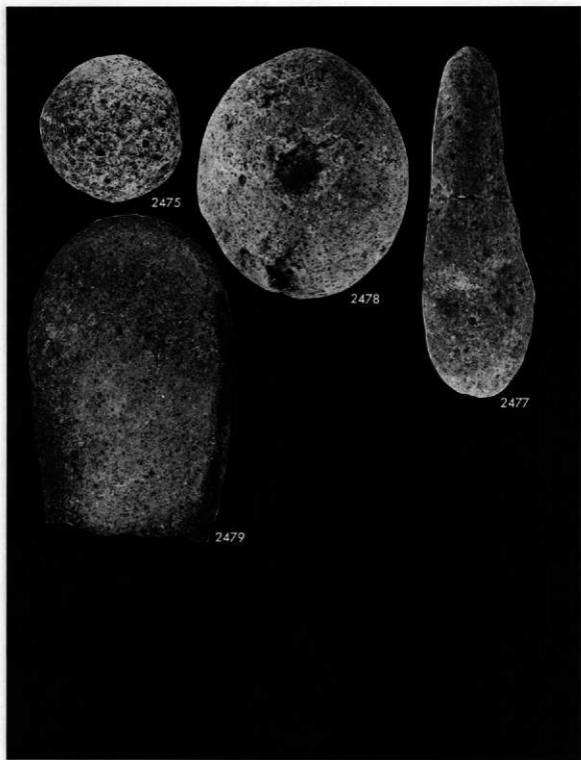
写真图版240 J VI区粗掘出土遗物(3)



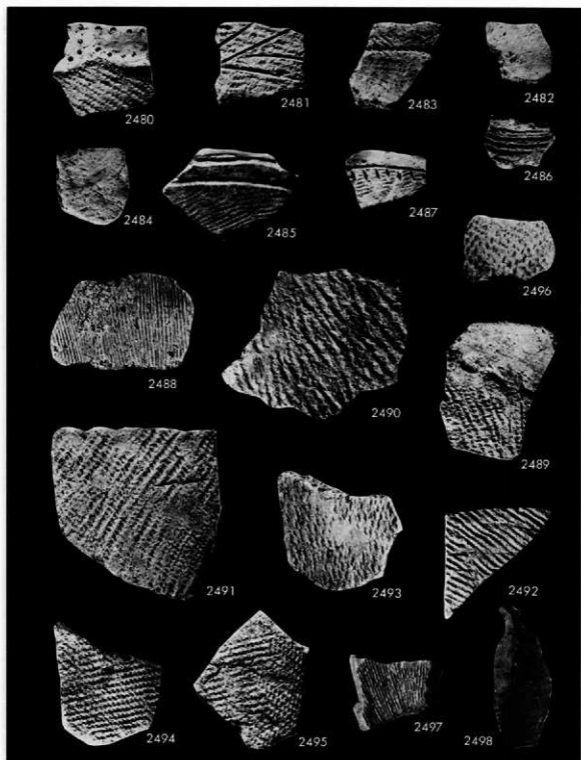
写真图版241 J VI区粗掘出土遗物(4)



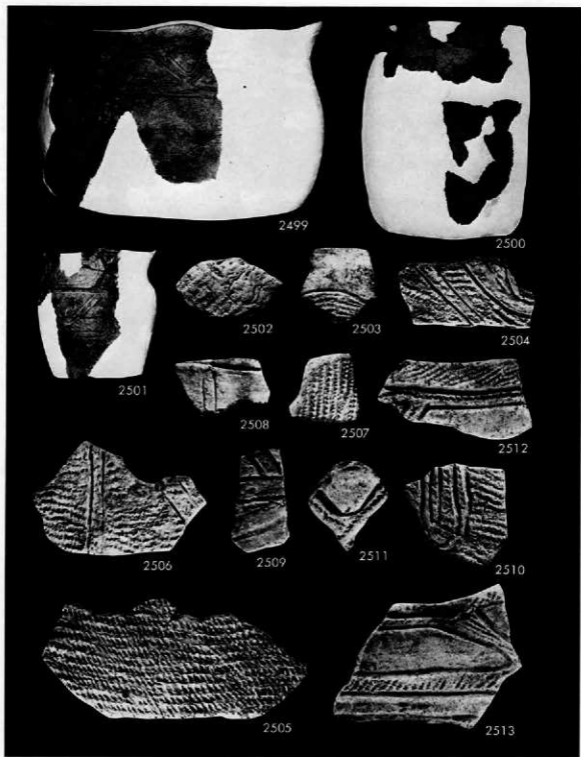
写真图版242 JVI区粗掘出土遺物(5)



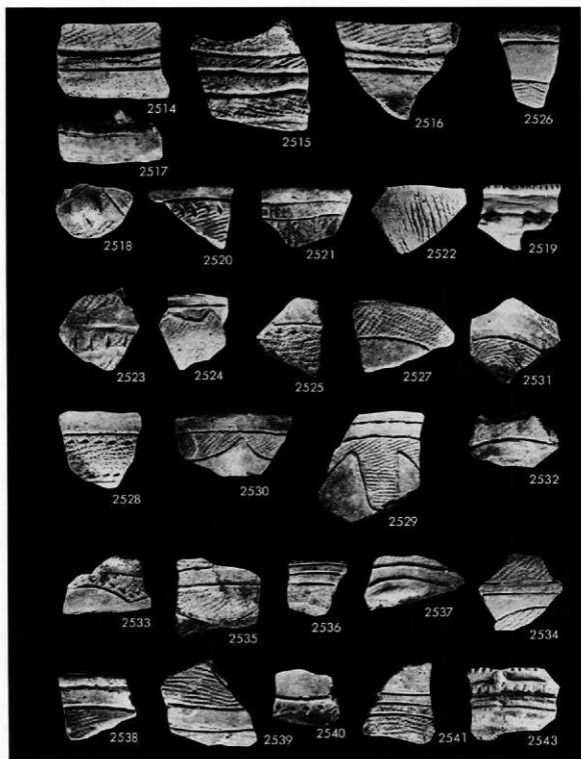
写真図版243 J VI区粗掘出土遺物(6)



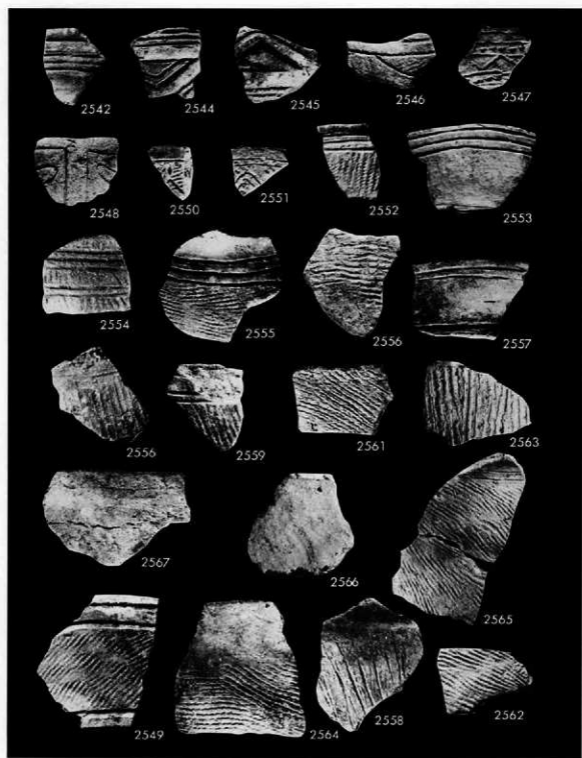
写真图版244 K V区出土遗物



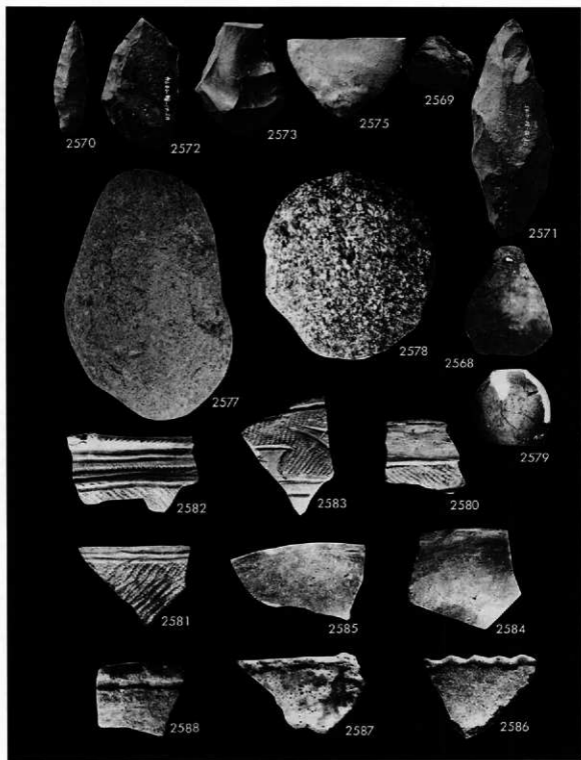
写真图版245 K VI区出土遗物(1)



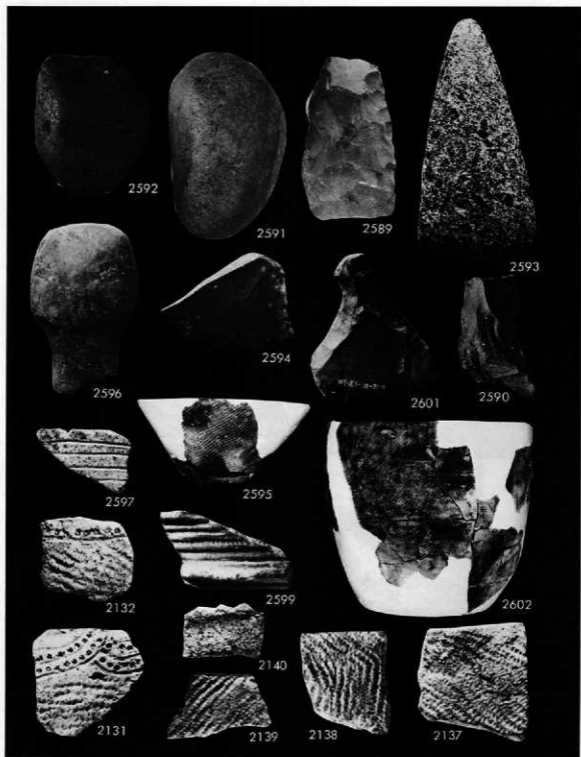
写真图版246 K VI区出土遗物(2)



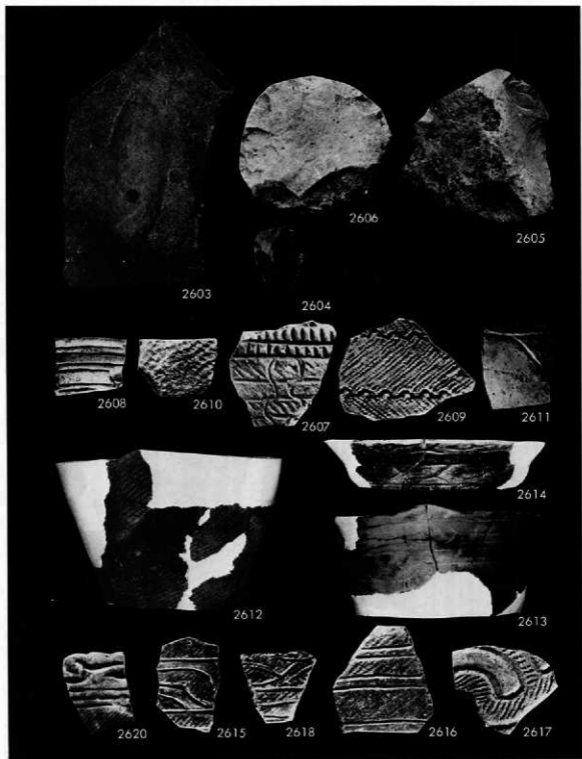
写真图版247 K VI区出土遗物(3)



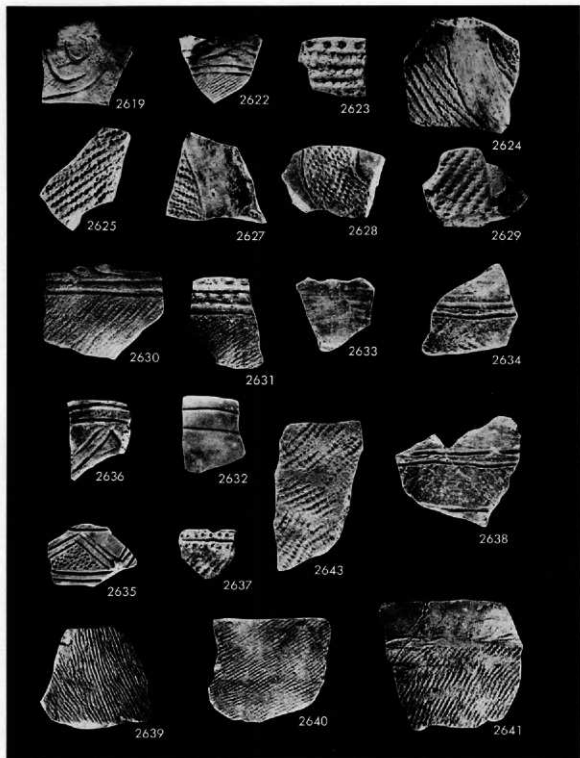
写真图版248 K VI · L IV区粗掘出土遗物



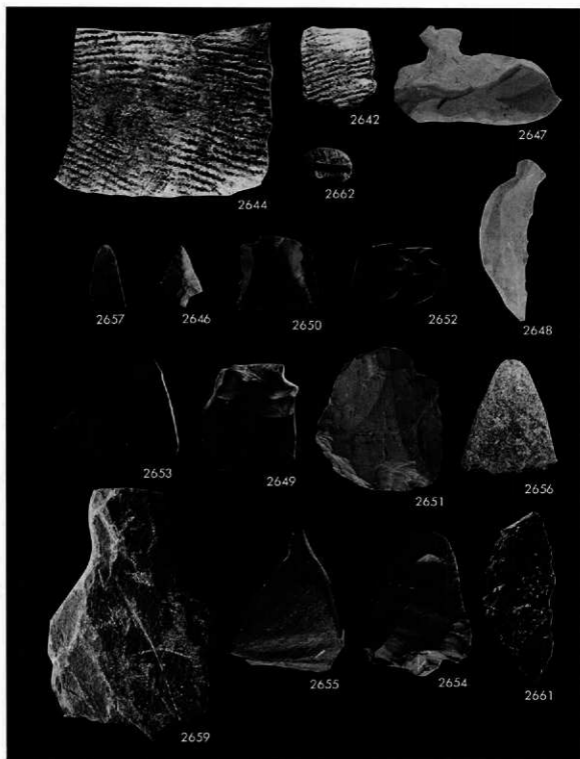
写真图版249 L IV · V · M IV ~ VI · N VI区粗掘出土遗物



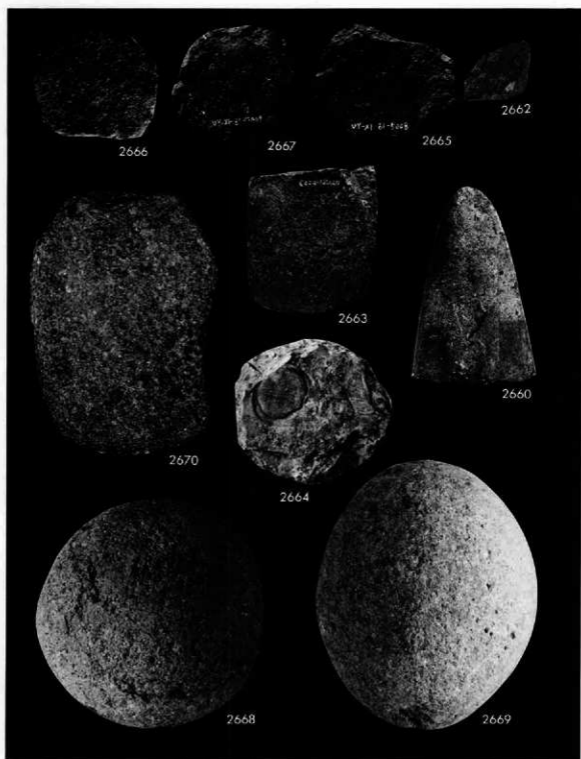
写真图版250 G III区表探遗物·出土地区不明遗物



写真图版251 出土地区不明遗物(1)



写真图版252 出土地区不明遗物(2)



写真图版253 出土地区不明遺物(3)

財団法人 岩手県埋蔵文化財センター役・職員

— 役員 —

理事長	金子 彰 吉 (県教育長)
副理事長	尾沢 重 達 (県教育次長)
常務理事	熊谷 正 男 (県立埋蔵文化財センター所長)
理事	吉田 良 和 (県農政部次長)
〃	高橋 健 之 (県林業水産部次長)
〃	穂積 昭 慈 (県土木部次長)
〃	板橋 源 (県立博物館長)
〃	草間 俊 一 (県立盛岡短期大学長)
〃	小形 信 夫 (元常務理事)
監事	佐藤 公 志 (県教委総務課長)
〃	小野寺 英 二 (県教委財務課長)

— 職員 —

所 長	熊谷 正 男	専 門 調 査 員	橋 沢 清 郎
副 所 長	宮 英 一	〃	平 井 進
所 付	吉 田 努	〃	中 村 良 一
[総務課]		〃	田 村 壮 一
総 務 課 長	菊 池 勉	〃	岩 淵 久
庶 務 係 長	阿 部 詔 夫	〃	光 井 文 行
主 事	戸 草 内 幸 男	〃	玉 川 英 喜
〃	立 花 多加志	〃	石 川 長 喜
技 能 員	佐 藤 春 男	〃	三 浦 謙 一
[調査課]		〃	高 橋 与 右衛門
調 査 課 長	近 藤 宗 光	〃	高 橋 義 介
主任専門調査員	昆 野 靖	〃	佐々木 清 文
〃	国 生 尚	[資料課]	
専 門 調 査 員	片 方 宗 明	資 料 課 長	名 須 川 溢 男
〃	長 沼 彬	専 門 調 査 員	菊 池 利 和
〃	大 原 一 則	〃	工 藤 利 幸
〃	渡 辺 洋 一	〃	中 川 重 紀
〃	田 領 寿 夫	〃	酒 井 宗 孝
〃	佐々木 嘉 直		

岩手県埋文センター文化財調査報告書第87集

曲田 I 遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連発掘調査

(第2分冊)

印刷 昭和60年2月15日

発行 昭和60年2月25日

発行 財団法人岩手県埋文文化財センター
〒020 紫波郡南村大字下飯岡11 電話0196(38)9001
印刷 河北印刷株式会社
〒020 盛岡市本町通2丁目8-7 電話0196(23)4256
